

NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION
KYOTO MEDICAL CENTER

2021 ANNUAL REPORT

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター
2021年度 アニュアルレポート 年報



独立行政法人国立病院機構

京都医療センター

National Hospital Organization Kyoto Medical Center



introduction

序

京都医療センターのアニユアルレポート令和3年度版を作成いたしました。

令和3年度も新型コロナウイルスは世界的に流行し、国内でも医療提供体制がひっ迫して病院に入院できずに自宅で死亡するケースが相次ぎました。7月には静岡県熱海市で盛り土が原因となる大規模な土石流が発生し、27人が死亡しました。10月には菅義偉首相の後任として岸田文雄前政調会長が第100代首相に就任し、12月には真鍋淑郎氏が地球温暖化の予測手法を確立した功績でノーベル物理学賞を受賞しました。スポーツ界ではゴルフのマスターズ・トーナメントで松山英樹選手がアジア勢初優勝、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で1年延期された東京五輪・パラリンピックでは日本勢が史上最多のメダル58個（金27）を獲得し、米大リーグ、エンゼルスの大谷翔平選手は投打の「二刀流」でア・リーグ最優秀選手（MVP）に選出されました。将棋界では藤井聡太九段が叡王と竜王を獲得して史上初の10代四冠を達成しました。海外では、8月にアフガニスタン駐留米軍が完全撤収してタリバンが再度権力を掌握し、令和4年2月にはロシアがウクライナに軍事侵攻する大事件が起こりました。

当院では軽症から重症の新型コロナウイルス感染症患者さんの診療を継続するとともに、社会からの要請に応じて、京都府宿泊療養施設の夜間診療への医師派遣、厚労省による広域派遣依頼に基づく沖縄への看護師派遣、京都府入院待機ステーションへの医師・看護師・事務職員派遣、大阪府臨時医療施設への医師・看護師・薬剤師派遣、東京都臨時医療施設への医師・看護師派遣も積極的に行いました。働き方改革に対する取り組みとしては、各診療科カンファレンス等の時間外開催の見直し、タスクシフト推進のため医師事務作業補助者の採用枠を増加しました。その他の取り組みとしては、5月に助産分娩の再開、6月にクリーンルームの運用再開、7月に広報戦略室の設置、8月にMRI更新（1.5→3テスラ）、12月にハイブリッド手術室の運用開始、令和4年3月には特別室個室病棟修繕工事、内視鏡センター拡張整備、外来管理診療棟の会議室修繕工事と内装修繕、患者及びゲスト用Wi-Fi整備、健診センター廃止を行いました。一方、令和3年度の経営は、医業収支は6億1千万円の赤字、経常収支は23億3千万円の黒字でした。

当院はこれからも、この街の医療をささえる病院として、地域の皆さまに愛され続けるよう頑張っています。今後ともご支援ご協力の程、何卒よろしくごお願い申し上げます。

院長 小池 薫

目次

introduction 序	001
目次	002
京都医療センターの理念	004
概要	005
組織図	014
幹部職員	015
職員の状況	016
診療実績（年度別統計）	018
経常収支率	021
総合内科	022
膠原病・リウマチ内科	024
血液内科・稀少血液疾患科	026
内分泌・代謝内科	029
糖尿病内科	037
腎臓内科	051
腫瘍内科	055
精神科	057
脳神経内科	058
呼吸器内科	062
消化器内科	065
循環器内科	075
小児科	093
呼吸器外科	096
外科	098
乳腺外科	107
整形外科	109
形成外科	115
脳神経外科	117
血管外科	121
心臓外科	123

皮膚科	126
泌尿器科	129
産科婦人科	133
緩和ケア科	140
眼 科	143
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	147
麻酔科	150
放射線診断科	152
放射線治療科	156
総合リハビリテーション科	159
歯科口腔外科	160
救命救急センター（救命救急科）	163
健診センター	167
臨床研究センター	173
遺伝診療部	210
医療安全管理部	219
医療情報部	222
感染制御部	225
教育研修部	230
地域医療部	231
薬剤部	237
臨床検査科	240
病理診断科	244
臨床栄養科	246
リハビリテーション科	249
臨床工学科	253
看護部	258
京都看護助産学校	275
編集後記	291

京都医療センターの理念

私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、
患者さんが安心できる医療を提供します。

▶ 基本方針

- 一、常に高度で先進的な医療を導入し、地域の医療機関との連携を図り、急性期医療を中心とした質の高い医療を提供することで患者さんに信頼される病院となることを目指します。
- 一、十分な説明のうえで患者さんの同意を得た医療を提供します。
- 一、臨床医学の発展を常に念頭におき、臨床研究を積極的に推進し、新しい医療技術の研究開発に努めます。
- 一、教育研修病院として医師、看護師等、医療に従事する人材の育成に努めます。
- 一、職員の働きやすい職場環境であることが、安全で高度かつ効率的な医療提供に不可欠であると考え、職員の福利厚生の上に努めます。

▶ 患者さんの権利の尊重に関して

京都医療センターでは、患者さんと医療従事者との信頼関係のもとで患者さんとともに歩む病院をめざしています。ここに患者さんの権利に関する事項と守っていただく事項について記します。

▶ 患者さんの権利に関する事項

1. 尊厳ある人間として医療を受ける権利を大切にします。
2. 良質で適切な医療を平等に提供します。
3. 検査や治療について十分に理解していただけるように説明します。
4. 検査や治療について自ら選択する権利を尊重します。
5. 医療のどの段階においても他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利を尊重します。
6. 自分に関する医療情報の開示を求める権利を尊重します。
7. プライバシーを守ります。

▶ 守っていただく事項

1. 健康状態及び診療に必要な情報の提供をお願いします。
2. 医療内容について理解していただけない場合にはお知らせください。
3. 病院のルールを守り他の人に迷惑をかけないようにお願いします。

1 | 施設の概要

(1) 環境

京都市の南にある市内最大の人口を擁する伏見区のおおむね中央に位置し、伏見稲荷大社で有名な稲荷山の南麓に広がる深草地区に立地している。深草地区は「うづらの里」と呼ばれるように、かつては多くの鶉（うづら）が生息したことで知られる。南へ下がると伏見の酒造りの町があり、白壁の酒蔵が立ち並び独特の風情がある。東南部には桃山城の城下町桃山地区がある。桃山時代に伏見城の城下町として始まり、また江戸時代には淀川水運の重要な港町・宿場町としても栄えた地域である。

現在の伏見区は、伏見城の城下町の伝統を受け継ぐ商業の拠点であると同時に、京都市中心部や京都府南部、大阪方面へのベッドタウンとしての性格をもち、当院の診療圏も二次医療圏にとどまらず、京都府南部地域はもとより大阪府北部及び滋賀県南部をはじめ他府県に及んでいる。

(2) 沿革

- 明治41年11月（1908年） 京都衛戍病院として設立
- 昭和12年（1937年） 京都陸軍病院と名称変更
- 昭和20年12月（1945年） 国立京都病院として厚生省に移管
- 昭和53年4月（1978年） 臨床研究部（内分泌代謝疾患）設置
- 昭和59年12月（1984年） 救命救急センター設置
- 昭和63年11月（1988年） WHOより糖尿病協力センターに指定
- 平成7年4月（1995年） 開放型病院に認定
- 平成7年7月（1995年） 京都府エイズ治療拠点病院に指定
- 平成10年6月（1998年） 臓器提供施設に指定
- 平成11年3月（1999年） 国の政策医療「内分泌代謝疾患」の高度専門医療施設として位置付けられる
- 平成12年4月（2000年） (財)日本医療機能評価機構
病院機能評価『一般病院種別・B』に認定
- 平成14年6月（2002年） 地域医療連携室の開設
- 平成15年10月（2003年） 臨床研究センター（内分泌代謝疾患）設置
- 平成16年4月（2004年） 独立行政法人へ移行。京都医療センターと改称
- 平成17年4月（2005年） (財)日本医療機能評価機構
病院機能評価『一般病院（Ver. 4.0）』に認定
- 平成19年1月（2007年） 地域がん診療連携拠点病院に指定
- 平成20年8月（2008年） 地域医療支援病院に指定
- 平成22年6月（2010年） (財)日本医療機能評価機構
病院機能評価『一般病院（Ver. 6.0）』に認定
- 平成23年1月（2011年） 新中央診療棟竣工 緩和ケア病棟開設
- 平成26年6月（2014年） 第2外来棟竣工
- 平成27年4月（2015年） 京都府災害拠点病院に指定

- 平成27年 6月 (2015年) (財) 日本医療機能評価機構『一般病院 2 (Ver. 1.0)』
『救急医療機能 (Ver. 2.0)』に認定
- 平成28年12月 (2016年) 原子力災害拠点病院に指定
- 平成30年 3月 (2018年) 第二病棟 8階 (38床) 休棟
- 平成30年 4月 (2018年) がんゲノム医療連携病院 (京都大学) に指定
- 令和元年10月 (2019年) 高精度放射線治療棟 (リニアック棟) 竣工
- 令和 2年 6月 (2020年) (財) 日本医療機能評価機構『一般病院 2 (3rdG : Ver. 2.0)』
『高度専門機能 (救急・災害) (Ver. 1.0)』に認定

(3) 医療圏・近隣医療機関の状況

- 2次医療圏
 - ・ 京都・乙訓医療圏
(京都市、向日市、長岡京市、大山崎町 3市 1町)
- 2次医療圏内人口
 - ・ 京都市 1,466千人
 - ・ 向日市 56千人
 - ・ 長岡京市 80千人
 - ・ 大山崎町 16千人 計1,618千人

(4) 職員数

- 1,243名 (令和 4年 3月 1日現在)
 - ・ 常勤職員 944名
 - ・ 期間職員 37名
 - ・ 非常勤職員 262名

(5) 敷地・建物の状況

- 所在地 京都府京都市伏見区深草向畑町1-1
- 敷地面積 66,267㎡
- 建物面積

建物 番号	建物名称	建築概要			建築面積 ㎡	延べ面積 ㎡	完成 年月
		構造	地上 階数	地下 階数			
1	新中央診療棟	RC	6	0	1,952.25	8,671.93	2010/12
2	外来管理診療棟	RC	4	0	2,710.50	10,839.95	1983/5
3	中央診療棟 (リニアック棟含む)	RC	5	1	2,404.78	13,300.94	1985/7
4	第1・2病棟	RC	8	0	2,976.37	18,748.47	1989/3
5	渡り廊下棟	RC	5	0	400.84	1,304.67	1988/3
6	パーチカルコンベア中継室	RC	1	0	40.80	40.80	1988/3
7	臨床研究センター	RC	4	0	826.80	3,116.90	1978/2
8	渡り廊下 (中央診療棟～臨床研究センター)	S	1	0	22.62	22.62	1986/3
9	中和処理棟	RC	1	0	32.40	32.40	1987/3
10	健診センター	RC	1	0	297.68	297.68	1962/3
11	除染室	S	1	0	79.11	79.11	2020/3
12	給水ポンプ室	RC	1	0	43.17	43.17	1988/3
13	電気室	RC	1	0	21.83	21.83	1988/3
14	倉庫 (保育所)	RC	1	0	412.53	412.53	1973/3
15	RI機械室	RC	1	0	20.00	20.00	1985/12
16	マニホールド室	RC	1	0	24.00	24.00	1986/11
17	車庫棟	RC	1	0	90.50	90.50	1983/11
18	渡り廊下 (臨床研究センター～除染室)	S	1	0	41.85	41.85	1978/2
19	動物実験室 (RI動物舎)	CB	1	0	33.00	33.00	1985/7
20	看護助産学校	RC	4	0	1,634.40	3,782.08	2003/3
21	助産師科校舎	RC	2	0	469.63	850.15	1979/10
22	看護師宿舎5号館 (助産師科学生寮)	RC	5	0	111.45	540.12	1983/3
23	体育館 (空調機械室含む)	RC	2	0	560.00	624.00	1991/3
24	図書館棟	RC	2	0	513.27	754.50	2003/3
25	倉庫 (助産師科電気室)	CB	1	0	9.33	9.33	1979/10
26	看護師宿舎 (清香寮) 1号館	RC	3	0	680.72	2,030.09	1995/8
27	看護師宿舎 (清香寮) 1号館	RC	3	0	672.07	2,357.14	1995/1
28	看護師宿舎 (清香寮) 3号館	RC	2	0	106.66	213.32	1977/3
29	看護師宿舎 (清香寮) 4号館	RC	2	0	103.80	209.66	1977/3
30	教育研修棟 (研修医宿舎)	RC	3	0	227.40	563.16	2000/2
31	保育所	S	2	0	230.92	347.21	2012/2
32	職員宿舎 (A棟)	CB	2	0	135.16	270.32	1972/3
33	職員宿舎 (B棟)	RC	4	0	99.17	443.62	1966/3
34	職員宿舎 (C棟)	CB	2	0	141.51	283.03	1979/1
35	職員宿舎 (D棟)	RC	4	0	142.77	546.84	1987/3
36	職員宿舎 (E棟)	RC	3	0	137.75	413.25	1980/3
37	職員宿舎6号 (枯木町)	CB	1	0	72.00	72.00	1974/7
38	集塵庫 (ゴミ置場)	CB	1	0	32.40	32.40	1995/8
39	第2外来棟	RC	3	1	421.44	1,228.02	2014/6
40	特高受電室	S	2	2	98.98	197.96	2018/10
41	燃料槽基礎	RC	1	1			2019/3
42	高精度放射線治療棟	RC	1	1	718.17	699.36	2019/12
43	汚染廃棄物・備品倉庫棟	RC	1	1	47.48	39.57	2020/3
合 計					建19,797.51	延73,649.48	

2 | 診療機能の状況

(1) 病床数

医療法病床数（一般病床）600床

(2) 診療科（38科）

総合内科、膠原病・リウマチ内科、血液内科・稀少血液疾患科、内分泌・代謝内科、糖尿病内科、腎臓内科、腫瘍内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、呼吸器外科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、血管外科、心臓外科、皮膚科、泌尿器科、産科婦人科、緩和ケア科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、麻酔科、放射線診断科、放射線治療科、総合リハビリテーション科、歯科口腔外科、救命救急科、臨床検査科、病理診断科、臨床栄養科、リハビリテーション科、臨床工学科

(3) 医療計画上の当院が担う機能

- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・がんゲノム医療連携病院（京都大学）
- ・地域医療支援病院
- ・救命救急センター（三次、30床）
- ・地域災害拠点病院
- ・原子力災害拠点病院
- ・緊急災害医療チーム（DMAT 2 チーム10名）
- ・周産期医療 2 次病院（地域周産期母子医療センター）
- ・難病医療協力病院
- ・エイズ拠点病院
- ・急性期を担う医療機関（脳卒中、急性心筋梗塞）

(4) その他の主な機能

- ・緩和ケア病棟（20床）
- ・外来化学療法センター
- ・ER（北米型救急外来）
- ・NHO災害ブロック拠点病院
- ・国際医療協力施設
- ・臓器提供施設
- ・WHO糖尿病協力センター
- ・健診センター
- ・人工透析センター
- ・(財)日本医療機能評価機構 病院機能評価
「一般病院 2（3rdG：Ver2.0）」
「救急医療・災害時の医療（Ver.1.0）」認定
- ・遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設

(5) 教育研究機能

- ・臨床研究センター
- ・臨床研修病院（基幹型・協力型）
- ・専門研修基幹施設（7プログラム）、専門研修連携施設
- ・附属京都看護助産学校（看護学科・助産学科）

(6) 各学会認定専門医研修施設及び修練施設

日本内科学会、日本消化器学会、日本循環器学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本消化器外科専門医、日本整形外科学会、日本産婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医研修施設、日本周産期（新生児）専門医、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本集中治療医学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本手外科学会、日本神経学会、日本呼吸器外科基幹施設、日本消化器内視鏡学会、日本内分泌学会、日本腫瘍学会、日本頭頸部外科学会、日本がん治療認定医機構、日本緩和医療学会、胆管隣外科高度技能専門医、日本外科感染症学会、日本心血管インターベンション治療学会

3 | 診療機能等の特色

(1) 救命救急センター（30床：ICU 8床、HCU22床）

昭和59年12月に開設された歴史あるセンターであり、京都府内に6つある救命救急センターのひとつである。活動拠点は京都市のみならず、近隣市からの救急隊による収容要請にも応え24時間365日、質の高い救急医療を提供している。平成23年1月に新中央診療棟に移転し、30床全床で生体監視モニター管理が可能となった。また、広範囲熱傷処置対応のための熱傷治療室も設置した。

(2) 集中治療室（ICU・6床）

平成15年7月に設置。集中治療室では、全身麻酔下手術等における重篤患者等の術後全身管理や入院中に集学的治療が必要となった患者の全身管理を行っている。救命救急センターの集中治療室と合わせて計2ヶ所の集中治療室を有している。

(3) 新生児集中治療室（NICU・6床）

平成12年2月に設置し、平成12年4月に施設基準を取得。低出生体重児等の新生児の治療管理を集中的に行っている。地域周産期母子医療センターとして京都府南部地域の中核病院としての役割を果たしている。

(4) 特別室個室病棟（30床）

平成23年1月にオープンした全室個室の病棟。セキュリティを確保した特別室個室病棟は、病棟専属のコンシェルジュを配置し、クオリティーの高い療養環境と最高のサービスを提供している。

(5) 緩和ケア病棟（20床）

平成23年1月にオープン。京都府で初めて地域がん診療連携拠点病院にできた緩和ケア病棟であり、各診療科と連携を積極的に行って苦痛症状の緩和に努めている。医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、音楽療法士、ボランティアなど多職種でチームを組んで対応している。

(6) 開放型病床 (20床)

地域医療機関との連携強化を図るため、伏見医師会との協定により開放型病床を設置し、登録医からの紹介入院患者を共同して診療、指導にあっている。平成7年4月に開放型病院の承認。平成20年8月に地域医療支援病院の承認。地域医療の向上を図り、紹介患者に対する医療の提供のみならず、地域の医療関係者の生涯教育の充実等地域医療の確保に努めている。

※登録医数 129名 (令和3年5月1日現在)

(7) 特殊専門外来

特殊診療として、内視鏡センター、呼吸器センター、心臓センター、糖尿病センター、内分泌・甲状腺・高血圧センター、スポーツ医学センター、めまいセンター、脳・神経センター、産婦人科超音波外来、フットケア外来、セカンドオピニオン外来、腫瘍外来、遺伝子外来、禁煙外来、発達障害外来、外来化学療法センター、メタボリック症候群外来、妊娠糖尿病外来、糖尿病透析予防外来、婦人科骨粗鬆症更年期外来

(8) 健診センター

平成16年4月に設置。早期に病気を発見する予防医学の役割が一層重要になっていることから、当院の政策医療である内分泌・代謝疾患の高度専門医療施設の特性を生かし、生活習慣病を主な対象とするとともに、各診療科の専門性を有効に活用した健診とし、専門医との連携による的確な判定を行っている。

(9) 研修医・レジデントの教育、研修の充実

教育研修部を設置して「患者を包括的にケアできる」医師の育成を行っている。

- 臨床研修病院 (基幹型・協力型)
- 専門研修基幹施設 (7プログラム)、専門研修連携施設
- 臨床研修医の令和2年度定数…1年目10名、2年目10名
- スーパーローテーション方式
- ランチタイムセミナー
- 双方向性の評価方式の導入

(10) 臨床研究センター

平成15年10月に臨床研究センターが設置され、「糖尿病を中心とした内分泌・代謝性疾患の病態と発症機序の解明および予防・診断・治療法の開発研究」を担っている。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成20年度からは「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになった。

(11) 手術支援ロボット「ダヴィンチ」

平成26年6月に腹腔鏡下手術を支援する内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入。このダヴィンチを用いた手術は通常の腹腔鏡下手術と同様に傷口が小さく低侵襲で術後の痛みも少ないことから回復も早く、早期の退院が可能となった (保険適用手術は限られているが、平成30年4月に保険適用手術が拡大しており、今後も保険適用の拡大が期待されている)。

(12) PET/CT

がんの早期発見、早期治療の充実・発展のため、平成26年6月に京都府南部地域初のPET/CTを導入。

(13) 患者支援センター

平成14年6月に地域医療連携室を設置した。令和元年11月に移転し、患者支援センター（地域医療連携室、がん相談支援センター、患者相談窓口）を開設した。地域の診療所や各医療機関及び保健福祉機関との連携を強化している。前方後方支援業務はもとより、年2～3回開催の医療連携フォーラムにも力を入れている。

□人員配置

- 地域医療部長（医師） 地域医療連携室長（医師）
- 病床管理師長 副看護師長 地域医療連携係長（事務）
- 医療社会事業専門員3名 看護師14名 事務助手6名 計28名

(14) がん診療支援

当院は平成19年1月から地域がん診療連携拠点病院の認定を受けており、カンサーボードを設置し「がん診療セミナー」等、医師だけでなく、看護師、コメディカル、その他医療職を対象とした、オープンセミナーを開催している。

また、がん診療相談（患者支援センター）や患者情報室（1階ホール）、京都では初となるNPO法人「がんリボンズ」が設置をサポートするリボンズハウス（外来化学療法室）を設置して患者の日常生活支援に力を入れ、最先端の総合的ながん治療から患者の視点に立って生活を支援することができる施設を目指している。

平成30年4月からはがんゲノム医療連携病院に、平成31年4月には遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設の指定を受け、患者からのがん診療相談についても幅広く実施している。

□リボンズハウス（平成23年10月から運用開始）

- がん患者の「治療と生活」をつなぐ具体的な情報とケアを提供する。
- 医療者やヘルスケアに携わる多くの専門家の手によるプログラムを通して、患者がより自分らしく少しでも快適な生活を送れるようサポートする。
- 広く地域に開かれたスペースとして多くの人々が情報を共有し支えあいを実践できる場になることを目的とする。
- 主な内容としては、がんに係る相談、がんに係る情報提供、がん患者支援のイベント等の企画運営、インターネット検索コーナー、展示コーナー（ウィッグ、帽子等）、アロマセラピー等

(15) 感染制御部

平成9年4月に組織横断的院内感染対策チーム（ICT）を設立し、平成22年4月には、院内感染管理と職員の健康管理を通じて、患者が安心して診療を受けられる環境を提供するため、ICTを核とする感染制御部を発足させた。医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務職等多くの職員がそれぞれ得意とする分野を分担している。ICTリーダーを中心に週に1回ICTミーティングを行い、更に週1回定期的に院内ICTラウンドを実施し、日々の感染対策に関する相談に関しても随時対応している。

□人員配置

- 感染制御部長（医師） 副部長（医師1名） 医師1名
専任薬剤師2名 専従認定看護師 専任検査技師
事務職2名 計9名

□主な活動例

- インフルエンザ、感染性胃腸炎、結核、新型コロナウイルス等の院内感染対策
- 手術部位感染、血流感染等のサーベイランス
- 抗菌薬適正使用推進業務等
- これらの活動は、病院長直轄の「院内感染対策委員会」（月1回）と「抗菌薬の適正使用に関する小委員会」（月1回）にて報告及び審議決定されるシステムとなっている。また、院内感染対策委員会については、感染対策の必要に応じて臨時開催され迅速な対応を行っている。

(16) 医療安全管理体制

医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために医療安全管理部を設置している。各部門にリスクマネージャーを置き、患者や家族に対する対応及び医療安全管理部門や幹部職員への報告・連絡・相談を速やかに行う体制を整えている。

また、客観的事実の確認や事故原因の追及と再発防止策の検討の為にオカーレンス事例検討会や医療安全管理委員会及び医療事故対策本部会議を開催し、必要に応じて弁護士や外部評価委員を構成メンバーに加えた拡大医療安全管理委員会も開催している。

必要に応じて顧問弁護士に法的観点からの意見を含め、病院として見解を常に決定するとともに、専任の医療安全管理係長や訴訟専門職、さらにはクレームや暴言暴力への対応策として警察OBも配置して、あらゆるケースに対応出来る体制を構築している。

□人員配置

- 副院長（医療安全担当） 医療安全管理部長（医師） 医療安全管理副部長（医師） 専門職（訴訟担当） 医療安全管理係長（看護師長、医療安全管理専従） 看護部医療安全担当副看護師長（医療安全管理専従） 医療安全推進担当者（リスクマネージャー）（各部署から1名：60名） 計65名

□主な会議

- 拡大医療安全検討委員会
- 医療安全管理委員会
- 医療事故対策本部会議
- オカーレンス事例検討会
- ハイリスク診療検討会
- リスクマネージャー会議

(17) 医療情報部

平成15年7月に設置された医療情報部は国立病院としては初めて認可された部門であり、医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当している。ベンダーに依存することなく医療現場のニーズにマッチした情報システムの開発、導入、構築を迅速かつ正確に行っている。平成11年に導入した病院総合情報システム（電子カルテ）は、平成28年10月より稼働した新システムで第4世代となる。

また、京都府及び京都市が設置した情報基盤協議会である「ITコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携しPHRシステム「ポケットカルテ」や地域共有診察券「すこやか安心カード」等の二次

医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画、設計、開発、構築、運用等も行っている。

更に、情報システムや診療記録管理だけでなく、診療諸記録作成等の医師事務作業補助の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し、各診療科に配置する事で、医師や看護師等の専門職が業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療の質の向上に努めている。

□人員配置

○部長（医師・SE） 副部長（医師） 診療情報管理士 4名 スペシャル医療クラーク27名
医療クラーク 5名 情報システム管理室員 4名 流動研究員（SE等） 1名 計43名

(19) 高度放射線治療棟（リニアック棟）

当院は京都府南部における「高度がん治療センター」としての役割を担っており、年間のべ1万件の放射線治療を行っている。令和元年10月竣工の高度放射線治療棟には、さらなる貢献とより安全で効果的な放射線治療を実施するため、最新の装置を2台導入し、高度変調放射線治療（IMRT）と画像誘導放射線治療（IGRT）が可能となった。

(20) 除染室

当院は「原子力災害拠点病院」として指定を受けており、原子力災害が発生時には被ばく傷病者等に対する集中治療や線量測定、除染処置等の診療機能が求められている。令和2年3月完成の除染室は、二次被ばくが起これないよう、治療前に除染を行う施設であり、放射線線量測定装置や生体情報モニター等の除染処置に必要な機器が設置されている。

4 | 附属京都看護助産学校

(1) 沿革

昭和24年4月1日（1949年） 附属高等看護学院設置

昭和44年4月1日（1969年） 附属高等看護助産学院設置

昭和50年4月2日（1975年） 国立京都病院附属看護助産学校、看護婦科および助産婦科に名称が変更される。

平成14年4月1日（2002年） 看護学科、助産学科に名称が変更される

平成16年3月25日（2004年） 看護学校大型化整備工事竣工

平成16年4月1日（2004年） 国立京都病院附属看護助産学校及び国立療養所宇多野病院附属看護学校並びに国立療養所南京都病院附属看護学校を統合し、附属京都看護助産学校となる。

※1学年定員 看護学科80名

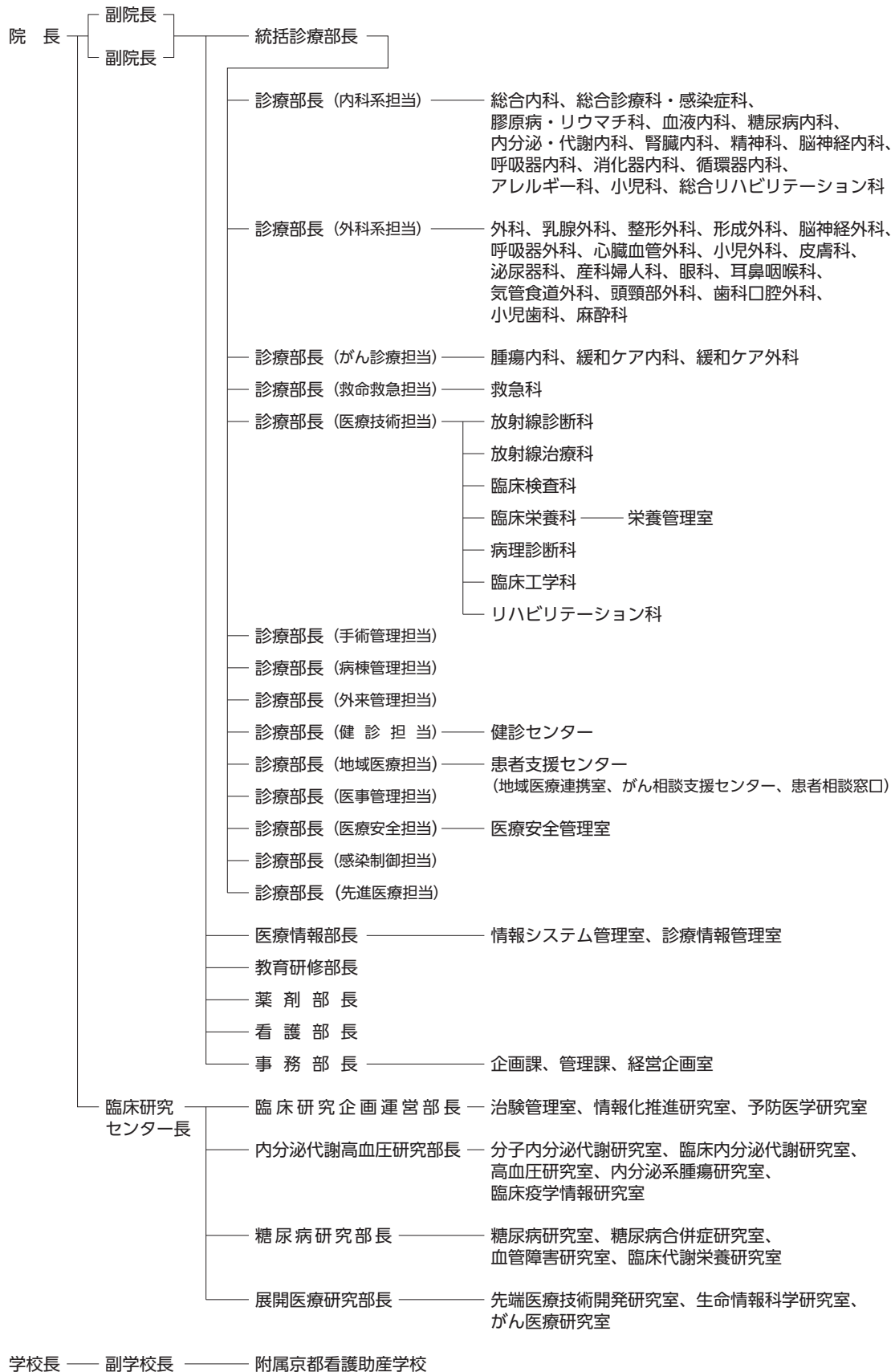
助産学科35名

平成27年4月1日（2015年） 附属京都看護助産学校助産学科の定員減

※1学年定員 助産学科25名

令和3年4月1日（2021年） 附属京都看護助産学校助産学科の定員減

※1学年定員 助産学科18名



幹部職員



小池 薫
院長



白神 幸太郎
副院長



三尾 直士
副院長
診療部長 (医事管理担当)
2022年4月1日から



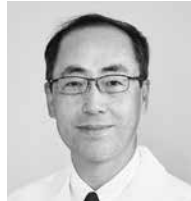
中川 泰彰
統括診療部長
2022年3月31日まで



小山 弘
統括診療部長
2022年4月1日から
診療部長 (内科系担当)
2022年3月31日まで
教育研修部長



赤尾 昌治
診療部長 (内科系担当)
2022年4月1日から
診療部長 (病棟管理担当)



奥野 博
診療部長 (外科系担当)



大谷 哲之
診療部長 (がん診療担当)



笹橋 望
診療部長 (救命救急担当)



七野 力
診療部長 (手術管理担当)



田上 哲也
診療部長 (外来管理担当)



宮本 心一
診療部長 (健診担当)



瀬田 公一
診療部長 (地域医療担当)



勝島 慎二
診療部長 (医事管理担当)
2022年3月31日まで



小田垣 孝雄
診療部長 (感染制御担当)



喜多 美穂里
診療部長 (先進医療担当)



北岡 有喜
医療情報部長
2021年8月31日まで



中原 孝洋
医療情報部長
2022年4月1日から



八十田 明宏
臨床研究センター長



浅原 哲子
内分泌代謝
高血圧研究部長



長谷川 浩二
展開医療研究部長



前田 真次
事務部長



福井 久美子
看護部長



土井 敏行
薬剤部長



前中 由美
副学長

職員の状況

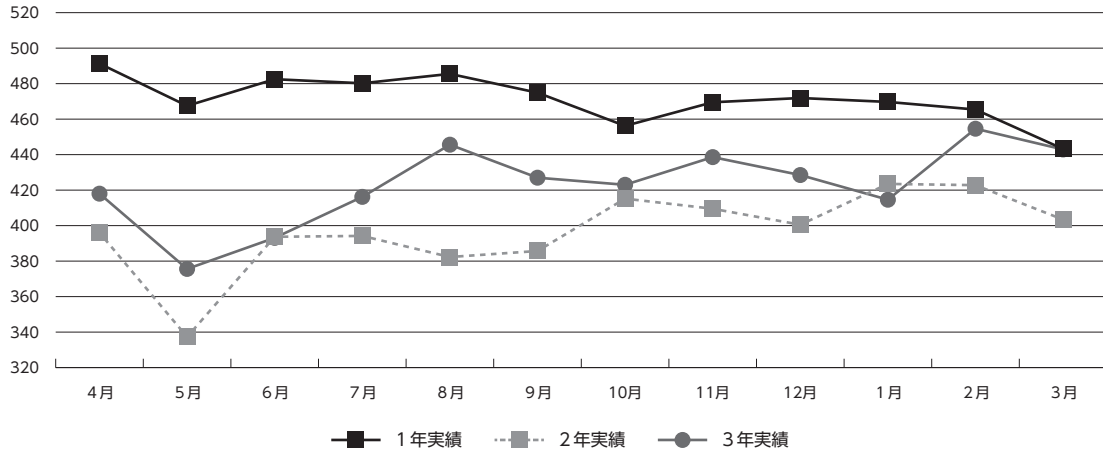
職 種 ・ 職 名		常勤職員		非常勤職員			期間職員			職員 合計	
		定数	現員	定数	現員	常勤換算	定数	現員	常勤換算		
医 師	院長・ 年俸表(一)	院長	1	1						1.00	
		副院長	2	2						2.00	
		部長	14	13						13.00	
		医長	42	41						41.00	
		歯科医長		1						1.00	
	小計	59	58							58.00	
	一般医師 医療職(一)	医師	110	98	21.25	29	22.08	38.70	36	32.40	152.48
		歯科医師		2					1	0.90	2.90
		小計	110	100	21.25	29	22.08	38.70	37	33.30	155.38
	計	169	158	21.25	29	22.08	38.70	37	33.30	213.38	
医 療 職 (二)	薬剤師	薬剤部長	1	1						1.00	
		副薬剤部長	2	2						2.00	
		主任薬剤師	7	7						7.00	
		薬剤師	27	26						26.00	
		小計	37	36						36.00	
	放射線技師	診療放射線技師長	1	1						1.00	
		副診療放射線技師長	2	2						2.00	
		主任診療放射線技師	6	6						6.00	
		診療放射線技師	25	25						25.00	
		小計	34	34						34.00	
検査技師	臨床検査技師長	1	1						1.00		
	副臨床検査技師長	2	2						2.00		
	主任臨床検査技師	8	8						8.00		
	臨床検査技師	24	23	2.93	6	4.14			27.14		
	小計	35	34	2.93	6	4.14			38.14		
管理栄養士	栄養管理室長	1	1						1.00		
	副栄養管理室長	1	1						1.00		
	主任栄養士	2	1						1.00		
	栄養士	3	2	2.49	4	2.67			4.67		
	小計	7	5	2.49	4	2.67			7.67		
理学療法士	理学療法士長	1	1						1.00		
	副理学療法士長	1	1						1.00		
	主任理学療法士	5	5						5.00		
	理学療法士	13	15	0.77	1	0.77			15.77		
	小計	20	22	0.77	1	0.77			22.77		
作業療法士	主任作業療法士	2									
	作業療法士	7	7						7.00		
	小計	9	7						7.00		
言語聴覚士	主任言語聴覚士	1									
	言語聴覚士	4	5	0.41	1	0.41			5.41		
	小計	5	5	0.41	1	0.41			5.41		
臨床工学 技士	臨床工学技士長	1	1						1.00		
	主任臨床工学技士	2	1						1.00		
	臨床工学技士	12	11						11.00		
	小計	15	13						13.00		
医療技術 職員	視能訓練士	4	4	1.66	2	1.60			5.60		
	心理療法士			0.92	4	0.60			0.60		
	歯科衛生士			3.08	2	1.54			1.54		
	歯科技工士			0.77	1	0.77			0.77		
	小計	4	4	6.43	9	4.51			8.51		
計	166	160	13.03	21	12.50				172.50		

職 種 ・ 職 名		常勤職員		非常勤職員			期間職員			職員 合計	
		定数	現員	定数	現員	常勤換算	定数	現員	常勤換算		
医療職 (三)	看護師、 助産師	看護部長	1	1						1.00	
		副看護部長	3	3						3.00	
		看護師長	21	21						21.00	
		副看護師長	49	48						48.00	
		助産師	484	28						28.00	
		看護師		447	28.44	25	17.28				464.28
		准看護師				1	0.80				0.80
計		558	548	28.44	26	18.08				566.08	
事務職・ 診療情報 管理職	事務職員	事務部長	1	1						1.00	
		課長・室長	3	3						3.00	
		班長	2	2						2.00	
		専門職	2	2						2.00	
		係長	12	8						8.00	
		一般職員(事務補助)	8	12	120.70	155	120.18				132.18
		小計	28	28	120.70	155	120.18				148.18
	診療情報 管理職	診療情報管理士	11	10	1.66	1	0.83				10.83
		小計	11	10	1.66	1	0.83				10.83
	計		39	38	122.36	156	121.01				159.01
技能職員		自動車運転手				1	0.83				0.83
		調理師	10	10	26.56						10.00
		看護助手				18	14.88				14.88
		その他				2	1.66				1.66
計		10	10	26.56	21	17.37				27.37	
教育職		副学校長・教育主事	4	3						3.00	
		教員(教務補助)	14	14							14.00
計		18	17							17.00	
研究職		センター長・部長	3	3						3.00	
		室長・主任研究官	4	4						4.00	
		研究(補助)員	1	1	9.30	8	5.60				6.60
計		8	8	9.30	8	5.60				13.60	
福祉職		保育士	1	1	1	1	0.77				1.77
		医療社会事業専門員	4	4							4.00
計		5	5	1	1	0.77				5.77	
職員総数		973	944	221.71	262	197.41	38.70	37	33.30	1,174.71	
(男性)			303		51	36.25		24	18.90	358.15	
(女性)			641		211	161.16		13	14.40	816.56	

診療実績（年度別統計）

●平均入院患者数（年間目標数=407.5人）

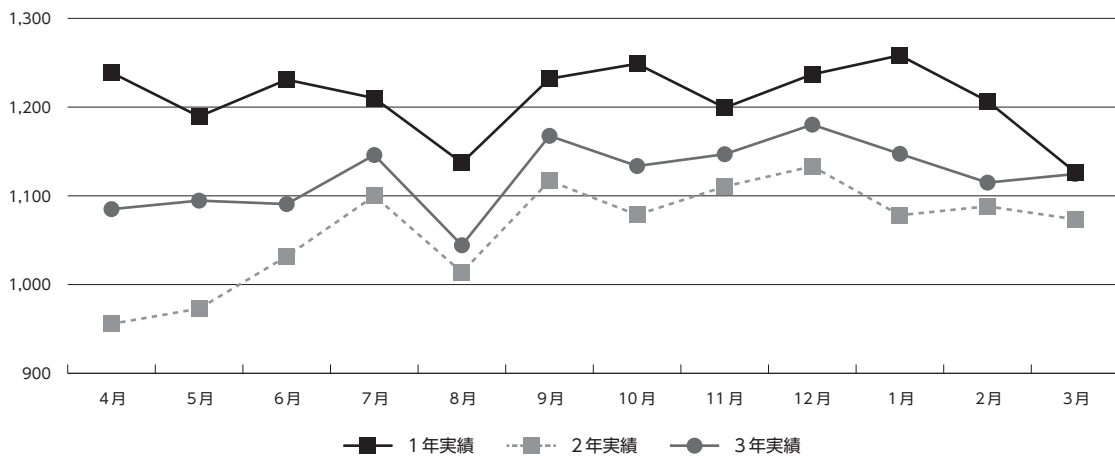
（単位：人/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	利用率
1年実績	491.3	467.5	482.5	480.2	485.5	474.9	456.2	469.5	471.9	469.7	465.4	443.2	471.4	83.6%
2年実績	396.0	337.3	393.7	394.2	382.3	385.7	415.2	409.5	400.5	423.5	422.8	403.4	396.8	70.6%
3年実績	418.0	375.6	393.1	416.2	445.6	427.0	423.0	438.6	428.5	414.6	454.6	442.9	422.9	75.4%

●平均外来患者数（年間目標患者数=1,100.1人）

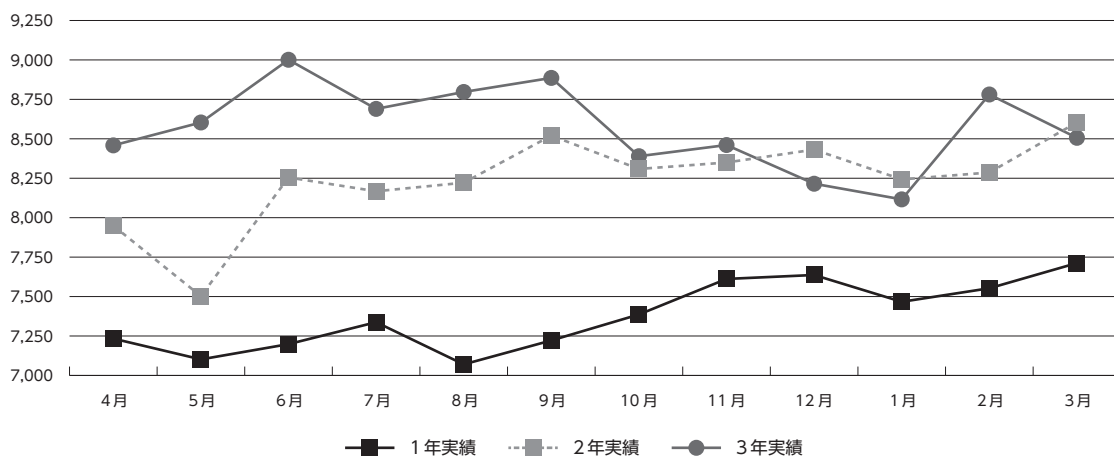
（単位：人/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年実績	1,238.9	1,189.4	1,230.9	1,210.1	1,137.2	1,232.0	1,248.8	1,199.3	1,236.9	1,258.3	1,206.7	1,126.8	1,203.8
2年実績	955.7	972.9	1,031.8	1,099.9	1,013.8	1,116.9	1,078.6	1,110.5	1,133.2	1,078.2	1,088.2	1,073.5	1,062.7
3年実績	1,085.0	1,094.6	1,090.7	1,146.0	1,044.3	1,167.6	1,133.6	1,146.9	1,180.2	1,147.3	1,114.9	1,124.6	1,122.5

●入院平均診療点数

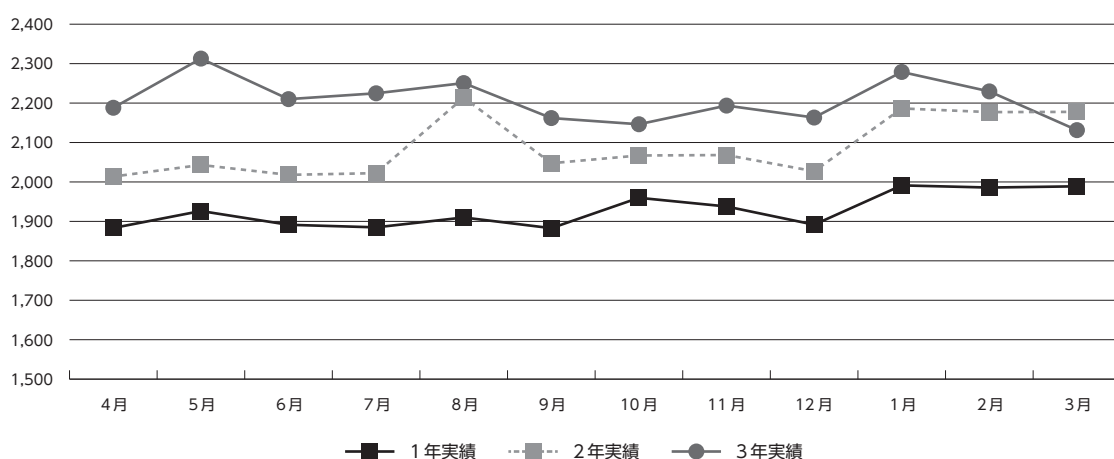
(単位：点/日)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年実績	7,233.4	7,101.7	7,198.4	7,337.4	7,070.1	7,221.8	7,386.4	7,611.7	7,636.7	7,466.8	7,552.5	7,712.2	7,317.1
2年実績	7,949.1	7,502.5	8,255.0	8,167.4	8,221.7	8,520.2	8,308.8	8,349.7	8,431.6	8,242.6	8,286.4	8,604.0	8,246.2
3年実績	8,458.4	8,603.5	9,001.0	8,689.6	8,796.8	8,886.0	8,389.7	8,460.5	8,215.2	8,116.1	8,780.9	8,506.3	8,571.6

●外来平均診療点数

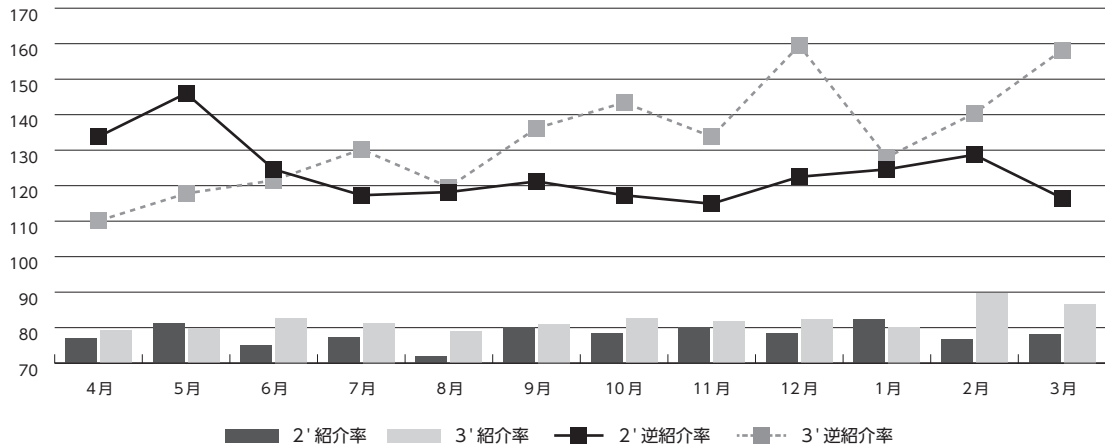
(単位：点/日)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年実績	1,883.3	1,926.3	1,891.4	1,884.9	1,909.9	1,882.8	1,959.8	1,937.8	1,891.6	1,991.3	1,985.8	1,988.9	1,926.9
2年実績	2,013.7	2,043.1	2,018.0	2,022.3	2,213.9	2,047.5	2,067.1	2,068.2	2,027.1	2,186.4	2,177.1	2,177.7	2,087.8
3年実績	2,188.1	2,312.8	2,210.0	2,224.8	2,250.7	2,162.0	2,146.3	2,193.6	2,163.3	2,278.9	2,229.6	2,131.4	2,204.8

●紹介率、逆紹介率の推移

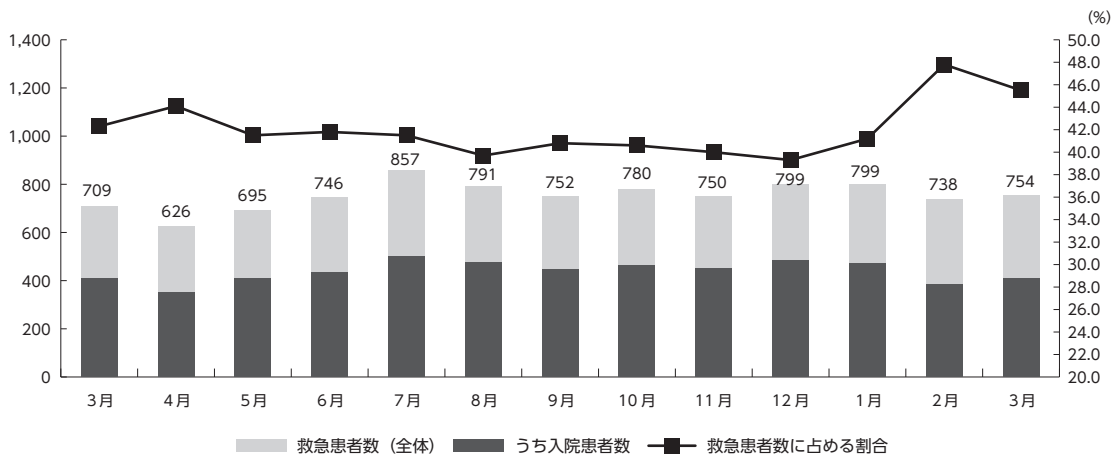
(単位：%)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2'紹介率	77.0	81.3	75.1	77.3	71.8	80.1	78.5	80.2	78.4	82.2	76.7	78.2	78.0
3'紹介率	79.1	79.8	82.7	81.3	78.9	81.0	82.6	81.8	82.2	80.2	89.6	86.7	82.1
2'逆紹介率	133.8	146.0	124.6	117.3	118.2	121.2	117.3	114.9	122.5	124.6	128.7	116.5	122.5
3'逆紹介率	110.1	117.8	121.5	130.2	119.6	136.2	143.4	133.8	159.5	128.0	140.4	158.2	133.0

●救急患者数推移

(単位：人/%)



	令和2年度		令和3年度											平均
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
救急患者数 (全体)	709	626	695	746	857	791	752	780	750	799	799	738	754	753.5
うち入院患者数	300	276	286	312	356	314	307	317	300	314	329	353	343	315.9
救急患者数に占める割合 (%)	42.3	44.1	41.5	41.8	41.5	39.7	40.8	40.6	40.0	39.3	41.2	47.8	45.5	41.9
救急搬送患者数	356	280	307	390	428	372	366	406	366	391	389	380	436	374.4
新規入院患者数 (参考)	1,120	1,015	966	1,107	1,100	1,192	1,078	1,132	1,112	1,027	1,037	965	1,054	1,069.6

経常収支率

損益計算書

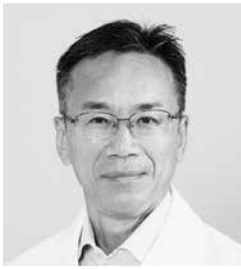
(千円)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
医業収益	18,299,681	17,264,703	19,448,997
入院診療収益	12,260,110	11,578,885	13,117,592
室料差額収益	403,095	333,397	371,602
外来診療収益	5,510,149	5,288,099	5,881,902
保健予防活動収益	100,454	83,086	100,062
文書料収益	68,111	56,489	61,537
その他医業収益	20,908	18,157	17,944
保険等査定減 (△)	▲63,147	▲93,412	▲101,642
診療業務費	18,647,528	18,652,397	20,065,182
給与費	9,184,479	9,250,934	9,270,733
材料費	5,875,908	5,641,088	6,302,232
委託費	874,188	882,608	976,525
設備関係費	1,805,736	1,945,703	2,235,607
研究研修費	4,034	2,612	3,990
経費	903,182	929,452	1,276,095
医業収支差	▲347,846	▲1,387,694	▲616,185
医業収支率	98.1%	92.6%	96.9%
人件費率	50.2%	53.6%	47.7%
材料費率	32.1%	32.7%	32.4%
委託費率	4.8%	5.1%	5.0%
経費率	4.9%	5.4%	6.6%
人件費+委託費率	55.0%	58.7%	52.7%
経常収益	19,275,752	19,978,382	23,179,333
経常費用	19,468,423	19,526,866	20,840,663
経常収支差	▲192,671	451,517	2,338,670
経常収支率	99.0%	102.3%	111.2%

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育研修収益	225,560	238,610	230,264
教育研修費用	263,086	276,324	245,120
収支差	▲37,526	▲37,714	▲14,856

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
臨床研究収益	400,468	410,162	400,707
臨床研究費用	411,880	458,562	410,892
収支差	▲11,412	▲48,400	▲10,185

総合内科



診療科長
統括診療部長
教育研修部長
小山 弘

専門医資格等

日本内科学会総合内科専門医
医療系大学間共用試験実施
評価機構医学系OSCE実施
管理委員会委員他
独立行政法人国立病院機構
医師育成・教育委員会委員
京都大学医学部臨床教授
京都大学博士（医学）

専門分野

内科一般
内科診断学
医学教育
臨床疫学

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
感染制御部長 総合診療科・感染症科長	小田垣孝雄	日本内科学会総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定医・指導医 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 Infection Control Doctor 日本内科学会 JMECC 指導者講習会ディレクター 日本救急医学会 ICLS 指導者 ワークショップ・ディレクター 日本医師会認定産業医	総合診療 感染制御	Common diseases
医師	陣内 牧子	日本内科学会 内科認定医・総合内科専門医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医 京都大学博士（医学）	内科一般 呼吸器内科一般	喘息・慢性咳嗽、 呼吸器感染症
医師	上田 忠弘	認定内科医 救急科専門医 日本DMAT隊員 PEACE緩和ケア研修修了	内科一般、救急 集中治療領域	
専攻医	江村 純正		内科一般	
非常勤医師	菊地 祐子	日本内科学会総合内科専門医 腎臓専門医、透析専門医、糖尿病専門医	内科一般、 腎臓、糖尿病	生活習慣病

| 令和3年度の主な取組 |

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中、病棟、外来機能を維持しつつ、COVID-19対応に、また院内の診療活動のインターフェイスとして機能するよう努めた。

診療実績

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	19.5	19.9
新入院患者数(名)	293	409
平均在院日数(日)	19.1	27.2

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	35.5	39.0

主な疾患の件数(2021年度)

感染症	177件	呼吸器疾患	12件
加齢関連病態	71件	腎臓疾患	9件
血液・腫瘍性疾患	29件	脳神経疾患	7件
自己免疫リウマチ性疾患	24件	精神疾患	7件
電解質・酸塩基平衡の異常	20件	循環器疾患	5件
消化器疾患	13件		

膠原病・リウマチ内科



医長
井口 美季子

専門医資格等
日本内科学会
認定内科医・
総合内科専門医
日本リウマチ学会 専門医
日本リウマチ学会 指導医
日本リウマチ学会
登録ソノグラファー
日本リウマチ財団 登録医
医学博士

専門分野
リウマチ・膠原病

｜ 令和3年度の主な取組 ｜

施設認定等

- ・日本リウマチ学会認定教育施設

診療科の特徴

1. 膠原病・関節リウマチは慢性疾患であるため、患者さんご自身が治療に納得して上手に疾患と付き合っていく必要があります。様々な治療の選択肢をご提示し、ご納得いただける治療をご提供します。
2. 他の疾患領域と同様に膠原病・リウマチ性疾患の治療は飛躍的に進化しています。最新の知見に基づいた最善の治療を提供します。
3. 膠原病・関節リウマチは全身に合併症をきたす可能性がある疾患なので各科と連携しながら治療を行っていきます。当院で対応困難な疾患の場合には速やかに大学病院にご紹介します。
4. 関節リウマチについては地域連携に努めています。

主な対象疾患

関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、血管炎、多発性筋炎／皮膚筋炎、ベーチェット病、IgG4関連疾患 など

診療内容

月・水・木・金曜に外来診療を行っております。
関節エコーを用いてリアルタイムに現在の関節炎の活動性を評価します。
拳児希望関節リウマチ・膠原病患者さんにも対応します。

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	3.0	3.1
新入院患者数(名)	54	53
平均在院日数(日)	19.3	19.9

外来患者数

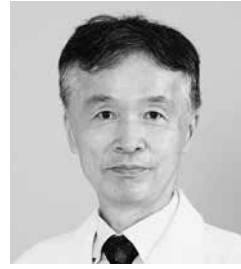
	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	19.6	23.3

血液内科・稀少血液疾患科



専門医資格等
日本内科学会
総合内科専門医
日本血液学会
専門医・指導医
京都大学 医学博士
専門分野
血液一般

内科医長
診療科長（血液内科）
奥野 芳章



専門医資格等
日本内科学会
総合内科専門医
日本血液学会
専門医・指導医
日本輸血・細胞治療学会
認定医
京都大学 医学博士
専門分野
血液一般

医長
診療科長（稀少血液疾患科）
臨床検査科副科長
輸血管理士
川端 浩

得意疾患
骨髄異形成症候群
稀少血液疾患
鉄代謝異常

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本血液学会 血液研修施設

外来診療

- ・稀少血液疾患科外来開設

入院診療

- ・クリーンルーム 2床の稼働

京都大学を中心施設とした多施設共同研究への参加

- ・「ベネトクラクス血中濃度の個体間変動と効果・副作用に関する研究」(R2915)
- ・「再生不良性貧血/骨髄異形成症候群の前方視的症例登録・セントラルレビュー・追跡調査研究・遺伝子研究」(G1268/RADDAR-J)
- ・「造血器疾患における遺伝子異常の網羅的解析研究」(G0697)

ご高齢の患者さんにも実施可能な、新規抗がん剤治療の導入を積極的に推進しています。

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	4.9	7.0
新入院患者数(名)	13.0	14.9
平均在院日数(日)	13.3	17.1

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	12.7	14.7

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
演題名等 / 演者(下線は当院所属)	
2021.08.13-10.31	The 1st International Symposium on Castleman Disease
[Treatments and prognostic factors of TAFRO syndrome in Japan] Kawabata H, Fujimoto S, Tsukamoto N, Takai K, Aoki S, Masaki Y	
2021.08.13-10.31	The 1st International Symposium on Castleman Disease
[Idiopathic plasmacytic lymphadenopathy with hyperimmunoglobulinemia (IPL) revisited—A subtype of multicentric Castleman disease?] Kawabata H	
2021.09.05	第84回日本内科学会北陸支部主催生涯教育講演会
[骨髓異形成症候群の臨床Update] 川端 浩	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者(下線は当院所属)
(総説) マクロファージと炎症性貧血 血液内科, 83, 1, 26-30, 2021.07, 科学評論社 在田幸太郎, 川端 浩, 正木 康史
(総説) 鉄代謝検査 週間 医学のあゆみ, 277, 12, 1074-1080, 2021.06.19, 医歯薬出版 川端 浩
(総説) キャッスルマン病とTAFRO症候群 リウマチ科, 67, 2, 236-246, 2022.02, 科学評論社 川端 浩
(総説) 血液疾患 ビタミン・バイオフィクター総合辞典, 416-422, 2021.07.01, 朝倉書店 川端 浩
(総説) 鉄代謝・銅代謝・微量金属 生涯教育シリーズ100 日本医師会雑誌第150巻特別号(1) 臨床検査を使いこなす, 145-150, 2021.06, 南山堂 川端 浩

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

〔原著論文〕

Azacitidine is a potential therapeutic drug for pyridoxine-refractory female X-linked sideroblastic anemia.
Blood Adv, 6, 4, 1100-1114, 2022.02.22
Morimoto Y, Chonabayashi K, Kawabata H, Okubo C, Yamasaki-Morita M, Nishikawa M, Narita M,
Inagaki A, Nakanishi K, Nagao M, Takaori-Kondo A, Yoshida Y

〔原著論文〕

Comprehensive analysis of protein-expression changes specific to immunoglobulin G4-related disease.
Clin Chim Acta, 523, 45-57, 2021.12
Kawanami T, Kawanami-Iwao H, Takata T, Ishigaki Y, Tomosugi N, Takegami T, Yanagisawa H,
Fujimoto S, Sakai T, Fujita Y, Yamada K, Mizuta S, Kawabata H, Fukushima T, Hirose Y, Masaki Y

〔原著論文以外〕

Castleman disease and TAFRO syndrome.
Ann Hematol., 101, 3, 485-490, 2022.01
Masaki Y, Arita K, Sakai T, Takai K, Aoki S, Kawabata H

〔総説〕

骨髄異形成症候群
内科学 第12版., V77-V80., 2022.03.03, 朝倉書店
川端 浩

〔総説〕

鉄代謝検査
別冊医学のあゆみ いま知っておきたい最新の臨床検査., 59-65., 2022.03.01, 医歯薬出版
川端 浩

〔総説〕

キャスルマン病の疾患概念
キャスルマン病, TAFRO症候群., 2-9., 2022.03.05, フジメディカル出版
川端 浩

〔原著論文〕

Prognostic impacts of serum levels of C-reactive protein, albumin, and total cholesterol in patients with
myelodysplastic syndromes
Int J Hematol., 116, 1, 81-88, 2022.03.24
Yanagisawa H, Kawabata H, Ueda Y, Arita K, Iwao-Kawanami H, Sakai T, Kawanami T, Yamada K,
Mizuta S, Fukushima T, Masaki Y

内分泌・代謝内科



診療部長 (外来管理担当)
診療科長 (内分泌・代謝内科)
田上 哲也

専門医資格等

日本内科学会
総合内科専門医・認定医・
指導医・近畿支部評議員
日本内分泌学会
内分泌代謝科専門医・
指導医・教育責任者・
評議員・近畿支部副支部長・
英文雑誌編集委員
日本甲状腺学会
専門医・評議員・理事・
2020年学会長

臨床研修指導医
京都大学 医学博士
京都大学医学部
臨床教授・講師
京都府社会保険
診療報酬支払基金審査委員
京都地方裁判所専門委員
T-PECドクターオブドクターズ

専門分野

内科・内分泌代謝
(甲状腺疾患)

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	立木 美香	日本内科学会 総合内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医 日本高血圧学会 専門医 臨床研修指導医 東京女子医科大学 医学博士	内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患、 高血圧・副腎疾患
医師	難波 多挙	日本内科学会 総合内科専門医・認定医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医 米国内臓協会 FAHA 臨床研修指導医 ミシガン大学医学部 リサーチ・アシスタント・プロフェッサー (非常勤)	内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患、 副腎疾患
医師	石原 裕己	日本内科学会 認定医	内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患
医師	中谷理恵子	日本内科学会 総合内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科 (内科) 専門医 日本甲状腺学会 専門医 日本糖尿病学会 糖尿病専門医	内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患
レジデント	廣嶋 佳歩	日本内科学会 認定医	内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患
レジデント	北村 拓也		内科・ 内分泌代謝	糖尿病

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本内分泌学会認定研修施設
- ・日本高血圧学会認定研修施設
- ・日本甲状腺学会認定研修施設

クリティカルパス

- ・副腎静脈サンプリング（3）、副腎インシデンタローマ（5）、原発性アルドステロン症（4、5）、褐色細胞腫（3）、バセドウ病アイソトープ（14）、甲状腺眼症（18）：（ ）内は日数

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数（名）	4.8	4.8
平均在院日数（日）	9.7	8.0
内分泌疾患年間入院患者数（日）	170	221

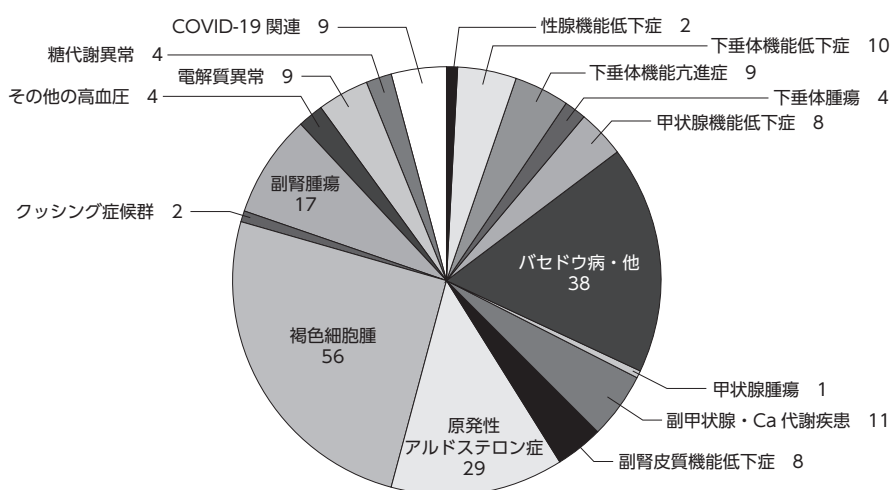
外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数（名）	54.3	56.3
年間初診患者数（名）	435	684

主な検査の件数（2021年度）

甲状腺エコー実施数	1452件	副腎静脈サンプリング	13件
甲状腺細胞診実施数	172件	悪性褐色細胞腫化学療法	のべ22回（3症例）

2021年度入院患者内訳（人）



| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.04.22-24 [エネルギー代謝におけるGATAの機能の基礎的検討] 光谷 真奈、松下 翠、増田奈菜子、梶谷 美佳、二若 久美、 <u>田上 哲也</u> 、森山 賢治	第94回日本内分泌学会年次学術集会
2021.04.22-24 [GHの標的遺伝子としてのGATAs] 増田奈菜子、光谷 真奈、松下 翠、梶谷 美佳、二若 久美、 <u>田上 哲也</u> 、森山 賢治	第94回日本内分泌学会年次学術集会
2021.04.22-24 [プレコンセプションケアの視点からの甲状腺疾患 基礎と臨床] 小林真以子、 <u>田上 哲也</u> 、岡田 英孝	第94回日本内分泌学会年次学術集会
2021.04.22-24 [妊娠高血圧症候群 (妊娠中毒症) と甲状腺疾患合併妊娠] <u>田上 哲也</u>	第94回日本内分泌学会年次学術集会 共催セミナー
2021.05.20-22 [高齢糖尿病における甲状腺機能の検討] 加藤 純子、 <u>田上 哲也</u> 、浅原 哲子、山陰 一、中村 道三、桑原 隆、西 重生、新谷 光世、山本 果奈、千葉 優子、荒木 厚	第64回日本糖尿病学会年次学術集会
2021.06.18-19 [褐色細胞腫・パラガングリオーマ診療ガイドライン] <u>立木 美香</u>	第27回日本遺伝性腫瘍学会学術集会
2021.08.19 [薬剤性高カルシウム血症] <u>北村 拓也</u>	伏見内分泌代謝ネットワーク第35回連携の会
2021.08.19 [薬剤性低カリウム血症] <u>中谷理恵子</u>	伏見内分泌代謝ネットワーク第35回連携の会
2021.08.19 [薬剤性低ナトリウム血症] <u>立木 美香</u>	伏見内分泌代謝ネットワーク第35回連携の会
2021.09.10 [新バセドウ病治療ガイドラインと抗TSH受容体抗体の話] <u>田上 哲也</u>	三枝中央地区 糖尿病・内分泌 学術講演会
2021.11.18-20 [甲状腺ホルモンと成長ホルモンの相補性に関する考察] 光谷 真奈、松下 翠、増田奈菜子、松尾 葵、梶谷 美佳、横山 明似、山内 一郎、 <u>田上 哲也</u> 、森山 賢治	第64回日本甲状腺学会学術集会
2021.11.18-20 [NF- κ Bが甲状腺ホルモン代謝に及ぼす影響の基礎的検討] 横山 明似、光谷 真奈、松下 翠、増田奈菜子、松尾 葵、梶谷 美佳、山内 一郎、 <u>田上 哲也</u> 、森山 賢治	第64回日本甲状腺学会学術集会
2021.11.18-20 [初回指摘の橋本病による粘液水腫性昏睡疑い例の一例] <u>北村 拓也</u> 、濱中 佳歩 [廣嶋]、石原 裕己、中谷理恵子、難波 多挙、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、 <u>田上 哲也</u>	第64回日本甲状腺学会学術集会
2021.11.26-27 [集学的治療によりコントロールを行ったGH産生下垂体腫瘍の一例] 難波 多挙、 <u>北村 拓也</u> 、濱中 佳歩 [廣嶋]、石原 裕己、中谷理恵子、立木 美香、青木 友和、荒木 則雄、森吉 弘毅、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、井下 尚子、島津 章、 <u>田上 哲也</u>	第31回臨床内分泌代謝Update

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.11.26-27 「甲状腺疾患 バセドウ病の病態と治療」 田上 哲也	第31回臨床内分泌代謝 Update
2021.11.26-27 「高齢バセドウ病患者にアイソトープ治療を安全に施行できた一例」 野村 拓未、石原 裕己、濱中 佳歩 [廣嶋]、難波 多挙、中谷理恵子、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、田上 哲也	第31回臨床内分泌代謝 Update
2021.12.17 「甲状腺ホルモン受容体～これまでの研究と最近の動向～」 田上 哲也	Meet the Expert Web Seminar in Osaka
2022.02.10 「下垂体疾患診療における最近の話題」 廣嶋 佳歩	伏見内分泌代謝ネットワーク第36回連携の会
2022.02.10 「副腎疾患診療における最近の話題」 石原 裕己	伏見内分泌代謝ネットワーク第36回連携の会
2022.02.10 「高血圧診療における最近の話題～パンデミック下における高血圧診療～」 難波 多挙	伏見内分泌代謝ネットワーク第36回連携の会
2022.03.18 「悪性褐色細胞腫に対する核医学治療について」 立木 美香	第12回内分泌代謝トランスレーショナル医学塾
2022.03.26-29 「成長ホルモン製剤と甲状腺ホルモンの同時投与治療における作用メカニズムについて」 光谷 真奈、松下 翠、増田奈菜子、梶谷 美佳、横山 明似、二若 久美、田上 哲也、森山 賢治	日本薬学会第142年会
2022.03.26-29 「UCP 遺伝子と GATA の相互作用についての検討」 横山 明似、光谷 真奈、松下 翠、増田奈菜子、梶谷 美佳、二若 久美、田上 哲也、森山 賢治	日本薬学会第142年会
2022.03.26-29 「成長ホルモン下流のシグナル伝達経路における STAT を介した転写因子 GATAs の発現調節」 増田奈菜子、光谷 真奈、松下 翠、梶谷 美佳、横山 明似、二若 久美、田上 哲也、森山 賢治	日本薬学会第142年会

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名、巻、号、ページ、発行年月、出版社 著者 (下線は当院所属)
<p>解説 だれでもわかる甲状腺の基礎知識 甲状腺中毒症の名称について 日本甲状腺学会雑誌 (2185-3126) 12巻 7号 Page162 (2021.10), 12, 7, 162, 2021.10, 日本甲状腺学会 田上 哲也</p>
<p>解説 【甲状腺臨床 update】次世代迅速 TAb 測定法の開発 測定原理と基礎性能 臨床評価 糖尿病・内分泌代謝科 (2435-1946) 53巻 5号 Page479-486 (2021.11), 53, 5, 479-486, 2021.11, 科学評論社 田上 哲也、保科 元気、尾島 汐海、土居 耕介、川寄 淳史、村山 寛</p>
<p>解説 【内分泌疾患・糖尿病・代謝疾患—診療のエッセンス】(I章) 内分泌疾患 主要内分泌疾患 視床下部・下垂体疾患 SITSH (不適切 TSH 分泌症候群) 日本医師会雑誌 (0021-4493) 150巻特別 2 Page S84-S86 (2021.10), 150, 特別2, S84-S86, 2021.10, 日本医師会 田上 哲也</p>

解説

だれでもわかる甲状腺の基礎知識 甲状腺疾患の保険診療について

日本甲状腺学会雑誌 (2185-3126) 12巻 1号 Page87-88 (2021.04), 12, 1, 87-88, 2021.04, 日本甲状腺学会

田上 哲也

解説

【日常診療で内分泌疾患を見逃さない!】代表的内分泌疾患 甲状腺疾患 甲状腺機能低下症とnonthyroidal illnessの鑑別

Medicina (0025-7699) 58巻 9号 Page1403-1405 (2021.08), 58, 9, 1403-1405, 2021.08, 医学書院

田上 哲也

解説

【日常診療で内分泌疾患を見逃さない!】代表的内分泌疾患 甲状腺疾患 甲状腺機能低下症, 橋本病 甲状腺腫を見逃さない!

Medicina (0025-7699) 58巻 9号 Page1396-1401 (2021.08), 58, 9, 1396-1401, 2021.08, 医学書院

田上 哲也

解説

【検査ごとに学ぶ 甲状腺疾患へのアプローチ】総論 甲状腺の機能と疾患

Medical Technology (0389-1887) 49巻 9号 Page924-929 (2021.09), 49, 9, 924-929, 2021.09, 医歯薬出版株式会社

田上 哲也

解説

【内科疾患の診断基準・病型分類・重症度】(第10章) 代謝・内分泌 診断メモ 甲状腺クリーゼ

内科 (0022-1961) 127巻 4号 Page1011 (2021.04), 127, 4, 1011, 2021.04, 南江堂

田上 哲也

解説

12. 内分泌疾患 甲状腺機能亢進症 (甲状腺クリーゼを含む)

今日の治療指針 2022年版 [デスク判] 私はこう治療している, 792-795, 2022.01, 医学書院

田上 哲也

解説

12. 内分泌疾患 甲状腺機能亢進症 (甲状腺クリーゼを含む)

今日の治療指針 2022年版 [ポケット判] 私はこう治療している, 792-794, 2022.01, 医学書院

田上 哲也

会議録

伏見内分泌代謝ネットワーク第35回連携の会 テーマ:…だ・け・じゃ・ない!

伏見医報, 736, 486, 2021.08, 伏見医師会

田上 哲也

会議録

伏見内分泌代謝ネットワーク第35回連携の会薬剤性高カルシウム血症

伏見医報, 736, 486, 2021.08, 伏見医師会

廣嶋 佳歩

会議録

伏見内分泌代謝ネットワーク第35回連携の会薬剤性低カリウム血症

伏見医報, 736, 487, 2021.08, 伏見医師会

石原 裕己

会議録

伏見内分泌代謝ネットワーク第35回連携の会薬剤性低ナトリウム血症

伏見医報, 736, 487, 2021.08, 伏見医師会

難波 多挙

会議録

伏見内分泌代謝ネットワーク第36回連携の会内分泌疾患診療における最近の話題

伏見医報, 742, 704, 2022.02, 伏見医師会

田上 哲也

会議録

伏見内分泌代謝ネットワーク第36回連携の会下垂体疾患診療における最近の話題

伏見医報, 742, 704-5, 2022.02, 伏見医師会

廣嶋 佳歩

会議録

伏見内分泌代謝ネットワーク第36回連携の会副腎疾患診療における最近の話題

伏見医報, 742, 705-6, 2022.02, 伏見医師会

石原 裕己

会議録

伏見内分泌代謝ネットワーク第36回連携の会高血圧診療における最近の話題

伏見医報, 742, 706, 2022.02, 伏見医師会

難波 多挙

解説

原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021

日本内分泌学会雑誌, 97, Suppl, i-53, 2021.10, 日本内分泌学会

成瀬 光栄、方波見卓行、柴田 洋孝、曾根 正勝、高橋 克敏、田辺 晶代、伊澤正一郎、一城 貴政、大月 道夫、大村 昌夫、小川 佳宏、沖 隆、栗原 勲、小林 洋輝、坂本 竜一、佐藤 文俊、武田 仁勇、田中 知明、田村 功一、立木 美香、橋本 重厚、長谷川奉延、吉本 貴宣、米田 隆、山本 浩一、榎木 宏実、和田 典男、佐伯 絢、大野 洋一、土師 達也、岡本健太郎、成瀬 光栄、川島 彰透、藤井 雄一、難波 多挙、益崎 裕章、斎藤 能彦、横尾 隆、向山 政志、桑鶴 良平、宮崎 康、関 博之、辻 光、猿田 享男、平田結喜緒、島本 和明、宮森 勇、西川 哲男、相馬 正義、柳瀬 敏彦、一般社団法人日本内分泌学会、一般社団法人日本内分泌学会、
「原発性アルドステロン症診療ガイドライン策定と診療水準向上」委員会、特定非営利活動法人日本高血圧学会、一般社団法人日本腎臓学会、一般社団法人日本内分泌外科学会、一般社団法人日本妊娠高血圧学会、厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業副腎ホルモン産生異常症に関する調査研究班、国際医療研究開発費「難治性副腎腫瘍の疾患レジストリと診療実態に関する検討」研究班、日本医療研究開発機構(難治性疾患実用化研究事業)「重症型原発性アルドステロン症の診療の質向上に資するエビデンス構築(JPAS)」研究班および「難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出(JRAS)」研究班

解説

【日常診療で内分泌疾患を見逃さない!】Clinical Question 非専門医は原発性アルドステロン症をどう診療すればよいですか?

Medicina, 58, 9, 1467-1469, 2021.08, 医学書院

成瀬 光栄、立木 美香、田辺 晶代

原著論文

An overview of thyroid function tests in subjects with resistance to thyroid hormone and related disorders.

Endocr J., 68, 5, 509-517

Tagami T.

原著論文

Prediction of long-term biochemical cure in patients with unilateral primary hyperaldosteronism treated surgically based on the early post-operative plasma aldosterone value.

Endocr J.

Ishihara Y, Umakoshi H, Kaneko H, Nanba K, Tsuiki M, Kusakabe T, Satoh-Asahara N, Yasoda A, Tagami T.

原著論文

Phase angle from bioelectrical impedance analysis is a useful indicator of muscle quality.

J Cachexia Sarcopenia Muscle.

Akamatsu Y, Kusakabe T, Arai H, Yamamoto Y, Nakao K, Ikeue K, Ishihara Y, Tagami T, Yasoda A, Ishii K, Satoh-Asahara N.

原著論文

Bezafibrate induces hypothyroidism in a patient with resistance to thyroid hormone β due to a G347R variant.

Clin Endocrinol (Oxf)., 96, 2, 236-245

Yamauchi I, Yamashita T, Sugawa T, Tagami T, Hanaoka I, Usui T, Hirota K, Hakata T, Ueda Y, Fujii T, Sakane Y, Yasoda A, Inagaki N.

原著論文

Association of achieved blood pressure after treatment for primary aldosteronism with long-term kidney function.

J Hum Hypertens., 30, 2021.08

Haze T, Yano Y, Hatano Y, Tamura K, Kurihara I, Kobayashi H, Tsuiki M, Ichijo T, Wada N, Katabami T, Yamamoto K, Okamura S, Kai T, Izawa S, Yoshikawa Y, Yamada M, Chiba Y, Tanabe A, Naruse M; JPAS/JRAS Study Group.

原著論文

Pheochromocytoma and paraganglioma with negative results for urinary metanephrines show higher risks for metastatic diseases

Endocrine., 74, 1, 155-162, 2021.08

Kawashima A, Sone M, Inagaki N, Okamoto K, Tsuiki M, Izawa S, Otsuki M, Okamura S, Ichijo T, Katabami T, Takeda Y, Yoshimoto T, Naruse M, Tanabe A.

原著論文

Subtype-specific trends in the clinical picture of primary aldosteronism over a 13-year period.

J Hypertens., 39, 11, 2325-2332, 2021.11

Saito K, Kurihara I, Itoh H, Ichijo T, Katabami T, Tsuiki M, Wada N, Yoneda T, Sone M, Oki K, Yamada T, Kobayashi H, Tamura K, Ogawa Y, Kawashima J, Inagaki N, Yamamoto K, Yamada M, Kamemura K, Fujii Y, Suzuki T, Yasoda A, Tanabe A, Naruse M; Japan Primary Aldosteronism Study/Japan Rare Intractable Adrenal Diseases Study Group.

原著論文

Should Adrenal Venous Sampling Be Performed in PA Patients Without Apparent Adrenal Tumors?

Front Endocrinol (Lausanne) ., 12, 645395, 2021.04

Okamoto K, Ohno Y, Sone M, Inagaki N, Ichijo T, Yoneda T, Tsuiki M, Wada N, Oki K, Tamura K, Kobayashi H, Izawa S, Tanabe A, Naruse M.

原著論文

Association of aldosterone and blood pressure with the risk for cardiovascular events after treatments in primary aldosteronism.

Atherosclerosis., 324, 84-90, 2021.05

Haze T, Hirawa N, Yano Y, Tamura K, Kurihara I, Kobayashi H, Tsuiki M, Ichijo T, Wada N, Katabami T, Yamamoto K, Oki K, Inagaki N, Okamura S, Kai T, Izawa S, Yamada M, Chiba Y, Tanabe A, Naruse M.

原著論文

Novel chemiluminescent immunoassay to measure plasma aldosterone and plasma active renin concentrations for the diagnosis of primary aldosteronism.

J Hum Hypertens., 36, 1, 77-85, 2022.01

Teruyama K, Naruse M, Tsuiki M, Kobayashi H.

原著論文

Diverse pathological lesions of primary aldosteronism and their clinical significance.

Hypertens Res., 44, 5, 498-507, 2021.05

Nishimoto K, Umakoshi H, Seki T, Yasuda M, Araki R, Otsuki M, Katabami T, Shibata H, Ogawa Y, Wada N, Sone M, Okamura S, Izawa S, Miyauchi S, Yoshimoto T, Tsuiki M, Naruse M; JRAS Study Group.

原著論文

Targeted Mutational Analysis of Cortisol-Producing Adenomas.

J Clin Endocrinol Metab., 107, 2, e594-e603, 2022.02

Rege J, Hoxie J, Liu CJ, Cash MN, Luther JM, Gellert L, Turcu AF, Else T, Giordano TJ, Udager AM, Rainey WE, Nanba K.

原著論文

Safety of Remdesivir for Patients 80 Years of Age or Older with Coronavirus Disease 2019 (COVID-19)

Drugs Aging., 38, 12, 1067-1074, 2021.12

Kanai O, Fujita K, Nanba K, Esaka N, Hata H, Seta K, Yasoda A, Odagaki T, Mio T.

総説

Approaches to Gene Mutation Analysis Using Formalin-Fixed Paraffin-Embedded Adrenal Tumor Tissue From Patients With Primary Aldosteronism

Front Endocrinol., 12, 683588, 2021.06

Nanba K, Rainey WE, Udager AM.

症例報告

Acute rhabdomyolysis in a young woman with moderate COVID-19

IDCases., 25, e01212, 2021.06

Fujita K, Kanai O, Nanba K, Esaka N, Hata H, Seta K, Odagaki T.

原著論文

Intratumoral steroid profiling of adrenal cortisol-producing adenomas by liquid chromatography- mass spectrometry

J Steroid Biochem Mol Biol., 212, 105924, 2021.09

Teuber JP, Nanba K, Turcu AF, Chen X, Zhao L, Else T, Auchus RJ, Rainey WE, Rege J.

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

総説

GENETICS IN ENDOCRINOLOGY : Impact of race and sex on genetic causes of aldosterone-producing adenomas

Eur J Endocrinol., 185, 1, R1-R11, 2021.05

Nanba K, Rainey WE.

総説

Primary Cultures and Cell Lines for In Vitro Modeling of the Human Adrenal Cortex

Tohoku J Exp Med., 253, 4, 213-232, 2021.04

Nanba K, Blinder AR, Rainey WE.

糖尿病内科



診療科長
河野 茂夫

専門医資格等

WHO 糖尿病協力センター長
日本糖尿病学会
糖尿病専門医・研修指導医
日本内分泌学会
内分泌代謝科専門医・
指導医
内分泌代謝・糖尿病内科領域
指導医

日本内科学会
認定内科医・
総合内科専門医・指導医
日本糖尿病学会 評議員
日本内分泌学会 評議員
京都大学医学博士
京都大学臨床教授

専門分野

糖尿病

得意疾患

足病変

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 臨床栄養 科長	村田 敬	日本糖尿病学会 糖尿病専門医・研修指導医 日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本小児・思春期糖尿病学会 評議員 日本メディカルAI学会 評議員 東京大学医学博士	糖尿病	若年者糖尿病
医 師	渡邊 知一	日本糖尿病学会 糖尿病専門医 日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医	糖尿病	糖尿病
医 師	野村 英生	日本糖尿病学会 糖尿病専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医 日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医、内科指導医 内分泌代謝・糖尿病内科領域指導医（暫定）	糖尿病	糖尿病
内分泌代 謝高血圧 研究部長	浅原 哲子	日本内科学会 指導医・総合内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医・幹事・評議員 Endocrine Journal編集委員 日本神経内分泌学会 評議員 日本心血管内分泌代謝学会 評議員 日本糖尿病学会 糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会 肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会 理事・評議員 日本動脈硬化学会 認定動脈硬化専門医・評議員 日本病態栄養学会 評議員 日本抗加齢医学会 専門医 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医・指導医 日本糖尿病学会近畿支部 評議員 日本糖尿病生活習慣病ヒューマンデータ学会 評議員 日本性差医学・医療学会 評議員 日本糖尿病協会 療養指導士 The Endocrine Society Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, Editorial board 編集委員 京都大学 医学博士 京都大学 非常勤講師 名古屋大学環境医学研究所 メタボ栄養科学寄附研究部門 特任教授 滋賀医科大学 社会医学講座 公衆衛生学部門 客員教授 同志社大学 スポーツ健康科学部 客員教授 久留米大学 医学部 内科学講座 心臓・血管内科部門 客員教授 国立循環器病研究センター 客員研究員 公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター フェロー	糖尿病、肥満症 (メタボリックシ ンドローム)、内 分泌代謝、予防 医学、遺伝診療	糖尿病、肥満症(メ タボリックシンド ローム)、内分泌代 謝、予防医学、遺 伝性疾患全般

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
予防医学 研究室長	坂根 直樹	日本内科学会 認定医 日本肥満学会 評議員 京都府立医科大学医学博士	糖尿病	糖尿病
臨床内分泌 代謝(専任) 研究室長	日下部 徹	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本糖尿病学会 糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会 肥満症専門医・指導医・評議員 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医 日本肥満症治療学会 評議員 日本サルコペニア・フレイル学会 評議員 京都大学医学博士 京都大学客員研究員	糖尿病、肥満症 (メタボリックシ ンドローム)、内 分泌	糖尿病、肥満症(メ タボリックシンド ローム)、内分泌、 サルコペニア

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本肥満学会認定専門病院

主な対象疾患

2型糖尿病、耐糖能異常、1型糖尿病、肥満症、メタボリック症候群、糖尿病神経障害と糖尿病足病変、糖尿病腎症、糖尿病網膜症（眼科）、妊娠糖尿病、脂質異常症（高脂血症）、糖尿病性昏睡、重症低血糖

診療（業務）内容

糖尿病センターでは一般糖尿病外来および入院での診療に加えてさまざまな専門外来を開設し、さまざまなタイプの糖尿病および関連疾患およびそれらの合併症の充実した診療活動につながっている。

下記の専門外来の診療活動について紹介する。

- ・フットケア外来 毎週月曜日14時～/フットセンター外来 毎週火曜日14時～（2000年開設）フットケア外来では、主に糖尿病に由来する足病変に対応し、全国各地からの紹介患者を集めている。また、非糖尿病足病変患者に対する問い合わせも多く、難治性の足病変を扱う集学的な欧米型のフットセンターを目指している。フットセンター外来では初診は糖尿病センターで行い、一般診療をした上で、関係担当診療科へ紹介している。
- ・フットウェア外来（月2回：木曜日13時～16時 完全予約制）フットウェア外来では義肢装具士がオーストリア人の整形外科靴マイスター（Orthopedic Shoe Meister）と協力して、靴・装具の指導や調整にあっている。
- ・1型糖尿病外来（2005年開設）毎週火曜日午前・午後、金曜日の午前。/インスリンポンプ（CSII）外来（2010年開設）毎週月曜日の午後。

医師、看護師、管理栄養士チームを組み、1型糖尿病の系統的な自己管理教育と心理・社会的な問題への対応を含めた患者支援を行っている。食事の炭水化物量に合わせてインスリンの単位数を自己調節するカーボカウントや、インスリンポンプ・持続血糖測定器（CGM）などの先進糖尿病デバイスの活用により、合併症予防と生活の質（QOL）の両立を目指している。小児期発症患者の成人移行、1型糖尿病合併妊娠の内科的管理、1型糖尿病患者を対象とした臨床研究も実施している。

- ・肥満・メタボリックシンドローム外来（2001年開設）毎週 水曜日9時～14時
肥満・メタボリックシンドローム外来では、医師・看護師・栄養士によるチーム医療をベースに、体重グラフや食事記録表を登録した当院独自の「ダイエットノート」を活用し、日本肥満学会が提唱する減量指導を行い、動脈硬化等の合併症も定期的に評価している。

また、外来患者を中心に2006年よりメタボ会（患者会）を定期的開催。さらにメタボ通信、スマートランチ等をチーム医療で展開し、外来開設から現在まで述べ19,000人以上の患者治療を行ってきた。

- ・脂質異常外来（2005年開設）：第2、4木曜日。家族性高コレステロール血症（FH）やWHO分類のV型など1,000mg/dL以上の著明な高中性脂肪血症の鑑別診断と治療方針の決定を行っている。スタチンのみで管理不良のFHヘテロ接合体に対するPCSK9阻害薬の使用も開始。また、スタチン投薬時のCPK上昇例の対応やスタチン関連自己免疫性ミオパチーなど副作用症例の対応も行っている。管理栄養士による高脂血症療養指導外来（2006年開設）も併設し、節酒による中性脂肪改善プログラム（HAPPY）も提供している。
- ・妊娠糖尿病外来（2007年3月開設）毎週金曜日13時～15時 妊娠糖尿病は妊娠中に初めて発見された軽度の（糖尿病には至っていないレベルの）耐糖能異常で巨大児その他の周産期合併症の原因となる。また出産後の糖尿病発症リスクが増大する。妊娠前に糖尿病を発症した場合、糖尿病合併妊娠となり、胎児奇形が大きな問題となり、妊娠前血糖管理が重要となる。
- ・さらに、糖尿病センターではコメディカルスタッフによる指導として一般糖尿病食事指導（管理栄養士）および糖尿病療養指導外来（インスリン自己注射、血糖自己測定、フットケア指導など：看護師）を開設している。また、自己管理（療養）を患者に指導する医療スタッフである糖尿病療養指導士（CDEJ）は、当院内で看護部、薬剤部、栄養科、検査科などに多数を擁し、綿密な糖尿病セルフケアを支援している。
- ・糖尿病地域連携外来 第1、2、4、5水曜日、9時～14時

診療実績

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数（名）	9.6	7.5
新入院患者数（名）	196	185
平均在院日数（日）	16.5	14

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数（名）	64.5	69.4

主な手術・検査の件数（2021年度）

CAVI/ABI測定	132例	CT（内臓脂肪面積測定）	74例
------------	------	--------------	-----

学術活動報告（学会・研究発表など）

発表年月日	発表学会
演題名等	演者（下線は当院所属）
2021.04.16	第10回内分泌代謝トランスレーショナル医学塾 [Aggressive GH-secreting pituitary tumorsについて] 難波 多挙、須川 琢、石原 裕己、中谷理恵子、立木 美香、青木 友和、河村 光栄、森吉 弘毅、 日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、井下 尚子、島津 章、田上 哲也
2021.04.16	埼玉県糖尿病協会 埼玉利根医療圏ネット枠研究会 [糖尿病診療ガイドライン2019改定を踏まえた食事指導] 佐野 喜子
2021.04.16	Urology Expert Meeting in Kyoto [尿路上皮癌パネルディスカッション] 三浦 高慶

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.04.22-24	第94回日本内分泌学会年次学術集会
「高齢者の甲状腺機能について」 加藤 純子、桑原 隆、西 重生、 <u>田上 哲也</u> 、浅原 哲子、山陰 一、中村 道三、荒木 厚、 千葉 裕子、新谷 光世、山本 果奈	
2021.04.22-24	第94回日本内分泌学会年次学術集会
「肥満患者における副腎偶発腫の頻度と特徴に関する検討」 難波 多挙、奥野 芳樹、山陰 一、村中 和哉、日下部 徹、立木 美香、広川 侑奨、八十田明宏、 <u>田上 哲也</u> 、浅原 哲子	
2021.04.22-24	第94回日本内分泌学会学術総会 サテライトシンポジウム第2回「脂肪萎縮症候群研究会」
「部分性脂肪萎縮症候群の自験例—家族性部分性脂肪萎縮症1型の診断について—」 <u>日下部 徹</u>	
2021.04.24	第94回日本内分泌学会学術集会
「COVID-19流行期における糖尿病患者血糖コントロールに関する実態調査—電子カルテデータベース研究—」 <u>浅原 哲子</u>	
2021.05.15	第5回 日本老年薬学会学術大会
「COVID-19流行期における糖 新型コロナウイルス感染症を知る「薬局をクラスターにするな！京大SPH薬局COVID-19 対策プロジェクト」」 <u>岡田 浩</u>	
2021.05.20	第64回日本糖尿病学会年次学術集会
「会長企画—研究者のサークルを作ろう—3 女性，連携，新しい糖尿病学を切り開く 多施設共同コホートを基盤とした糖尿病・肥満症における脳心腎連関と治療ストラテジーの探究」 <u>浅原 哲子</u>	
2021.05.20-22	第64回日本糖尿病学会年次学術集会
「高齢糖尿病における甲状腺機能の検討」 加藤 純子、 <u>田上 哲也</u> 、浅原 哲子、山陰 一、中村 道三、桑原 隆、西 重生、新谷 光世、 <u>山本 果奈</u> 、千葉 優子、荒木 厚	
2021.05.21	第64回糖尿病学会
「Fatty Liver Index (FLI) が糖尿病発症に与える影響」 高橋かおる、安田 敏成、出口 忠男、水守 智仁、長森 茂樹、小林 昌幸、尾崎 由香、青山 香、 山内 花、吉岡 千晶、山村 恭子、 <u>菅沼 彰子</u> 、 <u>坂根 直樹</u>	
2021.05.21	第64回糖尿病学会
「アログリプチンとメトホルミン配合錠の朝1回とタ1回服薬の比較 (AMPM study) オープンラベル、ランダム化、 クロスオーバー試験」 <u>荏原 太</u> 、 <u>同道 正行</u> 、 <u>菅沼 彰子</u> 、 <u>坂根 直樹</u>	
2021.05.22	第64回糖尿病学会
「糖尿病力を向上させる多職種参加のワークショップが糖尿病ワーク・エンゲイジメントに与える影響」 <u>坂根 靖子</u> 、 <u>中川 康司</u> 、 <u>松井 浩</u> 、 <u>菅沼 彰子</u> 、 <u>坂根 直樹</u>	
2021.05.22	第64回日本糖尿病学会年次学術集会
「ディベート2 高度肥満症例 内科的治療 vs 外科的治療 (公募企画4) コメントーター：内科学的治療の立場から」 <u>浅原 哲子</u>	
2021.05.22	第64回日本糖尿病学会年次学術集会
「COVID-19パンデミック下の 遠隔インスリンポンプ指導・遠隔栄養指導」 <u>村田 敬</u> 、 <u>大谷 弥里</u>	
2021.05.22	第68回北海道薬学大会
「シンポジウム 信頼できる医療情報を薬局から地域へ：京大SPH 薬局COVID-19対策プロジェクト」 <u>岡田 浩</u>	
2021.05.22	第12回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
「オンライン版「糖尿病劇場」 in PC 連合学会 ～多職種連携物語編～」 <u>岡崎研太郎</u> 、 <u>三澤 美和</u> 、 <u>岡田 浩</u> 、 <u>國枝 加誉</u> 、 <u>中山 法子</u>	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.06.01-07.31 「コロナ禍における肥満解消実践プログラム 前編「行動変容のポイント」 後編「3ヵ月プログラムの実際」 佐野 喜子	オンデマンド研修会 (社) 日本肥満症予防協会
2021.06.03 「肥満症・糖尿病における脳心腎合併症予防のための新規予知指標と治療戦略」 浅原 哲子	肥満症・糖尿病研究会
2021.06.11-07.04 「独居高齢者における難聴傾向と会話のない日数との関連」 幸田 朋也、 <u>藤原 真治</u> 、中野 真代、 <u>同道 正行</u> 、後藤 崇晴、市川 哲雄、白山 靖彦、 <u>小谷 和彦</u> 、 <u>坂根 直樹</u>	第63回日本老年医学会学術集会
2021.06.18 「Diabetic foot in western Pacific Region (Invited Lecture)」 <u>Shigeo kono</u>	Phillippine Wound Care Society
2021.06.25 「糖尿病・肥満症における認知症関連バイオマーカー：TREM2の臨床的意義」 浅原 哲子	第21回日本抗加齢医学会総会
2021.06.26 「個人を対象とした栄養指導における行動変容」 佐野 喜子	青森県栄養士会 (特別講演)
2021.06.27 「食生活に関する保健指導」 <u>河口八重子</u>	特定保健指導実践者育成研修会
2021.07.02-18 「当院のBRACAnalysisにおける認定遺伝カウンセラーの関わり方について デジタルポスター」 小西 陽介、鈴木 直宏、江本 郁子、安彦 郁、北 誠、橋本有紀子、難波 多挙、林 琢磨、 <u>日下部 徹</u> 、三宅 秀彦、 <u>浅原 哲子</u> 、八十田明宏	第45回日本遺伝カウンセリング学会学術集会
2021.07.03 「生き生き人生笑顔サポート～骨粗鬆症・サルコペニアへの対策」 <u>日下部 徹</u>	高齢者トータルケアWEB講演会～寝たきり防止を見据えて健康寿命延伸～
2021.07.03 「対象者に合わせた保健指導面接について」 佐野 喜子	(公財) 山口県健康福祉財団
2021.07.04 「緊急事態リスクコミュニケーション：COVID-19感染拡大下での薬局への情報提供」 <u>岡田 浩</u>	第89回和歌山医学会総会
2021.07.05 「燃える脂肪組織 - 褐色脂肪組織 - を活性化して体脂肪を減らすには？」 <u>二連木晋輔</u>	第15回摂南大学農学セミナー
2021.07.17 「夜間頻尿における薬物療法の実際～難治性過活動膀胱にどう対応するか～」 伊東 晴喜	第25回藤ノ森カンファランス
2021.07.17 「レシピ本による肥満症治療」 <u>浅原 哲子</u>	第28回西日本肥満研究会 第8回肥満症治療講習会
2021.07.17 「教育講演3 COVID-19下での薬局薬剤師の果たす役割」 <u>岡田 浩</u>	第14回日本在宅薬学会学術大会

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.08.01 「食生活に関する保健指導」 河口八重子	特定保健指導実践者育成研修会
2021.08.01-09.15 「個々の生活習慣に関して指導できる能力の育成」 佐野 喜子	日本栄養士会
2021.08.03-10 「行動変容につながる保健指導の実際 (演習含)」 佐野 喜子	(公財) 山口県健康福祉財団
2021.08.10-20 「行動変容に繋がる保健指導」 佐野 喜子	宮城県 (保健福祉部)
2021.08.16 「行動変容につながる保健指導 説明力・質問力をスキルアップし指導力を高める」 佐野 喜子	東京都 (福祉保健局)
2021.09.11 「新たな肥満評価指標 ABSI は脳心血管病リスク因子重積と骨格筋指標低下を反映する」 池上健太郎、日下部 徹、村中 和哉、赤松 裕訓、山陰 一、井上 隆之、石井好二郎、浅原 哲子	第40回日本臨床運動療法学会学術集会
2021.09.11 「大学生における時計遺伝子 CLOCK3111T/C多型は、週末のみ時間別身体活動レベルと関係する」 宮崎 亮、安藤 仁、綾部 誠也、瀧崎 朋子、樋口 行人、大下 和茂、坂根 直樹	第40回日本臨床運動療法学会学術集会
2021.09.12 「高齢者の歩容動態を歩行意図から二歩で推測する横断的研究」 山内 賢、荻田 亮、市河 勉、松井 浩、辻 和哉、吉田 弘法	第29回日本健康教育学会学術大会
2021.09.17 「『国民健康・栄養調査結果のポイント』と『効果的な実態調査を考える』」 佐野 喜子	神奈川県
2021.09.20 「特別講演3 薬局を地域のソーシャル・キャピタルに：京都大学 SPH 薬局情報グループの活動から」 岡田 浩	第54回日本薬剤師会学術大会
2021.09.25 「褐色脂肪細胞由来12,13-diHOMEは高齢マウスの心筋機能低下を抑制する」 二連木晋輔、クリスティンスタンフォード	第27回 医用近赤研究会
2021.10.01 「Effect of intermittent-scanning CGM to glycaemic control including hypoglycaemia and quality of life of patients with type 1 diabetes (ISCHIA study)」 T. Murata, N. Sakane, A. Kuroda, J. Miura, Y. Hirota, K. Kato, M. Toyoda, R. Kouyama, K. Kouyama, A. Shimada, S. Kawashima, Y. Matoba, K. Nishimura, K. Hosoda, The ISCHIA study group	EASD, online, 2021
2021.10.09 「シンポジウム26 インフォデミックを許すな！ COVID-19下で問われる薬剤師の役割」 岡田 浩、鈴木 達彦、森 和明、西川 佳孝、鈴木 渉太	第31回日本医療薬学会年会
2021.10.10 「シンポジウム53 薬剤師の覚悟が問われる？ 薬局での緊急避妊薬販売」 岡田 浩、西村亜佐子、池田裕美枝、鈴木 達彦	第31回日本医療薬学会年会
2021.10.15 「成果につなげる栄養指導Ⅱ」 佐野 喜子	北海道栄養士会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.10.21 「糖尿病における脳心腎合併症の治療戦略～女性糖尿病医としてのキャリアデザイン～」 浅原 哲子	糖尿病内科医のキャリアパスを考える
2021.10.24 「心血管疾患予防のための包括的リスク管理～脂質の質を考える～」 浅原 哲子	第53回日本動脈硬化学会総会・学術集会
2021.10.25 「Pathological Significance of Monocyte/Macrophage/Microglia Phenotypes in Metabolic Syndrome and Cerebrocardiovascular Complications.」 Satoh-Asahara N	The 19th International Symposium on Atherosclerosis
2021.10.25 「医師から見た国内の臨床現場で求められるDTxとは」 坂根 直樹	第18回DIA日本年会2021
2021.10.30 「シンポジウム With コロナ時代の糖尿病チーム医療 薬局でのCOVID-19対策 (薬局)」 岡田 浩	第58回日本糖尿病学会近畿地方会
2021.11.06 「系統的教育を伴う間歇スキャンCGM使用による低血糖時間の減少：クロスオーバー多施設ランダム化比較研究」 ISCHIA研究グループ	第20回日本先進糖尿病治療研究会・第18回1型糖尿病研究会
2021.11.06-07 「高齢者において生体電気インピーダンス法から得られるPhase Angleはサルコペニア評価指標、オーラルフレイルと関連する」 日下部 徹、赤松 裕訓、池上健太郎、村中 和哉、山陰 一、井上 隆之、八十田明宏、石井好二郎、浅原 哲子	第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会
2021.11.13 「日常生活でわかる『太る人・痩せる人』の違い」 浅原 哲子	世界一受けたい授業
2021.11.18 「性格タイプ別の運動支援」 松井 浩	T2DM Forum in TSU
2021.11.18-20 「初回指摘の橋本病による粘液水腫性昏睡疑い例の一例」 北村 拓也、濱中 佳歩 (廣嶋)、石原 裕己、中谷理恵子、難波 多挙、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、田上 哲也	第64回日本甲状腺学会
2021.11.18-20 「 ¹³¹ I内用療法治療後の甲状腺中毒症によりワルファリンによる凝固能が過度に延長したバセドウ病の一例」 石原 裕己、難波 多挙、北村 拓也、中谷理恵子、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、井内 盛遠、田上 哲也	第64回日本甲状腺学会
2021.11.19 「肥満症の内科的治療の最前線ーチーム医療と精密医療の融合を目指してー」 浅原 哲子	第59回日本糖尿病学会九州地方会
2021.11.26-27 「集学的治療によりコントロールを行ったGH産生下垂体腫瘍の一例」 難波 多挙、北村 拓也、濱中 佳歩 (廣嶋)、石原 裕己、中谷理恵子、立木 美香、青木 友和、荒木 則雄、森吉 弘毅、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、井下 尚子、島津 章、田上 哲也	第31回臨床内分泌代謝Update
2021.11.26-27 「高齢バセドウ病患者にアイソトープ治療を安全に施行できた一例」 野村 拓未、石原 裕己、濱中 佳歩 (廣嶋)、難波 多挙、中谷理恵子、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、田上 哲也	第31回臨床内分泌代謝Update

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.12.04-05	第6回日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会
「心血管疾患リスク合併を予測するサルコペニア肥満の診断方法に関する検討」 池上健太郎、日下部 徹、村中 和哉、赤松 裕訓、山陰 一、井上 隆之、石井好二郎、浅原 哲子	
2021.12.06	神奈川県
「糖尿病重症化予防事業展開・データ分析のポイント」 佐野 喜子	
2021.12.07	International Diabetes Federation virtual Congress 2021
「Global overview of the diabetic foot : Western Pacific Region (Invited Lecture)」 Shigeo kono	
2021.12.10	オンライン講演 キューサイ
「五感で楽しむ料理を体験できる「ケールde大人のサペレ講座」」 河口八重子、染井順一郎	
2022.01.18	第15回Seminar for Empowerment Team in Kobe
「肥満症と肥満合併症の効果的な治療戦略—チーム医療と精密医療の融合を目指して—」 浅原 哲子	
2022.01.21	京都市左京区保育士会研修会
「五感が育つ子どもの食育 ～食の体験学習サペレメソッド～」 河口八重子、染井順一郎	
2022.01.22	世界一受けたい授業
「日常生活でわかる『太る人・痩せる人』の違い 第2弾」 浅原 哲子	
2022.01.22	第43回京都甲状腺研究会
「甲状腺眼症の一表現型として眼窩内腫瘍—Connective tissue with mild lymphoplasmacytic infiltration—を形成した症例」 中谷理恵子、北村 拓也、石原 裕己、廣嶋 佳歩、難波 多挙、立木 美香、田上 哲也、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、高橋 洸、藤本 雅大	
2022.01.23	日本肥満学会 スキルアップセミナー
「コロナ禍で改めて学ぶ系統的知識とスキル」[Q & A] 佐野 喜子	
2022.01.28-30	第24回・第25回日本病態栄養学会年次学術集会
「肥満外来における減量指導前後の体重変化と臨床検査値および出生体重の関係」 田中美賀子、小谷 清子、栗屋 美絵、辻 雅弘、山陰 一、浅原 哲子	
2022.02.03	Meet The Expert—糖尿病性腎臓病を考える—
「糖尿病性腎臓病におけるサルコペニア」 日下部 徹	
2022.02.10	令和時代の糖尿病治療UPDATE
「糖尿病性腎症重症化予防プログラム実現のための食事療法を考える」 佐野 喜子	
2022.02.19	第15回日本性差医学・医療学会学術集会
「肥満症の心血管リスクとしての高尿酸血症と性差—国立病院機構多施設肥満症コホート研究—」 浅原 哲子、若林 大、山陰 一、笠原 正登	
2022.02.27	第5回奈良県立医科大学付属病院臨床研究県民公開講座
「コロナに負けない！メタボ解消術」 浅原 哲子	
2022.03.20-04.30	(社) 日本肥満症予防協会
「特定保健用食品(トクホ)の理解を深める」「トクホを用いた指導の実際」 佐野 喜子	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.03.26-27	第42回日本肥満学会 & 第39回日本肥満症治療学会学術集会
「Phase Angle を用いた筋質評価と若年者を対象とした体格に関する実態調査」 日下部 徹	
2022.03.29	京滋骨粗鬆症リエゾンサービスサミット
「骨と筋肉を強くし、健康長寿を目指す-骨粗鬆症・サルコペニアに対する当院の取り組み」 日下部 徹	
2022.06.11	第3回日本メディカルAI学会
「自動化水準と利用状況に応じた医療AIのクラス分類の必要性と試案」 村田 敬、小林 司、丸山 貴史、豊田 雅夫、廣田 勇士	
2022.10.23-11.20	第75回国立病院総合医学会
「NHO京都医療センターにおける早期栄養介入管理加算に関する取り組み」 森岡 宏介、平野 和保、別府 賢、寺嶋真理子、水津 悠、村田 敬	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
総説 《治療》肥満とやせの治療とその着目点 1. 食事療法の新たなエビデンス Medical Practice, 38, 7, 1067-1074, 2021.07.01, 文光堂 <u>浅原 哲子</u>
総説 TREM2 老年内科, 3, 6, 739-748, 2021.06, 科学評論社 <u>浅原 哲子</u> 、田中 将志、山陰 一、井上 隆之
総説 肥満症 医学のあゆみ, 278, 5, 347-353, 2021.07.31, 医歯薬出版株式会社 <u>浅原 哲子</u>
原著論文 不十分な遺伝カウンセリングの元で実施された無侵襲的出生前遺伝学的検査にて胎児性別を誤判定された妊婦の遺伝カウンセリング-未発症皮膚筋炎が検査に影響した可能性- 日本遺伝カウンセリング学会誌, 42, 1, 153~157, 2021.05.20 橋本有紀子、飛驒 美希、小西 陽介、 <u>浅原 哲子</u> 、三宅 秀彦
総説 筋肉関係 (ミオスタチン) 腎と透析, 91, 4, 541-546, 2021.10.29, 東京医学社 <u>浅原 哲子</u> 、山陰 一、井上 隆之、田中 将志
総説 脳-腸-筋連関による認知症・サルコペニア進展機序の解明を目指して 循環器内科, 90, 3, 347-353, 2021.09, 科学評論社 田中 将志、山陰 一、 <u>浅原 哲子</u>
原著論文 2・3歳児へのサペレメソッドを使った食体験プログラムによる苦手野菜数減少効果 チャイルドヘルス, 24, 8, 622-627, 2021.08, 株式会社 診断と治療社 <u>染井 順一郎</u> 、河川 八重子、坂根 直樹
原著論文 血液透析患者における栄養状態がQOLに及ぼす影響 日本病態栄養学会誌, 25, 1号, 11~17, 2022.03.01, 日本病態栄養学会 木村美枝子、今田 直樹、立山 一美、山川 京子、野間 啓太、守時 祐輔、池田 (林) 香里、今井 文恵、 <u>菅沼 彰子</u> 、坂根 直樹

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

一般

はじめてのカーボカウント4版(3編、資料)「Q4カーボカウントは難しいの」「Q101日にどれくらいの炭水化物をとればいいのか」「Q41高齢糖尿病にもカーボカウントは使えるの?」
坂根直樹(編著)、佐野喜子(編著), 2022.03.16, in press, 中外医学者
坂根 直樹、佐野 喜子、村田 敬、山内 恵子、河口八重子、他40名

解説

新型コロナウイルス感染症の感染拡大で血糖コントロールがわるくなる人、良くなる人 コロナ禍の過ごし方
さかえ, 61, 4, 38-42, 2021.04, 日本糖尿病協会
坂根 直樹

原著論文

日本人版ボディイメージ質問紙開発と信頼性、妥当性の検討
肥満研究, 27, 3, 140-148, 2021.12, 日本肥満学会
湯面 百希奈、高山 祐美、鈴木 新、和田 有史、坂根 直樹、永井 成美

総説

特集:カーボカウントー炭水化物に注目した食事療法
週刊日本医事新報, 5058, 18~32, 2021.04.03
村田 敬

解説

良質な血糖コントロールとはー持続血糖測定器(CGM)からわかってきたことー
カレントセラピー, 39, 5, 46~553, 2021.05.01
村田 敬

原著論文

郊外の公営団地および駅前の住宅地に在住する高齢女性の身体活動量および体力の比較
流通科学大学論集ー人間・社会・自然編ー, 34, 2, 2022.03.01
大島 秀武、関和 俊、北村 裕美

総説

高温環境下でのインスリン製剤の保管に関する提案
くすりと糖尿病, 10, Suppl., 118-119, 2021.06.01
朝倉 俊成

その他

食欲不振・体重減少
エビデンスに基づく消化器看護ケア関連図, 総ページ数352, 2022, 中央法規
吉治 仁志、西田 直子=監修/松浦 純平=編集
森崎 直子、片山 知美

原著論文

地域在住高齢女性におけるフレイルと栄養素・食品摂取及び買物状況の関連
日本サルコペニア・フレイル学会誌, 5, 154~162, 2021.06.30, メディカルレビュー社
鎌田智英実、奥村 亮太、三木 章江、藤原 真治、吉村 幸雄

総説

適正なインスリン注射製剤使用の継続的薬学管理のてびき
くすりと糖尿病, 10, Suppl., 86-96, 2021.06.01
朝倉 俊成、岡田 浩、廣田 有紀、和田 幹子

解説

糖尿病治療用注射製剤に関わる「補助具」の適正使用のための留意点
くすりと糖尿病, 10, Suppl., 115-117, 2021.06.01
朝倉 俊成、小林 庸子、篠原久仁子、中野 玲子、武藤 達也

総説

糖尿病治療用注射製剤の自己注射や血糖自己測定用アルコール消毒綿不足時の対処について(例示)
くすりと糖尿病, 10, Suppl., 120-122, 2021.06.01
朝倉 俊成、中野 玲子、武藤 達也

原著論文

薬局を対象としたCOVID-19感染対策サイトの広報効果 ページ閲覧数による解析
医薬品情報学, 23, 3, 143-147, 2021.11
森 和明、岡田 浩、鈴木 渉太、山下 恵、松澤 京子、五十嵐恵美子

その他

意思決定をする人・その支援をするすべての人に向けた参考書 人生を自分らしく生き抜くための意思決定 -ACP・QOL・QOD・人生デザインシミュレーション
意思決定をする人・その支援をするすべての人に向けた参考書 人生を自分らしく生き抜くための意思決定 -ACP・QOL・QOD・人生デザインシミュレーション, 総ページ数232, 2021, 金芳堂
森岡 広美、阿部 幸恵、片山 知美、古谷 昭雄

一般

急性高血糖 (救急診療で血糖値が1,000 mg/dL で必要な検査).
臨床検査, 65, 4, 362-363, 2021.04.04, 医学書院
才津 旭弘, 小谷 和彦

その他

五感が育つ子どもの食育 食の体験学習サブレメソッド
五感が育つ子どもの食育 食の体験学習サブレメソッド, 2021.10.01, 保育社
染井順一郎、河口八重子

総説

インスリン製剤の適正な継続的薬学管理に必要な視点と行動例
くすりと糖尿病, 10, Suppl., 97-114, 2021.06.01
朝倉 俊成、岡田 浩、廣田 有紀、和田 幹子

原著論文

スクエアステップ運動における笑顔の回数と程度
健康支援, 23, 2, 169-176, 2021.08.01
大島 秀武、村松 礼貴、重松 良祐

原著論文

Short-term Changes in Self-rating Depression Scale Scores after Smoking Cessation in Neurotic Patients.
Internal Medicine, 60, 8, 1175-1181, 2021.04
Komiyama M, Ozaki Y, Miyazaki Y, Yasoda A, Wada H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Morimoto T,
Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K.

原著論文

Association of Protein Tyrosine Phosphatase 1B (PTPN1) Gene Polymorphism with the Effects of Weight Reduction Therapy on Body Weight and Glycolipid Profiles in Obese Patients.
Journal of Diabetes Investigation, 12, 8, 1462-1470, 2021.08
Yamakage H, Konishi Y, Muranaka K, Hotta K, Yoshihiro Y, Morisaki H, Morisaki T, Satoh-Asahara N.

原著論文

Protocol for a Randomized, Crossover Trial to Decrease Time in Hypoglycemia by Combined Intervention of the Usage of Intermittent-Scanning Continuous Glucose Monitoring Device and the Structured Education Regarding its Usage : Effect of Intermittent-Scanning Continuous Glucose Monitoring to Glycemic Control Including Hypoglycemia and Quality of Life of Patients with Type 1 Diabetes Mellitus Study (ISCHIA Study).
The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine, 46, 2, 59-68, 2021.07
Suzuki S, Tone A, Murata T, Nishimura K, Miyamoto Y, Sakane N, Satoh-Asahara N, Toyoda M,
Hirota Y, Matsuhisa M, Kuroda A, Kato K, Kouyama R, Miura J, Suganuma A, Tomita T, Noguchi M,
Son C, Kasahara M, Ito Y, Kasama S, Hosoda K, on behalf of the ISCHIA study group.

原著論文

The Multi-Domain Intervention Trial in Older Adults With Diabetes Mellitus for Prevention of Dementia in Japan : Study Protocol for a Multi-Center, Randomized, 18-Month Controlled Trial.
Frontiers in Aging Neuroscience, 13, 680341, 2021.07
Sugimoto T, Araki A, Fujita H, Honda K, Inagaki N, Ishida T, Kato J, Kishi M, Kobayashi K, Kouyama K,
Noma H, Ohishi M, Satoh-Asahara N, Shimada H, Sugimoto K, Suzuki S, Takeya Y, Tamura Y,
Tokuda H, Umegaki H, Watada H, Yamada Y, Sakurai T.

原著論文

Predictive value of the cardio-ankle vascular index for cardiovascular events in patients at cardiovascular risk.
Journal of the American Heart Association, 10, 16, e020103, 2021.08
Miyoshi T, Ito H, Shirai K, Horinaka S, Hgaki J, Yamamura S, Saiki A, Takahashi M, Masaki M, Okura T,
Kotani K, Kubozono T, Yoshioka R, Kihara H, Hasegawa K, Satoh-Asahara N, Orimo H,
On behalf of the CAVI-J investigators.

原著論文

Newly Developed Highly Bioavailable Curcumin Formulation, curcuRouge™, Deduces Neutrophil/Lymphocyte Ratio in the Elderly : A Double-Blind, Placebo-Controlled Clinical Trial.
Journal of Nutritional Science and Vitaminology, 67, 4, 249-252, 2021
Kishimoto A, Imazumi A, Wada H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Hashimoto T, Hasegawa K.

原著論文

Effect of theaflavin on oral bacteria in Japanese subjects : A randomized, placebo-controlled, double-blind study.
Journal of Medicinal Food, 24, 11, 1186-1190, 2021.11
Katanasaka Y, Yoshida N, Naitou H, Naruta R, Miyazaki Y, Sunagawa Y, Funamoto M, Shimizu K, Shimizu S, Sari N, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Hasegawa K, Morimoto T.

原著論文

Visceral-to-subcutaneous fat ratio is a possible prognostic factor for type 1 endometrial cancer.
International Journal of Clinical Oncology, 27, 2, 434-440, 2022.02
Wada M, Yamaguchi K, Yamakage H, Inoue T, Kusakabe T, Abiko K, Takakura K, Konishi I, Satoh-Asahara N.

原著論文

Prediction of long-term biochemical cure in patients with unilateral primary hyperaldosteronism treated surgically based on the early post-operative plasma aldosterone value.
Endocrine Journal, Online ahead of print
Ishihara Y, Umakoshi H, Kaneko H, Nanba K, Tsuiki M, Kusakabe T, Satoh-Asahara N, Yasoda A, Tagami T.

原著論文

Phase angle from bioelectrical impedance analysis is a useful indicator of muscle quality.
Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle, 13, 1, 180-189, 2022.02
Akamatsu Y, Kusakabe T, Arai H, Yamamoto Y, Nakao K, Ikeue K, Ishihara Y, Tagami T, Yasoda A, Ishii K, Satoh-Asahara N.

原著論文

Gingival bleeding and pocket depth among smokers and the related changes after short-term smoking cessation.
Acta Odontologica Scandinavica, Online ahead of print
Mittal S, Komiyama M, Ozaki Y, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Yasoda A, Wada H, Funamoto M, Shimizu K, Miyazaki Y, Katanasaka Y, Sunagawa Y, Morimoto T, Takahashi Y, Nakayama T, Hasegawa K.

原著論文

Impact of Chronic Kidney Disease on the Associations of Cardiovascular Biomarkers with Adverse Outcomes in Patients with Suspected or Known Coronary Artery Disease : The EXCEED-J Study.
Journal of the American Heart Association, 11, 3, e023464, 2022.02
Wada H, Shinozaki T, Suzuki M, Sakagami S, Ajiro Y, Funada J, Matsuda M, Shimizu M, Takenaka T, Morita Y, Yonezawa K, Matsubara H, Ono Y, Nakamura T, Fujimoto K, Ninomiya A, Kato T, Unoki T, Takagi D, Wada K, Wada M, Iguchi M, Yamakage H, Kusakabe T, Yasoda A, Shimatsu A, Kotani K, Satoh-Asahara N, Abe M, Akao M, Hasegawa K.

原著論文

Association of daily sleep duration with the incident dementia by serum soluble TREM2 in a community.
Journal of the American Geriatrics Society, Online ahead of print
Ohara T, Hata J, Tanaka M, Honda T, Yamakage H, Inoue T, Hirakawa Y, Kusakabe T, Shibata M, Kitazono T, Nakao T, Satoh-Asahara N, Ninomiya T.

原著論文

Practice guideline for lipodystrophy syndromes. clinically important diseases of the Japan Endocrine Society (JES)
Endocr J, 68, 9, 1027-1042, 2021.09
Tomohiro Tanaka*, Toru Kusakabe*, Ken Ebihara, Megumi Aizawa-Abe, Daisuke Aotani, Tohru Yorifuji, Mari Satoh, Yoshihiro Ogawa and Kazuwa Nakao* (*, equally contribued)

原著論文

Impaired leptin responsiveness in the nucleus accumbens of leptin-overexpressing transgenic mice with dysregulated sucrose and lipid preference independent of obesity.
Neurosci Res, Online ahead of print, 2021.12
Nomura H, Son C, Aotani D, Shimizu Y, Katsuura G, Noguchi M, Kusakabe T, Tanaka T, Miyazawa T, Hosoda K, Nakao K.

(原著論文以外)

The Hepcidin-25/Ferritin Ratio Is Increased in University Rugby Players with Lower Fat Mass.
Nutrients, 13, 9, 2993, 2021.08
Shinsuke Nirengi, Mami Fujibayashi, Sachiko Furuno, Shin Sukino, Akiko Sukanuma, Yaeko Kawaguchi,
Yasuharu Kawase, Kazuhiko Kotani, Naoki Sakane

(原著論文)

LDL-cholesterol and PCSK9 in patients with familial hypercholesterolemia : influence of PCSK9 variants
under lipid-lowering therapy
J Clin Lab Anal, 35, 11, 2021.11
Masato Hamasaki, Naoki Sakane, Kazuo Hara, Kazuhiko Kotani

(原著論文以外)

Similarity and differences in small dense low-density lipoprotein assessment : two methods compared
Arch Med Sci Atheroscler Dis, 2021, 109257, 2021.09
Kazuhiko Kotani, Naoki Sakane, Alejandro Gugliucci

(原著論文)

Preparation, Confidence, and Attitude to Sell Emergency Contraceptive Pills at Pharmacies:A Web Survey
of Japanese Community Pharmacists
Yakugaku zasshi, 141, 11, 1275-1279, 2021.11
Hiroshi Okada, Shota Suzuki, Asako Nishimura, Yumie Ikeda, Keiko Abe, Takeo Nakayama

(原著論文)

A Pragmatic Pilot Cluster-Randomized Study of Tobacco Screening and Smoking Cessation Program for
Community Pharmacies in Japan : FINE Program
Journal of Smoking Cessation, 2021, 9983515, 8, 2021.11
Mitsuko Onda, Michiko Horiguchi, Masayuki Domichi, Naoki Sakane

(原著論文)

Knowledge and Self-efficacy Among Healthcare Providers towards Novel Tobacco Products in Japan
Preventive Medicine Reports, 24, eCollection, 2021.11
Swati Mittal, Tomoe Uchida, Yoshitaka Nishikawa, Hiroshi Okada, Robert A. Schnoll,
Yoshimitsu Takahashi, Takeo Nakayama, Yuko Takahashi

(原著論文)

The CLOCK 3111T/C polymorphism is associated with hour-by-hour physical activity levels only on
weekends among Japanese male and female university students
Physiol Behav, 247, 2022.01
Ryo Miyazaki, Hitoshi Ando, Makoto Ayabe, Tomoko Hamasaki, Yukito Higuchi, Kazushige Oshita,
Naoki Sakane

(原著論文)

Association of serum fibroblast growth factor 21 with diabetic complications and insulin dose in patients
with type 1 diabetes mellitus
PlosOne, In press, 2022
Hirokazu Taniguchi, Shinsuke Nirengi, Kengo Ishihara, Sayori Wada, Higashi Akane, Naoki Sakane

(原著論文以外)

Precautions for Proper Use of Accessory Aid Devices for Administering Injections for Diabetes Treatment
Japanese Journal of Pharmaceutical and Diabetes, 10, suppl., 169-182, 2021.06
Toshinari Asakura

(原著論文)

Effects of Aloe sterol supplementation on postprandial blood glucose elevation after OGTT in healthy
subjects - A 12-week randomized double-blind placebo-controlled parallel-group trial -
薬理と治療, 49, 7, 1139-1147, 2021.07
Misawa Eriko, Ochi Daisuke, Nomaguchi Koji, Saito Marie, Nabeshima Kazumi, Tanaka Miyuki,
Kakiuchi Izumi, Kiyosawa Kyoko, Miyasaka Mitsunaga, Nakamura Masahiko, Sakane Naoki

(原著論文)

Comparison of Metformin and Alogliptin Fixed-Dose Tablets Once a Morning Versus Once an Evening
Using Continuous Glucose Monitoring (AMP Study) : An Open-Label Randomized Cross-Over Trial
Journal of Endocrinology and Metabolism, 11, 1, 8-13, 2021
Futoshi Ebara, Masayuki Domichi, Akiko Sukanuma, Naoki Sakane

原著論文

Validation of questionnaire for assessing perceived benefits and barriers of vegetable consumption in Japanese adults.

Malaysian Journal of Nutrition

Yaeko Kawaguchi, Junichi Somei Junichi, Chikana Kawaguchi, Akiko Suganuma, Naoki Sakane

原著論文

Developing and testing a set of quality indicators for pharmacist home visit services : A mixed methods study in Japan.

British journal of clinical pharmacology, 87, 4, 1940-1952, 2021.04

Kenji Fujita, Kazuki Kushida, Hiroshi Okada, Rebekah J Moles, Timothy F Chen

原著論文

Assessment of the accuracy of an intermittent-scanning continuous glucose monitoring device in patients with type 2 diabetes mellitus undergoing hemodialysis (AIDT2H) study

Ther Apher Dial, 25, 5, 586-594, 2021.10

Masao Toyoda, Takashi Murata, Nobumichi Saito, Moritsugu Kimura, Hiroo Takahashi, Naoto Ishida, Makoto Kitamura, Miho Hida, Akinori Hayashi, Ibuki Moriguchi, Naoyuki Kobayashi, Daisuke Tsuriya, Yukihiro Sakao, Takaya Matsushita, Yukie Ito, Shota Suzuki, Shu Kasama, Masato Kasahara, Tadashi Yamakawa, Katsuhito Mori, Akio Kuroda, Junnosuke Miura, Yushi Hirota, Masanori Abe, Masafumi Fukagawa, Naoki Sakane, Kiminori Hosoda

原著論文

Lower bone mineral density and higher bone resorption marker levels in premenopausal women with type 1 diabetes in Japan

J Diabetes Investig, 11, 9, 1689-1696, 2021.09

Fumi Yoshioka, Shinsuke Nirengi, Takashi Murata, Yaeko Kawaguchi, Tomokazu Watanabe, Kunio Saeki, Muneto Yoshioka, Naoki Sakane

原著論文

Impact of telephone support programme using telemonitoring on stage of change towards healthy eating and active exercise in people with prediabetes

Randomized Controlled Trial, 25, 6, 307-313, 2021.06

Naoki Sakane, Yoshitake Oshima, Kazuhiko Kotani, Akiko Suganuma, Kaoru Takahashi, Juichi Sato, Sadao Suzuki, Kazuo Izumi, Masayuki Kato, Mitsuhiro Noda, Hideshi Kuzuya

原著論文

Oral dryness and moisture degree at the lingual but not buccal mucosa predict prognosis in end-of-life cancer patients

Support Care Cancer, 11, 29, 6289-6296, 2021.04

Maiko Shimosato, Naoki Sakane

原著論文

Real-world implementation of diabetes management by pharmacists : The RXING Practice Tool

Canadian Pharmacists Journal, 154, 3, 160-165, 2021.04

Yazid N Al Hamarneh, Hiroshi Okada, Ross T Tsuyuki

原著論文

Comparisons Between Serum Levels of Hepcidin and Leptin in Male College-Level Endurance Runners and Sprinters

Frontiers in Nutrition, 31, 5, 6, 2021.05

Shinsuke Nirengi, Hirokazu Taniguchi, Aya Ishibashi, Mami Fujibayashi, Nao Akiyama, Kazuhiko Kotani, Kengo Ishihara, Naoki Sakane

原著論文

Diurnal variations of brown fat thermogenesis and fat oxidation in humans

International Journal of Obesity, 45, 11, 2499-2505, 2021.08

Masayuki Saito, Mami Matsushita, Shinsuke Nirengi, Masanobu Hibi, Hitoshi Wakabayashi, sang-il Lee, Masayuki Domichi, Naoki Sakane

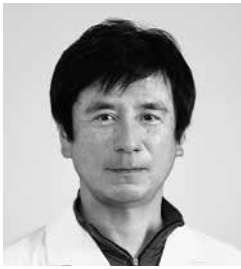
原著論文

Did "kayoinoba" prevent the decline of mental and physical functions and frailty for the home-based elderly during the COVID-19 pandemic?

Int J Environ Res Public Health, 18, 18, 9502, 2021.09

Mio Kitamura, Takaharu Goto, Shinji Fujiwara, Yasuhiko Shirayama

腎臓内科



診療科長
地域医療部長
瀬田 公一

専門医資格等

日本腎臓学会
専門医・指導医
日本透析医学会
専門医・指導医
日本高血圧学会
専門医・指導医
日本内科学会
総合内科専門医・
JMECCインストラクター

日本集中治療医学会
専門医
日本救急医学会
ICLSインストラクター
ICD制度協議会
認定インフェクション
コントロールドクター

京都大学医学博士
京都大学臨床教授
奈良県立医科大学非常勤講師
日本内科学会近畿支部評議員
京都府医師会
勤務医部会幹事
伏見医師会 理事
京都透析医会 理事

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師 教育研修 副部長	小泉 三輝	日本腎臓学会 専門医・指導医 日本透析医学会 専門医・指導医 日本集中治療医学会 専門医 日本内科学会 総合内科専門医・ JMECCインストラクター 日本急性血液浄化学会 認定指導者	腎臓内科	透析、 急性血液浄化
医師	高折 光司	日本腎臓学会 専門医・指導医・評議員 日本透析医学会 専門医・指導医 日本内科学会 総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定医・指導医 京都大学医学博士	腎臓内科	透析、 急性血液浄化
医師	平井 大輔	日本内科学会 認定内科医	腎臓内科	透析
医師	河合悠里子		腎臓内科	透析

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本透析医学会認定施設
- ・日本急性血液浄化学会認定指定施設

クリティカルパスは3つ活用している。

- ・CKD教育入院パス 7日間
- ・腎生検パス 7日間
- ・トルバプタン導入入院パス 2日間

以下のように、ADPKD診療、教育入院、腎生検が多いのが特徴である。

- ・トルバプタン導入 10件
- ・ADPKD紹介数 11件
- ・教育入院 62件
- ・腎生検 58件

連携パスを新規に86件導入し、地域との連携を大切にしている。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度
入院患者数/日(名)	10.3
平均在院日数(日)	9.8
外来患者数/日(名)	25.3
紹介患者数(地域連携)(名)	156
腎生検数(名)	58

透析件数

	2021年度
血液浄化療法件数(延べ人数)	2400
血液透析導入患者数(人)	59
腹膜透析導入患者数(人)	1
腹膜透析患者数(人)	20
内、ハイブリッド患者数(人)	5
在宅血液透析患者数(人)	4

腎生検診断一覧 (2021年度)

IgA腎症	13例	膜性腎症+糖尿病性腎症	1例
微小変化型ネフローゼ症候群	8例	膜性腎症+FSGS	1例
糖尿病性腎症	6例	TMA	1例
良性腎硬化症	6例	TMA+間質性腎炎	1例
間質性腎炎	4例	菲薄基底膜病	1例
膜性腎症	3例	light chain proximal tubulopathy	1例
悪性腎硬化症	3例	腎硬化症+IgA腎症	1例
ANCA関連血管炎	2例	メサンギウム増殖性腎炎	1例
minor glomerular abnormality	2例	管内増殖性腎炎	1例
コレステロール塞栓症	1例	肉芽腫性間質性腎炎+半月体形成腎炎	1例

合計：58例

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

総説

非ピロリン系解熱鎮痛薬, NSAIDs
腎と透析, 91, 増刊号, 566-69, 2021.08.25, 東京医学社
瀬田 公一

原著論文

Nivolumab-associated glomerular endothelial injury in a patient with gastric cancer.
CEN Case Rep., 10, 4, 576-81, 2021.11
Shim J, Tsuji S, Tochio A, Ueda N, Hirai D, Tsuji S, Shim J, Koizumi M, Seta K, Yahata K.

原著論文

Successful Sodium Level Correction with a 3% Saline Bolus before Intermittent Hemodialysis for a Patient with Severe Hyponatremia Accompanied by Acute Kidney Injury.
Intern Med, 60, 10, 645-49, 2021.08
Kodama M, Hirai D, Tsuji S, Shim J, Koizumi M, Seta K, Yahata K.

原著論文以外

Favipiravir for COVID-19 in a Patient on Hemodialysis.
Am J Kidney Dis, 77, 1, 153-4, 2021.01
Hirai D, Yamashita D, Seta K.

| 教育・啓発活動 |

- ・毎週金曜日 腎臓病教室基礎編
- ・毎週火曜日 腎臓病教室腎代替療法編
- ・伏見CKD医療連携の会 (ハイブリッド開催 伏見医師会館)

2021年4月3日(土)

「病診連携～伏見ができること～」

京都医療センター 腎臓内科 診療科長 瀬田 公一

「慢性腎臓病における合併症対策のポイント～高血圧, 糖尿病, 貧血, 脂質異常症対策について～」

奈良県立医科大学 腎臓内科学 教授 鶴屋 和彦先生

2021年10月30日(土)

「CKD患者における降圧療法と季節に応じた体液コントロールの方法～腎臓内科医の工夫～」

京都医療センター 腎臓内科 小泉 三輝

「臨床医が知っておくべきゲノム関連医療の現状」

公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 ゲノム領域教授

臼井 健先生

腫瘍内科



専門医資格等
日本臨床腫瘍学会
がん薬物療法専門医
日本内科学会 認定内科医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医

専門分野
腫瘍内科学（臨床腫瘍学）

得意疾患
がん薬物療法（化学療法）

診療科長
宇良 敬

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本臨床腫瘍学会研修施設

外科と消化器癌全般の症例について、消化器内科と胃癌、大腸癌症例について外来化学療法を協働している。

多診療科の腫瘍横断的ながん遺伝子パネル検査について当科が中心となりがんゲノム外来を行っている。

| 診療実績 |

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	18	15

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日	発表学会
2022.01.20-22	2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium
[Pathogenic variants of homologous recombination repair-related genes in advanced pancreatic cancer and oxaliplatin- based chemotherapy : prospective multicenter observational study.] Kondo T, Kanai M, Yamaguchi S, Mastubara J, Ura T, Nomura M, Funakoshi T, Yokoyama A, Doi K, Tmaoki M, Kou R, Itani T, Yoshimura M, Uza N, Yamada T, Maui T, Minamigushi S, Matsumoto S, Ishikwa H, Muto M.	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.01.27	第28回伏見薬業連携協議会

「副作用対策」
宇良 敬

2022.02.17-19	第19回日本臨床腫瘍学会学術集会
---------------	------------------

「Homogous recombination repair-related genes in pancreatic cancer and oxliplatin-based chemotherapy: prospective study」

近藤 知大、山口 大介、松原 淳一、宇良 敬、野村 基雄、船越 太郎、横山 顕礼、土井恵太郎、玉置 将司、高 忠之、井谷 智尚、吉村 通央、宇座 徳光、山田 崇弘、増井 俊彦、南口佐智子、石川 秀樹、松本 繁巳、武藤 学、金井 雅史

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
--

一般

【第3章 ケース別IN-OUT管理 消化器患者さんの“重要ケース”はこれだ！】 <9>化学療法中
消化器ナーシング, 26, 12, 1166~1167, 2021.12.01, メディカ出版
宇良 敬

原著論文

Fibve-year follo-up of nivolumab treatmnet in Hapanese patients with esophageal swuamous-cell carcinoma (ATTRACTION-1/ONO-4538-07).
Esophagous., 18, 4, 835-843, 2021.10
Sato T, Kato K, Ura T, Hamamoto Y, Kojima T, Tshima T, Hironaka S, Hara H, Iwasa S, Muro K, Yasui H, Minashi K, Yamaguchi K, Ohtsu A, Doki Y, Matummura Y, Kitagawa Y.

原著論文

Fibroblast groeth factor receptor 2 (FGFR2) fusions in Japanese patients with intrahepatic cholangiocarinoma.
Jpn J Clin Oncol., 51, 6, 911-917, 2021.05
Tsuje M, Iwai T, Kubo S, Ura T, Hatano E, Sakai D, Takeda Y, Kaibori M, Kobayashi T, Katsunuma A, Katoyose Y, Fukase K

原著論文

A triplet combination of FOLFOXIRI plus cetuximab as first-line treatment in RAS wild-type, metastatic colorectal cancer : a dose escalatopm phase 1b study.
Int J Clin Oncol., 26, 4, 701-707, 2021.04
Kadowaki S, Masuishi T, Ura T, Sugiyama K, Mitani S, Narita Y, Taniguchi H, Muro K.

精神科



専門医資格等
精神保健指定医
日本精神神経学会
指導医 専門医
専門分野
精神医学一般

医長
吉田 貴子

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	沼本 和記		精神病理学	
非常勤医師	栗野 雄大	精神保健指定医 日本医師会認定産業医	精神医学一般	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

日本精神神経学会 研修施設

| 診療実績 |

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	46.6	50.9

脳神経内科



診療科長
井内 盛遠

専門医資格等

日本神経学会
神経内科専門医・指導医
日本てんかん学会
てんかん専門医・指導医
日本臨床神経生理学会
専門医（脳波・筋電図分野）
日本内科学会
認定内科医

専門分野

臨床神経生理

得意疾患

てんかん、脳神経内科一般

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	梶川 駿介	神経内科専門医、脳卒中専門医、てんかん専門医、日本臨床神経生理学会 専門医	てんかん、脳神経内科一般	てんかん
医師	吉田 弘樹	日本専門医機構認定 内科専門医	脳神経内科一般	認知症
専攻医	西村 光平		脳神経内科一般	
専攻医	大西 優輝		脳神経内科一般	
専攻医	中前 拓也		脳神経内科一般	

| 令和3年度の主な取組 |

日本神経学会認定 准教育施設であり、以下の特徴がある。

- ・脳卒中中の入院患者が最も多く、超急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法（tPA）、血管内再開通療法を含めた診療を脳神経外科と協力して行なっている。
- ・パーキンソン病などの変性疾患、てんかん、炎症性疾患など幅広い疾患の診療を行っている。
- ・てんかん専門医が2名在籍、ポータブル脳波型1台を有しており、非けいれん性てんかん重積状態が鑑別に挙がるなど急を要する場合には当科医師が脳波記録・判読とも実施して迅速な診断・治療に役立っている。
- ・認知症患者に対して外来で音楽療法（自由診療）を行っている。

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	18.47	27.1
新入院患者数(名)	310	874
平均在院日数(日)	20.7	21.7

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	40	42.8

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
演題名等 / 演者(下線は当院所属)	
2021.05.19-22	第62回日本神経学術大会
[Direct, not network-mediated, electrical stimulation reduces excitability in the epileptic focus] Kajikawa S, Kobayashi K, Matsumoto R, Okada T, Otani M, Togo M, Usami K, Shimotake A, Matsuhashi M, Yamao Y, Kikuchi T, Yoshida K, Takahashi R, Ikeda A.	
2021.05.19-22	第62回日本神経学術大会
[Pathophysiology of glias and neurons in epilepsy: Correlation between ictal DC shifts and pathology] Kajikawa S, Matsuhashi M, Kobayashi T, Namiki T, Ikeda A.	
2021.06.10-13	13th Asian & Oceanian Epilepsy Congress
[Direct, not network-mediated, electrical stimulation reduces excitability in the epileptic focus] Kajikawa S, Kobayashi K, Matsumoto R, Okada T, Otani M, Togo M, Usami K, Shimotake A, Matsuhashi M, Yamao Y, Kikuchi T, Yoshida K, Takahashi R, Ikeda A.	
2021.06.19	第35回日本神経救急学会学術集会
[時定数2秒の頭部上脳波でinfraslowとcyclic seizure patternを記録できた1例の臨床的意義] 梶川 駿介、人見 健文、北野 和樹、十河 正弥、三村 直哉、宇佐美清英、小林 勝哉、下竹 昭寛、松橋 眞生、高橋 良輔、池田 昭夫	
2021.06.26	日本神経学会 第119回近畿地方会
[静脈還流障害を伴い静脈洞血栓症との鑑別を要した巨細胞性動脈炎による肥厚性硬膜炎の一例] 大西 優輝、梶川 駿介、小山 弘、西村 光平、田村 優、吉田 弘樹、桑原 遼、井内 盛遠	
2021.06.26	日本神経学会 第119回近畿地方会
[てんかん重積状態に意識障害が後続し、非けいれん性てんかん重積状態との鑑別が困難であったCreutzfeldt-Jakob病の一例] 西村 光平、梶川 駿介、金星 匡人、大西 優輝、田村 優、吉田 弘樹、井内 盛遠	
2021.07.18	第17回日本てんかん学会近畿地方会
[てんかん重積状態により頭部MRIにてCrossed Cerebellar Diaschisisを呈した脳卒中後てんかんの1例] 田村 優、梶川 駿介、大西 優輝、西村 光平、吉田 弘樹、井内 盛遠	
2021.09.23-25	第54回日本てんかん学会学術集会
[Scalp EEG could record ictal DC shift in both focal and generalized epilepsy.] Kajikawa S, Hitomi T, Murai T, Kobayashi K, Shimotake A, Usami K, Matsuhashi M, Takahashi R, Ikeda A.	
2021.10.30	第39回日本神経治療学会学術集会
[シンポジウム 20. 新規抗てんかん薬の使い方 - update 2021. 初回発作時のマネージメント : 新規抗てんかん薬の位置付けを含めて] 井内 盛遠	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.12.03-07	AES 2021 Annual Meeting
[Responses to single-pulse electrical stimulation at the stimulus sites can reveal modulation of excitation-inhibition balance at seizure onset zone.] Kajikawa S, Kobayashi K, Matsumoto R, Okada T, Otani M, Togo M, Usami K, Shimotake A, Matsuhashi M, Yamao Y, Kikuchi T, Yoshida K, Takahashi R, Ikeda A.	
2021.12.10	日本神経学会 第120回近畿地方会
[免疫チェックポイント阻害薬使用後に発症した辺縁系脳炎の一例] 西村 光平、大西 優輝、田村 優、吉田 弘樹、梶川 駿介、井内 盛遠	
2022.12.16-18	第51回日本臨床神経生理学会学術大会
[時定数2秒の頭皮上脳波でcyclic seizure patternに伴うinfraslow oscillationを呈した1例] 梶川 駿介、人見 健文、北野 和樹、十河 正弥、三村 直哉、宇佐美清英、小林 勝哉、下竹 昭寛、松橋 眞生、高橋 良輔、池田 昭夫	
2022.03.06	日本神経学会 第121回近畿地方会
[新規の遺伝子変異が同定された反復発作性運動失調症2型の1例] 大西 優輝、大野 美樹、西村 光平、吉田 弘樹、高橋 俊哉、梶川 駿介、久保田智哉、高橋 正紀、中村 道三、井内 盛遠	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
(症例検討会) 発作時カタトニア (ictal catatonia) の1例: てんかん重積の稀な表現型 臨床神経学, 61, 6, 385-391, 2021.06.29, 0009-918X 真田 悠希、 <u>梶川 駿介</u> 、小林 勝哉、葛谷 聡、松本 理器、池田 昭夫、高橋 良輔
(症例検討会) 体外離脱体験と多彩な視覚症状を呈し、部分てんかん発作との鑑別を要した片頭痛患者の一例 臨床神経学, 61, 8, 530-536, 2021.08.30, 0009-918X 細川 恭子、宇佐美清英、 <u>梶川 駿介</u> 、下竹 昭寛、立岡 良久、池田 昭夫、高橋 良輔
(症例検討会) 新規抗てんかん薬での paradoxical effect: レベチラセタムによる 発作抑制効果が Uカーブを示した3例の検討 臨床神経学, 61, 4, 247-252, 2021.04.21, 0009-918X 井上 岳司、小林 勝哉、宇佐美清英、下竹 昭寛、 <u>井内 盛遠</u> 、酒井 達也、池田 昭夫、高橋 良輔
(症例検討会) 病初期に非けいれん性てんかん重積状態を呈した Creutzfeldt-Jakob 病の1例 臨床神経学, in press, 0009-918X 金星 匡人、田村 優、 <u>吉田 弘樹</u> 、松成 亮太、十川 純平、 <u>井内 盛遠</u>
(原著論文) Detailed Analysis of Japanese Patients with Adenosine Deaminase 2 Deficiency Reveals Characteristic Elevation of Type II Interferon Signature and STAT1 Hyperactivation. J Allergy Clin Immunol., 148, 2, 550-562, 2021.08 Nihira H, Izawa K, Ito M, Umebayashi H, Okano T, <u>Kajikawa S</u> , Nanishi E, Keino D, Murakami K, Isa-Nishitani M, Shiba T, Honda Y, Hijikata A, Yasu T, Kubota T, Hasegawa Y, Kawashima Y, Nakano N, Takada H, Ohga S, Heike T, Takita J, Ohara O, Takei S, Takahashi M, Kanegane H, Morio T, Iwaki-Egawa S, Sasahara Y, Nishikomori R, Yasumi T.
(原著論文) Two types of clinical ictal direct current shifts endorsed by waveform property: A cluster analysis Clin Neurophysiol., 137, 113-121, 2022.03 <u>Kajikawa S</u> , Matsuhashi M, Kobayashi K, Hitomi T, Daifu-Kobayashi M, Kobayashi T, Yaamao Y, Yoshida K, Kuhieda T, Matsumoto R, Kakita A, Namiki T, Tsuda I, Miyamoto S, Takahashi R, Ikeda A

原著論文

Enhanced phase-amplitude coupling of human electrocortigraphy selectively in the posterior cortical region during rapid eye movement sleep

Cerebral Cortex

Jumpei Togawa, Riki Matsumoto, Kiyohide Usami, Masao Matsuhashi, Morito Inouchi,
Katsuya Kobayashi, Takefumi Hitomi, Takuro Nakae, Akihiro Shimotake, Yukihiro Yamao,
Takayuki Kikuchi, Kazumichi Yoshida, Takeharu Kunieda, Susumu Miyamoto, Ryosuke Takahashi,
Akio Ikeda

呼吸器内科



副院長
診療部長
(医事管理担当)
呼吸器内科科長
三尾 直士

専門医資格等

日本がん治療認定医機構
暫定教育医
日本医師会認定産業医
アメリカ胸部疾患学会 (ATS)
アメリカ臨床腫瘍学会 (ASCO)
京都大学医学博士
京都大学臨床教授

専門分野

呼吸器内科

得意疾患

肺癌・間質性肺炎

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	中谷 光一	日本内科学会 認定内科医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医	呼吸器内科一般	肺癌・睡眠時無呼吸症候群・呼吸器内科全般
医師	岡村 美里	日本内科学会 認定内科医	呼吸器内科一般	肺癌 呼吸器内科一般
医師	金井 修	日本内科学会 認定内科医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医 日本感染症学会 感染症専門医 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医 日本エイズ学会 認定医 エイズ拠点病院 施設代表 京都市 HIV 感染症対策専門委員会 委員	呼吸器内科一般	HIV 感染症、睡眠時無呼吸症候群
医師	藤田 浩平	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医 日本感染症学会 感染症専門医・指導医 日本感染症学会認定研修施設代表 京都大学医学博士	呼吸器内科一般	呼吸器感染症・ 肺癌・ 呼吸器内科全般
医師	今北 卓間	日本内科学会 認定内科医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医	呼吸器内科一般	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本呼吸器学会認定研修施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定研修施設
- ・日本感染症学会認定研修施設

クリティカルパスは主に3つ活用している。

- ・気管支鏡検査パス 2日間
- ・CTガイド下生検パス 2日間
- ・PSG検査パス 2日間

呼吸器の疾患は肺がんや中皮腫などの悪性腫瘍、喘息・慢性閉塞性肺疾患などの気道系疾患、細菌や抗酸菌などの病原微生物による感染症、びまん性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群、種々の呼吸不全など多岐にわたる。

これらの疾患全てに対応するとともに、主に肺癌診療に力を入れている。また感染症専門医が2名在籍しており、COVID-19診療にも対応している。

当院はエイズ拠点病院に指定されており、HIV感染症/AIDS（後天性免疫不全症候群）の診療は当科で行っている。

| 診療実績 |

呼吸器内科入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	33.06	32.83
新入院患者数(名)	970	925
平均在院日数(日)	12.0	12.5

呼吸器内科外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	53.2	57.3

主な手術・検査の件数(2021年度)

気管支鏡検査	289件	局所麻酔下胸腔鏡検査	9件
CTガイド下肺生検	40件		

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者(下線は当院所属)

(原著論文)

Safety of Remdesivir for Patients 80 Years of Age or Older with Coronavirus Disease 2019 (COVID-19)
Drugs & Aging
Kanai O, Fujita K, Nanba K, Esaka N, Hata H, Seta K, Yasoda A, Odagaki T, Mio T.

原著論文

Increasing Burden of Nursing Care on the Treatment of COVID-19 Patients in the Aging Society : Analyses During the First to the Third Wave of Pandemic in Kyoto City, Japan.
Front Med, 7, 767110, 2021

Fujita K, Kashihara E, Kanai O, Hata H, Yasoda A, Odagaki T, Mio T.

原著論文

Infections due to Dysregulated Immunity : An emerging complication of Cancer Immunotherapy.
Thorax

Morelli T, Fujita K, Redelman-Sidi G, Elkington P.

原著論文

Small cell transformation of non-small cell lung cancer under immunotherapy : Case series and literature review.

Thoracic Cancer, 12, 22, 3062-3067, 2021

Imakita T, Fujita K, Kanai O, Okamura M, Hashimoto M, Nakatani K, Sawai S, Mio T.

原著論文以外

Diffuse goiter enlargement after immunotherapy for non-small cell lung cancer.

Respirol Case Rep, 12, 9, e0866, 2021

Fujita K, Araki N, Mio T.

原著論文以外

No need to hesitate: immune- related neutropenia and thrombocytopenia that improved by corticosteroids.

Respirol Case Rep, 9, 3, e00799, 2021

Kanai O, Nakatani K, Fujita K, Okamura M, Mio T.

原著論文以外

Acute rhabdomyolysis in a young woman with moderate COVID-19.

ID cases., e01212, 2021

Fujita K, Kanai O, Nanba K, Esaka N, Hata H, Seta K, Odagaki T.

原著論文

Association of heated tobacco product use with tobacco use cessation in a Japanese workplace : a prospective study.

Thorax, 76, 6, 615-617, 2021

Kanai M, Kanai O, Tabuchi T, Mio T.

原著論文

Efficacy and safety of immune checkpoint inhibitors in patients with non-small cell lung cancer aged 80 or older.

Cancer Report, 2, e1405, 2021

Saito Z, Fujita K, Okamura M, Ito T, Yamamoto Y, Kanai O, Hashimoto M, Nakatani K, Sawai S, Mio T.

原著論文以外

Successful management of a lung cancer patient harbouring both EGFR mutation and EML4-ALK fusion gene with disseminated intravascular coagulation.

Respirol Case Rep, 3, 33, 101393, 2021

Fujita K, Naka M, Ito T, Kanai O, Maekawa K, Nakatani K, Mio T.

原著論文

The effect of cyclooxygenase inhibitor use on immunotherapy efficacy in non-small-cell lung cancer.

Thoracic Cancer, 12, 6, 949-957, 2021

Kanai O, Ito T, Saito Z, Yamamoto Y, Fujita K, Okamura M, Hashimoto M, Nakatani K, Sawai S, Mio T.

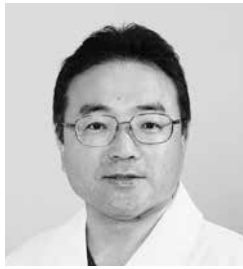
原著論文以外

Afebrile tension pyopneumothorax due to anaerobic bacteria : fistula or gas production?

Respir Med Case Rep, 3, 32, 101372, 2021

Kanai O, Fujita K, Okamura M, Nakatani K, Mio T.

消化器内科



診療部長 (健診担当)
診療科長 (消化器内科)
健診センター長
食道・胃がんユニット長
宮本 心一

専門医資格等
日本内科学会
認定内科医・総合内科専門医
日本消化器病学会
専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会
専門医・指導医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
緩和ケア研修会
指導者講習会修了者
京都大学医学部非常勤講師
京都大学医学博士

専門分野
消化管癌内視鏡治療
消化器癌化学療法

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
診療部長 (医事管理担当) 臨床 検査科長 医 長	勝島 慎二	日本内科学会 認定内科医・指導医・近畿支部評議員 日本消化器病学会 専門医・指導医・近畿支部評議員・本部評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・近畿支部評議員・本部評議員 日本医学放射線学会 放射線科診断専門医 日本肝臓学会 専門医・指導医・西部会評議員 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医・指導責任者 日本消化管学会 胃腸科専門医 日本消化器がん検診学会 総合認定医 京都府国民健康保険団体連合会 国民健康保険診療報酬審査委員会委員 京都大学医学博士	消化器内科全般 肝疾患	肝疾患 炎症性腸疾患
医長 副健診 センター長	島 伸子	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本消化器がん検診学会 胃認定医 日本人間ドック学会 人間ドック健診認定医 日本医師会 認定産業医 日本ヘリコバクター学会 H.pylori 感染症認定医	消化器内科全般	消化器疾患 消化器内視鏡検査
医長 内視鏡治療 センター長 肝・胆道・ 膵がんユ ニット長	水本 吉則	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会 専門医・指導医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・近畿支部評議員・本部評議員 日本胆道学会 指導医 (内視鏡診断治療・経皮経肝の診断治療) 日本消化器がん検診学会 胃・大腸認定医	消化器内科全般	消化管・胆・膵、 内視鏡検査・治療 全般 (EUS、ESD、 Stenting、ERCP・関 連治療等)、PTC・ PTCD 関連治療、 炎症性腸疾患

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長	岩本 諭	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会 専門医・指導医・近畿支部評議員・本部評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・近畿支部評議員 日本肝臓学会 専門医・指導医 京都大学医学博士	消化器内科全般	内視鏡検査・治療、 肝疾患全般
医師	江坂 直樹	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・ JMECC インストラクター 日本消化器病学会 専門医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・近畿支部評議員 日本カプセル内視鏡学会 JACEカプセル内視鏡認定医 緩和ケア研修会指導者講習会修了者 臨床研修指導医	消化器内科全般	内視鏡検査・治療 (小腸内視鏡、食道 胃静脈瘤治療、PEG を含む)、緩和医療
医師	太田 義之	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 専門医	内科 消化器内科全般	消化管疾患
医師	中野 佳子	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会 専門医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・近畿支部評議員 神戸大学医学博士	消化器内科全般	内視鏡検査・治療
医師	下釜 翼	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医	内科 消化器内科全般	胆道・痔疾患検査・ 治療 (EUS, ERCP, PTBD 等)
医師	村井 克行	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本臨床腫瘍学会	消化器内科全般	消化管癌の内視鏡 診断と治療 (ESD)、 消化器癌の化学療法 (抗癌剤)
医師	村田 雅樹	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本ヘリコバクター学会 H.pylori感染症認定医	消化器内科全般	内視鏡検査・治療、 炎症性腸疾患、小 腸内視鏡検査
レジデント	山崎 由希			
レジデント	黄 莉媛			
レジデント	永田 健			
専攻医	芝田くるみ			
専攻医	浅野 陽一			
専攻医	尾松 梨沙			
非常勤 医師 (診療援助)	米田 俊貴	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会 専門医 日本肝臓学会 専門医・指導医・西部会評議員 京都大学医学博士	消化器内科全般	肝疾患
非常勤 医師 (診療援助)	笠原 勝宏	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会 専門医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本プライマリケア連合学会 プライマリケア認定医	消化器内科全般	消化器疾患

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
非常勤 医師 (診療援助)	遠藤 文司	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医・近畿支部評議員・本部評議員 日本肝臓学会 専門医 日本膵臓学会 専門医 日本胆道学会 指導医 (内視鏡診断治療・経皮経肝的診断治療) 日本消化器がん検診学会 胃・肝胆膵認定医 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医・指導医 ICD協議会認定 インフェクションコントロールドクター 日本医師会認定産業医 臨床研修指導医	消化器内科全般	胆道・膵疾患検査・治療
非常勤 医師 (診療援助)	見島 裕之	日本内科学会 認定内科医	消化器内科全般	内視鏡検査・治療
非常勤 医師 (診療援助)	中野 重治	日本内科学会 認定内科医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本肝臓学会 専門医	消化器内科	肝疾患・治療

令和3年度の主な取組

認定施設

- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本超音波学会専門医研修施設
- ・日本胆道学会指導施設
- ・京都府肝疾患専門医療機関

1. 三次救急病院の消化器内科として、緊急内視鏡検査に24時間対応しています。
2. 地域がん診療連携拠点病院の消化器内科として消化器癌全般の診断、早期癌の内視鏡治療、進行癌に対する化学療法から終末期の緩和ケアに至るまでシームレスに対応します。
3. 炎症性腸疾患の専門診療を実施、多くの企業治験に参加しています。

主な対象疾患として

消化器癌全般 (食道、胃、十二指腸、大腸、肝臓、膵臓、胆道系)

炎症性腸疾患 (クローン病、潰瘍性大腸炎)

急性及び慢性肝疾患 (ウイルス性、アルコール性、自己免疫性)

肝硬変

ヘリコバクター感染症関連疾患 (消化性潰瘍、MALTリンパ腫)

消化器救急疾患 (消化管出血、閉塞性黄疸、急性膵炎)

診療（業務）内容

消化器内科一般外来

上部消化管、下部消化管内視鏡検査および治療

ERCPおよびERCP関連治療

PTCおよびPTC関連治療

EUSおよびEUS-FNA、Interventional EUS

消化管・胆膵系ステント留置

小腸内視鏡（カプセルおよびバルーン内視鏡）

炎症性腸疾患に対する専門的治療（免疫調節剤、生物学的製剤）

進行癌に対する化学療法（腫瘍内科とワークシェア）

ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法（内服薬、インターフェロン）

肝臓に対する経皮的治療

セカンドオピニオン外来

診療実績

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数（名）	37.7	38.3
新入院患者数（名）	1127	1202
平均在院日数（日）	11.5	11.2

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数（名）	96.9	101.6

主な手術・検査の件数（2021年度）

上部消化管内視鏡検査	4594件	食道・胃ESD	81件
下部消化管内視鏡検査	2100件	大腸ESD	38件
ERCP	433件	肝臓ラジオ波焼灼術	18件

学術活動報告（学会・研究発表など）

発表年月日	発表学会
2021.04.22	第16回京滋IBDコンセンサスミーティング
「当院におけるトファシチニブの使用経験」 江坂 直樹	
2021.06.17	第57回日本肝臓学会総会
「肝臓既往のない80歳以上の高齢者でもDAA治療は有用か」 勝島 慎二、中野 重治、小畑 達郎、平井 達基、黄 莉媛、村田 雅樹、遠藤 文司、岩本 諭、米田 俊貴	
2021.06.17	第57回日本肝臓学会総会
「B型慢性肝炎核酸アナログ治療中のフレア：耐性変異かアドヒアランスの問題か？」 小畑 達郎、黄 莉媛、平井 達基、中野 重治、村田 雅樹、岩本 諭、米田 俊貴、勝島 慎二	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.07.08 「肝細胞癌の全身化学療法」 勝島 慎二	第21回伏見薬業連携協議会
2021.07.10 「高齢者における大腸憩室出血の臨床的特徴と短長期再発率の検討」 村田 雅樹、水本 吉則、宮本 心一	第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会
2021.07.10 「憩室出血TAE後の腸管狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術が有効であった一例」 浅野 陽一、村田 雅樹、渡邊 康博、平井 達基、黄 莉媛、山崎 由希、村井 克行、下釜 翼、 中野 佳子、太田 義之、江坂 直樹、岩本 諭、水本 吉則、宮本 心一	第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会
2021.07.29 「当院における超高齢者の大腸ポリープ切除の現状」 太田 義之	第38回京滋消化器内視鏡治療勉強会
2021.09.18 「十二指腸組織免疫染色によって診断し得た、紫斑を伴わない高齢者IgA血管炎の1例」 山崎 由希、村田 雅樹、太田 義之、下釜 翼、浅野 陽一、尾松 梨沙、芝田くるみ、黄 莉媛、 永田 健、村井 克行、中野 佳子、江坂 直樹、岩本 諭、水本 吉則、宮本 心一	日本消化器病学会近畿支部第115回例会
2021.09.24 「除菌後排便障害の長期経過と排便障害に対する除菌治療の効果」 村田 雅樹、宮本 心一、杉本 光繁	第27回日本ヘリコバクター学会学術集会
2021.09.24 「 <i>Helicobacter pylori</i> 除菌治療後の逆流性食道炎発症のリスク メタアナリシス」 杉本 光繁、村田 雅樹、濱田麻梨子、岩田 英里、新倉 量太、永田 尚義、河合 隆	第27回日本ヘリコバクター学会学術集会
2021.09.24 「根治化学放射線療法をうけた胸部食道癌患者における胸椎骨折発症リスクの検討」 藤井 康太、坂中 克行、魚住 龍史、石田 祐一、稲生 浩之、角田 茂、宮本 心一、武藤 学、 溝脇 尚志	第75回日本食道学会学術集会
2021.11.04 「高齢者肝線維化進行例におけるSVRの意義」 勝島 慎二、中野 重治、小畑 達郎、平井 達基、黄 莉媛、村田 雅樹、遠藤 文司、岩本 諭、 米田 俊貴	第25回日本肝臓学会大会
2021.12.11 「当院における切除不能悪性胃十二指腸狭窄に対する金属ステント留置の有用性と予後因子の検討」 中野 佳子、水本 吉則、宮本 心一	第107回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会
2021.12.11 「 <i>Helicobacter pylori</i> 除菌治療により病変が退縮し、内視鏡治療困難を克服しえた過形成性ポリープを背景とした早期胃癌の一例」 村田 雅樹、下釜 翼、宮本 心一	第107回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会
2021.12.11 「総胆管結石採石時に採石器具が嵌頓し緊急手術となった重複胆管の一例」 芝田くるみ、下釜 翼、尾松 梨沙、浅野 陽一、山崎 由希、黄 莉媛、永田 健、村田 雅樹、 村井 克行、中野 佳子、太田 義之、江坂 直樹、岩本 諭、成田 匡大、水本 吉則、勝島 慎二、 宮本 心一	第107回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会
2021.12.15 「GERD診療～GERD診療ガイドライン2021をふまえて～」 村田 雅樹	第3回ランチョンセミナー
2021.12.24 「2018年、2019年の京都での急性A型肝炎」 小畑 達郎、勝島 慎二	第2回日本医療研究開発機構 (AMED) 研究班会議

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.02.03	第10回京都IEE勉強会
「内視鏡診断が困難であった大腸陥凹性病変の2例」 江坂 直樹	
2022.02.05	日本消化器病学会近畿支部第116回例会
「PPI内服中の出血性胃過形成性ポリープに対するPPI中止という治療戦略」 二階堂光洋、宮本 心一、内海 貴裕、妹尾 浩	
2022.02.05	日本消化器病学会近畿支部第116回例会
「ACE阻害薬により惹起された小腸血管性浮腫の一例」 尾松 梨沙、中野 佳子、浅野 陽一、芝田くるみ、山崎 由希、黄 莉媛、永田 健、村田 雅樹、 村井 克行、下釜 翼、太田 義之、江坂 直樹、岩本 諭、水本 吉則、宮本 心一	
2022.02.15	Colonic Stenting Webinar
「大腸 Covered stent に有用性はあるのか？」 水本 吉則	
2022.03.05	地域で診る大腸疾患
「大腸炎症性腸疾患のマネジメント」 村田 雅樹	
2022.03.05	地域で診る大腸疾患
「大腸腫瘍性病変のマネジメント」 太田 義之	
2022.03.31	GI Web Seminar
「GERD診療UP TO DATE—GERD診療ガイドライン2021年を踏まえて」 村田 雅樹	

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
総説 【特集】消化器ステント術のすべて 悪性食道狭窄や瘻孔に対するステント留置術—手技のコツ 臨床雑誌外科, 83, 8, 867-874, 2021.07.01, 南江堂 水本 吉則、遠藤 文司、渡邊 康博、平井 達基、山崎 由希、黄 莉媛、村田 雅樹、村井 克行、 下釜 翼、中野 佳子、太田 義之、江坂 直樹、岩本 諭、宮本 心一
総説 【消化管内視鏡治療—基本から高難度まで】悪性食道狭窄に対するステント留置術 消化器内視鏡, 33, 増刊号, 330-340, 2021.11.10, 東京医学社 水本 吉則、遠藤 文司、下釜 翼、村田 雅樹、村井 克行、中野 佳子、太田 義之、江坂 直樹、 岩本 諭、宮本 心一
総説 6章小腸・大腸の病気 大腸ポリープ、腸結核、虚血性腸炎、ドクターがズバリ答えるナースのギモン6章21なぜ回盲部に潰瘍がでやすいの？ 患者がみえる新しい「病気の教科書」かんテキ消化器, 214-215, 244-245, 246-247, 2021.10.05, メディカ出版 太田 義之
総説 6章小腸・大腸の病気 潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群 (IBS)、大腸の病気に対する治療【内科】、ドクターがズバリ答えるナースのギモン6章17GCAPなどの透析治療はどんな効果があるの？、ドクターがズバリ答えるナースのギモン6章20クローン病でエレンタール®を飲むのはなぜ？ 患者がみえる新しい「病気の教科書」かんテキ消化器, 230-232, 233-234, 235-236, 243, 264-267, 2021.10.05, メディカ出版 江坂 直樹

総説

7章消化管全般の病気 GIST: 消化管間質腫瘍、神経内分泌腫瘍 (NET)、ナースのぎもん 7章03胃のGISTで内視鏡
合同手術 (LECS) をするのはなぜ?

患者がみえる新しい「病気の教科書」かんテキキ消化器, 268-269, 270-272, 277, 2021.10.05, メディカ出版

村井 克行

総説

7章消化管全般の病気 悪性リンパ腫、好酸球性胃腸炎、ベーチェット病

患者がみえる新しい「病気の教科書」かんテキキ消化器, 273-274, 282-283, 284-285, 2021.10.05, メディカ出版

岩本 諭

総説

7章消化管全般の病気 消化管全般の病気に対する治療

患者がみえる新しい「病気の教科書」かんテキキ消化器, 286-290, 2021.10.05, メディカ出版

村田 雅樹

総説

10章膵臓の病気 急性膵炎、慢性膵炎、膵嚢胞性疾患、膵臓の病気に対する治療【内科】、ドクターがズバリ答える
ナースのギモン10章01なぜERCP後に急性膵炎を起こすことが多いの?、ドクターがズバリ答えるナースのギモン10
章02急性膵炎の強い痛みはどうしたらいいの?、ドクターがズバリ答えるナースのギモン10章07EUS-CDってどんな
治療?

患者がみえる新しい「病気の教科書」かんテキキ消化器, 375-379, 380-381, 382-383, 392-395, 2021.10.05, メディカ出版

下釜 翼

解説

【輸液の種類も、ケース別管理も、学びなおし!“こんなときどうする?” 消化器患者のIN-OUT管理】第3章ケー
ス別IN-OUT管理消化器患者さんの“重要ケース”はこれだ! 10 膵炎の患者さん

消化器ナーシング, 26, 12, 1168-1169, 2021.11.17, メディカ出版

村田 雅樹

解説

【輸液の種類も、ケース別管理も、学びなおし!“こんなときどうする?” 消化器患者のIN-OUT管理】第3章 ケー
ス別IN-OUT管理 消化器患者さんの“重要ケース”はこれだ! 11 肝機能が低下している患者さん

消化器ナーシング, 26, 12, 1170-1171, 2021.11.17, メディカ出版

浅野 陽一、村井 克行

総説

【臨床の悩ましい問題をスッキリ解消! 消化性潰瘍治療薬の使い分け】病態別にみる消化性潰瘍治療薬の使い方 H.pylori
除菌治療

月刊薬事, 63, 14, 2765-2773, 2021.11.01, じほう

杉本 光繁、村田 雅樹、水野 仁美、河合 隆

原著論文

Risk of Reflux-Related Symptoms and Reflux Esophagitis after Helicobacter pylori Eradication Treatment
in the Japanese Population

J Clin Med, 10, 7, 1434, 2021.04

Mitsushige Sugimoto, Masaki Murata, Eri Iwata, Naoyoshi Nagata, Takao Itoi, Takashi Kawai.

原著論文

A Phase 1 Study of KHK4083: A Single-Blind, Randomized, Placebo-Controlled Single-Ascending-Dose Study
in Healthy Adults and an Open-Label Multiple-Dose Study in Patients With Ulcerative Colitis

Clin Pharmacol Drug Dev, 10, 8, 870-883, 2021.08

Kenichi Furihata, Yoh Ishiguro, Naoki Yoshimura, Hiroaki Ito, Shinji Katsushima, Etsuji Kaneko,

Munetake Shimabe, Mayumi Mukai, Risa Watanabe, Takuya Morishige.

原著論文

Reducing the risk of developing walled-off necrosis in patients with acute necrotic collection using
recombinant human soluble thrombomodulin

J Hepatobiliary Pancreat Sci, 28, 9, 788-797, 2021.09

Takaaki Eguchi, Yoshihisa Tsuji, Akihiko Okada, Dai Inoue, Hironobu Tokumasu, Kosuke Iwane,

Yoshitaka Nakai, Toshihiro Kusaka, Yoshito Uenoyama, Koichi Fujita, Masataka Yokode,

Yukimasa Yamashita, Yugo Sawai, Masanori Asada, Takao Mikami, Chiharu Kawanami, Yasushi Kudo,

Shujiro Yazumi, Tsuyoshi Sanuki, Arata Sakai, Toshihiro Morita, Yojiro Sakuma, Norimitsu Uza,

Yutaka Takada, Toshinao Itani, Katshutoshi Kuriyama, Kazuyoshi Matsumura, Kazuki Ikeda,

Hitoshi Sameda, Eiji Funatsu, Shinji Katsushima, Yuzo Kodama, Hiroshi Seno.

原著論文

Indolent feature of Helicobacter pylori-uninfected intramucosal signet ring cell carcinomas with CDH1 mutations

Gastric Cancer, 24, 5, 1102-1114, 2021.09

Mitsuhiro Nikaido, Nobuyuki Kakiuchi, Shin'ichi Miyamoto, Tomonori Hirano, Yasuhide Takeuchi, Taro Funakoshi, Akira Yokoyama, Tatsuki Ogasawara, Yoshihiro Yamamoto, Atsushi Yamada, Takeshi Setoyama, Takahiro Shimizu, Yukari Kato, Suguru Uose, Takaki Sakurai, Sachiko Minamiguchi, Kazutaka Obama, Yoshiharu Sakai, Manabu Muto, Tsutomu Chiba, Seishi Ogawa, Hiroshi Seno.

原著論文

Risk Factors for Bleeding After Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Cancer in Elderly Patients Older Than 80 Years in Japan

Clin Transl Gastroenterol, 12, 9, e00404, 2021.09

Mitsushige Sugimoto, Waku Hatta, Yosuke Tsuji, Toshiyuki Yoshio, Yohei Yabuuchi, Shu Hoteya, Hisashi Doyama, Yasuaki Nagami, Takuto Hikichi, Masakuni Kobayashi, Yoshinori Morita, Tetsuya Sumiyoshi, Mikitaka Iguchi, Hideomi Tomida, Takuya Inoue, Tatsuya Mikami, Kenkei Hasatani, Jun Nishikawa, Tomoaki Matsumura, Hiroko Nebiki, Dai Nakamatsu, Ken Ohnita, Haruhisa Suzuki, Hiroya, Ueyama, Yoshito Hayashi, Masaki Murata, Shinjiro Yamaguchi, Tomoki Michida, Tomoyuki Yada, Yoshiro Asahina, Toshiaki Narasaka, Shiko Kuribayashi, Shu Kiyotoki, Katsuhiko Mabe, Mitsuhiro Fujishiro, Atsushi Masamune, Takashi Kawai.

原著論文

Long-term safety and efficacy of lanreotide autogel in Japanese patients with neuroendocrine tumors: Final results of a phase II open-label extension study

Asia Pac J Clin Oncol, 17, 5, e153-e161, 2021.10

Tetsuhide Ito, Nao Fujimori, Yoshitaka Honma, Atsushi Kudo, Susumu Hijioka, Shinji Katsushima, Yasutoshi Kimura, Akira Fukutomi, Seiichi Hisamatsu, Akihiro Nakajima, Akira Shimatsu.

原著論文

Outcomes in high and low volume hospitals in patients with acute hematochezia in a cohort study

Sci Rep, 11, 1, 20373, 2021.10

Naoki Ishii, Naoyoshi Nagata, Katsumasa Kobayashi, Atsushi Yamauchi, Atsuo Yamada, Jun Omori, Takashi Ikeya, Taiki Aoyama, Naoyuki Tominaga, Yoshinori Sato, Takaaki Kishino, Tsunaki Sawada, Masaki Murata, Akinari Takao, Kazuhiro Mizukami, Ken Kinjo, Shunji Fujimori, Takahiro Uotani, Minoru Fujita, Hiroki Sato, Sho Suzuki, Toshiaki Narasaka, Junnosuke Hayasaka, Tomohiro Funabiki, Yuzuru Kinjo, Akira Mizuki, Shu Kiyotoki, Tatsuya Mikami, Ryosuke Gushima, Hiroyuki Fujii, Yuta Fuyuno, Naohiko Gunji, Yosuke Toya, Kazuyuki Narimatsu, Noriaki Manabe, Koji Nagaike, Tetsu Kinjo, Yorinobu Sumida, Sadahiro Funakoshi, Kana Kawagishi, Tamotsu Matsuhashi, Yuga Komaki, Kuniko Miki, Kazuhiro Watanabe, Fumio Omata, Yasutoshi Shiratori, Noriatsu Imamura, Takahiro Yano, Mitsuru Kaise.

原著論文

Identifying Bleeding Etiologies by Endoscopy Affected Outcomes in 10,342 Cases With Hematochezia: CODE BLUE-J Study

Am J Gastroenterol, 116, 11, 2222-2234, 2021.11

Naoyoshi Nagata, Katsumasa Kobayashi, Atsushi Yamauchi, Atsuo Yamada, Jun Omori, Takashi Ikeya, Taiki Aoyama, Naoyuki Tominaga, Yoshinori Sato, Takaaki Kishino, Naoki Ishii, Tsunaki Sawada, Masaki Murata, Akinari Takao, Kazuhiro Mizukami, Ken Kinjo, Shunji Fujimori, Takahiro Uotani, Minoru Fujita, Hiroki Sato, Sho Suzuki, Toshiaki Narasaka, Junnosuke Hayasaka, Tomohiro Funabiki, Yuzuru Kinjo, Akira Mizuki, Shu Kiyotoki, Tatsuya Mikami, Ryosuke Gushima, Hiroyuki Fujii, Yuta Fuyuno, Naohiko Gunji, Yosuke Toya, Kazuyuki Narimatsu, Noriaki Manabe, Koji Nagaike, Tetsu Kinjo, Yorinobu Sumida, Sadahiro Funakoshi, Kana Kawagishi, Tamotsu Matsuhashi, Yuga Komaki, Kuniko Miki, Kazuhiro Watanabe, Masakatsu Fukuzawa, Takao Itoi, Naomi Uemura, Takashi Kawai, Mitsuru Kaise.

原著論文

Efficacy of polyglycolic acid sheeting with fibrin glue for perforations related to gastrointestinal endoscopic procedures: a multicenter retrospective cohort study

Surg Endosc doi : 10.1007/S00464-021-08873-5, Epub2021.11

Kengo Takimoto, Noriko Matsuura, Yoshiko Nakano, Yosuke Tsuji, Kohei Takizawa, Yoshinori Morita, Yasuaki Nagami, Kingo Hirasawa, Hiroshi Araki, Naoyuki Yamaguchi, Hiroyuki Aoyagi, Tamotsu Matsuhashi, Toshiro Iizuka, Hisanobu Saegusa, Kenji Yamazaki, Shinichiro Hori, Tomohiko Mannami, Noboru Hanaoka, Hirohito Mori, Hideki Kobara, Yoji Takeuchi, Hiroyuki Ono, Polyglycolic Acid Study Group.

原著論文

Effectiveness and adverse events of endoscopic clipping versus band ligation for colonic diverticular hemorrhage: a large-scale multicenter cohort study

Endoscopy, doi : 10.1055/a-1705-0921, Epub2022.02

Katsumasa Kobayashi, Naoyoshi Nagata, Yohei Furumoto, Atsushi Yamauchi, Atsuo Yamada, Jun Omori, Takashi Ikeya, Taiki Aoyama, Naoyuki Tominaga, Yoshinori Sato, Takaaki Kishino, Naoki Ishii, Tsunaki Sawada, Masaki Murata, Akinari Takao, Kazuhiro Mizukami, Ken Kinjo, Shunji Fujimori, Takahiro Uotani, Minoru Fujita, Hiroki Sato, Sho Suzuki, Toshiaki Narasaka, Junnosuke Hayasaka, Mitsuru Kaise, CODE BLUE-J study collaborators; Tomohiro Funabiki, Yuzuru Kinjo, Akira Mizuki, Shu Kiyotoki, Tatsuya Mikami, Ryosuke Gushima, Hiroyuki Fujii, Yuta Fuyuno, Naohiko Gunji, Yosuke Toya, Kazuyuki Narimatsu, Noriaki Manabe, Koji Nagaike, Tetsu Kinjo, Yorinobu Sumida, Sadahiro Funakoshi, Kana Kawagishi, Tamotsu Matsuhashi, Yuga Komaki, Kuniko Miki, Kazuhiro Watanabe, Naoki Kitano, Shu Kato, Shun Sakai, Eri Oshina, Tomohiro Mochida, Yukito Okura, Mana Matsuoka, Takahito Nozaka, Ayako Sato, Masato Yauchi, Taichi Matsumoto, Toru Asano.

原著論文

Post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis assessed using criteria for acute pancreatitis

JGH Open, 5, 12, 1391-1397, 2021.12

Azumi Suzuki, Koji Uno, Kojiro Nakase, Koichiro Mandai, Bunji Endoh, Koki Chikugo, Takumi Kawakami, Takahiro Suzuki, Yoshitaka Nakai, Kiyonori Kusumoto, Yoshio Itokawa, Osamu Inatomi, Shigeki Bamba, Yoshinori Mizumoto, Kiyohito Tanaka.

原著論文

Safety of Remdesivir for Patients 80 Years of Age or Older with Coronavirus Disease 2019 (COVID-19)

Drugs Aging, 38, 12, 1067-1074, 2021.12

Osamu Kanai, Kohei Fujita, Kazutaka Nanba, Naoki Esaka, Hiroaki Hata, Koichi Seta, Akihiro Yasoda, Takao Odagaki, Tadashi Mio.

原著論文

Treatment strategies for reducing early and late recurrence of colonic diverticular bleeding based on stigmata of recent hemorrhage: a large multicenter study

Gastrointest Endosc, doi : 10.1016/j.gie, 2021.12.023, Epub2021.12

Maya Gobinet-Suguro, Naoyoshi Nagata, Katsumasa Kobayashi, Atsushi Yamauchi, Atsuo Yamada, Jun Omori, Takashi Ikeya, Taiki Aoyama, Naoyuki Tominaga, Yoshinori Sato, Takaaki Kishino, Naoki Ishii, Tsunaki Sawada, Masaki Murata, Akinari Takao, Kazuhiro Mizukami, Ken Kinjo, Shunji Fujimori, Takahiro Uotani, Minoru Fujita, Hiroki Sato, Sho Suzuki, Toshiaki Narasaka, Junnosuke Hayasaka, Tomohiro Funabiki, Yuzuru Kinjo, Akira Mizuki, Shu Kiyotoki, Tatsuya Mikami, Ryosuke Gushima, Hiroyuki Fujii, Yuta Fuyuno, Naohiko Gunji, Yosuke Toya, Kazuyuki Narimatsu, Noriaki Manabe, Koji Nagaike, Tetsu Kinjo, Yorinobu Sumida, Sadahiro Funakoshi, Kana Kawagishi, Tamotsu Matsuhashi, Yuga Komaki, Kuniko Miki, Kazuhiro Watanabe, Naomi Uemura, Eri Itawa, Mitushige Sugimoto, Masakatsu Fukuzawa, Takashi Kawai, Mitsuru Kaise, Takao Itoi.

原著論文

Emergency Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Did Not Increase the Incidence of Postprocedural Pancreatitis Compared With Elective Cases: A Prospective Multicenter Observational Study

Pancreas, 51, 1, 41-47, 2022.01

Yoshitaka Nakai, Kiyonori Kusumoto, Yoshio Itokawa, Osamu Inatomi, Shigeki Bamba, Toshifumi Doi, Takumi Kawakami, Takahiro Suzuki, Azumi Suzuki, Bunji Endoh, Koki Chikugo, Yoshinori Mizumoto, Kiyohito Tanaka.

原著論文

Endoscopic direct clipping versus indirect clipping for colonic diverticular bleeding: A large multicenter cohort study

United European Gastroenterol J, 10, 1, 93-103, 2022.02

Takaaki Kishino, Naoyoshi Nagata, Katsumasa Kobayashi, Atsushi Yamauchi, Atsuo Yamada, Jun Omori, Takashi Ikeya, Taiki Aoyama, Naoyuki Tominaga, Yoshinori Sato, Naoki Ishii, Tsunaki Sawada, Masaki Murata, Akinari Takao, Kazuhiro Mizukami, Ken Kinjo, Shunji Fujimori, Takahiro Uotani, Minoru Fujita, Hiroki Sato, Sho Suzuki, Toshiaki Narasaka, Junnosuke Hayasaka, Tomohiro Funabiki, Yuzuru Kinjo, Akira Mizuki, Shu Kiyotoki, Tatsuya Mikami, Ryosuke Gushima, Hiroyuki Fujii, Yuta Fuyuno, Naohiko Gunji, Yosuke Toya, Kazuyuki Narimatsu, Noriaki Manabe, Koji Nagaike, Tetsu Kinjo, Yorinobu Sumida, Sadahiro Funakoshi, Kana Kawagishi, Tamotsu Matsuhashi, Yuga Komaki, Kuniko Miki, Kazuhiro Watanabe, Mitsuru Kaise.

原著論文

Long-term improvement in constipation-related symptoms after Helicobacter pylori eradication therapy
Helicobacter, 27, 1, e12863, 2022.02
Masaki Murata, Mitsushige Sugimoto, Shin'ichi Miyamoto, Takashi Kawai.

原著論文

A study for every second day administration of vonoprazan for maintenance treatment of erosive GERD (ESD von GERD): a multicenter randomized cross-over study
J Gastroenterol, 57, 3, 133-143, 2022.03
Soichiro Matsuda, Mototsugu Kato, Yuko Sakakibara, Hiroshige Hamada, Yoshihiro Sasaki, Hideki Mori, Yuichiro Hirai, Shuji Inoue, Tatsuya Toyokawa, Takashi Kagaya, Toshio Kuwai, Naoki Esaka, Haruhiro Yamashita, Noriko Watanabe, Mio Matsumoto, Hiroyuki Fujii, Mamiko Demura, Kimitoshi Kubo, Katsuhiko Mabe, Naohiko Harada.

原著論文

Gastric Hyperplastic Polyps Can Shrink After Discontinuation of Proton Pump Inhibitors: A Case Series Compared With Continuation of Proton Pump Inhibitors
J Clin Gastroenterol, 56, 3, e216-e221, 2022.03
Mitsuhiro Nikaido, Shin'ichi Miyamoto, Takahiro Utsumi, Takahiro Shimizu, Yuki Nakanishi, Ken Kumagai, Mari Teramura, Takeshi Setoyama, Hiroshi Seno.

原著論文以外

An Unusual Case of Gastric Leiomyosarcoma Presenting as a Giant Polyp
Clin Gastroenterol Hepatol, 19, 8, e81, 2021.08
Mari Teramura, Takahiro Shimizu, Shin'ichi Miyamoto.

原著論文以外

Immunoglobulin A vasculitis without purpura in an elderly female patient: a case report
Clin J Gastroenterol, 14, 4, 1090-1095, 2021.08
Masaki Murata, Yuki Yamazaki, Tsubasa Shimogama, Yoshiyuki Ota, Koki Moriyoshi, Shin'ichi Miyamoto.

原著論文以外

Acute rhabdomyolysis in a young woman with moderate COVID-19
IDCases, 25, e01212, 2021
Kohei Fujita, Osamu Kanai, Kazutaka Nanba, Naoki Esaka, Hiroaki Hata, Koichi Seta, Takao Odagaki.

原著論文以外

Spontaneous Rapid Improvement of Small Intestinal Edema
Gastroenterology, doi : 10.1053/j.gastro, 2021.08.009, Epub2021.08
Yoshiko Nakano, Ryo Kuwahara, Shin'ichi Miyamoto.

原著論文以外

Colonic Stenosis Caused by Transcatheter Arterial Embolization
Clin Gastroenterol Hepatol, 20, 4, e645-e646, 2022.04
Masaki Murata, Yasuhiro Watanabe, Shin'ichi Miyamoto.

原著論文以外

Intramucosal signet-ring cell carcinoma with reduced expression of E-cadherin in a Helicobacter pylori-uninfected stomach remained unchanged for 8 years
Clin J Gastroenterol, 15, 1, 268-269, 2022.02
Mitsuhiro Nikaido, Shin'ichi Miyamoto, Yumiko Minato, Manabu Muto.

循環器内科



診療部長 (内科系担当・病棟管理担当併任)
診療科長
臨床研究センター
展開医療研究部 主任研究員
赤尾 昌治

専門医資格等

日本循環器学会
認定循環器専門医、社員、
近畿支部評議員、FJCS会員
日本内科学会
認定内科医、指導医、
近畿支部評議員
日本不整脈心電学会評議員
日本心血管脳卒中学会評議員
京都大学臨床教授、
非常勤講師

欧州心臓学会 (ESC)、
FESC会員
米国心臓協会 (AHA)
日本心臓病学会
京都大学医学博士
京都府医師会学術・
生涯教育委員

専門分野

心房細動、不整脈、臨床疫学

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
心血管カテーテル治療科 科長 心血管治療センター長 医長 医療安全管理副部長 臨床工学科長 産業医 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	阿部 充	日本循環器学会認定循環器専門医、 近畿支部評議員 日本内科学会総合内科専門医、指導医 日本心血管インターベンション治療学会 専門医、指導医、代議員 米国心臓協会 (AHA)、日本心臓病学会、 日本高血圧学会 京都大学医学博士	冠動脈、下肢動脈および大動脈 弁狭窄症に対するカテーテル治療、造影剤腎症、 臨床研究一般	
医長 病棟医長 リスクマネージャー 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	益永 信豊	日本循環器学会循環器専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本心血管インターベンション治療学会 認定医・専門医 腹部大動脈ステントグラフト指導医 日本心臓病学会、日本糖尿病学会	冠動脈カテーテル治療、末梢動脈カテーテル治療、大動脈ステントグラフト治療	
院内医長 不整脈チーフ 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	小川 尚	日本内科学会総合内科専門医・認定内科医 日本循環器学会循環器専門医 日本不整脈心電学会不整脈専門医 植込み型除細動器 (ICD) / ペーシングによる心不全治療 (CRT) 研修修了 アメリカ心臓協会 (AHA) ヨーロッパ心臓病学会 (ESC) ヨーロッパ不整脈学会 (EHRS)	電気生理、カテーテルアブレーション治療、デバイス治療	不整脈
院内医長 心不全チーフ 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	井口 守丈	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会総合内科専門医、指導医 日本超音波医学会超音波専門医 (心臓) 京都大学医学博士 心臓リハビリテーション指導士 日本心不全学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本心エコー学会、 SCCT研究会、アメリカ心臓協会 (AHA)、 ヨーロッパ心臓病学会 (ESC)	循環器領域の画像診断	心不全

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	石井 充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本心血管インターベンション治療学会 専門医 日本心臓病学会 JMECC アシスタントインストラクター、 ICLSインストラクター 京都大学 医学博士	冠動脈 カテーテル治療	
医師 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	藤野 明子	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本心血管インターベンション治療学会 認定医 兵庫医科大学 医学博士	冠動脈血管内 イメージング	
医師	井手 裕也	日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本循環器学会 京都大学 医学博士	循環器内科一般	
医師 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	濱谷 康弘	日本内科学会認定 総合内科専門医 日本循環器学会認定 循環器専門医 日本超音波学会認定 超音波専門医 日本心エコー図学会 SHD心エコー図認証医 ASD治療TEE認証医 日本心臓病学会、日本心不全学会、日本心 血管インターベンション治療学会 京都大学 医学博士	心不全緩和ケ ア、心エコー（経 食道心エコー・負 荷エコー）	心不全、 心筋症
医師	吉澤 尚志	日本内科学会総合内科専門医・認定内科医 日本循環器学会循環器専門医 日本不整脈心電学会不整脈専門医 植込み型除細動器（ICD）/ペーシングによ る心不全治療（CRT）研修了 日本超音波医学会超音波専門医	臨床不整脈 カテーテルアブ レーション	
医師	土井 康佑	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会 日本心血管インターベンション治療学会 （CVIT）	冠動脈および末 梢動脈のカテー テル検査・治療、 循環器全般	静脈血栓塞栓 症
医師	池田 周平	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会 日本心血管インターベンション治療学会	循環器内科一般	
レジデント	石上健二郎	日本内科学会 日本循環器学会 日本心血管インターベンション治療学会 日本心エコー図学会	循環器内科一般	
専攻医	南 公人	日本内科学会 日本循環器学会	循環器内科一般	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本循環器学会認定循環器研修施設

診療科の特色・体制

- 急性心筋梗塞を始めとする循環器救急疾患
24時間365日、万全の体制で対応します。狭心症、末梢動脈疾患などの血管内治療も、最高レベルの術者が、エビデンスに基づいた最善の治療を提供します。
- 不整脈
複数の不整脈専門医が在籍し、アブレーションやペースメーカー植込を始め全ての治療に対応します。
- 心室細動に伴う心停止
救命救急科とも密に連携を取り、補助循環であるECMO/PCPSを用いた蘇生を積極的に行っています。
- 高齢化で増加している心不全
心不全専門医、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士など多職種からなる心不全チームで、心不全患者の急性期から慢性期の管理、再入院予防を行っており、心不全患者の緩和ケアにも先駆的に取り組んでいます。

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	30.0	31.3
新入院患者数(名)	989	970
平均在院日数(日)	10.9	11.6

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	52.8	59.3

主な手術・検査の件数(2021年度)

冠動脈カテーテル治療	295件	カテーテルアブレーション	66件
冠動脈カテーテル検査	476件	ペースメーカー植込	46件
下肢動脈カテーテル治療	27件		

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
2021.04.01, 2021.06.02	循環器連携を深める会
	「実地診療における心房細動管理のポイント～実地医家も参加した京都市伏見区の登録研究から見えてきたもの～」 阿部 充
2021.04.10	高血圧治療セミナー in 京都
	「心房細動と高血圧～イベント予防のための血圧管理の重要性」 赤尾 昌治

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.04.14	第1回次世代OCT研究者のつどい
「OCTによる石灰化病変の評価」 藤野 明子	
2021.04.17	第8回日本心血管脳卒中学会学術集会 シンポジウム1「心不全と脳卒中」
「心不全は脳梗塞の原因になるか」 赤尾 昌治	
2021.04.17	第8回 日本心血管脳卒中学会学術集会
「ELDERCARE-AF試験適格基準に合致する高齢心房細動患者の背景と予後：伏見AFレジストリより」 井手 裕也、小川 尚、石上健二郎、池田 周平、土井 康佑、濱谷 康弘、藤野 明子、安 珍守、 石井 充、井口 守丈、益永 信豊、江里 正弘、辻 光、和田 啓道、長谷川浩二、阿部 充、 赤尾 昌治	
2021.04.17	第8回 日本心血管脳卒中学会学術集会
「心房細動患者における腎機能悪化の危険因子～伏見心房細動患者登録研究より～」 小川 尚、安 珍守、池田 周平、土井 康佑、濱谷 康弘、井手 裕也、藤野 明子、石井 充、 井口 守丈、益永 信豊、江里 正弘、和田 啓道、長谷川浩二、阿部 充、赤尾 昌治	
2021.04.20	ANAFIE REGISTRY in STROKE2021/JCS2021
「抗凝固薬のアドヒアランスと非弁膜症性心房細動の疾患理解に関連するANAFIE Registry登録患者の臨床特性」 赤尾 昌治	
2021.04.22	日本人高齢心房細動の治療戦略
「今、改めて日本人AF患者の脳梗塞リスクを考え直す ～伏見AFレジストリ10年の成果」 赤尾 昌治	
2021.04.23	J-ELD Web Series 人生100年時代～梗塞と出血の両リスクを考慮した適正使用の在り方
「低腎機能患者の抗凝固療法をどうするか～J-ELD AF研究の最新解析から」 赤尾 昌治	
2021.04.24	かかりつけ医のための抗血栓療法セミナー
「今、改めて日本人AF患者の脳梗塞リスクを考え直す ～伏見AFレジストリ10年の成果」 赤尾 昌治	
2021.05.11	第5回循環器よろずカンファランスWEBセミナー
「その抗血小板薬併用、本当に必要ですか？～最新のエビデンスとガイドラインから」 赤尾 昌治	
2021.05.12	J-ELD AF Web Series 超高齢化社会の明日を考える
「高齢・低体重・低腎機能の日本人患者にアピキサバンを活かす～J-ELD AFの最新サブ解析から」 赤尾 昌治	
2021.05.20	高齢者トータルケアセミナー@長崎
「今、改めて日本人AF患者の脳梗塞リスクを考え直す ～伏見AFレジストリ10年の成果」 赤尾 昌治	
2021.05.27	宍粟市高齢者AFトータルケアセミナー
「今、改めて日本人AF患者の脳梗塞リスクを考え直す ～伏見AFレジストリ10年の成果」 赤尾 昌治	
2021.05.29	第10回禁煙治療研究会
「世界禁煙デー 記念セミナー「COVID-19,心血管病と禁煙治療」～コロナうつ、心血管疾患と禁煙～」 長谷川浩二	
2021.05.31	心房細動 Web Seminar @ 大垣
「今、改めて日本人AF患者の脳梗塞リスクを考え直す ～伏見AFレジストリ10年の成果」 赤尾 昌治	
2021.06.05	日本人の脳梗塞リスクを考え直す @ 奈良
「今、改めて日本人AF患者の脳梗塞リスクを考え直す ～伏見AFレジストリ10年の成果」 赤尾 昌治	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.06.12	PROTECTION座談会
[TASK-AF 伏見パイロットプログラム] 赤尾 昌治	
2021.06.18	J-ELD AF Web Series 将来の超高齢化社会を見据えて、抗凝固療法を再考する
[高齢・低体重・低腎機能の日本人患者にアピキサバンを活かす～J-ELD AFの最新サブ解析から] 赤尾 昌治	
2021.06.19	負荷エコー研究会
[僧帽弁逆流症患者に対する、ハンドグリップ負荷右心カテーテルの経験] 濱谷 康弘	
2021.06.25	鳥取県西部抗凝固療法セミナー
[低腎機能患者の抗凝固療法をどうするか～J-ELD AF研究の最新解析から] 赤尾 昌治	
2021.06.26	第142回日本循環器学会北陸地方会共催セッション5
[高齢・低体重・低腎機能の日本人患者にアピキサバンを活かす～J-ELD AFの最新サブ解析から] 赤尾 昌治	
2021.06.28	高齢者の循環器疾患を考える会 @ 船橋
[今、改めて日本人AF患者の脳梗塞リスクを考え直す ～伏見AFレジストリ10年の成果] 赤尾 昌治	
2021.07.01	第67回日本不整脈心電学会学術大会ランチョンセミナー
[日本人AF患者のリスクを見直す～伏見AFレジストリ10年を振り返って] 赤尾 昌治	
2021.07.01	67th Japanese Heart Rhythm Society
[Incidence and predictors of iatrogenic atrial septal defect (IASD) after pulmonary vein isolation (PVI) by transesophageal echocardiogram (TEE)] Takashi Yoshizawa, Satoshi Shizuta, Munekazu Tanaka, Akihiro Komasa, Takeshi Kimura.	
2021.07.07	J-ELD AF Web Series 日本人高齢心房細動に対する新エビデンス～J-ELD AF徹底解説～
[高齢・低体重・低腎機能の日本人患者にアピキサバンを活かす～J-ELD AFの最新サブ解析から] 赤尾 昌治	
2021.07.11	Expert Meeting on Cardiology～Road to NE JM
[Rivaroxaban Monotherapy versus Combination Therapy According to Patient Risk of Stroke and Bleeding in Atrial Fibrillation and Stable Coronary Disease : AFIRE trial sub-analysis] 赤尾 昌治	
2021.07.15	循環器フォーラム～平成一二三の会～
[高齢・低体重・低腎機能の日本人患者にアピキサバンを活かす～J-ELD AFの最新サブ解析から] 赤尾 昌治	
2021.07.15	彦根循環器フォーラム
[心不全治療の新しい選択肢～SGLT2阻害薬の可能性～] 益永 信豊	
2021.07.17	第8回 伏見AFネットワークミーティング
[心房細動アブレーション最近の話題～心不全患者での治療戦略も含めて～] 吉澤 尚志	
2021.07.21	J-ELD AF Web Series 人生100年時代を迎えた今、高齢者の抗凝固療法をみつめなおす
[高齢・低体重・低腎機能の日本人患者にアピキサバンを活かす～J-ELD AFの最新サブ解析から] 赤尾 昌治	
2021.07.26	Tuen Mun Hospital Cardiology Team Lecture
[The latest real-world data on NOACs for elderly patients in Japan including ANAFIE] 赤尾 昌治	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.07.30	K-PCI
[伏見AFレジストリから見たAF患者とPCI、透析、死因、心不全] 阿部 充	
2021.07.30	K-PCIカンファレンス (研究会)
[中心静脈ポートカテーテル断裂に対して経カテーテル的に回収し得た一例] 井手 裕也、阿部 充、石上健二郎、池田 周平、土井 康佑、濱谷 康弘、藤野 明子、石井 充、井口 守丈、小川 尚、益永 信豊、赤尾 昌治	
2021.07.31	GENERAL座談会～プライマリケア医が担う抗凝固療法
[GENERAL研究が示す心原性脳塞栓症予防のあり方] 赤尾 昌治	
2021.08.02	Queen Elizabeth Hospital Medical Team Lecture
[The latest real-world data on NOACs for elderly patients in Japan including ANAFIE] 赤尾 昌治	
2021.08.26	東北 Stroke Expert Meeting
[その抗血小板薬併用、本当に必要ですか?～最新のエビデンスとガイドラインから] 赤尾 昌治	
2021.08.27-30	ESC (European Society of Cardiology) Congress 2021
[Previous pacemaker therapy was not associated with the risk of clinical events in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry.] Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Kimihito Minami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2021.08.27-30	ESC (European Society of Cardiology) Congress 2021
[Predictors and risk model for heart failure hospitalization in atrial fibrillation patients without pre-existing heart failure : The Fushimi AF Registry.] Yasuhiro Hamatani, Moritake Iguchi, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2021.08.27-30	ESC (European Society of Cardiology) Congress 2021
[Association of left ventricular end-diastolic diameter with incidence of thromboembolism in patients with non-valvular atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry] Yuji Tezuka, Kosuke Doi, Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2021.08.27-30	ESC (European Society of Cardiology) Congress 2021
[The relationship between diastolic blood pressure and the risk of cardiovascular events in patients with atrial fibrillation whose systolic blood pressure was treated to less than 130 mmHg] Syuhei Ikeda, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Kenjiro Ishigami, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2021.08.27-30	ESC (European Society of Cardiology) Congress 2021
[Association of the degree of thrombocytopenia with cause of death in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry] Kenjiro Ishigami, Kimihito Minami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2021.08.27-30	ESC (European Society of Cardiology) Congress 2021
[Influence of renal dysfunction on clinical outcomes in elderly patients with atrial fibrillation:a subanalysis of the phase 3, randomized, placebo-controlled ELDERCARE-AF trial] Tetsuro Yoshida, Akihiro Nakamura, Junichi Funada, Mari Amino, Wataru Shimizu, Masayuki Fukuzawa, Saori Watanabe, Takuya Hayashi, Takeshi Yamashita, Ken Okumura, Masaharu Akao.	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.08.28-31	ESC (European Society of Cardiology) Congress 2021—The Digital Experience [Association of low total cholesterol level with clinical outcomes in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF registry] Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Yoshimori An, Akiko, Fujino, Yasuhiro Hamatani, Kosuke Doi, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
2021.09.14	高齢心房細動患者に対する最適な抗凝固療法マネジメント [高齢心房細動患者に対する最適な抗凝固療法マネジメント] 赤尾 昌治
2021.09.15	高齢者心房細動治療を考える @ 立川 [今、改めて日本人AF患者の脳梗塞リスクを考え直す ~伏見AFレジストリ10年の成果] 赤尾 昌治
2021.09.17-19	第69回 日本心臓病学会学術集会 [僧帽弁逆流症患者に対する、ハンドグリップ負荷を用いた右心カテーテル検査の有効性に関する検討] 濱谷 康弘
2021.09.18	第69回日本心臓病学会学術集会 [最近フォローしていなかった循環器の話「不整脈診断～最近の話題」] 赤尾 昌治
2021.09.22	イグザレルトWEBカンファレンス [その抗血小板薬併用、本当に必要ですか?～最新のエビデンスとガイドラインから] 赤尾 昌治
2021.09.24	カテーテルアブレーション関連秋季大会2021 [クライオバルーンアブレーション術後遠隔期 肺静脈再伝導についての検討 ～多施設登録研究 BREAK-AF studyより～] 吉澤 尚志、静田 聡、西脇 修司、小正 晃裕、木村 剛、佐々木康博、小堀 敦志、古川 裕、 廣上 潤、廣島 謙一、安藤 献児
2021.09.29	ANAFIE REGISTRY Round Table Discussion [高齢非弁膜症性心房細動患者における腎機能と臨床アウトカムの関係：腎機能別サブ解析] 赤尾 昌治
2021.10.01-03	第25回 日本心不全学会学術集会 [心不全入院患者に対する Integrated Palliative Care Outcome Scales (IPOS) を用いた全人的苦痛の評価と介入] 濱谷 康弘、井口 守丈、池山侑里花、樺田 敦子、小川 恵、安田 夏盛、藤本 佳奈、市原 英則、 坂井みさき、木下 多愛、中島 康代、赤尾 昌治
2021.10.02	高齢者 Total Care Web Seminar @ 大阪 [超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治
2021.10.04	ANAFIE REGISTRY Round Table Discussion [超ハイリスク患者の心房細動診療を考える-高出血リスク集団解析] 赤尾 昌治
2021.10.07	超高齢社会の心房細動治療を考える [超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治
2021.10.09	第37回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会 [中心静脈ポートカテーテル断裂に対して経カテーテル的に回収し得た一例] 井手 裕也、阿部 充、出川佳奈子、山賀 郁、石上健二郎、池田 周平、土井 康佑、濱谷 康弘、 藤野 明子、石井 充、井口 守丈、小川 尚、益永 信豊、赤尾 昌治
2021.10.12	高齢者の循環器疾患を考える @ 札幌 [超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.10.14	脳・循環器疾患カンファレンス @ 神戸
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2021.10.16	京都医療センター第17回 医療連携フォーラム
「ハートチームで提供する低侵襲弁膜症治療～最新のハイブリッド手術室で広がる心臓治療の未来!～」 阿部 充	
2021.10.23	高齢者トータルケアセミナー @ 東大阪
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2021.10.24	かかりつけ医のためのエキスパートセミナー：地域医療連携を踏まえた循環器診療
「連携手帳を活用した心房細動の地域医療連携」 赤尾 昌治	
2021.10.25	高齢者心房細動Webセミナー @ 柏
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2021.10.29	Eldercare Seminar in Kochi
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2021.10.29	CCT2021
「OCTを用いた石灰化病変の評価」 藤野 明子	
2021.10.30	Heart Disease Web Seminar
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2021.10.31	Indo-Japan OCT Club
「OCT Case Sharing -Calcified Lesion」 Akiko Fujino.	
2021.11.11	高齢者心房細動Webセミナー@福井
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2021.11.12	不整脈 Expert Meeting @ 神戸
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2021.11.13-15	American Heart Association Scientific Sessions 2021
「Association between clinical outcomes and bleeding risk factors in very elderly patients with atrial fibrillation at high bleeding risk : The Fushimi AF Registry」 Yuya Ide, Hisashi Ogawa, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Akiko Fujino, Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2021.11.13-15	American Heart Association Scientific Sessions 2021
「Prognostic Impact of Low on-treatment Diastolic Blood Pressure on the First Episode of Stroke/Systolic Embolism in Japanese Patients with Atrial Fibrillation : The Fushimi AF Registry」 Syuhei Ikeda, Hisashi Ogawa, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Takashi Yoshizawa, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2021.11.13-15	American Heart Association Scientific Sessions 2021
「Long-term clinical outcomes after major versus non-major bleeding in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry」 Kenjiro Ishigami, Hisashi Ogawa, Kimihito Minami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.11.13-15	American Heart Association Scientific Sessions 2021
[Fine fibrillatory wave as a risk factor for heart failure event in atrial fibrillation patients : The Fushimi AF Registry] Tetsuma Kawaji, Hisashi Ogawa, Yasuhiro Hamatani, Masashi Kato, Takafumi Yokomatsu, Shinji Miki, Mitsuru Abe, and Masaharu Akao.	
2021.11.13-15	American Heart Association Scientific Sessions 2021
[Echocardiographic Score versus Conventional Clinical Risk Score to Predict Thromboembolic Events in Younger Patients or First Thromboembolic Events with Non-valvular Atrial Fibrillation in Japan : The Fushimi AF Registry] Yuji Tezuka, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2021.11.13-15	American Heart Association Scientific Sessions 2021
[Temporal Change and its Determinants of Psychological Symptoms during Hospitalization Among Heart Failure Patients] Yasuhiro Hamatani, Moritake Iguchi, Yurika Ikeyama, Atsuko Kunugida, Megumi Ogawa, Natsushige Yasuda, Kana Fujimoto, Hidenori Ichihara, Misaki Sakai, Tae Kinoshita, Yasuyo Nakashima, and Masaharu Akao.	
2021.11.16	K-PCI OCT (研究会)
[左冠動脈前下行枝のlotus root様病変の治療にOCTが有用であった一例] 井手 裕也、阿部 充、南 公人、石上健二郎、池田 周平、土井 康佑、濱谷 康弘、吉澤 尚志、藤野 明子、石井 充、井口 守丈、小川 尚、益永 信豊、赤尾 昌治	
2021.11.17	OCU Expert skill up conference
[心不全緩和ケアにおける現状と課題] 濱谷 康弘	
2021.11.19	指宿医師会WEB講演会
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2021.11.20	人生100年時代を見据えた抗凝固療法 @ 京都
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2021.11.24	超高齢者の心房細動治療を考える @ 大阪
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2021.11.29	医学論文について学ぶ会 @ 大阪
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2021.12.02	心房細動Web Seminar～超高齢社会における抗凝固療法を考える @ 茨城
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2021.12.02	心房細動 On-line Seminar 超高齢社会の新しい選択肢を考える
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2021.12.06	第一三共 抗血栓シアター：日本の循環器疾患を再考する～超高齢社会に於ける治療戦略
[超高齢・高出血リスク心房細動に対する抗凝固療法] 赤尾 昌治	
2021.12.09	Eldercare-AF Symposium @ 長岡
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2021.12.11	地域で診る心房細動治療 Webセミナー～伏見AFレジストリ10年を迎えて～
[始まりは病診連携パス～伏見AFレジストリの10年を振り返る] 赤尾 昌治	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.12.11	イグザレルト X-choose conference
「循環器緩和ケアにおける現状と課題」 濱谷 康弘	
2021.12.11	第132回日本循環器学会近畿地方会
「右室内に舌癌の転移および血栓を疑う腫瘤を認めた一例」 土井 康佑、安田 佳織、南 公人、石上健二郎、池田 周平、濱谷 康弘、吉澤 尚志、井手 裕也、 藤野 明子、石井 充、井口 守丈、小川 尚、益永 信豊、和田 啓道、中島 康代、長谷川浩二、 阿部 充、赤尾 昌治	
2021.12.11	第132回日本循環器学会近畿地方会
「低酸素血症の原因検索に苦慮した症例」 池田 周平、井口 守丈、濱谷 康弘、南 公人、石上健二郎、土井 康佑、吉澤 尚志、井手 裕也、 藤野 明子、石井 充、小川 尚、益永 信豊、中島 康代、和田 啓道、長谷川浩二、阿部 充、 赤尾 昌治	
2021.12.13	超高齢社会における抗凝固療法を考える @ 郡山
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2021.12.16	超高齢者の抗凝固療法を考えるWebセミナー@ 山口
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2021.12.21	新時代の循環器診療を考える会 @ 金沢
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2021.12.22	NBI web seminar
「心不全緩和ケアにおける現状と課題」 濱谷 康弘	
2021.12.23	JCS 2020 Guideline Focused Update on Antithrombotic Therapy in Patients with Coronary Artery Disease
「Case 1 : A Case with Atrial Fibrillation who needs PCI」 Akiko Fujino	
2022.01.11	心房細動 Meet the Expert @ 浜松
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2022.01.13	ANAFIE REGISTRY Round Table Discussion
「高齢非弁膜症性心房細動患者におけるポリファーマシーのアウトカムへの影響：ANAFIE Registryのサブ解析」 赤尾 昌治	
2022.01.14	超高齢者の心房細動診療を考える @ 千葉旭
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	
2022.01.15	Heart Disease Conference @ 大阪
「その抗血小板薬併用、本当に必要ですか？～最新のエビデンスとガイドラインから」 赤尾 昌治	
2022.01.15	脳心血管病トータルケアセミナー (研究会)
「Real world data でみた超高齢・高出血リスク心房細動患者の臨床像と予後 ～エドキサバン15mgの使用を見据えて」 井手 裕也	
2022.01.18	高齢者心房細動Webセミナー @ 川口
「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.01.21 「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	高齢者トータルケアWebセミナー @ 苫小牧
2022.01.25 「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	川内市医師会学術講演会
2022.01.27 「始まりは病診連携パス～伏見AFレジストリの10年を振り返る」 赤尾 昌治	Cardiovascular Expert Web Seminar @ 大阪
2022.01.29 「血栓リスクの層別化から見た抗血栓治療戦略を考える」 赤尾 昌治	Expert Meeting on Cardiology～Road to NEJM
2022.02.04 「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	高齢者AFのトータルケア @ 新発田
2022.02.05 「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	Heart Rhythm Area Meeting @ 堺
2022.02.05 「冠動脈疾患マネジメントにおいてイメージングが果たす役割とは？」 藤野 明子	OCT educational webinar@Yamaguchi
2022.02.06 「冠動脈疾患と腎障害～正しく恐れる～」 阿部 充	第17回日本PCIフェローコース
2022.02.08 「心房細動・心不全と脳梗塞 ～change practiceを目指して～」 濱谷 康弘	HOPES seminar
2022.02.09 「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	DS net in Kyoto ELDERCARE Meeting
2022.02.10 「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	高齢者トータルケアセミナー @ 高崎
2022.02.11 「心房細動患者におけるペースメーカー植込みの予測因子に関する検討～伏見心房細動患者登録研究より～」 小川 尚、吉澤 尚志、南 公人、石上健二郎、池田 周平、土井 康佑、濱谷 康弘、井手 裕也、 藤野 明子、石井 充、井口 守丈、益永 信豊、江里 正弘、和田 啓道、長谷川浩二、阿部 充、 赤尾 昌治	第14回植込みデバイス関連冬季大会
2022.02.16 「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	高齢者心房細動セミナー @ 愛媛
2022.02.17 「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	高齢者トータルケアセミナー @ 神奈川
2022.02.19 「左冠動脈前下行枝のlotus root様病変の治療にOCTが有用であった一例」 井手 裕也、阿部 充、南 公人、石上健二郎、池田 周平、土井 康佑、濱谷 康弘、吉澤 尚志、 藤野 明子、石井 充、井口 守丈、小川 尚、益永 信豊、赤尾 昌治	第38回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.03.02	循環器治療最前線 in Kagawa
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2022.03.04	脈の日・心房細動週間セミナー in 弘前
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2022.03.05	Tokyo Physiology 2022 by FRIENDS Live
[PCIはCCS病変の不安定化を予防するか？ 予防します なぜならImagingが示しています] 藤野 明子	
2022.03.11	第86回日本循環器学会学術総会
[Change of the combination therapy of oral anticoagulant and antiplatelet drug:The Fushimi AF Registry.] 益永 信豊、小川 尚、石上健二郎、池田 周平、土井 康佑、吉澤 尚志、濱谷 康弘、井手 裕也、 藤野 明子、石井 充、井口 守丈、江里 正弘、辻 光、和田 啓道、長谷川浩二、阿部 充、 赤尾 昌治	
2022.03.11	第86回日本循環器学会学術集会
[The clinical characteristics and outcomes of very elderly ELDERCARE-AF eligible Japanese patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF registry] Yuya Ide, Hisashi Ogawa, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Akiko Fujino, Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[10-year trend of antithrombotic therapy status and outcomes of Japanese atrial fibrillation patients : The Fushimi AF Registry] Masaharu Akao, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe.	
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[Relationships between Direct Oral Anticoagulants Doses and Clinical Outcomes in Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation : ANAFIE Registry Sub-study] Masaharu Akao	
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[Clinical characteristics and outcomes of Japanese atrial fibrillation patients with poor medication adherence : A sub-analysis of GENERAL study] Masaharu Akao, Hikari Tsuji, Kengo Kusano, Kunihiko Matsui, Shinya Hiramitsu, Yutaka Hatori, Hironori Odakura, Hisao Ogawa.	
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[Rivaroxaban monotherapy versus combination therapy according to coronary stent type and lesion site: The AFIRE trial sub-analysis] Mitsuru Ishii, Masaharu Akao, Satoshi Yasuda, Koichi Kaikita, Junya Ako, Tetsuya Matoba, Masato Nakamura, Katsumi Miyauchi, Nobuhisa Hagiwara, Kazuo Kimura, Atsushi Hirayama, Kunihiko Matsui, Hisao Ogawa.	
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[Blood pressure control level and risk of major bleeding in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry 10-year follow-up] Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Akiko Fujino, Yuya Ide, Yasuhiro Hamatani, Takashi Yoshizawa, Kosuke Doi, Syuhei Ikeda, Kenjiro Ishigami, Kimihito Minami, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[Changes in digitalis drug usage in patients with atrial fibrillation : Fushimi AF Registry] Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Takashi Yoshizawa, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[The relationship between diastolic blood pressure achieved at target systolic blood pressure and the risk of cardiovascular events in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry] Syuhei Ikeda, Moritake Iguchi, Kenjiro Ishigami, Yuya Aono, Kosuke Doi, Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , Masaharu Akao.	
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[Machine learning risk prediction for incident heart failure in patients with atrial fibrillation] Yasuhiro Hamatani, Hidehisa Nishi, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Shunichi Fukuda, and Masaharu Akao.	
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[Incidence, Prognostic Significance, and Risk Prediction of Heart Failure Hospitalization in Japanese Patients with Atrial Fibrillation : The Fushimi AF Registry] Yasuhiro Hamatani, Hidehisa Nishi, Moritake Iguchi, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Takashi Yoshizawa, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[Determinants and Prognostic Significance of Symptom Burdens in Hospitalized Heart Failure Patients —Prospective Survey Using Integrated Palliative Care Outcome Scale—] Yasuhiro Hamatani, Moritake Iguchi, Yurika Ikeyama, Atsuko Kunugida, Megumi Ogawa, Natsushige Yasuda, Hidenori Ichihara, Kana Fujimoto, Misaki Sakai, Tae Kinoshita, Yasuyo Nakashima, and Masaharu Akao.	
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[Effect of beta blockers for preventing new-onset heart failure in atrial fibrillation: The Fushimi AF registry] <u>Moritake Iguchi</u> , Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Yoshimori An, Akiko, Fujino, Yasuhiro Hamatani, Kosuke Doi, Masahiro Esato, <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2022.03.11-13	第86回日本循環器学会学術集会
[Difference of the impact of valvular heart disease on heart failure hospitalization by natriuretic peptide level in Japanese atrial fibrillation patients : The Fushimi AF Registry] Kosuke Doi, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Yasuhiro Hamatani, Takashi Yoshizawa, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2022.03.15	心房細動セミナー
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.03.23	日本循環器学会2022 速報 web セミナー
[伏見AFレジストリからみた、ニッポンの抗凝固療法の10年] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.03.26	宇治久世医師会学術講演会
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.03.28	北部医療圏高齢者 AF 治療最前線
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.03.29	エリキュースインターネット講演会
[抗凝固薬のアドヒアランス向上のための4つのポイント] <u>赤尾 昌治</u>	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

総説

心房細動患者の抗凝固療法の現状と今後
Cardiac Practice, 32, 1, 32-37, 2021.09.30, メディカルレビュー
赤尾 昌治

総説

心房細動のリスク評価
最新臨床脳卒中学, 80, 増刊号1, 279-284, 2022.01.31, 日本臨牀社
赤尾 昌治

総説

J-ELD AF研究
最新臨床脳卒中学, 80, 増刊号2, 567-574, 2022.02.28, 日本臨牀社
赤尾 昌治

解説

「透析患者に心房細動は多いのですか？」
臨床透析, 37, 6, 45-50, 2021.06.10, 日本メディカルセンター
赤尾 昌治

総説

心房細動の薬物治療
循環器診療コンプリート「不整脈」, 81-91, 2021.09.05, 学研メディカル秀潤社
安珍 守, 赤尾 昌治

総説

抗凝固薬の使い方
循環器ジャーナル, 70, 2, in press, 医学書院
赤尾 昌治

解説

Current Review 循環器領域
Cardio-Coagulation, 9, 1, in press, メディカルレビュー
赤尾 昌治

解説

サルコイドーシス
国循・天理よろづ印 心エコー読影ドリル, 70-73, 2021.04, 医学書院
濱谷 康弘

解説

ARVC
国循・天理よろづ印 心エコー読影ドリル, 78-81, 2021.04, 医学書院
濱谷 康弘

解説

感染性心内膜炎
国循・天理よろづ印 心エコー読影ドリル, 110-113, 2021.04, 医学書院
濱谷 康弘

解説

感染性心内膜炎
循環器診療エッセンシャル, 221-226, 2022.03, 南江堂
濱谷 康弘

原著論文

Relation of renal function to mid-term prognosis of stable angina patients with high- or low-dose pitavastatin treatment : REAL-CAD substudy.
Am Heart J, 240, 89-100, 2021
Abe M, Ozaki Y, Takahashi H, Ishii M, Masunaga N, Ismail TF, Iimuro S, Fujita R, Iwata H, Sakuma I, Nakagawa Y, Hibi K, Hiro T, Fukumoto Y, Hokimoto S, Miyauchi K, Ogawa H, Daida H, Shimokawa H, Saito Y, Matsuzaki M, Akao M, Kimura T and Nagai R.

原著論文

Clinical outcomes according to dose reduction criteria of apixaban in Japanese elderly patients with atrial fibrillation : J-ELD AF Registry subanalysis.

Heart Vessels, 36, 7, 1035-1046, 2021

Akao M, Yamashita T, Suzuki S and Okumura K.

原著論文

Rivaroxaban monotherapy versus combination therapy according to patient risk of stroke and bleeding in atrial fibrillation and stable coronary disease : AFIRE trial subanalysis.

Am Heart J., 236, 59-68, 2021

Akao M, Yasuda S, Kaikita K, Ako J, Matoba T, Nakamura M, Miyauchi K, Hagiwara N, Kimura K, Hirayama A, Matsui K and Ogawa H.

原著論文

Major adverse cardiovascular events and mortality after catheter ablation in Japanese patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry.

Heart Vessels., 36, 8, 1219-1227, 2021

Esato M, An Y, Ogawa H, Wada H, Hasegawa K, Tsuji H, Abe M and Akao M.

原著論文

Aspirin versus P2Y₁₂ inhibitors with anticoagulation therapy for atrial fibrillation.

Heart., 107, 21, 1731-1738, 2021

Fukaya H, Ako J, Yasuda S, Kaikita K, Akao M, Matoba T, Nakamura M, Miyauchi K, Hagiwara N, Kimura K, Hirayama A, Matsui K and Ogawa H.

原著論文

Isometric Handgrip Stress Test during Right Heart Catheterization in Patients with Mitral Regurgitation -A Case Series Study.

Intern Med, 61, 12, 1817-22, 2022.

Hamatani Y, Iguchi M, Minami K, Ishigami K, Ikeda S, Doi K, Yoshizawa T, Ide Y, Fujino A, Ishii M, Ogawa H, Masunaga N, Abe M and Akao M.

原著論文

Prognostic significance of natriuretic peptide levels in atrial fibrillation without heart failure.

Heart., 107, 9, 705-712, 2021

Hamatani Y, Iguchi M, Ueno K, Aono Y, Esato M, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Ogawa H, Abe M, Morita S and Akao M.

原著論文

Periprocedural management and clinical outcomes of invasive procedures after venous thromboembolism: from the COMMAND VTE registry.

J Thromb Thrombolysis., 53, 2, 540-549, 2022

Hata R, Yamashita Y, Morimoto T, Kadota K, Amano H, Murai R, Osakada K, Sano A, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Doi K, Kobayashi Y, Toyofuku M, Izumi T, Tada T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Saga S, Nishimoto Y, Sasa T, Sakamoto J, Kinoshita M, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Tsujisaka Y, Seko Y, Matsushita K, Yoneda F, Kato T, Ono K and Kimura T.

原著論文

Clinical characteristics and outcomes of very elderly patients with atrial fibrillation at high bleeding risk —The Fushimi AF Registry.

Circ Rep., 3, 11, 629-638, 2021

Ide Y, Ogawa H, Ishigami K, Ikeda S, Doi K, Hamatani Y, Fujino A, An Y, Ishii M, Iguchi M, Masunaga N, Esato M, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Abe M, Lip GYH and Akao M.

原著論文

Ischemic Stroke in Acute Decompensated Heart Failure : From the KCHF Registry.

J Am Heart Assoc., 10, 21, e022525, 2021

Iguchi M, Kato T, Yaku H, Morimoto T, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Hamatani Y, Yamashita Y, Masunaga N, Ogawa H, Ishii M, An Y, Taniguchi R, Kato M, Takahashi M, Jinnai T, Ikeda T, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Kawato M, Seko Y, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Abe M, Akao M, Sato Y, Kuwahara K and Kimura T.

原著論文

Association of low body weight with clinical outcomes in elderly atrial fibrillation patients receiving apixaban-J-ELD AF Registry Subanalysis.

Cardiovasc Drugs Ther, 36, 4, 691-703, 2022.

Kadosaka T, Nagai T, Suzuki S, Sakuma I, Akao M, Yamashita T, Anzai T and Okumura K.

原著論文

Bleeding and subsequent cardiovascular events and death in atrial fibrillation with stable coronary artery disease : Insights from the AFIRE Trial.

Circ Cardiovasc Interv., 14, 11, e014476, 2021

Kaikita K, Yasuda S, Akao M, Ako J, Matoba T, Nakamura M, Miyauchi K, Hagiwara N, Kimura K, Hirayama A, Matsui K and Ogawa H.

原著論文

Association of inverted T wave during atrial fibrillation rhythm with subsequent cardiac events.

Heart., 108, 3, 178-185, 2022

Kawaji T, Ogawa H, Hamatani Y, Kato M, Yokomatsu T, Miki S, Abe M and Akao M.

原著論文

Effectiveness and safety of rivaroxaban by general practitioners - A multicenter, prospective study in Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation (GENERAL).

Circ J., 85, 8, 1275-1282, 2021

Kusano K, Sugishita N, Akao M, Tsuji H, Matsui K, Hiramitsu S, Hatori Y, Odakura H, Kamada H, Miyamoto K and Ogawa H.

原著論文

Rivaroxaban Monotherapy in Patients With Atrial Fibrillation After Coronary Stenting : Insights From the AFIRE Trial.

JACC Cardiovasc Interv., 14, 21, 2330-2340, 2021

Matoba T, Yasuda S, Kaikita K, Akao M, Ako J, Nakamura M, Miyauchi K, Hagiwara N, Kimura K, Hirayama A, Matsui K, Ogawa H.

原著論文

Antithrombotic Therapy for Atrial Fibrillation and Coronary Artery Disease in Patients With Prior Atherothrombotic Disease : A Post Hoc Analysis of the AFIRE Trial.

J Am Heart Assoc., 10, 21, e020907, 2021

Matsuzawa Y, Kimura K, Yasuda S, Kaikita K, Akao M, Ako J, Matoba T, Nakamura M, Miyauchi K, Hagiwara N, Hirayama A, Matsui K and Ogawa H.

原著論文

Concomitant Mitral Regurgitation in Severe Aortic Stenosis - A Report From the CURRENT AS Registry.

Circ J., 86, 3, 427-437, 2022

Murai R, Kawase Y, Taniguchi T, Morimoto T, Kadota K, Ohya M, Shimada T, Maruo T, Fuku Y, Komiya T, Ando K, Hanyu M, Kanamori N, Aoyama T, Murata K, Onodera T, Yamazaki F, Kitai T, Furukawa Y, Koyama T, Miyake M, Izumi C, Nakagawa Y, Yamanaka K, Mitsuoka H, Shirofumi M, Kato M, Miki S, Nakajima H, Hirano Y, Miyazaki S, Saga T, Sugioka S, Matsuda S, Matsuda M, Ogawa T, Nagao K, Inada T, Nakayama S, Mabuchi H, Takeuchi Y, Sakamoto H, Sakaguchi G, Yamane K, Eizawa H, Toyofuku M, Tamura T, Iwakura A, Ishii M, Akao M, Shiraga K, Minamino-Muta E, Kato T, Inoko M, Ueyama K, Ikeda T, Himura Y, Komasa A, Ishii K, Hotta K, Sato Y, Fujiwara K, Kato Y, Kouchi I, Inuzuka Y, Ikeguchi S, Miwa S, Maeda C, Shinoda E, Nishizawa J, Jinnai T, Higashitani N, Kitano M, Morikami Y, Kitaguchi S, Minatoya K and Kimura T.

原著論文

Predicting cerebral infarction in patients with atrial fibrillation using machine learning : The Fushimi AF registry.

J Cereb Blood Flow Metab, 42, 5, 746-756, 2022.

Nishi H, Oishi N, Ogawa H, Natsue K, Doi K, Kawakami O, Aoki T, Fukuda S, Akao M and Tsukahara T.

原著論文

Characteristics and clinical outcomes in atrial fibrillation patients classified using cluster analysis : the Fushimi AF Registry.

Europace., 23, 9, 1369-1379, 2021

Ogawa H, An Y, Nishi H, Fukuda S, Ishigami K, Ikeda S, Doi K, Ide Y, Hamatani Y, Fujino A, Ishii M, Iguchi M, Masunaga N, Esato M, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Abe M, Tsukahara T, Lip GYH and Akao M.

原著論文

Clinical Outcomes of Very Elderly Patients With Atrial Fibrillation Receiving On-label Doses of Apixaban : J-ELD AF Registry Subanalysis.

J Am Heart Assoc., 10, 15, e021224, 2021

Okada M, Inoue K, Tanaka N, Sakata Y, Akao M, Yamashita T, Suzuki S and Okumura K.

原著論文

A novel risk stratification system for ischemic stroke in Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation.
Circ J., 85, 8, 1254-1262, 2021

Okumura K, Tomita H, Nakai M, Kodani E, Akao M, Suzuki S, Hayashi K, Sawano M, Goya M, Yamashita T, Fukuda K, Ogawa H, Tsuda T, Isobe M, Toyoda K, Miyamoto Y, Miyata H, Okamura T and Sasahara Y.

原著論文

Predictors for a high apixaban level in elderly patients with atrial fibrillation prescribed reduced dose of apixaban.

Eur J Clin Pharmacol., 77, 11, 1757-1758, 2021

Suzuki S, Yamashita T, Akao M and Okumura K.

原著論文

Two-year outcomes of more than 30 000 elderly patients with atrial fibrillation: results from the All Nippon AF In the Elderly (ANAFIE) Registry.

Eur Heart J Qual Care Clin Outcomes., 8, 2, 202-213, 2022

Yamashita T, Suzuki S, Inoue H, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Okumura K, Koretsune Y, Shimizu W, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Kaburagi J and Takita A.

原著論文

Risk factors of thrombotic recurrence and major bleeding in patients with intermediate-risk for recurrence of venous thromboembolism.

J Thromb Thrombolysis., 53, 1, 182-190, 2022

Yamashita Y, Amano H, Morimoto T, Kadota K, Hata R, Matsushita K, Osakada K, Sano A, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Inoko M, Tada T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Nishimoto Y, Sasa T, Sakamoto J, Kinoshita M, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Kato T, Ono K and Kimura T.

原著論文

Severity of pulmonary embolism at initial diagnosis and long-term clinical outcomes: From the COMMAND VTE Registry.

Int J Cardiol., 343, 107-113, 2021

Yamashita Y, Morimoto T, Kadota K, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Inoko M, Tada T, Izumi T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Nishimoto Y, Sasa T, Sakamoto J, Kinoshita M, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Kato T, Ono K and Kimura T.

原著論文

Background characteristics and anticoagulant usage patterns of elderly non-valvular atrial fibrillation patients in the ANAFIE registry: a prospective, multicentre, observational cohort study in Japan.

BMJ Open., 11, 3, e044501., 2021

Yasaka M, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Kaburagi J, Takita A and Inoue H.

原著論文

Clinical Outcomes of Rivaroxaban Monotherapy in Heart Failure Patients With Atrial Fibrillation and Stable Coronary Disease: Insights From the AFIRE Trial.

Circulation., 144, 17, 1449-1451, 2021

Yazaki Y, Nakamura M, Iijima R, Yasuda S, Kaikita K, Akao M, Ako J, Matoba T, Miyauchi K, Hagiwara N, Kimura K, Hirayama A, Matsui K and Ogawa H.

原著論文以外

Local abnormal atrial activity related to right septal intra-atrial reentrant tachycardia after mitral valve surgery.

HeartRhythm Case Rep., 7, 4, 203-206., 2021.04

An Y, Ogawa H, Yanagisawa M, Marumiya C, Ikeda S and Akao M.

原著論文以外

Single-loop bi-atrial tachycardia with presumed conduction block across an anteroseptal mitral ablation line: A case report: Bi-AT after septal mitral isthmus ablation.

J Cardiol Cases., 24, 2, 89-93, 2021.08

An Y, Ogawa H, Yanagisawa M, Marumiya C, Ikeda S and Akao M.

(原著論文以外)

Iatrogenic ventricular fibrillation caused by inappropriately synchronized cardioversion in a patient with pre-excited atrial fibrillation : A case report.

J Cardiol Cases., 23, 1, 31-34, 2021.01

Ikeda S, An Y, Yanagisawa M, Ishigami K, Aono Y, Doi K, Ishii M, Iguchi M, Ogawa H, Masunaga N, Abe M and Akao M.

(原著論文)

Prevalence, Temporal Change, and Determinants of Anxiety and Depression in Hospitalized Patients With Heart Failure

Journal of Cardiac Failure, 28, 2, 181-190, 2022

Hamatani Y, Iguchi M, Ikeyama Y, Kunugida A, Ogawa M, Yasuda N, Fujimoto K, Ichihara H, Sakai M, Kinoshita T, Nakashima Y, Akao M.

(原著論文)

Very Short Dual Antiplatelet Therapy After Drug-Eluting Stent Implantation in Patients Who Underwent Complex Percutaneous Coronary Intervention : Insight From the STOPDAPT-2 Trial

Circ Cardiovasc Interv, 14, 5, e010384, 2021

Yamamoto K, Watanabe H, Morimoto T, Domei T, Ohya M, Ogita M, Takagi K, Suzuki H, Nikaido A, Ishii M, Fujii S, Natsuaki M, Yasuda S, Kaneko T, Tamura T, Tamura T, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Igarashi Hanaoka K, Morino Y, Kozuma K, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T; STOPDAPT-2 Investigators

(原著論文以外)

Is Progression From Paroxysmal to Sustained Atrial Fibrillation Bad News?

Circ J., 86, 2, 176-181, 2022.01

Hisashi Ogawa, Masaharu Akao.

(原著論文以外)

Matched comparison of catheter ablation versus conservative management for atrial fibrillation

Heart Vessels., 2022.02

Tetsuma Kawaji, Satoshi Shizuta, Kyohei Yamaji, Munekazu Tanaka, Kazuki Kitano, Takanori Aizawa, Shintaro Yamagami, Akihiro Komasa, Takashi Yoshizawa, Masashi Kato, Takafumi Yokomatsu, Shinji Miki, Koh Ono, Takeshi Morimoto, Takeshi Kimura.

(原著論文)

10-Year Trends of Antithrombotic Therapy Status and Outcomes in Japanese Atrial Fibrillation Patients —The Fushimi AF Registry.

Circ J, 86, 4, 726-736, 2022

Akao M, Ogawa H, Masunaga N, Minami K, Ishigami K, Ikeda S, Doi K, Hamatani Y, Yoshizawa T, Ide Y, Fujino A, Ishii M, Iguchi M, Wada H, Hasegawa K, Tsuji H, Esato M, Abe M; Fushimi AF Registry Investigators.

小児科



診療科長
浅井 康一

専門医資格等
 日本小児科学会
 小児科専門医・指導医
 日本アレルギー学会
 アレルギー専門医・指導医
 代議員
 日本小児アレルギー学会
 代議員
 小児感染症学会
 小児感染症認定医 代議員
 ICD
 京都小児科医会理事
 京都大学医学博士
 京都大学医学部 臨床教授

専門分野
 小児アレルギー・小児感染症



NICU診療科長
松倉 崇

専門医資格等
 日本小児科学会
 小児科専門医・指導医
 日本周産期新生児医学会
 周産期専門医（新生児）
 京都大学医学博士

専門分野
 新生児

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	石塚 哲也		小児科一般、 小児救急	小児感染症
医師	北 誠	日本小児科学会 小児科専門医・指導医 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医 新生児蘇生法「専門」コース インストラクター	小児科一般、 遺伝	虐待・遺伝性疾患
医師	橋本有紀子	日本小児科学会 小児科専門医・指導医 日本内分泌学会 内分泌代謝科（小児科）専門医 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医	内分泌、代謝、 遺伝、小児科一 般	低身長・甲状腺・ 遺伝性疾患
医師	常念 大輔	日本小児科学会 小児科専門医 日本アレルギー学会 アレルギー専門医	小児アレルギー、 小児科一般	食物アレルギー
医師	上月 景弘		小児血液腫瘍、 小児科一般	小児白血病
非常勤 医師	仁井 純子	日本小児科学会 小児科専門医	小児科一般	心身症

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

京都大学小児科専門医研修プログラム連携施設
日本アレルギー学会専門医教育研修施設

診療内容

NICU（新生児集中治療室）6床により、産婦人科と協力し24時間体制での新生児診療。
小児病棟（2-3病棟）での小児一般急性疾患（感染症全般・熱性痙攣・川崎病・食物アレルギー経口負荷試験など）の診療。
小児一般外来や予防接種・健診の他、アレルギー・内分泌・NICUフォローアップ・神経・心臓などの専門外来。
京都市からの委託により、院内病児保育の実施。
院内保育所ひまわり保育園の集団健診。
京都市立桃陽支援学校の協力により、長期入院が必要な学童に対する院内学級を併設。
新型コロナウイルス感染診療の院内分担として、発熱プレハブ外来を平日午前対応。小児以外の成人例中心に2021年度のべ780例。

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	7.97	8.50
新入院患者数(名)	244	278
平均在院日数(日)	8.0	8.5

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	16	17

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日	発表学会
演題名等	演者（下線は当院所属）
2021.06.24	京都市内分泌WEBカンファレンス
	「小児・ヤングの内分泌診療」 岩永甲午郎、 <u>橋本有紀子</u> 、山内 一郎
2021.07.10	第20回京滋臨床甲状腺懇話会
	「8年間以上無治療であった萎縮性甲状腺炎の14歳女児例」 <u>橋本有紀子</u> 、浅井 康一、北村 拓也、中谷理恵子、石原 裕己、難波 多挙、立木 美香、田上 哲也
2021.10.17	第30回日本小児リウマチ学会学術集会
	「発熱のみを主訴としたCNO/CRMOの一例」 中島 光司、仁平 寛士、加藤健太郎、本田 吉孝、日衛島栄太郎、井澤 和司、 <u>仁井 純子</u> 、 <u>浅井 康一</u> 、八角 高裕

発表年月日 発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)

2021.12.04 第446回日本小児科学会京都地方会

「巨頭症をきっかけに遺伝子診断を実施し、Cowden症候群の診断に至った後腹膜原発未熟奇形腫の一女兒例」
上月 景弘、梅田 雄嗣、才田 聡、加藤 格、平松 英文、園田 真理、岡本 竜弥、小川 絵里、
川崎 秀徳、岸田 憲二、滝田 順子

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

不十分な遺伝カウンセリングの元で実施された無侵襲的出生前遺伝学的検査にて胎児性別を誤判定された妊婦の遺伝
カウンセリング—未発症皮膚筋炎が検査に影響した可能性—
日本遺伝カウンセリング学会誌, 42, 1, 153~157, 2021.05.20
橋本有紀子、飛驒 美希、小西 陽介、浅原 哲子、三宅 秀彦

呼吸器外科



医長
澤井 聡

専門医資格等

日本呼吸器外科学会
専門医・指導医・評議員
呼吸器外科専門医
日本外科学会 専門医
日本呼吸器内視鏡学会
気管支鏡専門医・指導医
滋賀医科大学 医学博士

専門分野

呼吸器外科全般

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
呼吸器外科医長	橋本 雅之	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本呼吸器外科学会 呼吸器外科専門医・評議員 日本呼吸器外科学会 ロボット支援手術プロクター 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医・指導医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医 肺がんCT検診認定機構 肺がんCT検診認定医 INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール術者 滋賀医科大学呼吸器外科 非常勤講師 (診療)	呼吸器外科全般	呼吸器外科 ロボット手術
医師	武田 恵子	外科専門医 癌治療認定医	呼吸器外科全般	呼吸器外科全般
医師	余田 誠		呼吸器外科全般	

| 令和3年度の主な取組 |

認定施設

- ・日本呼吸器外科基幹施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設

クリティカルパスは術前・術後に分け、手術症例の大半に適応している。

- ・縦隔鏡検査 3日間
- ・術前 (標準) 術前日～術当日
- ・術前 (長期) 術7日前～術当日 (術前へパリン化など)
- ・術後 (短期) 術直後～7病日
- ・術後 (標準) 術直後～9病日
- ・術後 (長期) 術直後～11病日

その他、気管支鏡検査、化学療法等は呼吸器内科のクリティカルパスを適応している。

令和3度の手術件数の90%近くは胸腔鏡下手術で、そのうちロボット支援下手術は15件であった。2018年の導入以来58件のロボット支援下手術を行ってきたが、1例も開胸コンバートはなく、安全な手術方法として今後も積極的に行っていきたい。

また、区域切除が25件と例年より多く、より肺機能を温存した手術術式として取り組んでいきたい。

| 診療実績 |

呼吸器外科入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	7.6	9.2
新入院患者数(名)	253	281
平均在院日数(日)	10.5	11.4

呼吸器外科外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	12.5	12.6

主な手術・検査の件数(2021年度)

手術(全身麻酔)	171件	転移性肺腫瘍手術	26件
手術(全身麻酔)(ロボット支援下)	15件	縦腸腫瘍手術	11件
肺腫瘍手術(診断含)	84件	気胸手術	20件

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
演題名等 / 演者(下線は当院所属)	
2021.05.20	第38回日本呼吸器外科学会学術集会
「ロボット支援下肺葉切除術における肺動脈出血例の検証」 橋本 雅之、益本 貴人、余田 誠、武田 恵子、大塩麻友美、澤井 聡	
2021.05.20	第38回日本呼吸器外科学会学術集会
「サルコイドーシスに合併した胸腺原発類表皮嚢胞の一例」 余田 誠、益本 貴人、武田 恵子、大塩麻友美、橋本 雅之、澤井 聡	
2021.05.20	第38回日本呼吸器外科学会学術集会
「腔内結紮が有用であった肺切除を伴わない左主気管支管状切除の1例」 益本 貴人、余田 誠、武田 恵子、大塩麻友美、橋本 雅之、澤井 聡	
2021.12.02	第34回日本内視鏡外科学会総会
「輸血拒否症例に対するロボット支援下手術の適応について」 橋本 雅之、大塩麻友美、澤井 聡	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者(下線は当院所属)
一般
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)肺炎に合併した気胸 胸部外科, 74, 12, 992-995, 2021.11.01, 南江堂 橋本 雅之、余田 誠、武田 恵子、大塩麻友美、澤井 聡
原著論文
The risk of footswitch misstep during robot-assisted thoracoscopic surgery : a case report Journal of Surgical Case Report, 2021, 12, 1-2, 2021.12 Hashimoto M, Sawai S, Oshio M, Yoden M, Takeda K.

外科



外科科長
(下部消化管責任者)
山口 高史

専門医資格等

日本外科学会
外科専門医・指導医
日本消化器外科学会
消化器外科専門医・指導医
日本消化器外科学会
消化器がん外科治療認定医
日本大腸肛門病学会
大腸肛門病専門医・指導医

日本内視鏡外科学会
内視鏡外科技術認定医(大腸)・
技術認定審査員・評議員
ダ・ヴィンチ コンソール
術者ライセンス医
京都大学医学部 臨床教授
京都大学 非常勤講師

専門分野

下部消化管
得意疾患
大腸がん

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
診療部長 (がん診療 担当) 緩和ケア 診療科長	大谷 哲之	日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会 消化器外科認定医 京都大学医学部 臨床教授	上部消化管	食道がん、胃がん
医長 (肝胆膵責 任者)	成田 匡大	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本肝胆膵外科学会 評議員・肝胆膵外科高度技能専門医 日本内視鏡外科学会 内視鏡外科技術認定医(肝臓) 日本消化器病学会 専門医 Le Diplôme Inter Universitaire EUROPEAN CANCERS HEPATO BILIO PANCREATIQUES 日本ヘルニア学会 評議員 関西ヘルニア研究会 世話人 京都大学医学部 臨床准教授 京都大学 医学博士	肝胆膵	肝臓がん、 胆道がん、 膵臓がん 鼠径ヘルニア・鼠 径ヘルニア術後疼 痛

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 感染制御 副部長 (上部消化 管責任者)	畑 啓昭	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医 日本内視鏡外科学会 内視鏡外科技術認定医(胃)・評議員 日本感染症学会 感染症専門医・評議員・臨床研究促進委員会委員 日本食道学会 食道科認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 ICD (インフェクションコントロールドクター) 日本外科感染症学会 周術期感染管理認定医・教育医・評議員・教育委員 会委員長・編集委員会委員 日本化学療法学会 評議員・抗菌化学療法認定医制度審議委員会委員・ 国際渉外委員会委員 日本化学療法学会・日本感染症学会 JAID/JSC 感染症治療ガイド・ガイドライン作成委 員・MRSA 感染症の治療ガイドライン作成委員・薬 剤耐性菌感染症を対象とした抗菌薬ガイドライン作 成に関する合同委員会委員 Journal of Infection and Chemotherapy, Senior Editor 日本環境感染学会 評議員 JHAIS 委員会委員・あり方委員会委員 日本臨床外科学会 評議員 ダ・ヴィンチ コンソール術者ライセンス医 京都大学 医学博士	上部消化管・ 外科感染症	胃がん・食道がん
医 長	松末 亮	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本大腸肛門病学会 大腸肛門病専門医 日本内視鏡外科学会 内視鏡外科技術認定医(大腸) 内痔核治療法研究会 四段階注射法講習会受講 ダ・ヴィンチ コンソール術者ライセンス医 京都大学 医学博士	下部消化管	大腸がん 肛門疾患
医 師	山岡 竜也	日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本肝胆膵外科学会 評議員 京都大学 医学博士	肝胆膵	肝臓がん、 胆道がん、 膵臓がん
医 師	中西 保貴	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本食道学会 食道科認定医 日本消化器病学会 消化器病専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化管学会 胃腸科専門医 近畿外科学会 評議員 京都大学 医学博士	上部消化管	胃がん・食道がん
医 師	後藤健太郎	日本外科学会 外科専門医	外科全般	
医 師	三木 晶森	日本外科学会 外科専門医	外科全般	
医 師	宗景 史晃	日本外科学会 外科専門医	外科全般	
医 師	神部 宏幸		外科全般	
医 師	豊田 有紀		外科全般	
専攻医	末永 尚浩		外科全般	
専攻医	出川佳奈子		外科全般	
専攻医	守山 雅晃		外科全般	

| 令和3年度の主な取組 |

専門医制度修練施設

- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技術専門医修練施設A
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本外科感染症学会 外科周術期感染管理教育施設
- ・Japan Clinical Oncology Group (JCOG) 大腸がんグループ参加施設
- ・Japan Clinical Oncology Group (JCOG) 胃がんグループ参加施設

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	36.6	33.6
新入院患者数(名)	960	937
平均在院日数(日)	13.5	13

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	55.3	36.6

手術実績(2021年度)

全手術数(外来手術を含める)	915件	局麻手術	226件
全麻手術	676件	緊急手術件数	159件
腰麻手術	13件		

主な術式別手術件数(うち鏡視下手術)(2021年度)

食道がん切除術	5(4)件	腓体尾部切除術(胃がん手術に伴うものは除く)	9(3)件
幽門側胃切除術(幽門保存胃切除術を含む)	32(30)件	膵切除術(その他)	0(0)件
胃全摘術(噴門側胃切除術を含む)	7(2)件	乳がん手術	73(0)件
結腸切除術	81(80)件	胆嚢摘出術	118(106)件
直腸前方切除術	44(41)件	脾摘術	0(0)件
直腸切断術	4(4)件	虫垂切除術	46(41)件
肝切除術(葉切除以上)	8(4)件	ヘルニア手術(小児を除く)	123(18)件
肝切除術(区域・亜区域切除術)	19(13)件	良性肛門疾患手術	22(3)件
肝切除術(上記以外)	17(13)件	小児外科手術(ヘルニアも含む)	4(4)件
膵頭十二指腸切除術	21(0)件		

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.04配信 「感染に係る薬剤投与関連」 畑 啓昭	学研メディカルサポート「看護師の特定行為研修」
2021.05.13 「特別講演「鼠径ヘルニア術後慢性疼痛について」」 成田 匡大	第9回腹腔鏡ヘルニアセミナー
2021.05.21-22 「術中神経の取り扱いに主眼をおいた前方切開法における手術手技」 後藤健太郎、成田 匡大、出川佳奈子、守山 雅晃、末永 尚浩、豊田 有紀、神部 宏幸、宗景 史晃、三木 晶森、中西 保貴、山岡 竜也、松末 亮、畑 啓昭、大谷 哲之、山口 高史	第19回日本ヘルニア学会学術集会
2021.06.02-03 「Laparoscopic hepatectomy in a patient with large abdominal incisional hernia」 山岡 竜也、宗景 史晃、成田 匡大	第33回日本肝胆膵外科学会学術集会
2021.06.02-03 「Neoadjuvant chemotherapy in patient with resectable colorectal liver metastases in an attempt to achieve parenchymal sparing laparoscopic hepatectomy : Report of a case」 宗景 史晃、山岡 竜也、成田 匡大	第33回日本肝胆膵外科学会学術集会
2021.06.05 「術後感染症合併症 病態を理解して治療を考える」 畑 啓昭	日本化学療法学会 第59回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー
2021.06.08 「SSI予防対策について」 畑 啓昭	第28回阪神ICT活動研究会
2021.06.12 「ビデオクリニック」 中西 保貴	京滋奈和若手胃外科医のためのビデオクリニック12
2021.06.12 「だんだんロボットの良さがわかってきた外科医が行うロボット支援下直腸切除」 山口 高史	2021大腸手術手技勉強会
2021.06.26 成田 匡大 (座長)	第6回ラパヘル教育セミナー
2021.07.07-09 「局所進行直腸癌に対する術前化学療法の有効性と安全性に関する多施設第Ⅱ相試験 (Est-Neo試験) の長期成績」 青山 龍平、肥田侯矢、長谷川 傑、山田 理大、門川 佳央、間中 大、山口 高史、河田 健二、小濱 和貴、坂井 義治	第76回日本消化器外科学会
2021.07.07-09 「腹膜播種陽性胃癌に対する全身・腹腔内併用化学療法奏効後の conversion surgery について」 山下 裕玄、石神 浩徳、大森 健、深川 剛生、川崎 普司、岸 健太郎、上田 修吾、竹野 淳、畑 啓昭、北山丈二	第76回日本消化器外科学会
2021.07.07-09 「術後4年目に肺転移再発で診断し得た、坐骨直腸窩の悪性顆粒細胞腫」 末永 尚浩、松末 亮、出川佳奈子、守山 雅晃、神部 宏幸、宗景 史晃、豊田 有紀、後藤健太郎、三木 晶森、山岡 竜也、中西 保貴、畑 啓昭、成田 匡大、山口 高史	第76回日本消化器外科学会
2021.07.08 「術後慢性疼痛 (CPIP) を予防する鼠径部ヘルニア修復術を考えよう」 成田 匡大	ゼロコン+ルーム：術後慢性疼痛 (CPIP) を予防する鼠径部ヘルニア修復術を考えよう

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.07.19	第213回滋賀県病院薬剤師会 湖北・湖南西合同研修会
「緩和ケア がん性疼痛について」 大谷 哲之	
2021.07.20	日本外科感染症学会特別セミナー Healthy DiscuSSIon「第1回周術期感染対策と病院マネジメント」
「手術患者とコロナ感染対策」 畑 啓昭	
2021.09.09	第23回伏見薬業連携協議会
「がん性疼痛における薬剤について」 大谷 哲之	
2021.09.19-20	第36回日本環境感染学会・学術総会
「教育講演22「COVID-19時代に外科医に求められる感染制御」」 畑 啓昭	
2021.09.24	肝胆膵・移植外科手術セミナー
「技術認定医取得に向けた肝臓手術での取り組み」 成田 匡大	
2021.10.16	京都臨床外科セミナー
「胃癌の標準治療 ～日本の多施設臨床研究を振り返って～」 畑 啓昭	
2021.10.16	京都臨床外科セミナー
「初めての腹腔鏡下S状結腸切除」 出川佳奈子	
2021.11-2022.02.28配信	日本環境感染学会
「院内感染講習会事業 厚生労働省 eラーニングシステム「手術部位感染防止対策」」 畑 啓昭	
2021.11.05	コヴィディエンジャパン社内講演
「CPIP予防の為に必要なこと」 成田 匡大	
2021.11.12-13	第76回日本大腸肛門病学会学術集会
「脾湾曲部結腸癌に対する腹腔鏡下手術について」 松末 亮、山口 高史、出川佳奈子、末永 尚浩、豊田 有紀、神部 宏幸、宗景 史晃、三木 晶森、 後藤健太郎、中西 保貴、畑 啓昭、成田 匡大	
2021.11.12-13	第76回日本大腸肛門病学会学術集会
「人工肛門閉鎖術後の手術部位感染は単純閉鎖でも低率に抑えられる」 後藤健太郎、松末 亮、三木 晶森、中西 保貴、山岡 竜也、畑 啓昭、成田 匡大、大谷 哲之、 山口 高史	
2021.11.14	研修医のための輸液セミナー 輸液ができる！エキスパートによるラウンドセミナー
「『術後輸液』の部屋 「何をどれだけどんな根拠で？」」 畑 啓昭	
2021.11.18-20	第83回日本臨床外科学会総会
「ブースセミナー「エビデンスから考える大腸癌手術の効果的なSSI予防策」」 畑 啓昭	
2021.11.18-20	第83回日本臨床外科学会総会
「ランチョンセミナー24「前方切開法における神経の取り扱い～Investing fasciaを意識しよう！」」 成田 匡大	
2021.12.02-04	第34回日本内視鏡外科学会総会
「高難度腹腔鏡下肝切除術における状況に応じたデバイスの使い分け」 成田 匡大、山岡 竜也、宗景 史晃、守山 雅晃、出川佳奈子、末永 尚浩、豊田 有紀、神部 宏幸、 三木 晶森、後藤健太郎、中西 保貴、松末 亮、畑 啓昭、山口 高史	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.12.02-04	第34回日本内視鏡外科学会総会
「腹腔鏡下肝切除術後5日入院クリニカルパスは実現可能か？」 山岡 竜也、成田 匡大、守山 雅晃、出川佳奈子、末永 尚浩、豊田 有紀、神部 宏幸、宗景 史晃、 三木 晶森、後藤健太郎、中西 保貴、松末 亮、畑 啓昭、大谷 哲之、山口 高史	
2021.12.02-04	第34回日本内視鏡外科学会総会
「腹腔鏡下肝後区域切除術施行中のCO2ガス塞栓による急性循環不全を来し、術後に脳梗塞を発症した一例」 宗景 史晃、成田 匡大、守山 雅晃、出川佳奈子、豊田 有紀、神部 宏幸、三木 晶森、後藤健太郎、 中西 保貴、山岡 竜也、松末 亮、畑 啓昭、山口 高史	
2021.12.03	正しく認識しよう 鼠径部ヘルニア術後慢性疼痛 (CPIP) - 至適TAPP法のおくなき追及 -
「正しく認識しよう 鼠径部ヘルニア術後慢性疼痛 (CPIP) - 至適TAPP法のおくなき追及 -」 成田 匡大	
2021.12.11	第6回群馬ヘルニア研究会
「鼠径ヘルニア術後慢性疼痛」 成田 匡大	
2021.12.11	第15回関西ヘルニア研究会
「11年間にわたる術後慢性疼痛が手術により改善した1例」 守山 雅晃	
2021.12.17	Annual Meeting of the International Journal of Adbominal Wall and Hernia Surgery
「Algorithm-based approach for management of refractory chronic postoperative inguinal pain」 Narita M	
2021.12.17-18	第34回日本外科感染症学会総会学術集会
「委員会企画1 外科感染症領域の最近のFACT (外科感染症一般、清潔手術、代謝栄養) 「外科感染症一般に関する最近のFACT」」 畑 啓昭	
2021.12.17-18	第34回日本外科感染症学会総会学術集会
「COVID-19合併の小腸壊死患者に対して緊急小腸部分切除術を施行した1例」 後藤健太郎、畑 啓昭、松末 亮、末永 尚浩、宗景 史晃、三木 晶森、中西 保貴、山口 高史	
2021.12.17-18	第34回日本外科感染症学会総会学術集会
「直腸癌に対する化学療法中に発症した脳膿瘍の一例」 宗景 史晃、畑 啓昭、守山 雅晃、出川佳奈子、豊田 有紀、神部 宏幸、三木 晶森、後藤健太郎、 中西 保貴、山岡 竜也、松末 亮、成田 匡大、山口 高史	
2021.12.19	令和3年度京都大学外科冬季研究会
「S状結腸切除後難治性リンパ漏に対して治療し軽快した1例」 守山 雅晃	
2021.12.28	FM845 京都リビングエフエム「ワカバンneo カラダ元気コーナー」
「本当はこわい 鼠径ヘルニア手術」 成田 匡大	
2022.01.15	消化管外科手術手技セミナー
「技術認定医取得後のネクストステップ」 山口 高史 (座長)	
2022.01.19	Meeting of Venous ThromboEmbolism ~がん関連血栓症の診療科横断連携を考える~
「ディスカッション「CATにおける診療科横断連携のありかた」」 宗景 史晃	
2022.01.22	第3回若熱会~若手外科医師がヘルニア手術熱く語る会
「Quality of Life の向上を目指して」 守山 雅晃	
2022.01.28	京都消化器外科交流カンファレンス~平成2桁の会~
「新型コロナウイルス感染症患者の手術症例」 後藤健太郎	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.02.03 「特別講演「消化器外科領域における漢方薬の役割～大建中湯・六君子湯・半夏瀉心湯～」 山口 高史 (座長)	Fushimi Surgery Kampo Seminar
2022.02.05 「がん患者さんの幸せのために、外科医が果たせる役割は何か」 山口 高史	第18回京都医療センター医療連携フォーラム
2022.02.05 「ランチョンセミナー「Advanced LPEC法のpros and cons」」 成田 匡大 (座長)	9th Reduced Port Surgery Forum in Okinawa
2022.03.02-04 「ロボット支援下胃切除時のDelta吻合における安全なステープリングのコツ」 畑 啓昭、中西 保貴、後藤健太郎、三木 晶森、出川佳奈子、末永 尚浩	第94回日本胃癌学会総会
2022.03.02-04 「pStage III胃癌での2剤併用術後補助化学療法有効例の特徴」 中西 保貴、出川佳奈子、末永 尚浩、三木 晶森、後藤健太郎、大谷 哲之、畑 啓昭	第94回日本胃癌学会総会
2022.03.02-04 「胃切除術後の術後腹腔内合併症における狭域抗菌薬使用」 後藤健太郎、出川佳奈子、三木 晶森、中西 保貴、畑 啓昭	第94回日本胃癌学会総会
2022.03.02-04 「長期Nivolumab療法後にConversion手術を実施しえた切除不能進行胃癌の一例」 三木 晶森、中西 保貴、出川佳奈子、末永 尚浩、後藤健太郎、畑 啓昭、大谷 哲之	第94回日本胃癌学会総会
2022.03.02-04 「胃癌術後の繰り返す肺転移再発に対して、局所切除により長期生存が得られた一例」 出川佳奈子、畑 啓昭、末永 尚浩、三木 晶森、後藤健太郎、中西 保貴	第94回日本胃癌学会総会
2022.03.05 「特別講演「腹腔鏡下ヘルニア手術 術後慢性疼痛CPIPについて」」 成田 匡大	第9回お茶の水ヘルニア研究会
2022.03.07 「手術室での感染管理の実態—基本的知識かCOVID-19対応まで—」 畑 啓昭	日本手術看護学会近畿地区京都ブロックセミナー
2022.03.18 「ラバ肝における止血あれこれ」 成田 匡大	一般病院で実践できる！肝胆道系手術における合併症を減らす工夫
2022.03.27 「大腸癌・多発肝転移に対し、集学的アプローチによりR0切除に至るも、早期再発を来した1例」 末永 尚浩	第28回京都肝胆膵外科セミナー
2022.03.27 「スポンサードレクチャー「若手外科医が腹腔鏡下肝切除を完遂するために」」 宗景 史晃	第28回京都肝胆膵外科セミナー

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
解説 疾患別・臨床事例の全診療行為 カルテ・レセプトの原風景 カルテ233 胆石症、胆嚢炎 胆嚢摘出術の適応 月刊保険診療, 76, 7, 72-74, 2021.07.10, 医学通信社 畑 啓昭

一般

患者がみえる新しい「病気の教科書」 かんテキ 消化器, 0, 0, 1~434, MCメディカ出版
畑 啓昭

一般

6章 小腸・大腸の病気 「大腸がん」「痔核・痔瘻」「大腸の病気に対する治療【外科】」 ドクターがズバリ答える
ナースのギモン6-13, 6-14
患者がみえる新しい「病気の教科書」 かんテキ 消化器, 0, 0, 206-213, 223-226, 258-263, 226, 2021.10.05, MCメディカ
出版
松末 亮

一般

ドクターがズバリ答えるナースのギモン 9章 胆道の病気 9-01~9-05
患者がみえる新しい「病気の教科書」 かんテキ 消化器, 0, 0, 345-348, 363, 2021.10.05, MCメディカ出版
中西 保真

一般

7章 消化器全般の病気 「上部・下部消化管穿孔・腹膜炎」
患者がみえる新しい「病気の教科書」 かんテキ 消化器, 0, 0, 275-277, 2021.10.05, MCメディカ出版
後藤健太郎

一般

6章 小腸・大腸の病気 「憩室炎」
患者がみえる新しい「病気の教科書」 かんテキ 消化器, 0, 0, 251-253, 2021.10.05, MCメディカ出版
三木 晶森

原著論文

外腸骨リンパ節転移を伴う会陰部アポクリン腺癌の1例
日本消化器外科学会雑誌, 54, 10, 728-735, 2021.10.01, 日本消化器外科学会
後藤健太郎, 松末 亮, 山口 高史, 森吉 弘毅, 猪飼伊和夫

一般

第1特集 輸液の種類も、ケース別管理も、学びなおし！ “こんなときどうする” 消化器患者のIN-OUT管理 第
1章 水分出納のしくみ キホン中のキホンから、めっちゃ簡単におさらい！ 第2章 輸液のちしき 今こそ！ だ
いじなところだけサクッと覚えてしまおう
消化器ナーシング, 26, 12, 6-25, 2021.12.01, MCメディカ出版
畑 啓昭

一般

第3章 ケース別IN-OUT管理 消化器患者さんの“重要ケース”はこれだ！ 4. 腹部ドレーン留置中 5. 腸閉
塞、胃管・イレウス管による減圧中
消化器ナーシング, 26, 12, 32-37, 2021.12.01, MCメディカ出版
三木 晶森

一般

第3章 ケース別IN-OUT管理 消化器患者さんの“重要ケース”はこれだ！ 6. 嘔吐・下痢のとき 7. 回腸ス
トーマの患者さん
消化器ナーシング, 26, 12, 38-41, 2021.12.01, MCメディカ出版
宗景 史晃

一般

第3章 ケース別IN-OUT管理 消化器患者さんの“重要ケース”はこれだ！ 12. 腎不全を合併している患者さん
13. 血液透析中の患者さん
消化器ナーシング, 26, 12, 52-57, 2021.12.01, MCメディカ出版
後藤健太郎

一般

第3章 ケース別IN-OUT管理 消化器患者さんの“重要ケース”はこれだ！ 14. 心不全を合併している患者さん
15. 糖尿病を合併している患者さん
消化器ナーシング, 26, 12, 58-61, 2021.12.01, MCメディカ出版
末永 尚浩

原著論文

原著 鼠径ヘルニア待期的手術の選択肢の一つとしてShouldice法は許容できるか？
日本ヘルニア学会, 7, 2, 28-39, 2021.12.30, 日本ヘルニア学会
成田 匡大, 宗景 史晃, 後藤健太郎, 山岡 竜也, 松末 亮, 畑 啓昭, 山口 高史

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

(解説)

疾患別・臨床事例の全診療行為 カルテ・レセプトの原風景 カルテ239 胃癌(食道胃接合部癌) 再建方法の異なる
2つの噴門胃切除例
月刊保険診療, 77, 1, 62-64, 2022.01.10, 医学通信社
畑 啓昭

(一般)

Ⅲ 主な臓器別感染症 F 腹腔内感染 1 細菌性腹膜炎
感染症 最新の治療2022-2024, 0, 0, 149-151, 2022.02.10, 南江堂
畑 啓昭

(原著論文)

小腸壊死を合併した新型コロナウイルス感染患者に対して緊急小腸部分切除術を施行した1例
日本消化器外科学会雑誌, 55, 3, 199-206, 2022.03.01, 日本消化器外科学会
豊田 有紀, 後藤健太郎, 畑 啓昭, 松末 亮, 山口 高史

(解説)

こんなときどうする? 他科とのコミュニケーションガイド 第3章 消化器内科・消化器外科 7. 急性虫垂炎
産科と婦人科 増刊号, 89, Suppl, 180-185, 2022.03.25, 診断と治療社
畑 啓昭

(英文論文)

PTEN is a predictive biomarker of trastuzumab resistance and prognostic factor in HER2-overexpressing
gastroesophageal adenocarcinoma
Scientific Reports Published : 27 April 2021, 11, 1, 9013, 2021.04
Yokoyama D, Hisamori S, Deguchi Y, Nishigori T, Okabe H, Kanaya S, Manaka D, Kadokawa Y, Hata H,
Minamiguchi S, Tsunoda S, Obama K & Sakai Y

(英文論文)

Comparative Outcomes of Laparoscopic Gastrectomy and Open Gastrectomy for Scirrhous Gastric Cancer:
A Multicenter Retrospective Cohort Study
Annals of Surgery, 0, 0, 2 : e063, 2021.06
Fujita Y, Nishigori T, Kadokawa Y, Itami A, Kondo M, Hosogi H, Kanaya S, Kawada Hironori, Hata H,
Yamamoto M, Yousuke K, Tanaka E, Manaka D, Satoh S, Okabe H, Tsunoda S, Sakaguchi M,
Hisamori S, Hida K, Tanaka S, Obama K, on behalf of Kyoto Esophageal and Gastric Surgery Study Group

(英文論文)

Acute rhabdomyolysis in a young woman with moderate COVID-19
IDCases, 0, 0, 25 : e01212, 2021.06
Fujita K, Kanai O, Nanba K, Esaka N, Hata H, Seta H, Odagaki T

(英文論文)

Change in antimicrobial susceptibility of pathogens isolated from surgical site infections over the past
decade in Japanese nation-wide surveillance study
J Infect Chemother, 27, 7, 931-939, 2021.07
Ueda T, Takesue Y, Matsumoto T, Tateda K, Kusachi S, Mikamo H, Sato J, Hanaki H, Mizuguchi T,
Morikane K, Kobayashi M, Harihara Y, Seki S, Ishida Y, Fukushima R, Hada M, Matsuo Y, Kubo S,
Kimura Y, Hata H, Nakajima K, Ohge H, Akagi S, Takeda S, Fukui Y, Suzuki K, Okamoto K,
Yanagihara K, Kawamura H

(英文論文)

A pathological perspective to painful inguinal hernia : Report of two cases
Int J Surg Case Rep, 0, 0, 86 : 106389, 2021.09
Narita M, Moriyoshi K, Goto K, Yamaoka R, Yamaguchi T

(英文論文)

Mesenteric closure after laparoscopic total gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction is effective for
prevention of internal hernia : a multicenter retrospective study
Surgical Endoscopy, Online ahead of print., 0, 0, 2021.09
Murakami K, Obama K, Kanaya S, Satoh S, Manaka D, Yamamoto M, Kadokawa Y, Itami A, Okabe H,
Hata H, Tanaka E, Yamashita Y, Kondo M, Hosogi H, Tsunoda S, Hisamori S, Nishigori T, Sakai S

(英文論文)

Safety of Remdesivir for Patients 80 Years of Age or Older with Coronavirus Disease 2019 (COVID-19)
Drugs Aging, 38, 12, 1067-1074, 2021.12
Kanai O, Fujita K, Nanba K, Esaka N, Hata H, Seta K, Yasoda A, Odagaki T, Mio T

乳 腺 外 科



専門医資格等
日本外科学会 外科専門医
日本乳癌学会 乳腺指導医
京都大学臨床教授
京都大学医学博士

専門分野
乳腺（乳がん）

診療科長
加藤 大典

| スタッフ |

	氏 名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 師	山 賀 郁	日本外科学会 外科専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本乳癌学会 乳腺専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 京都大学医学博士 新リンパ浮腫研修修了	乳腺（乳がん）	

| 令和3年度の主な取組 |

認定施設

- ・日本乳癌学会認定施設
- ・遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設
- ・日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会再建実施施設認定

患者教室として「乳がん教室」の開催を開始し、患者教育に取り組んでいる

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2020.08-2022.03	次世代医療機器・再生医療等製品評価指標作成事業
[乳がん診断支援装置審査WG] 山賀 郁、高木 周、高尾信太郎、木寺 正平、中村 清吾、中島 康雄、植松 孝悦、椎名 毅、 橋爪 誠	
2021.07.01-03	第29回日本乳癌学会学術総会
[当院の乳腺外来における遺伝性乳癌卵巣癌症候群の診療の現状] 山賀 郁、山崎 誠二	
2021.07.01-03	第29回日本乳癌学会学術総会
[Lum/HER2陽性転移性乳がん治療中に抵抗性となった肺転移生検からHER2陰性を確認しBRCA2変異と診断された1例] 山崎 誠二、山賀 郁	
2021.12.04	第19回日本乳癌学会近畿地方会
[Luminal HER2 type, BRCA2病的変異がある乳癌の多発脳転移をOlaparibと放射線治療でコントロールしている1例] 出川佳奈子、加藤 大典、守山 雅晃、末永 尚浩、山賀 郁、河村 光栄、荒木 則雄	
2022.02.26	伏見薬剤師会
[乳癌の診断と最新のtopics] 山賀 郁	

整形外科



統括診療部長
診療科長
中川 泰彰
(2022年3月31日まで)

専門医資格等
日本専門医機構
認定整形外科専門医
日本整形外科学会
認定運動器
リハビリテーション医
京都大学臨床教授
京都大学医学博士

専門分野
スポーツ、軟骨、関節

得意疾患
膝、肩、肘関節



診療科長
山田 茂
(2022年4月1日から)

専門医資格等
日本専門医機構
認定整形外科専門医
日本整形外科学会
認定運動器
リハビリテーション医
京都大学臨床教授
京都大学医学博士

専門分野
人工股関節

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	山本 博史	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定リウマチ医 日本整形外科学会認定スポーツ医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医 日本手外科学会専門医 日本マイクロサージャリー学会評議員 日本肘関節学会評議員 京都大学医学博士	マイクロサージャリーによる組織再建	上肢・手の外科、四肢外傷
医 長	向井 章悟	日本専門医機構認定整形外科専門医 日本体育協会公認スポーツドクター 京都大学医学博士	関節鏡視下手術、スポーツ整形外科、小児整形外科	
医 長	宮田 誠彦	日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医 日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄病医 日本専門医機構認定整形外科専門医 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医 京都大学医学博士	脊椎外科	
医 師	坪内 直也	日本専門医機構認定整形外科専門医	脊椎外科、整形外科一般	
医 師	南 良輔	日本専門医機構認定整形外科専門医	人工股関節	
医 師	坂井沙也子			
専 攻 医	中村 亮太		整形外科一般	
専 攻 医	高橋 基		整形外科一般	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本整形外科学会研修施設
- ・日本脊椎脊髄病学会認定 脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
- ・日本脊椎脊髄病学会認定 脊椎脊髄外科指導医 常勤施設

診療科の特徴

1. スポーツ、肩、肘、手関節・手、股関節、膝関節、脊椎、小児整形外科のそれぞれのスペシャリストがいます。
2. 救命救急センターとタイアップし、様々な外傷にも対応しています。
3. 脊椎・脊髄外科は後頭骨～頸胸椎・腰椎～骨盤までインスツルメンテーション手術に対応。ナビゲーションシステムを使用し、精緻な手術を心がけている（特に頸胸椎）。脊髄誘発電位を使用し、手術の安全性の向上に努めている。
4. スポーツ医学センターを併用し、発育期、競技スポーツ、中高年のスポーツ復帰のリハビリも行っていきます。
5. 骨軟骨疾患に対する自家骨軟骨移植術の件数は、日本最多で、中期成績も優秀です。

主な対象疾患

様々な関節の変形性関節症、肩関節脱臼、腱板断裂、膝靭帯損傷、様々な脊椎疾患、離断性骨軟骨炎などのスポーツ障害

診療（業務）内容

スポーツ、肩、肘、手関節・手、股関節、膝関節、脊椎、小児整形外科のそれぞれの専門家が執刀する手術（安定した治療成績が獲得できています）及び、外来での経過観察や保存的治療を行っています。術後のリハビリは疾患に応じて、当院リハビリ科とスポーツ医学センターで行っており、特に、スポーツ医学センターでは、術後のスポーツ復帰だけでなく、再受傷予防などの対策も立てています。また、外来通院による保存的治療としてのリハビリも行っています。

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数（名）	40.6	43.5
新入院患者数（名）	647	640
平均在院日数（日）	22	23.4

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数（名）	69	77.3

主な術式別手術件数（2021年度）

頸椎手術	42件	人工膝関節置換術	39件
胸腰椎手術	79件	自家軟骨移植術	13件
人工股関節置換術	54件		

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.04.22	第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会
「Expandable cage による術中終板損傷は骨癒合や臨床成績に影響するか？」 坪内 直也、宮田 誠彦、向井 章悟、山田 茂、中川 泰彰	
2021.04.22	第50回日本脊椎脊髄病学会学術集会
「術前中間位K-line (+)、屈曲位 (-) を呈する頸椎症性脊髄症に対する後方除圧術と後方固定術の成績比較」 宮田 誠彦、坪内 直也、向井 章悟、山田 茂、中川 泰彰	
2021.05.08	第33回生涯スポーツ研究会
「相撲競技が四肢体幹にどのような影響を与えるか」 中川 泰彰	
2021.05.22	第94回日本整形外科学会学術総会
「自家骨軟骨移植術のドナーが健常膝であった症例の術後2年以降の臨床成績」 中村 亮太、中川 泰彰、山田 茂、山本 博史、向井 章悟、宮田 誠彦、坪内 直也、里見健太郎、 新屋 祐希	
2021.06.17-19	第13回 JOSKAS・第47回 JOSSM 学術集会
「外側型変形性膝関節症に対する自家骨軟骨移植術単独でのアライメント変化と治療成績」 新屋 祐希、中川 泰彰	
2021.06.17-19	第13回 JOSKAS・第47回 JOSSM 学術集会
「自家骨軟骨移植術でのドナー採取不可能例は術前診断ができるか？」 中川 泰彰	
2021.06.17-19	第13回 JOSKAS・第47回 JOSSM 学術集会
「中学女子野球選手を対象とした大会前検診における障害調査」 井上 直人、中川 泰彰	
2021.06.17-19	第13回 JOSKAS・第47回 JOSSM 学術集会
「中学女子野球選手における投球障害と関節可動域の関連」 等々力賢輔、中川 泰彰	
2021.06.17-19	第13回 JOSKAS・第47回 JOSSM 学術集会
「少年野球検診で見発見され保存治療の後、手術に至った肘 OCD 症例についての検討」 向井 章悟、中川 泰彰	
2021.06.17-19	第47回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会
「中学女子野球選手における投球障害と関節可動域の関連」 等々力賢輔、中川 泰彰、向井 章悟、井上 直人、横田 尚子、木下 和昭	
2021.06.17-07.13	第13回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
「中学女子野球選手を対象とした大会前検診における障害調査」 井上 直人、中川 泰彰、向井 章悟、等々力賢輔、木下 和昭	
2021.09.05	京都重度四肢外傷 Peer Review Web Meeting
「感染を合併した足部 degloving を伴う Gustilo III b」 山本 博史	
2021.10.16	京都医療センター第17回医療連携フォーラム
「関西初！ 術中 Dyna CT と次世代型ナビゲーションシステムの連携で高精度な脊椎手術環境を実現」 宮田 誠彦	
2021.10.29	第48回日本肩関節学会学術集会
「自家骨軟骨移植にて上腕骨頭特発性骨壊死を治療した1例」 向井 章悟、中川 泰彰	
2021.11.13-12.06	第32回日本臨床スポーツ医学会学術集会
「ジュニア期体操競技選手の足関節痛と練習時間・競技歴との関係」 横田 尚子、木下 和明、西澤勇一郎、星野 祐一、中川 泰彰	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.11.13-12.06	第32回日本臨床スポーツ医学会
「学童期軟式野球選手における体幹アライメントと肩関節外転位での外旋可動域の関係」 井上 直人、中川 泰彰、向井 章悟、横田 尚子、木下 和昭、横山 茂樹	
2021.12.01	The 5 th Congress of Asian Pacific Federation of Societies for Reconstructive Microsurgery
「The Prognostic Factors for Forearm Replantation.」 Hiroshi Yamamoto, Atsushi Sakuragi, Satoshi Fujita, Takumi Hashimura, Yasuaki Nakagawa	
2021.12.03	第48回日本マイクロサージャリー学会学術集会
「前腕切断の予後決定因子についての一考」 山本 博史、桜木 淳史、藤田 俊史、橋村 卓実、中川 泰彰	
2022.01.22	第336回京都整形外科医会
「スポーツ現場で遭遇する外傷の対応及びスポーツ外傷、障害の診断と治療」 中川 泰彰	
2022.02.19	令和3年度 第2回スポーツ医科学講演会
「未永くスポーツを続けるために知っておきたい骨・関節の話」 中川 泰彰	
2022.03.05	第1回京都市南部整形外科懇話会
「膝関節疾患に対する最新の治療成績—当科から発信した公表英文論文も含めて—」 中川 泰彰	
WEB	第30回日本インストゥルメンテーション学会
「頸椎後方固定術における inside corner lateral mass screw (icLMS) の適応と限界.」 宮田 誠彦、坪内 直也	
web	第30回日本インストゥルメンテーション学会
「Far-lateral TLIF <椎体間ケージの強斜位設置法>」 宮田 誠彦、坪内 直也	
WEB ポスター	第94回日本整形外科学会学術総会
「外側型変形性膝関節症に対する自家骨軟骨移植術単独での治療成績」 新屋 祐希、中川 泰彰、山田 茂、山本 博史、向井 章悟、宮田 誠彦、坪内 直也、里見健太郎、 中村 亮太	
WEB ポスター	第94回日本整形外科学会学術総会
「クルクミン1年間内服による臨床効果及び軟骨保護作用の検討」 中川 泰彰、森 浩二、山田 茂、向井 章悟、廣瀬あきこ、山本 博史、宮田 誠彦、坪内 直也、 里見健太郎、中村 亮太、新屋 祐希	
WEB ポスター	第32回日本臨床スポーツ医学会学術集会
「コロナ禍における野球検診の工夫」 向井 章悟、中川 泰彰、中村 亮太、新屋 祐希、井上 直人、横田 尚子、坂井沙也子	
WEB ポスター	第32回日本臨床スポーツ医学会学術集会
「ジュニア期体操競技選手の足関節痛と練習時間・競技歴との関係」 横田 尚子、木下 和明、西澤勇一郎、星野 祐一、中川 泰彰	
WEB ポスター	第32回日本臨床スポーツ医学会学術集会
「距骨骨軟骨障害に対する自家骨軟骨移植術の治療成績」 坂井沙也子、中川 泰彰、向井 章悟、赤松 翔太、瀬戸口芳正	
WEB ポスター	第32回日本臨床スポーツ医学会学術集会
「学童期軟式野球選手における体幹アライメントと肩関節外転位での外旋可動域の関係」 井上 直人、中川 泰彰、向井 章悟、横田 尚子、木下 和昭、横山 茂樹	
web ポスター	第34回日本肘関節学会学術集会
「砂時計様くびれによる橈骨神経麻痺の手術適応についての一考」 山本 博史、向井 章悟、中川 泰彰	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

II. 膝周囲骨切り術他 自家骨軟骨柱移植術

Knack&Pitfalls 変形性膝関節症外科的治療の要点と盲点, 172-181, 2021.05, 文光堂

中川 泰彰、向井 章悟

原著論文

10. 軟骨損傷に対する手術 2. 自家骨軟骨柱移植術

ビジュアル・サージカルテクニック 膝関節鏡視下手術, 195-202, 2021.05, 文光堂

中川 泰彰、向井 章悟

解説

12: 上腕の疾患 上肢の解剖

23. 今日の整形外科治療指針 (土屋弘行、紺野慎一、田中康仁、田中栄、岩崎倫政、松田秀一編) 第8版, 426, 2021.07, 医学書院

中川 泰彰

原著論文

Open HTO+モザイク後比較的早期にTKAに至った2例の検討

JOSKAS, 46, 2, 158-159, 2021.05, 全日本病院出版会

三田村昇吾、中川 泰彰、向井 章悟、前田 峻宏

原著論文

スポーツドクターの現場 第13回 相撲

関節外科, 40, 2, 221-226, 2021.07, 不明

南 和文、中川 泰彰

原著論文

28 Sumo

Specific Sports-Related Injuries, 397-413, 2021.05

Nakagawa Y, Minami K, Hattori Y

原著論文

Midterm outcomes of autologous osteochondral graft transplantation only in the femoral condyle without treating the tibial plateau with subchondral bone exposed

Cartilage, 13, Suppl 1, 1178S-1186S, 2021.04

Nakagawa Y, Mukai S, Maeda T, Akamatsu S, Satomi K, Nakamura R

原著論文

Long-Term Survivorship and Clinical Outcomes of Osteochondral Autologous Transplantation for Steroid-Induced Osteonecrosis of the Knee.

Cartilage, 13, Suppl 1, 1156S-1164S, 2021.04

Nishitani K, Nakagawa Y, Kobayashi M, Nakamura S, Mukai S, Kuriyama S, Matsuda S.

原著論文

The effects of alendronate on the uppression of bone resorption and the promotion of cartilage formation in the human mosaicplasty donor site: a randomized, double-blind, placebo-controlled prospective study

J Orthop Sci 2021, 26, Suppl 1, doi : 10.1016/j.jos.2021.05.007., 2021.06

Nakagawa Y, Mukai S, Mori K, Yabumoto H, Nakamura R, Shinya Y

原著論文

Intra-articular injections of curcumin monoglucuronide TBP1901 suppresses articular cartilage damage and regulates subchondral bone alteration in an osteoarthritis rat model.

Cartilage, 13, Suppl 2, 153S-167S, 2021.12

Nakahata A, Ito A, Nakahara R, Kishimoto A, Imaizumi A, Hashimoto T, Mukai S, Nakagawa Y,

Kuroki H.

原著論文

The oral administration of highly-bioavailable curcumin for one year has clinical and chondroprotective effects: A randomized, doubleblinded, placebo-controlled prospective study

ASMAR, 2022.03

Nakagawa Y, Mori K, Yamada S, Mukai S, Hirose A, Nakamura R

原著論文

Autologous osteochondral grafts result in improved clinical outcomes in patients with early knee osteoarthritis

ASMAR, 2022.03

Nakagawa Y, Mukai S, Nishitani K, Murata, S, Satomi K, Shinya Y, Nakamura R

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

〔原著論文〕

The contribution of deleterious rare alleles in ENPP1 and osteomalacia causative genes to atypical femoral fracture.

J Clin Endocrinol Metab, doi : 10.1210/clinem/dgac022, 2022.01

Furukawa H, Oka S, Kondo N, Nakagawa Y, Shiota N, Kumagai K, Ando K, Takeshita T, Oda T, Takahashi Y, Izawa K, Iwasaki Y, Hasegawa K, Arino H, Minamizaki T, Yoshikawa N, Takata S, Yoshihara Y, Tohma S

形成外科



医長
診療科長（形成外科）
荒田 順
(2022年3月31日まで)

専門医資格等
日本形成外科学会評議員
形成外科専門医
日本手外科学会代議員
手外科専門医
日本創傷外科学会 専門医
小児形成外科分野指導医
再建・マイクロサージャリー
分野指導医
レーザー分野指導医
乳房再建用エキスパンダー・
インプラント責任医師
日本体育協会
公認スポーツドクター
滋賀医科大学病院教授
京都大学臨床教授
京都大学医学博士

専門分野
手外科
眼瞼形成
レーザー
再建外科



医長
海透 修子
(2022年4月1日から)

専門医資格等
日本形成外科学会専門医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医

専門分野
形成外科一般

得意疾患
外傷
熱傷
眼瞼下垂
乳房再建

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	松田 翔太	日本形成外科学会専門医	形成一般	眼瞼下垂、 皮膚悪性腫瘍
専攻医	幡 輝世		形成一般	
医師	尹 庸	日本形成外科学会専門医 日本医師会認定産業医	形成一般	足、レーザー

| 令和3年度の主な取組 |

- ① 6歳以下の小児は局所麻酔での手術が困難なため全例全身麻酔下での手術が基本となりますが、侵襲の低い手術症例に関しては日帰りでの全身麻酔手術が可能となりました。
これに関しては新たに日帰り全麻パスを作成し運用を開始しております。
- ② ハイブリッド手術室の稼働に伴い、当科では主に顔面骨骨折の手術にハイブリッドを導入しより正確な手術ができるようになりました。

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	8.1	7.9
新入院患者数(名)	231	284
平均在院日数(日)	12.3	9.8

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	17.7	21.2

主な術式別手術件数(2021年度)

外傷	176件	難治性潰瘍	80件
先天異常	43件	炎症、変性疾患	47件
腫瘍	585件	レーザー	337件
瘢痕、ケロイド	72件	その他	78件

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日 発表学会
演題名等 / 演者(下線は当院所属)

2021.04.14-16 第64回日本形成外科学会学術集会 ポスター発表

「交通外傷による中足部組織欠損に対しキメラ型遊離肩甲皮弁による中足部の再建を施行した一例」
尹 庸、荒田 順、海透 修子、熊切 将宜、山下輝世

2021.04.22-23 第64回日本手外科学会学術集会

「中指末節骨・背側軟部組織欠損へのReverse digital artery flap on bone graftによる再建」
丸川 雄大、荒田 順、杉田 憲彦、本田 祐造、田中優砂光、宮崎 洋一、貝田 英二

2021.07.15-16 第13回日本創傷外科学会総会 ポスター発表

「糖尿病患者のインスリン自己皮下注射に伴う巨大皮下血腫の一例」
荒田 順、海透 修子、山下 輝世、尹 庸

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名、巻、号、ページ、発行年月、出版社
著者(下線は当院所属)

症例報告

Nonincisional Osteotomy for Gradual Lengthening by Callus Distraction for Congenital Brachymetatarsia.
Journal of Foot and Ankle Surgery, 60, 6, 1293-1296, 2021
Arata J, Kumakiri M, Yamashita T, Kaito S.

症例報告

Reconstruction of E. coli Osteomyelitis of Costa : A Case Report
Plast Reconstr Surg Glob Open., 9, 2, e3413., 2021.02.17
Teruyo Yamashita, MD Jun Arata, MD, PhD Masanori Kumakiri, MD Shuko Kaito, MD Yong Yoon, MD

原著

当院における壊死性筋膜炎28例の検討
日本形成外科学会誌, 41, 6, 305-311, 2021.06
松田 翔太、田中佑里恵、長井 美樹、野村 健志、村田 舞、堀尾 修、山脇 吉朗

脳神経外科



専門医資格等
 日本脳神経外科学会
 脳神経外科専門医
 日本脳卒中学会
 脳卒中専門医・指導医
 日本脳卒中の外科学会
 技術指導医

専門分野
 脳血管障害
 頭蓋底外科
 良性脳腫瘍
 聴神経腫瘍

脳神経センター長
 診療科長
 がんセンター
 脳腫瘍ユニット長
 臨床研究センター
 血管障害室長
福田 俊一

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	土井 健人	日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医 日本脳卒中学会 脳卒中専門医 日本神経内視鏡学会 技術認定医 日本脳神経血管内治療学会 脳血栓回収療法実施医	脳神経外科	脳血管障害、 脳腫瘍
医師	西 秀久 2021年7月31日まで	日本脳神経外科学会 専門医 日本脳卒中学会 専門医 日本脳神経血管内治療学会 指導医	脳神経外科	脳血管障害 脳血管内治療
医師	岸田 夏枝	日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医 日本脳卒中学会 脳卒中専門医 日本脳神経血管内治療学会 専門医 日本医師会認定産業医	脳卒中外科	脳血管内手術
医師	牧野 恭秀	日本脳神経外科 脳神経外科専門医 日本脳腫瘍学会 脳腫瘍診療ガイドライン システムティックレビュー委員 日本脳神経血管内治療学会 脳血栓回収療法実施医		脳腫瘍、脳血管障害、 脊椎脊髄疾患
医師	住吉 壮介 2021年10月1日から	日本脳神経外科 脳神経外科専門医		

| 令和3年度の主な取組 |

脳神経外科は、春には大きな異動がありました。3月末で20年以上勤務された塚原徹也先生が定年退職され、川上理先生が岸和田市民病院部長に栄転、青木友和先生も退職され、4月より牧野恭秀先生が赴任されました。

その後、新生脳外科は苦難の道を歩みました。COVID-19やスタッフ交代の影響から4～5月は大きく手術件数が落ち込みました。近隣施設に紹介を募る努力が実り夏にはV字回復したところで、脳血管内専門医1名が妊娠のため長期休暇となり、さらに脳血管内指導医の西秀久先生が8月にカナダに留学されました。これらは大変喜ばしいことなのですが、令和2年度には7名いたスタッフが、8月には3名になってしまいました。京大から週1回非常勤当直医を派遣いただき、3ヶ月間なんとか残る3人でやりくりしました。10月には住吉壯介先生が赴任され4名になりましたが、その後も脳血管内専門医が不在の中、スタッフ一同診療に尽くしてくれました。

一方、診療環境は改善しました。4月に最新式手術顕微鏡KINEVO 900が導入され、9月に術中ナビCurveが入りました。このナビも最新式で、日本では2番目の導入機器です。さらに、12月には次世代ハイブリッド手術室が稼働し、ハイブリッド手術を始め、術中造影CTによる残存腫瘍の確認などへの利用が可能となりました。これらの機器を活用し、以前は治療困難であった疾患も安全に手術ができるようになりました。

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	17.3	17.6
新入院患者数(名)	252	284
平均在院日数(日)	22.7	20.8

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	23.5	22.9

主な手術件数(2021年度)

開頭手術	脳腫瘍	神経膠腫	4件
		髄膜腫	8件
		神経鞘腫	0件
		転移性脳腫瘍	8件
		その他	5件
	脳動脈瘤	破裂	3件
		未破裂	3件
	脳動静脈奇形		0件
脳内出血		15件	
外傷性頭蓋内出血		8件	
その他		15件	
機能的脳外科	てんかん		0件
	神経減圧術		1件
	脳深部刺激療法		0件
	その他		0件

血行再建術	頸動脈内膜剥離術	7件
	頭蓋内外血行再建 (もやもや病)	2件
	頭蓋内外血行再建 (閉塞性疾患)	5件
	深部吻合	0件
	その他	0件
経蝶形骨洞手術		0件
脊椎・脊髓手術	脊髓腫瘍	1件
	血管障害	0件
	脊椎症・ヘルニア	3件
	その他	0件
小児・先天奇形の手術 (腫瘍・もやもや病を除く)		0件
穿頭術		46件
シャント手術		7件
脳血管内手術 (Wada test, BTOは除く)	脳動脈瘤 (破裂)	3件
	脳動脈瘤 (未破裂)	5件
	脳動静脈奇形塞栓術	0件
	脊髓動静脈奇形塞栓術 (spinal DAVF含む)	0件
	硬膜動静脈瘻 (spinal DAVF含まず)	0件
	腫瘍塞栓術 (頭頸部病変含む)	2件
	頸動脈ステント術	8件
	頭蓋内外動脈血行再建術 (CAS含まず)	1件
	急性再開通療法	16件
	脳血管攣縮治療	0件
	その他	0件
定位放射線治療		0件
神経内視鏡手術		0件
その他		2件
合計		178件

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
2021.10.29	日本脳神経外科学会 第80回学術総会
[血行力学的観点から見た頸動脈狭窄症のリスク因子の検討] 福田 俊一、下権谷祐児	
2021.12.06	第39回日本脳腫瘍学会学術集会
[サンガーシークエンスとMLPAでIDH野生型低悪性度星細胞腫の予後を層別化できる] 牧野 恭秀、荒川 芳輝、吉岡 絵麻、正札 智子、川内 豪、寺田 行範、丹治 正大、兼松 大輔、 峰晴 陽平、宮本 享、金村 米博	
2022.03.20	第47回日本微小循環学会総会
[Elucidation of the Role of Hemodynamic Factors in the Formation and Growth of Cerebral Aneurysms for the Development of Therapeutic Drugs] 福田 俊一	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

Clinical Outcomes of Acute Atherosclerotic Large-artery Occlusion

脳卒中の外科, 50, 14-19

Yasuhiro KAWABATA, Norio NAKAJIMA, Hidenori MIYAKE, Shunichi FUKUDA, Tetsuya TSUKAHARA,
Ken YASUDA

原著論文

History of the European-Japanese Cerebrovascular Congress

Acta Neurochirurgica Supplement, 132, 1-6, 2021.06

Tsukahara Tetsuya

原著論文

Prognostic stratification for IDH-wild-type lower-grade astrocytoma by Sanger sequencing and copy-number alteration analysis with MLPA

Scientific reports., 13, 11, 14408, 2021.07

Yasuhide Makino, Yoshiki Arakawa, Ema Yoshioka, Tomoko Shofuda, Takeshi Kawauchi,
Yukinori Terada, Masahiro Tanji, Daisuke Kanematsu, Yohei Mineharu, Susumu Miyamoto,
Yonehiro Kanemura

原著論文以外

A Case of Spinal Ependymoma Developed in the Extramedullary Location : A Case Report and Literature Review

NMC Case Report Journal., 18, 8, 601, 2021.09

Yasuhide Makino, Yoshifumi Kawanabe, Motoaki Fujimoto, Tsukasa Sato, Minoru Hoshimaru

原著論文以外

Spinal cord astroblastoma with EWSR1-BEND2 fusion classified as HGNET-MN1 by methylation classification : a case report

Brain tumor pathology., 38, 4, 283, 2021.10

Takeyoshi Tsutsui, Yoshiki Arakawa, Yasuhide Makino, Hiroharu Kataoka, Yohei Mineharu,
Kentaro Naito, Sachiko Minamiguchi, Takanori Hirose, Sumihito Nobusawa, Yoshiko Nakano,
Koichi Ichimura, Hironori Haga, Susumu Miyamoto

原著論文

Infrequent RAS mutation is not associated with specific histological phenotype in gliomas

BMC Cancer., 15, 21, 1025, 2021.09

Yasuhide Makino, Yoshiki Arakawa, Ema Yoshioka, Tomoko Shofuda, Sachiko Minamiguchi,
Takeshi Kawauchi, Masahiro Tanji, Daisuke Kanematsu, Masahiro Nonaka, Yoshiko Okita,
Yoshinori Kodama, Masayuki Mano, Takanori Hirose, Yohei Mineharu, Susumu Miyamoto,
Yonehiro Kanemura

原著論文

Predicting cerebral infarction in patients with atrial fibrillation using machine learning : The Fushimi AF Registry

Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism, 2021.12

Nishi H, Oishi N, Ogawa H, Natsue K, Doi K, Kawakami O, Aoki T, Fukuda S, Akao M, Tsukahara T,
Fushimi AF Registry investigators.

原著論文

Hemodynamic Risk Factors for the Development of Carotid Stenosis in Patients with Unilateral Carotid Stenosis.

World Neurosurg., S1878-8750., 2022

Fukuda S, Shimogonya Y, Yonemoto N, Fukuda M, Watanabe A, Fujiwara K, Enomoto R, Hasegawa K,
Yasoda A, Tsukahara T, NHO Carotid CFD Study Group.

血管外科



医長
浅田 秀典

専門医資格等

心臓血管外科専門医
日本外科学会専門医
日本脈管学会評議員
旭川医科大学医学博士

専門分野

血管外科（閉塞性動脈硬化症、
動脈瘤、急性動脈閉塞、血管炎、
血管外傷に対する各種血行再建
術）静脈、リンパ疾患

令和3年度の主な取組

診療科の特徴

- あらゆる診療科や地域医療機関で直面した血管疾患の問題に迅速に対応してまいります。
- 患者さんには診療内容に対する十分な説明と満足な治療成果が得られるよう努力いたします。
2006年（平成18年）4月に発足した、主に末梢動脈疾患に対する血行再建を担当する診療科です。
近年、糖尿病や腎不全による慢性透析患者さんが増加するとともに、閉塞性動脈硬化症例（ASO）が増加しています。
閉塞性動脈硬化症とは、動脈硬化による下肢血流障害により各種症状（歩行時の下肢の痛み、安静時の足の痛みおよび足部潰瘍・壊死）を生じ、最終的には下肢切断にも至る疾患です。
このような症例には、迅速な診断とともに適切な治療が必要で、時には技術的に困難とされる足関節周囲への末梢バイパス手術と適切な局所処置が必要となります。
当科は、京都では数少ない血管外科専門科として日々下肢血流障害の治療にあたっています。
患者さんの多くは動脈硬化性の全身合併症があり、術前評価には循環器内科、脳神経外科、また、術前後には麻酔科はもちろん、糖尿病内科、腎臓内科、形成外科、整形外科、皮膚科などとの協力が必要で、各科連携した総合的診療を心がけています。

主な対象疾患

大動脈疾患（腹部大動脈瘤、大動脈解離など）
閉塞性動脈硬化症（糖尿病合併症例、慢性透析例を含む）
閉塞性血栓性血管炎（パージャール病）
急性動脈閉塞症（血栓症、塞栓病、外傷など）
下肢静脈瘤、静脈（鬱滞）性潰瘍
深部静脈血栓症、肺塞栓症
リンパ浮腫
血管内治療（動・静脈閉塞性疾患、動脈瘤）
内シャント（blood access）作成

診療（業務）内容

外来診療は、月、水の午前・午後、木曜日午前中の週3日間実施しております。

心疾患、脳疾患、糖尿病、腎臓病などの併存症を持っている方でも院内全体の診療科が協力し、安全で安心できる治療を行っています。

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数（名）	7	7.3
新入院患者数（名）	202	186
平均在院日数（日）	12.6	14.2

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数（名）	8.9	9.6

主な手術・検査の件数（2021年度）

下肢末梢動脈手術	43件	下肢静脈手術	0件
腹部大動脈手術	15件	四肢カテーテル治療	63件
透析内シャント手術	75件	四肢動脈造影	81件

心 臓 外 科



専門医資格等
心臓血管外科専門医
心臓血管外科修練指導者
外科専門医
京都大学臨床教授
京都大学非常勤講師

専門分野
成人心臓大血管手術

副院長
診療科長
部長（医療安全/医療技術）
白神 幸太郎

| スタッフ |

	氏 名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	片岡 剛	心臓血管外科専門医 心臓血管外科修練指導者 外科専門医 脈管学会専門医・指導医	成人心臓大血管疾患	成人心臓大血管手術および周術期管理、血管内治療
医 師	工藤 雅文	心臓血管外科専門医 外科専門医	成人心臓大血管疾患	成人心臓大血管手術および周術期管理

| 令和3年度の主な取組 |

2021年総括

2021年手術件数は、冠動脈バイパス術24例（人工心肺非使用8例）、弁膜症手術24例、胸部大動脈手術10例（ステントグラフト留置術1例）、腹部大動脈ステントグラフト留置術13例でした。うち術前ショック状態の緊急冠動脈バイパス術施行症例、胸部大動脈瘤破裂に緊急弓部全置換および外科的ステントグラフト留置術を施行した症例、急性期脳梗塞を合併した急性大動脈解離に対する緊急手術症例と計3例の手術死亡を認めました。いずれも重症で術前から死亡リスクは予見できていた症例でしたが、救命のために手術に踏み切った症例でした。

全国統計を算出しているJCVSD（日本心臓血管外科手術データベース）で2013年～2021年の手術成績を全国比較すると以下のような結果でした。いずれの手術においても死亡率、合併症発生率ともに予測値を下回る良好な成績が得られています。

	実測死亡率	予測死亡率	有害イベント 実測発生率	有害イベント 予測発生率
冠動脈バイパス術	1.39%	3.14%	5.56%	13.95%
心臓弁膜症手術	3.29%	6.95%	9.47%	21.54%
大動脈手術	9.91%	10.45%	21.62%	33.29%

注) 有害イベント：術後1ヶ月以内に死亡、あるいは治療に1ヶ月以上を要する合併症。

今後の課題

重症例の救命にはまだ工夫の余地があると考えており、今後も研鑽を重ねて参ります。一方で標準的手術においては早期離床、早期退院を目指します。心臓血管外科手術においても低侵襲化が必要と考えており、循環器内科と協働して経カテーテルの大動脈弁移植術（TAVI）を開始します。

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	5.4	4.4
新入院患者数(名)	54	55
平均在院日数(日)	33.4	24.5

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	4.5	4.8

主な手術・検査の件数(2021年度)

冠動脈バイパス術	24件	胸部大動脈手術	10件
人工心肺非使用	8件	ステントグラフト留置術	1件
弁膜症手術	24件	腹部大動脈ステントグラフト留置術	13件

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
2021.07.15	第23回日本医療マネジメント学会総会
	「臨床倫理コンサルテーションチームの導入」 白神幸太郎
2021.07.15	第23回日本医療マネジメント学会総会
	「院内蘇生不要(DNAR)指示ガイドラインの策定と運用」 白神幸太郎
2021.07.15	第23回日本医療マネジメント学会総会
	「医療の質向上のための体制整備事業に参加してー脳卒中への取り組みー」 東野 和美、白神幸太郎
2021.09.11	第59回京滋心臓血管外科研究会
	「冠動脈バイパス術後に乳糜心膜炎を呈した1例」 工藤 雅文、片岡 剛、浅田 秀典、白神幸太郎

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.10.14 「血管内側線治療で拡大を制御できなかった遺残座骨動脈瘤と、その後外傷性破裂で生じた巨大仮性瘤に対する一手術例」 片岡 剛、浅田 秀典、工藤 雅文、白神幸太郎	第62回日本脈管学会総会
2021.10.23 「臨床倫理コンサルテーションチームの導入」 白神幸太郎	第75回国立病院総合医学会総会
2021.10.23 「院内蘇生不要 (DNAR) 指示ガイドラインの策定と運用」 白神幸太郎	第75回国立病院総合医学会総会
2021.10.23 「診療情報管理士と院内多職種連携により臨床評価指標の改善につながった事例について」 東野 和美、上野 俊之、白神幸太郎	第75回国立病院総合医学会総会
2021.11.30 「チーム医療におけるコミュニケーション—医師からみた医療安全—」 白神幸太郎	令和3年度九州厚生局九州沖縄地区医療安全に関するワークショップ
2022.02.12 「感染性心内膜炎に対して Manouguian 変法を用いて二弁置換術を行った一例」 工藤 雅文、片岡 剛、浅田 秀典、白神幸太郎	第60回京滋心臓血管外科研究会

皮膚科



専門医資格等
日本皮膚科学会皮膚科専門医
京都大学 博士 (医学)
京都大学医学部 臨床教授
京都皮膚科医会理事

得意疾患
乾癬
掌蹠膿疱症
糖尿病足病変

専門分野
皮膚科一般
皮膚免疫

診療科長
十一 英子

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	野々村優美		皮膚科一般	
専攻医	飯岡 孝英		皮膚科一般	
専攻医	高本 一盛		皮膚科一般	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本皮膚科学会専門医研修施設
- ・生物学的製剤使用承認施設

診療科の特徴

1. 乾癬、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹、掌蹠膿疱症に対して生物学的製剤による治療を行っています。
2. 糖尿病、悪性腫瘍など基礎疾患を持つ蜂窩織炎、带状疱疹などの感染症や難治性潰瘍など、総合病院の特色を生かして他科と密に連携して治療しています。
3. 地域の他病院から紹介された診断困難な症例、難治例、重症例なども多く受け入れています。

主な対象疾患

尋常性乾癬、乾癬性関節炎、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、うつ滞性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、水疱症、細菌感染症（ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹、など）、ウイルス感染症（带状疱疹、単純疱疹、カポジ水痘様発疹症、尋常性疣贅など）、真菌感染症（足白癬、股部白癬、爪白癬、カンジダ症など）、皮膚潰瘍、皮膚腫瘍など

診療（業務）内容

乾癬：治療が急速に進展し、難治の皮疹や関節炎のため生物学的製剤の治療を受ける患者さんが増えており、スクリーニング検査を行い適応を決め、投与しています。

掌蹠膿疱症：病巣感染などの検索を行って治療しています。生物学的製剤を使用する場合があります。

アトピー性皮膚炎：

外用剤や免疫抑制剤内服で十分改善しない場合、生物学的製剤の注射を行っています。

蕁麻疹：抗アレルギー剤内服で効果不十分な場合、生物学的製剤の注射を行っています。

糖尿病に合併する皮膚疾患：

糖尿病と関連した難治性足潰瘍や皮膚病変を、糖尿病科、形成外科、血管外科、整形外科、循環器科などと連携して診療しています。

帯状疱疹（ヘルペス）：重症度に応じて、抗ウイルス剤の内服、或いは入院で点滴治療を行っています。

爪白癬：難治な爪の水虫には抗真菌剤の内服治療を行っています。

接触皮膚炎：かぶれの原因検索に、パッチテストを行っています。

薬疹：重症薬疹は入院で治療しています。

水疱症：天疱瘡の中等症以上では血漿交換療法や免疫グロブリン大量療法を行っています。

診断・治療のために積極的に皮膚生検を行っています。

診療実績

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数（名）	3.1	3.5
新入院患者数（名）	53	54
平均在院日数（日）	19.4	25.7

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数（名）	56.2	54.2

主な手術・検査の件数（2021年度）

皮膚生検	275件	皮膚皮下腫瘍摘出術	48件
皮膚切開術	46件	皮膚悪性腫瘍摘出術	1件

学術活動報告（学会・研究発表など）

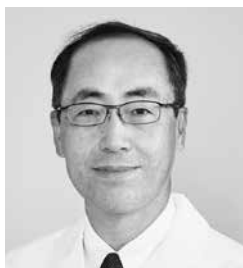
発表年月日	発表学会
2021.03.13	第402回日本皮膚科学会新潟地方会
「掌蹠膿疱症の臨床」 十一 英子	
2021.06.10-13	第120回 日本皮膚科学会総会
「前胸部皮下に腫瘤を生じた掌蹠膿疱症の1例」 飯岡 孝英、岡本奈都子、鄭 相紘、渋谷 真美、十一 英子	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.06.26 「複数回の歯科治療に伴い病勢の改善を認めた掌蹠膿疱症の1例」 野々村優美、飯岡 孝英、足立 晃正、十一 英子	第470回 日本皮膚科学会京滋地方会
2021.07.11 「乾癬性関節炎に対しイキセキズマブ治療中にCOVID-19肺炎を発症した1例」 飯岡 孝英、足立 晃正、野々村優美、十一 英子	第114回 近畿皮膚科集談会
2021.09.03 「IL-17 阻害薬が乾癬には著効したが喘息が悪化した1例」 十一 英子、飯岡 孝英、足立 晃正、野々村優美	第36回 日本乾癬学会学術大会
2022.03.05 「左前腕に発生したsarcomatoid carcinoma に放射線照射を行った一例」 高本 一盛、飯岡 孝英、野々村優美、十一 英子	第474回 日本皮膚科学会京滋地方会

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
<p>(原著論文)</p> <p>Safety and efficacy of FIT039 for verruca vulgaris : A placebo-controlled, phase I/II randomized controlled trial. JID Innov, 1, 3, 100026, 2021.05 Nomura T, Sumi E, Egawa G, Nakajima S, Toichi E, Inoue N, Shibuya M, Okamoto N, Mitsuishi T, Uozumi R, Tada H, Nakagawa T, Kusuba N, Okuno A, Shimizuhira C, Ishikawa M, Tanaka S, Hagiwara M, Kabashima K.</p>

泌尿器科



診療部長
(外科系担当)
科長
奥野 博

専門医資格等

日本泌尿器科学会
専門医・指導医
日本泌尿器科内視鏡学会
代議員
日本生殖医学会 評議員
日本アンドロロジー学会
評議員
がん治療認定医
日本内視鏡外科学会
技術認定医
日本泌尿器内視鏡学会
腹腔鏡技術認定医

日本泌尿器内視鏡学会
ロボット支援手術プロク
ター (前立腺・腎・膀胱)
AMS社認定PVPトレーナー
INTUITIVE社認定
ダ・ヴィンチコンソール術者
京都大学 医学博士
京都大学医学部 臨床教授
関西医科大学 臨床教授
京都泌尿器科医会会長

専門分野

泌尿器科一般

得意疾患

ロボット支援手術
前立腺癌
男性学

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	三品 睦輝	日本泌尿器科学会 専門医・指導医 がん治療認定医 日本泌尿器内視鏡学会 腹腔鏡技術認定医 INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール術者 京都大学 医学博士	泌尿器科一般	膀胱癌 尿路結石症
医 師	宮崎 有	日本泌尿器科学会 専門医・指導医 日本泌尿器内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医 がん治療認定医 臨床研修指導医 INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール術者	泌尿器科一般	前立腺癌 泌尿器科腫瘍 尿路結石症
医 師	三浦 高慶	日本泌尿器科学会 専門医 INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール術者 日本DMAT隊員 臨床研修医指導医	泌尿器科一般	泌尿器病理
医 師	早田 直生	INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール術者	泌尿器科一般	
専 攻 医	渡邊 岳之	INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール助手	泌尿器科一般	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本泌尿器科学会研修施設

診療科の特徴

1. ロボット支援手術、体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術・検査（痛みが少なく入院期間を短く）により患者さんへの負担の軽減を図ります。
2. 最先端医療も積極的に取り入れます。
3. 地域の開業医、診療所、病院と積極的に医療連携を行います。
4. 患者さんの人権を尊重し、安心と満足のいく良質の医療提供を目指します。

主な対象疾患

腎臓癌、膀胱癌、前立腺癌、副腎腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症、過活動膀胱、夜間頻尿、尿失禁、膀胱瘤、骨盤臓器脱、男性不妊症、性機能障害、内分泌障害、尿路感染症、性感染症、小児泌尿器科、腹膜透析、慢性腎不全

診療（業務）内容

- ・尿路性器悪性腫瘍に対する集学的治療を多部門と連携し積極的に行っている
- ・ロボット支援手術を含め、体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術に取り組んでいる
- ・初診外来担当医は患者さんの入院、手術、退院後の診療を一貫して責任をもって受け持つ
- ・外来及び入院看護師には排尿機能検査士の取得者を配置し、専門的な医療と看護を提供
- ・外来診療：木曜は4診 火曜、金曜は3診、月曜、水曜は2診
- ・手術：月、水、金曜日の週3日間
- ・火曜日の早朝には外来カンファレンス
- ・水曜日の早朝には病理医を招いて臨床病理カンファレンス
- ・木曜日の早朝から全体回診（医師、看護師長）
- ・木曜日の朝に放射線科医を招いて放射線画像・放射線治療カンファレンス
- ・金曜日の早朝には薬剤師、看護師を交えた病棟症例カンファレンス
- ・平成19年06月～「夜間頻尿外来」開設
- ・平成23年11月～前立腺肥大症に対し、光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP）を導入
- ・平成26年08月～前立腺癌に対し、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘を導入
- ・平成28年04月～「女性外来」開設
- ・平成28年08月～腎臓癌に対し、ロボット支援腎部分切除術を導入
- ・平成30年08月～経皮・経尿道同時尿路結石内視鏡手術を導入
- ・平成31年02月～膀胱癌に対し、ロボット支援膀胱全摘を導入
- ・令和3年3月～前立腺肥大症に対し、光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP）XPSを導入
- ・令和3年8月～MRI超音波画像融合経会陰前立腺生検（バイオジェット）を導入

診療実績

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	17.2	20.0
新入院患者数(名)	891	875
平均在院日数(日)	7	8.2

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	62.0	66.3

主な手術・検査の件数(2021年度)

ロボット支援前立腺全摘	28件	膀胱癌内視鏡手術(TURBT)	118件	
ロボット支援腎部分切除術	11件	骨盤臓器脱・尿失禁手術	TVM 1件	
ロボット支援膀胱全摘	5件		TOT 2件	
副腎腫瘍手術	11件	前立腺針生検	経直腸前立腺生検 26件	
腹腔鏡(後腹腔鏡)下腎(尿管)悪性腫瘍手術	11件		経会陰前立腺生検 73件	
尿路結石手術	TUL		55件	MRI超音波画像融合経会陰前立腺生検 57件
	PNL		0件	
	ECRIS	1件		
前立腺肥大症内視鏡手術	PVP	91件		
	TURP	15件		

学術活動報告(学会・研究発表など)

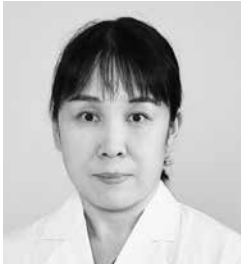
発表年月日	発表学会
2021.04.16	Urology Expert Meeting in Kyoto 「尿路上皮癌パネルディスカッション」 三浦 高慶
2021.05.15	第10回PVP研究会学術集会 「532nmレーザー光選択的前立腺蒸散術(PVP)後の術同日膀胱留置カテーテル抜去の安全性と有効性の検討(前向き観察研究・第1報)」 奥野 博、五十嵐 篤、荒木 博賢、伊藤 克弘、三浦 高慶、宮崎 有、三品 睦輝
2021.07.17	第25回藤ノ森カンファランス 「夜間頻尿における薬物療法の実際～難治性過活動膀胱にどう対応するか～」 伊東 晴喜
2021.09.18	第248回日本泌尿器学会関西地方会 「難治性精巣腫瘍が放射線治療を契機に完全寛解に至った1例」 荒木 博賢、宮崎 有、五十嵐 篤、三浦 高慶、真鍋 由美、伊東 晴喜、三品 睦輝、奥野 博
2021.11.11	第35回日本泌尿器内視鏡学会総会 「前立腺蒸散術のゴールドスタンダードの考察-なぜPVPは選ばれるのか? [PVPのevidenceと将来展望]」 奥野 博
2021.11.11	第35回日本泌尿器内視鏡学会総会 「光選択的前立腺レーザー蒸散術(PVP)の術同日尿道カテーテル抜去の安全性と有効性の検討」 奥野 博

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.11.12	第35回日本泌尿器内視鏡学会総会
「532nmレーザー光選択的前立腺蒸散術 (PVP) 治療の有効性と将来性」 奥野 博	
2021.11.27配信	第21回綴喜医師会学術集談会
「特別講演「どこまで診ますか? ~日常診療で出会う尿の悩み~」」 奥野 博	
2021.12.02	令和3年前立腺がん検診講習会
「トピックス:尿潜血患者に対する泌尿器科医が行う診療は?」 奥野 博	
2022.02.17	FM845 「からだ元気コーナー」
「頻尿や尿漏れでお困りの方へ」 奥野 博	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
<p>(原著論文)</p> <p>腎盂尿管移行部狭窄症患者に生じた外傷による腎盂破裂の2例 泌尿器科紀要, 67, 4, 141~145, 2021.04.30, 泌尿器科紀要刊行会 高橋 俊文、荒木 博賢、伊藤 克弘、寒野 徹、宗宮 伸弥、東 義人、奥野 博、山田 仁</p>
<p>(総説)</p> <p>精索静脈瘤 今日の治療指針 私はこう治療している TODAY'S THERAPY 2022, 1251~1252, 2022.01.01, 医学書院 奥野 博</p>
<p>(原著論文)</p> <p>Clinical Impact of Detecting Low-Frequency Variants in Cell-Free DNA on Treatment of Castration-Resistant Prostate Cancer Clinical cancer research, 27, 22, 6164-6173, 2021.11 Kei Mizuno, Takayuki Sumiyoshi, Takatsugu Okegawa, Naoki Terada, Satoshi Ishitoya, Yu Miyazaki, Takahiro Kojima, Hiromichi Katayama, Naohiro Fujimoto, Shingo Hatakeyama, Masaki Shiota, Koji Yoshimura, Yoshiyuki Matsui, Shintaro Narita, Hiroaki Matsumoto, Ryoma Kurahashi, Hidenori Kanno, Katsuhiro Ito, Hiroko Kimura, Yuki Kamiyama, Takuro Sunada, Takayuki Goto, Takashi Kobayashi, Hitoshi Yamada, Norihiko Tsuchiya, Tomomi Kamba, Hideyasu Matsuyama, Tomonori Habuchi, Masatoshi Eto, Chikara Ohyama, Akihiro Ito, Hiroyuki Nishiyama, <u>Hiroshi Okuno</u>, Toshiyuki Kamoto, Akihiro Fujimoto, Osamu Ogawa, Shusuke Akamatsu</p>
<p>(原著論文)</p> <p>Use of surgical checklist during transurethral resection increases detrusor muscle collection rate and improves recurrence-free survival in patients with non-muscle-invasive bladder cancer. International Journal of Urology, 28, 7, 727-732, 2021.07 Taoka Rikiya, Tsunemori Hiroyuki, Matsuoka Yuki, Kohashiguchi Kana, <u>Miura Takayoshi</u>, Tohi Yoichiro, Miyauchi Yasuyuki, Kato Takuma, Ueda Nobufumi, Sugimoto Mikio</p>
<p>(原著論文以外)</p> <p>A case of pyelocalyceal diverticulum urothelial carcinoma that was difficult to distinguish from cystic renal cell carcinoma preoperatively International Journal of Urology Case Report, 4, 6, 407-410, 2021.11 Iori Matsuda, Yasuyuki Miyauchi, <u>Takayoshi Miura</u>, Takuma Kato, Hiroyuki Tsunemori, Nachino Kimura, Yumi Miyai, Reiji Haba, Mikio Sugimoto</p>

産科婦人科



診療科長
安彦 郁

専門医資格等

日本産科婦人科学会
専門医・指導医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
日本婦人科腫瘍学会
専門医・指導医
日本産科婦人科内視鏡学会
認定 腹腔鏡技術認定医
日本内視鏡外科学会
技術認定医
日本ロボット外科学会専門医

女性ヘルスケア暫定指導医
日本婦人科腫瘍学会代議員
京都産婦人科医会 理事
ダ・ヴィンチ コンソール術者
日本婦人科ロボット手術学会
認定 プロクター (良性・悪性・RSC)
京都大学博士 (医学)
京都大学医学部 臨床教授
関西医科大学医学部
臨床教授

専門分野

婦人科悪性腫瘍手術
婦人科内視鏡手術
婦人科ロボット手術

得意疾患

婦人科腫瘍

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	宇治田麻里	日本産科婦人科学会 専門医・指導医 臨床研修指導医 母体保護法指定医 京都大学博士 (医学)	産婦人科一般	
医長	天野 泰彰	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医 臨床研修指導医 母体保護法指定医 ダ・ヴィンチ コンソール術者 京都大学博士 (医学)	産婦人科一般	婦人科腫瘍 婦人科悪性腫瘍
医長	江本 郁子	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本周産期新生児医学会 周産期専門医 (母体・胎児) 日本産科婦人科内視鏡学会認定 腹腔鏡技術認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医 日本産科婦人科遺伝診療学会認定医 (周産期) 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本婦人科腫瘍学会専門医 日本女性医学学会 女性ヘルスケア専門医 日本産科婦人科学会 女性のヘルスケアアドバイザー J-MELS ベーシックコースインストラクター 日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法「一次」コース (Bコース) インストラクター 臨床研修指導医 母体保護法指定医 ダ・ヴィンチ コンソール術者	周産期 産婦人科一般	

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	上田 匡	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本周産期新生児医学会 周産期専門医 (母体・胎児) 日本生殖医学会生殖医療専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 臨床研修医指導医 母体保護法指定医 ダ・ヴィンチ コンソール術者 京都大学博士 (医学)	産婦人科一般 生殖医療	
医師	岸本 尚也	日本産科婦人科学会専門医 ダ・ヴィンチ コンソール術者	産婦人科一般	
専攻医	田村 紗也		産婦人科一般	
専攻医	北野 照			
専攻医	市川 尚寛	AHA ACLSプロバイダー JPTECプロバイダー	産婦人科一般	
専攻医	住永 優里		産婦人科一般	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

日本産科婦人科学会 総合型専攻医指導施設
 日本婦人科腫瘍学会 指定修練A施設
 日本周産期・新生児学会 母胎胎児指定施設
 日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設
 臨床遺伝専門医制度 認定研修施設
 日本女性医学学会 認定研修施設

令和3年度の主な取組

- ・ロボット手術件数、無痛分娩件数が増加している。
- ・助産制度を利用した分娩受け入れを開始した。

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数 (名)	22	20.3
新入院患者数 (名)	1220	1200
平均在院日数 (日)	6.6	6.2

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数 (名)	49.1	49.9

主な手術・検査の件数 (2021年度)

分娩件数	292件 (双胎9件)	腹腔鏡手術 (ロボット手術含む)	274件
帝王切開件数	81件	ロボット手術	66件
無痛分娩件数	50件		

学術活動報告 (学会・研究発表など)

発表年月日	発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	
2021.04.22-24	第94回日本内分泌学会総会
「多発性内分泌腫瘍症 2 型の遺伝カウンセリング 甲状腺様がん術前に遺伝学的検査を行った一例」 小西 陽介、日下部 徹、難波 多挙、橋本有紀子、北 誠、和田美智子、鈴木 直宏、江本 郁子、 安彦 郁、林 琢磨、三宅 秀彦、浅原 哲子、八十田明宏	
2021.04.22-25	第73回日本産科婦人科学会学術講演会
「当院における精神疾患合併妊娠の検討」 田村 紗也、江本 郁子、勝又 美柚、鈴木 直宏、渡部 光一、天野 泰彰、宇治田麻里、高尾 由美、 安彦 郁	
2021.04.22-25	第73回日本産科婦人科学会学術講演会
「腹腔鏡下仙骨腔固定術 (LSC) 導入後の治療成績の検討」 勝又 美柚、安彦 郁、佐藤 晋平、堀江 昭史、福谷 優貴、伊藤 美幸、千草 義継、万代 昌紀	
2021.04.22-25	第73回日本産科婦人科学会学術講演会
「クリニカルシーケンスの医療 婦人科腫瘍におけるがんゲノム医療の新たな展開」 林 琢磨、安彦 郁、島田 宗昭、徳永 英樹、川村 直樹、小林 正幸、内山 亜弥、中西 豊、 加藤 秀則、竹原 和宏、田邊康次郎、新倉 仁、海法 道子、山田 秀和、中西 透、太田 剛、 永瀬 智、齋藤 文誉、岩越 裕、本原 剛志、矢幡 秀昭、鈴木 彩子、城 玲央奈、片淵 秀隆、 山口 建、松村 謙臣、市村 友季、万代 昌紀、加藤 聖子、八重樫伸生、小西 郁生、PRUM-IBio study	
2021.04.22-25	第73回日本産科婦人科学会学術講演会
「腹腔鏡下仙骨腔固定術 (LSC) とロボット支援下仙骨腔固定術 (RSC) 導入初期の治療成績に関する検討」 鈴木 直宏、田村 紗也、田中 美柚、渡部 光一、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、高尾 由美、 安彦 郁	
2021.05.13	日本婦人科腫瘍学会教育委員会 WEB セミナー
「ロボット支援下子宮全摘術」 安彦 郁	
2021.06.25	関西 Gynecological Robotic Surgery Seminar
「婦人科ロボット手術を安全に増やす～京都医療センターの取り組み～」 安彦 郁	
2021.07.02-04	第45回日本遺伝カウンセリング学会
「当院のBRACAnalysisにおける認定遺伝カウンセラーの関わり方について」 小西 陽介、鈴木 直宏、江本 郁子、安彦 郁、北 誠、橋本有紀子、難波 多挙、林 琢磨、 日下部 徹、三宅 秀彦、浅原 哲子、八十田 明宏	
2021.07.16-18	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
「単一施設における初期子宮体癌のロボット手術と腹腔鏡手術の比較検討」 安彦 郁、田村 紗也、田中 美柚、鈴木 直宏、渡部 光一、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、 高尾 由美	
2021.07.16-18	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
「クリニカルシーケンスの今後の展望：婦人科腫瘍におけるがんゲノム医療の新たな展開」 天野 泰彰、林 琢磨、安彦 郁、万代 昌紀、八重樫伸生、小西 郁生	
2021.07.16-18	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
「プラチナ製剤抵抗性再発・進行性卵巣がんに対する早期診断と治療法の検討」 林 琢磨、安彦 郁、山口 建、山田 亮、松村 謙臣、万代 昌紀、小西 郁生	
2021.07.16-18	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
「下部消化管内視鏡検査後に子宮平滑筋肉腫の破裂をきたした 1 例」 田中 美柚、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、鈴木 直宏、上田 匡、江本 郁子、宇治田麻里、 天野 泰彰、安彦 郁	
2021.07.16-18	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
「経過非順調型を呈した絨毛性疾患の臨床経過の検討」 鈴木 直宏、田村 紗也、田中 美柚、渡部 光一、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、高尾 由美、 安彦 郁	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.09.11-13 「シンポジウム 5 これからロボット手術を始める人への提言ロボットを始めたばかりの5年前の私にタイムマシンで教えてあげたいこと」 安彦 郁	第61回産婦人科内視鏡学会学術講演会
2021.09.11-13 「腹壁癒痕ヘルニアメッシュ修復術後の腹膜妊娠に対して腹腔鏡手術を施行した1例」 市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、鈴木 直宏、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	第61回産婦人科内視鏡学会学術講演会
2021.09.11-13 「仙骨腔固定術時にメッシュ位置の変更が必要であったPersistent Descending Mesocolonの2例」 宇治田麻里、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、鈴木 直宏、江本 郁子、天野 泰彰、安彦 郁	第61回産婦人科内視鏡学会学術講演会
2021.09.25-26 「ロボット支援子宮悪性腫瘍手術の子宮全摘出術」 安彦 郁	第44回産婦人科手術学会
2021.10.08-10 「Oncological features of intravenous leiomyomatosis: involvement of mesenchymal tumor stem-like cells.」 Saya Tamura, Takuma Hayashi, Hideki Tokunaga, Nobuo Yaegashi, Kaoru Abiko, Ikuo Konishi.	Cell Symposium : Overcoming Therapy Resistance in Cancer
2021.10.09 「当院における硬膜外無痛分娩一導入初期65例の検討」 市川 尚寛、江本 郁子、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、岸本 尚也、上田 匡、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	第12回京都周産期カンファレンス
2021.10.22-24 「初期子宮体癌に対するロボット手術と腹腔鏡手術の導入初期成績の比較」 安彦 郁、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、鈴木 直宏、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里	第59回日本癌治療学会学術集会
2021.11.12 「基調講演 「ロボット手術を始めよう」」 安彦 郁	「TLH、その次に目指すもの」セミナー
2021.11.26 「講演 2 「RSCにおけるTipsとPitfalls～より安全で患者満足度の高い手術を目指して」」 安彦 郁	芳し手術会～婦人科WEBロボットカンファレンス～
2021.12.03-05 「領域横断シンポジウム 婦人科悪性腫瘍手術に関する本音」 安彦 郁	第34回日本内視鏡外科学会総会
2021.12.03-05 「Persistent Descending Mesocolonを伴う骨盤臓器脱に対して仙骨腔固定術を施行した2例：メッシュ位置の工夫」 上田 匡、江本 郁子、安彦 郁	第34回日本内視鏡外科学会総会
2021.12.03-05 「腹壁癒痕ヘルニアメッシュ修復術後に腹腔鏡下異所性妊娠手術を施行した1例」 江本 郁子、上田 匡、安彦 郁	第34回日本内視鏡外科学会総会
2021.12.04 「ロボット支援下仙骨腔固定術後に絞扼性腸閉塞を生じた1例」 岸本 尚也、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	第13回京都婦人科鏡視下手術研究会
2022.01.29-30 「ワークショップ 1 若手が魅せる！若手Surgeonの可能性と指導 医師7年目で始めるロボット支援下手術—ロボット支援下仙骨腔固定術を中心に—」 安彦 郁	第10回日本婦人科ロボット手術学会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.01.29-30 「産婦人科ロボット保険術式の導入機成績の検討」 安彦 郁、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、岸本 尚也、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里	第10回日本婦人科ロボット手術学会
2022.01.29-30 「当院での仙骨腔固定術式についての検討～腹腔鏡手術かロボット手術か～」 宇治田麻里、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、岸本 尚也、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、安彦 郁	第10回日本婦人科ロボット手術学会
2022.01.29-30 「腹圧性尿失禁を合併した骨盤臓器脱に対してロボット支援下仙骨腔固定術と尿道スリング手術を同時に施行した1症例」 江本 郁子、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、岸本 尚也、上田 匡、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	第10回日本婦人科ロボット手術学会
2022.02.26-27 「骨盤臓器脱に対するロボット支援下仙骨腔固定術 (RSC) の手術成績の後方視的検討」 安彦 郁、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、岸本 尚也、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里	第14回日本ロボット外科学会学術集会
2022.03.02 「ステップアップ尿管対策「側方/後方アプローチを使い分けて尿管と血管を安全に分離する」」 安彦 郁	MUST Multi Solution for TLH
2022.03.18 「ロボット支援下仙骨腔固定術 (RSC) 術後に絞扼性小腸閉塞を生じた症例の検討と対策」 天野 泰彰、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、岸本 尚也、上田 匡、江本 郁子、宇治田麻里、安彦 郁	第21回産婦人科手術療法・周期研究学会

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
総説 【凶解 分子メカニズムから理解する婦人科がんの薬物療法】 卵巣悪性腫瘍 性索間質性腫瘍 産婦人科の実際, 70, 12, 1479~1483, 2021 安彦 郁
総説 広範囲の哺乳綱に属する生き物へのSARS-CoV-2の感染拡大の危惧とCOVID-19の治療 未病と抗老化, 30, 36~40, 2021 林 琢磨、宇良 敬、安彦 郁、天野 泰彰、市村 友季、佐野 健司、金井 栄、油谷 浩幸、 Gur G, Zharhary D、万代 昌紀、八重樫伸生、小西 郁生
解説 大血管損傷時の対応 OGS NOW Basic 8 明日からできる悪性腫瘍の手術 リンパ節郭清 (開腹・腹腔鏡・ロボット), 164~170, 2021, Medical View 安彦 郁
原著論文 腹腔鏡下单純子宮全摘出術後に発症した両側卵巣捻転の1例 産婦人科の進歩, 74, 1, 103~108, 2022.02 鈴木 直宏、安彦 郁、田村 紗也、勝又 美柚、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、高尾 由美
原著論文 腹腔内に迷入したレボノルゲストレル放出子宮内システムを腹腔鏡にて安全摘出しえた1例 産婦人科の進歩, 73, 3, 328~333, 2021.08 天野 泰彰、安彦 郁、田村 紗也、勝又 美柚、渡部 光一、江本 郁子、宇治田麻里、高尾 由美

(原著論文)

再発子宮体癌に対しPembrolizumab投与中にCOVID-19感染による全身症状が遷延した一例
産婦人科の進歩, in press

田村 紗也、北野 照、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、小田垣孝雄、安彦 郁

(原著論文)

異所性成分を含む子宮平滑筋肉腫破裂の1例
日本婦人科腫瘍学会雑誌, in press

田中 美柚、高尾 由美、鈴木 直宏、天野 泰彰、宇治田麻里、江本 郁子、安彦 郁

(原著論文)

古典的帝王切開後の妊娠に対して子宮頸管縫縮術を施行し、妊娠31週に子宮破裂と診断した1例
産婦人科の実際, 70, 6, 689-693, 2021.06, 金原出版

上田 匡、松坂 直、家村 洋子、高折 彩、中村 彩加、李 泰文、北村 幸子、金 共子、
藤田 浩平

(解説)

COVID-19時代、新たな癌治療法の有り方
未病と抗老化, 30, 2021.04

林 琢磨、宇良 敬、小西 郁生

(その他)

HARMONIC HD1000iを用いた腹腔鏡下子宮体癌根治術
ESS Website, 2022.03, ジョンソンエンドジョンソン

安彦 郁

(原著論文)

Right-sided Sigmoid Colon Revealed during Laparoscopic Sacrocolpopexy.
J Minim Invasive Gynecol., 28, 7, 1267-1268, 2021

Koichi Watanabe, Kaoru Abiko, Saya Tamura, Miyu Katsumata, Yasuaki Amano, Yumi Takao.

(原著論文)

A Novel Direct Approach to the Deep Uterine Vein in Laparoscopic Radical Hysterectomy.
J Minim Invasive Gynecol., 28, 8, 1444-1445, 2021

Akihito Horie, Kaoru Abiko, Tsukasa Baba, Masumi Sunada, Sachiko Kitamura, Koji Yamanoi,
Naoki Horikawa, Ken Yamaguchi, Junzo Hamanishi, Eiji Kondoh, Masaki Mandai.

(原著論文以外)

Potential Novel Ovarian Cancer Treatment Targeting Myeloid-Derived Suppressor Cells.
Cancer Invest., 39, 4, 310-314, 2021

Kaoru Abiko, Takuma Hayashi, Ken Yamaguchi, Masaki Mandai, Ikuo Konishi.

(原著論文以外)

Tumor Immune Microenvironment during Epithelial-Mesenchymal Transition.
Clin Cancer Res., 27, 17, 4669-4679, 2021

Mana Taki, Kaoru Abiko, Masayo Ukita, Ryusuke Murakami, Koji Yamanoi, Ken Yamaguchi,
Junzo Hamanishi, Tsukasa Baba, Noriomi Matsumura, Masaki Mandai.

(原著論文)

Combination of gene set signatures correlates with response to nivolumab in platinum-resistant ovarian cancer.

Sci Rep., 11, 1, 11427, 2021

Ryusuke Murakami, Junzo Hamanishi, J B Brown, Kaoru Abiko, Koji Yamanoi, Mana Taki, Yuko Hosoe,
Ken Yamaguchi, Tsukasa Baba, Noriomi Matsumura, Ikuo Konishi, Masaki Mandai.

(原著論文)

Development of Uterine Leiomyosarcoma During Follow-up After Caesarean Section in a Woman With Uterine Leiomyoma.

Anticancer Res., 41, 6, 3001-3010, 2021

Koichi Watanabe, Takuma Hayashi, Miyu Katsumata, Kenji Sano, Kaoru Abiko, Ikuo Konishi.

(原著論文)

Lymphoepithelioma-like carcinoma of uterine cervix : Preoperative diagnosis and course in three cases.
J Obstet Gynaecol Res., 47, 11, 4093-4100, 2021

Asami Ikeda, Kaoru Abiko, Ikuko Emoto, Mari Ujita, Yumi Takao, Ikuo Konishi.

原著論文

PDK2 leads to cisplatin resistance through suppression of mitochondrial function in ovarian clear cell carcinoma.

Cancer Sci., 112, 11, 4627-4640, 2021

Sachiko Kitamura, Ken Yamaguchi, Ryusuke Murakami, Yoko Furutake, Koichiro Higasa,
Kaoru Abiko, Junzo Hamanishi, Tsukasa Baba, Noriomi Matsumura, Masaki Mandai.

原著論文

Oncological Properties of Intravenous Leiomyomatosis : Involvement of Mesenchymal Tumor Stem-Like Cells.

Curr Issues Mol Biol., 43, 2, 1188-1202, 2021

Saya Tamura, Takuma Hayashi, Hideki Tokunaga, Nobuo Yaegashi, Kaoru Abiko, Ikuo Konishi.

原著論文

Temporal changes in magnetic resonance imaging appearance of adult granulosa cell tumor

Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 47, 11, 4110-4117, 2021

Masashi Ueda, Yukiyasu Sato, Shuichiro Iwami, Toshiki Dodo, Tomoyuki Shirase, Kohei Fujita

原著論文

Mesonephric-like adenocarcinoma of the ovary in an elderly woman : A case report and a review of the literature.

Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 47, 12, 4490-4495, 2021

Mari Ujita, Kaoru Abiko, Ryo Kuwahara, Ikuko Emoto, Yasuaki Amano, Ikuo Konishi.

原著論文以外

Prospects and Problems of Development of Candidate Vaccine against COVID-19.

International Journal of Trend in Scientific Research and Development., 5, 2, 604-606, 2021

Takuma Hayashi, Yasuaki Amano, Takashi Ura, Ikuo Konishi.

原著論文

Characteristic of Uterine Rhabdomyosarcoma by algorithm of potential biomarkers for uterine mesenchymal tumor

Current Oncology

Saya Tamura, Takuma Hayashi, Tomoyuki Ichimura, Nobuo Yaegashi, Kaoru Abiko, Ikuo Konishi.

原著論文

Potential biomarkers associated with the nature of uterine benign mesenchymal tumors

Journal of Clinical Medicine Research

Saya Tamura, Takuma Hayashi, Kaoru Abiko, Ikuo Konishi.

緩和ケア科



専門医資格等
 日本外科学会 専門医
 日本消化器外科学会 認定医
 麻酔科標榜医
 PEACE 緩和ケア指導者
 京都大学医学部 臨床教授

専門分野
 消化器外科、緩和ケア、
 臨床栄養、麻酔

診療部長 (がん診療担当)
 診療科長
大谷 哲之

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	木下 多愛	日本緩和医療学会 認定医 日本麻酔科学会 専門医 麻酔科標榜医 PEACE 緩和ケア指導者	緩和ケア 麻酔	
音楽療法士	飯塚三枝子	音楽療法士 臨床音楽士 臨床音楽協会 理事 ヴィオラリスト	音楽療法	
音楽療法士	谷口奈緒美	日本音楽療法学会 認定音楽療法士	音楽療法	
アロマセラピスト	畑 亜紀子	公認心理師 IFPA (The International Federation of Professional Aromatherapists) 認定アロマセラピスト (公社) 日本アロマ環境協会認定アロマセラピスト/アロマインストラクター	アロマセラピー	

| 令和3年度の主な取組 |

在宅緩和ケアを行っている診療所との連携を密にし、切れ目のない緩和ケアを提供
 更なる緩和ケアの啓発・普及に努める
 緩和ケア外来での症状緩和の取り組み

| 診療実績 |

緩和ケア内科入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	6.0	8.48
新入院患者数(名)	32	34
平均在院日数(日)	33.9	39.7

緩和ケア内科外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	0.4	0.5

緩和ケア外科入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	6.9	8.95
新入院患者数(名)	28	32
平均在院日数(日)	38.3	48.0

緩和ケア外科外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	1.5	1.1

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
2021.06.12	International Federation of Professional Aromatherapists 「病院でアロマセラピストとして働く～ファーストステップから臨床研究まで①～」 畑 亜紀子
2021.07.10	International Federation of Professional Aromatherapists 「病院でアロマセラピストとして働く～ファーストステップから臨床研究まで②～」 畑 亜紀子
2021.07.19	第213回 滋賀県病院薬剤師会 湖北東・湖南西合同研修会 「特別講演 緩和ケアの実践～明日から役立つ緩和医療～」 大谷 哲之
2021.09.05	公益社団法人 京都府看護協会 「京都医療センター看護助産師学校第17回生ホームカミングデー」 畑 亜紀子
2021.09.09	第23回伏見薬業連携協議会 「特別講演 がん性疼痛における薬剤について」 大谷 哲之
2021.09.11	第16回日本禁煙科学会学術総会 「禁煙治療におけるアロマセラピー併用療法臨床研究の進捗状況」 畑 亜紀子、小見山麻紀、八十田明宏、浅原 哲子、山陰 一、和田 啓道、長谷川浩二
2021.09.25	NPO法人キャンサーリボンズ「がんの治療と暮らしフェア」 「患者さんご家族が時間と空間を共有するアロマケア」 畑 亜紀子

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.10.22-23	第75回国立病院総合医学会
「京都医療センターにおける13年目を迎えた音楽療法の活動報告」 飯塚三枝子、谷口奈緒美、落合 恵、紀田 幸子、山口理恵子、福田 俊一	
2021.11.03	第14回緩和ケア研修会 うずらPEACE集合研修
「e-learningの復習・質問」 木下 多愛	
2021.11.13	第10回中京区認知症フォーラム
「僕らは皆生きている 呼吸するように唄う」 飯塚三枝子、谷口奈緒美	
2021.11.30	FM845 京都リビングFM カラダ元気
「緩和ケアの紹介」 大谷 哲之	
2021.12.08	第3回アドバンスケアプランニングを考える
「緩和ケア病棟から自宅退院できた末期肺がん患者の1症例～患者・家族との話し合いと心の変化～」 大谷 哲之、三尾 直士、坂井みさき、西村 美奈、森岡 宏介	
2022.02.01	緩和医療を多職種で考える会
(座長) 大谷 哲之 (演者) 土屋 宣之、福島 豊、村井 睦美、松木 香織、二村 直行	

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
一般
『合同企画ページCampanioカンパニオ!』きもちとつきあうアロマケア・アロマセラピーって?精油の選び方は? 掲載誌、22誌*
※『糖尿病ケア』(初出)『オペナーシング』『ハートナーシング』『透析ケア』『消化器ナーシング』『整形外科看護』 『眼科ケア』『ナーシングビジネス』『ニュートリションケア』(以上、月刊9誌) 『ブレインナーシング』『リハビリナース』『産業保健と看護』『YORi-SOUがんナーシング』『with NEO』『Emer Log』 『みんなの呼吸器Respica』(以上、隔月刊7誌) 『ペリネイタルケア』『脳神経外科速報』『インフェクションコントロール』『泌尿器Care & Cureウロロ (隔月)』 『整形外科サージカルテクニク (隔月)』『眼科グラフィック (隔月)』(以上、抜粋掲載6誌), 2022.01~, メディカ出版 畑 亜紀子

眼科



診療部長
科長
喜多 美穂里

専門医資格等
 京都大学眼科臨床教授
 京都大学眼科非常勤講師
 日本眼科学会認定
 眼科指導医
 日本眼科学会認定
 眼科専門医
 PDT認定医
 京都大学医学博士
 2012-2023
 Best Doctors選出

専門分野
 網膜硝子体疾患
 内視鏡併用硝子体手術

得意疾患
 網膜剥離
 糖尿病網膜症

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	濱 祥代	日本眼科学会認定 眼科専門医	眼科一般	
専攻医	小林嶺央奈		眼科一般	
専攻医	岡田 陽		眼科一般	
専攻医	細田 明良		眼科一般	

| 令和3年度の主な取組 |

- ・網膜硝子体分野を中心に、3D内視鏡併用硝子体手術、3Dビジュアルシステムを用いた手術など高度で先進的な眼科医療を行い、良好な手術成績をあげ、多くの紹介を得た。
- ・当科主催の「眼科連携FSM2021」を本年度も開催し、地域との連携を強化した。
- ・先進的な眼科治療について、国際学会や国内学会等で、シンポジスト、オーガナイザー、特別講演者などとして、情報を発信した。

| 診療実績 |

入院患者数

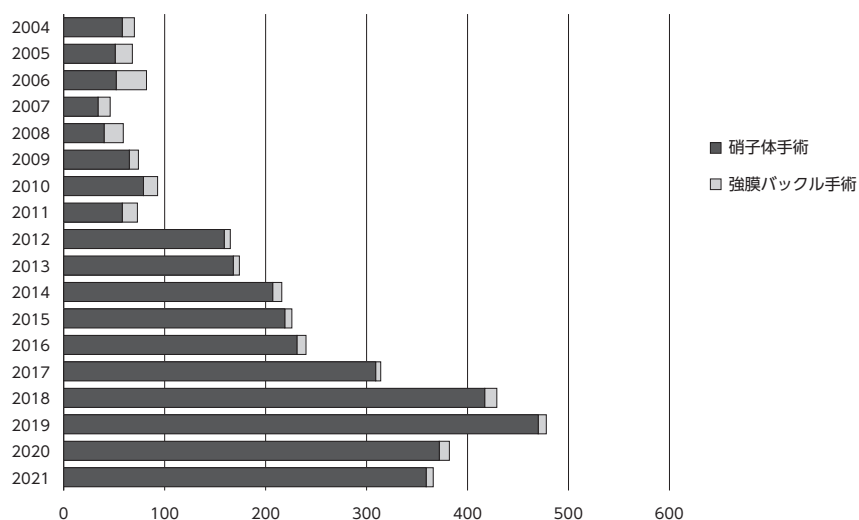
	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	9.8	9.5
新入院患者数(名)	768	856
平均在院日数(日)	4.6	4.1

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	45.4	48.2

主な手術の件数(2021年度)

水晶体再建術	526件	中央手術室手術合計	868件
硝子体手術	359件	緑内障手術	19件
強膜バックル手術	7件	外来手術	540件



学術活動報告(学会・研究発表など)

発表年月日	発表学会
演題名等 / 演者(下線は当院所属)	
2021.06.12	眼科連携FSM2021
「最新! 眼内内視鏡手術」	
喜多美穂里	
2021.06.12	眼科連携FSM2021
「絶対まちがえない! 右と左-手術室での医療安全」	
富田 碧、片瀬 幸治、中村 露子、喜多美穂里	
2021.06.12	眼科連携FSM2021
「検査も低侵襲! VEP、OCTA」	
加藤 慶、武村美智代、大門 彩香、山藤 満、吉田 直子、片山 真優、喜多美穂里	
2021.06.12	眼科連携FSM2021
「いいね! レンティスコンフォート」	
瀧 祥代、小林嶺央奈、喜多美穂里	
2021.06.12	眼科連携FSM2021
「拾いました! レンズ脱臼」	
小林嶺央奈、瀧 祥代、喜多美穂里	
2021.06.12	眼科連携FSM2021
「免疫正常者なのに! サイトメガロ網膜炎」	
鍵谷 悠、小林嶺央奈、瀧 祥代、喜多美穂里	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.06.12	眼科連携FSM2021
「まず疑う！ウイルス性網膜炎」 喜多美穂里、鍵谷 悠、小林嶺央奈、瀧 祥代	
2021.06.12	眼科連携FSM2021
「孔を見つける！裂孔不明裂孔原性網膜剥離」 喜多美穂里、加藤 慶、小林嶺央奈、瀧 祥代	
2021.08.14	Repair that Retina 2 nd episode
「Endoscopic vitrectomy for PVR in eyes with corneal opacity.」 Mihori Kita	
2021.09.30	第24回伏見薬業連携協議会 (特別講演)
「糖尿病網膜症を斬る」 喜多美穂里	
2021.10.06	NGENUITY users meeting 2021
「NGENUITY での手術教育」 喜多美穂里	
2021.10.29	第75回日本臨床眼科学会 (インストラクションコース)
「網膜剥離ファイトクラブ round17 一症例をシェアして自分のものにする」 喜多美穂里、大島 佑介、門之園一明、木村 英也、日下 俊次、栗山 晶治、竹内 忍	
2021.12.11	Repair that Retina final episode
「chandelier buckling in 3D」 Mihori Kita	
2021.12.17	第2回 網膜硝子体手術 update in FUIKUOKA (特別講演)
「3Dハイブリッド手術—もう顕微鏡はのぞかない—」 喜多美穂里	
2022.01.07	看護学校講義
「病態生理治療論Ⅶ ・感覚器：眼科 眼の構造と機能」 喜多美穂里	
2022.01.07	看護学校講義
「病態生理治療論Ⅶ ・感覚器：眼科 検査と治療」 喜多美穂里	
2022.01.14	看護学校講義
「病態生理治療論Ⅶ ・感覚器：眼科・疾患の理解」 喜多美穂里	
2022.01.20	眼科コールドケース2022
「F/A exchange」 喜多美穂里	
2022.01.20	眼科コールドケース2022
「網膜細動脈瘤破裂による黄斑下出血に対する手術」 喜多美穂里 (オーガナイザー、座長)、森實 祐基、大澤 俊介、門之園一明、瓶井 資弘、日下 俊次、栗山 晶治、本田 茂	
2022.02.05	第43回眼科メディカルスタッフ講習会
「眼科用薬剤」 喜多美穂里	
2022.02.05	第43回眼科メディカルスタッフ講習会
「眼疾患の基礎知識」 喜多美穂里	
2022.02.05	第43回眼科メディカルスタッフ講習会
「手術」 喜多美穂里	

発表年月日 発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)

2022.02.10 第1回眼科手術updateセミナー

「なんてたって デジタル、手術も デジタル」
喜多美穂里

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

① 総説

目の痛み.

今日の臨床サポート, 第4版, 983, Elsevier

閲覧用URL <http://preview.clinicalsup.jp.jpoc.searchDetails.aspx?DiseaseID=983>

喜多美穂里

耳鼻咽喉科・頭頸部外科



耳鼻咽喉科医長
辻 純

専門医資格等
日本耳鼻咽喉科専門医
京都大学 医学博士
京都大学臨床教授

専門分野
耳科学・耳鼻咽喉科

得意疾患
耳疾患
頭頸部がん
めまい



頭頸部外科医長
安里 亮

専門医資格等
日本耳鼻咽喉科学会専門医
気管食道科専門医
頭頸部がん暫定指導医
頭頸部がん専門医
内分泌・甲状腺外科専門医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医

専門分野
頭頸部外科・甲状腺外科

得意疾患
頭頸部腫瘍
甲状腺腫瘍
頭頸部がん
甲状腺がん

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	牛呂 幸司	日本耳鼻咽喉科学会 専門医 日本耳鼻咽喉科学会 臨床研修指導医 日本がん治療学会 認定医	頭頸部がん・甲状腺がんの手術	頭頸部がん 甲状腺がん
医師	辻 拓也	日本耳鼻咽喉科専門医 京都大学 医学博士	耳鼻咽喉科一般	
医師	伊藤 通子	日本耳鼻咽喉科専門医 日本がん治療学会 認定医	耳鼻咽喉科一般	頭頸部腫瘍
専攻医	安田 佳織		耳鼻咽喉科一般	
専攻医	山本 卓矢		耳鼻咽喉科一般	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本耳鼻咽喉科学会学会認定 耳鼻咽喉科専門医研修施設
- ・日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医制度 指定研修施設
- ・日本内分泌外科学会専門医制度 認定施設
- ・日本気管食道科学会認定専門医研修施設

クリティカルパスは10種類活用している。

- ・喉頭微細手術 4日間
- ・免疫チェックポイント阻害剤（頭頸部がん） 3日間
- ・口蓋扁桃摘出術（小児用） 7日間
- ・口蓋扁桃摘出術（成人用） 8日間
- ・甲状腺全摘術（副甲状腺全摘） 8日間
- ・甲状腺全摘術（副甲状腺温存） 8日間
- ・甲状腺半切7日間 7日間
- ・甲状腺半切8日間（金曜入院） 8日間
- ・耳下腺・顎下腺・頸部腫瘍摘出術 7日間
- ・鼻副鼻腔手術（全身麻酔） 6日間

以下のように、甲状腺手術・頭頸部腫瘍（頭頸部がん）手術が多いのが特徴である。

- ・甲状腺手術 36件
- ・頭頸部腫瘍手術 129件（頭頸部がん手術 49件）

耳鼻咽喉科手術を中心に頭頸部がんでは低侵襲手術から再建を要する進行癌手術まで幅広く対応している

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数（名）	15.7	16.9
新入院患者数（名）	440	495
平均在院日数（日）	13.2	12.5

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数（名）	40.3	38.8

主な手術・検査の件数（2021年度）

耳手術	29件	甲状腺・副甲状腺手術	41件
鼻副鼻腔手術	31件	頭頸部腫瘍手術	129件

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日	発表学会
演題名 等 / 演者（下線は当院所属）	
2021.05.13	第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
「人工内耳を装着した脳表へモジデリン沈着症の一例」 松本 昌弘、扇田 秀章、宮部 祥悟、小柴 彩菜、 <u>牛呂 幸司</u> 、伊藤 壽一	
2021.05.13	第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
「ステノン管原発が疑われた頬部扁平上皮癌の1例」 宮部 祥悟、 <u>牛呂 幸司</u> 、小柴 彩奈、松本 昌宏、扇田 秀章、藤野 清大	
2021.05.13	第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
「耳下腺・頸部リンパ節転移を認めた眼瞼結膜原発扁平上皮癌の一例」 小柴 彩奈、 <u>牛呂 幸司</u> 、宮部 祥悟、扇田 秀章、松本 昌宏、藤野 清大	
2021.05.14	第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
「咽喉頭癌の切除後に対するPGAシート被覆術」 安里 亮、山本 卓矢、安田 佳織、長原 佳菜、 <u>伊藤 通子</u> 、辻 拓也、辻 純	
2021.06.12	第137回日耳鼻京滋合同地方部会学術講演会
「MeAIB-PETの有用性の検討」 小柴 彩奈、 <u>牛呂 幸司</u> 、松本 昌宏、扇田 秀章、宮部 祥悟、藤野 清大、奥山 智緒、大森 孝一	
2021.07.02	第33回日本頭蓋底外科学会
「外耳道癌に対する側頭骨全摘・側頭骨外側切除の実際と治療成績」 <u>安里 亮</u>	
2021.10.28	第54回日本内分泌外科学会
「甲状腺・副甲状腺手術における抗血栓療法の影響」 <u>牛呂 幸司</u> 、嘉田 真平、山本 卓矢、安里 亮	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.10.29	第54回日本内分泌外科学会
「甲状腺癌を含む4重複癌の1例」 山本 卓矢、安里 亮、嘉田 真平、牛呂 幸司	
2021.10.29	第54回日本内分泌外科学会
「癌としての切除術が可能であった副甲状腺癌例」 嘉田 真平、安里 亮、牛呂 幸司	
2022.03.04	第31回日本頭頸部外科学会
「心臓転移をきたした舌癌の一例」 安田 佳織、山本 卓矢、伊藤 通子、辻 拓也、牛呂 幸司、安里 亮、辻 純	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
<p>〔原著論文〕 進行下咽頭癌における両側外側咽頭後 (ルビエール) リンパ節郭清の有効性 耳鼻臨床2021年114巻11号 p. 869-874, 114, 11, 869-874, 2021.11.01, 耳鼻咽喉科臨床学会 伊藤真裕子、安里 亮、辻 拓也、森田 真美、嘉田 真平、辻 純</p>
<p>〔解説〕 前癌病変の取り扱い ―口腔癌とその周辺― JOHNS, 37, 525-528, 2021.05.01, 東京医学社 安里 亮</p>
<p>〔原著論文〕 Lingual Lymph Node Metastases as a Prognostic Factor in Oral Squamous Cell Carcinoma—A Retrospective Multicenter Study Medicina (Kaunas). 2021 Apr 12 ; 57 (4) : 374, 57, 4, 374, 2021.04 Kikuchi M, Harada H, <u>Asato R</u>, Hamaguchi K, Tamaki H, Mizuta M, Hori R, Kojima T, Honda K, Tsujimura T, Kumabe Y, Ichimaru K, Kitani Y, <u>Ushiro K</u>, Kitamura M, Shinohara S, Omori K.</p>
<p>〔原著論文〕 Clinicopathological Characteristics and Survival Outcomes of Patients with Buccal Squamous Cell Carcinoma : Results of a Multi-Institutional Study Medicina (Kaunas). 2021 Dec 13 ; 57 (12) : 1361., 57, 12, 1361, 2021.12 Shinohara S, Kikuchi M, Harada H, Hamaguchi K, <u>Asato R</u>, Tamaki H, Mizuta M, Hori R, Kojima T, Honda K, Tsujimura T, Kumabe Y, Ichimaru K, Kitani Y, <u>Ushiro K</u>, Omori K.</p>
<p>〔原著論文〕 Real-world 2-year long-term outcomes and prognostic factors in patients receiving nivolumab therapy for recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck Auris Nasus Larynx. 2022 Feb 26 : S0385-8146 (22) 00038-4, 2022.02 Otsuki S, Hori R, Shinohara S, Kojima T, Tamaki H, <u>Asato R</u>, Kitamura M, Ichimaru K, Kitani Y, Kumabe Y, Honda K, Tsujimura T, Harada H, <u>Ushiro K</u>, Omori K</p>
<p>〔原著論文〕 Airway ciliated cells regenerated on collagen sponge implants acquire planar polarities towards nearby edges of implanted areas J Tissue Eng Regen Med., 15, 8, 712-721, 2021.08 Nakamura R, Katsuno T, <u>Tsuji T</u>, Oyagi S, Kishimoto Y, Suehiro A, Tateya I, Omori K.</p>

麻 醉 科



診療部長
(手術管理担当)
七野 力

専門医資格等

厚生労働省による
麻酔科標榜許可
日本麻酔科学会認定
麻酔科指導医
日本専門医機構認定
機構専門医
日本集中治療医学会認定
集中治療専門医
京都大学医学部臨床教授
関西医科大学臨床教授
京都大学 医学博士

専門分野

麻酔科学全般
集中治療管理

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	杉本 亮大	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定 麻酔科指導医 日本専門医機構認定 機構専門医	麻酔管理一般 心臓血管外科手術の麻酔管理	
医 員	藤田 靖子	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医	麻酔管理一般	
医 員	原 祐介	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定 麻酔科認定医	麻酔管理一般	
医 員	松山 智紀	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医・指導医 京都大学 医学博士	麻酔管理一般	
医 員	吉岡 清行	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医・指導医	麻酔管理一般	
医 員	宮井 善三	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定麻酔科専門医	麻酔管理一般	
医 員	森 悠	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定 麻酔科指導医 日本専門医機構認定 機構専門医 日本心臓血管麻酔学会認定 心臓血管麻酔専門医 日本周術期経食道エコー認定試験 (JB POT) 合格 米国周術期経食道エコー認定試験 (PTEeXAM) 合格 日本小児麻酔学会認定医	麻酔管理一般 心臓血管外科手術の麻酔管理 小児の麻酔管理	
医 員	木村 詩織	厚生労働省による麻酔科表簿許可 日本麻酔科学会認定 麻酔科指導医 日本専門医機構認定 機構専門医	麻酔管理一般 集中治療管理 小児の集中治療	
医 員・ 集中治療 室 長	水津 悠	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医 日本集中治療医学会認定 集中治療専門医 日本呼吸器療法学会認定 呼吸療法学会専門医 日本周術期経食道エコー認定試験 (JB POT) 合格	麻酔管理一般 心臓血管外科手術の麻酔管理 集中治療管理	

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医員	鈴木 陽世	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医	麻酔管理一般	
医員	米倉 なほ	厚生労働省による麻酔科標榜許可	麻酔管理一般	
専攻医	生野 智美		麻酔管理一般	
専攻医	島田 覚生		麻酔管理一般	
専攻医	小西 拓馬		麻酔管理一般	

令和3年度の主な取組

施設認定

- ・日本麻酔科学会認定病院（麻酔科標榜のための研修施設）
- ・日本集中治療医学会専門医研修施設
- ・日本専門医機構認定 麻酔科専門医研修プログラム

総手術件数5643件（麻酔科管理件数3644件）のうち臨時手術599件（392件）、緊急手術545件（438件）と積極的に臨時手術、緊急手術を受け入れている。

令和2年度に開始した硬膜外無痛分娩は24時間対応であり、初年度30件に対し47件と順調に増加している。

診療実績

主な手術・検査の件数（2021年度）

麻酔科管理症例 計	3644件	硬膜外無痛分娩数	47件
院内ICU入室患者数	660件		

学術活動報告（学会・研究発表など）

発表年月日	発表学会
2021.09.04-10.04	日本麻酔科学会第67回関西支部学術集会
「家族性血球貪食症候群保因者であるエホバの証人妊婦に対する帝王切開術に対して、事前に新生児への輸血手順を入念に計画した一症例」 生野 智美、平林 雅史、木村 詩織、七野 力	

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者（下線は当院所属）
一般 術後気管チューブ抜去に苦慮した症例 麻酔, 70, 10, 1080~1082, 2021.10.01, 克誠堂出版 南迫 一請、 <u>水津 悠</u> 、 <u>松山 智紀</u> 、 <u>七野 力</u>

放射線診断科



診療科長
広川 侑奨
(2022年3月31日まで)

専門医資格等
日本医学放射線学会
放射線診断専門医・
研修指導者
日本核医学会専門医
PET 核医学認定医
検診マンモグラフィ
読影認定医 (評価 A-S)
臨床研修指導医
京都大学医学博士

専門分野
画像診断、核医学、IVR
腹部画像診断



診療科長
笠原 誓子
(2022年4月1日から)

専門医資格等
日本医学放射線学会
放射線診断専門医・
研修指導者
日本核医学会専門医
PET 核医学認定医
臨床研修指導医
京都大学医学博士
京都大学臨床准教授

専門分野
画像診断

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	伊藤 剛	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者 日本病理学会 認定病理医 京都大学医学博士	画像診断、IVR	放射線診断全般
医長	黒田 昌志	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者 日本核医学会専門医 PET 核医学認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 (評価 A-S)	画像診断	骨軟部画像診断
医長	大堂さやか	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者 京都大学医学博士	画像診断	婦人科画像診断
医師	桑原 遼	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者 京都大学医学博士	画像診断 (女性骨盤)	婦人科画像診断
医師	大橋 茜	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者、 日本乳癌学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、 検診乳房超音波読影認定医、京都大学医学博士	画像診断	乳腺画像診断
専攻医	日高 啓介		画像診断、IVR	

診療放射線技師スタッフ

	氏名	専門医資格等
技師長	松尾 浩二	磁気共鳴専門技術者、エックス線作業主任者、衛生工学衛生管理者、第1種放射線取扱主任者、第一種作業環境測定士、臨床実習指導者、臨床技術能力検定MRI検査3級
副技師長	井上 賀仁	X線CT認定技師、エックス線作業主任者、ガンマ線透過写真撮影作業主任者
副技師長	花房 範計	第1種放射線取扱主任者、エックス線作業主任者、ガンマ線透過写真撮影作業主任者
撮影透視主任	山本 匠	磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、マンモグラフィ認定技師

	氏名	専門医資格等
照射主任	吉本 篤史	放射線治療専門放射線技師、放射線治療品質管理士、PET 認定技師、ストロンチウム89治療安全取扱講習会
RI 検査主任	清水 彰英	核医学専門技師、PET 認定技師、ラジウム223治療安全取扱講習会
特殊撮影主任	室屋 隆伸	X線CT 認定技師、マンモグラフィ認定技師
特殊撮影主任	松本 一繁	エックス線作業主任者、ガンマ線透過写真撮影作業主任者、肺がんCT 検診認定技師、医療情報技師、放射線治療専門放射線技師、放射線治療品質管理士
撮影透視主任	森山 尚貴	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師、マンモグラフィ認定技師、放射性医薬品取り扱いガイドライン講習
技 師	木村 浩一	
技 師	熊給 淳	磁気共鳴専門技術者、X線CT 認定技師、救急撮影認定技師、第1種放射線取扱主任者
技 師	柴田 真啓	X線CT 認定技師
技 師	嵯峨根真也	核医学専門技師、第1種放射線取扱主任者、PET 認定技師、ラジウム223治療安全取扱講習会
技 師	戸坂 善彦	X線CT 認定技師、医療情報技師
技 師	辰野 絢香	X線CT 認定技師
技 師	濱田佳代子	医療情報技師、マンモグラフィ認定技師、PET 認定技師、情報セキュリティマネージメント
技 師	吉川 拓行	
技 師	若畑 旬弥	放射線管理士、放射線機器管理士、PET 認定技師
技 師	池上 周平	エックス線作業主任者、ガンマ線透過写真撮影作業主任者、X線CT 認定技師
技 師	竹位 応輝	
技 師	山本 眸	マンモグラフィ認定技師
技 師	小嶋 智大	X線CT 認定技師
技 師	戸川 謙太	
技 師	穴吹 泰博	ラジウム223治療安全取扱講習会
技 師	木村 篤史	
技 師	日名地美花	マンモグラフィ認定技師
技 師	的場 徹	日本DMAT 隊員登録
技 師	仲山 暁介	放射線管理士
技 師	澤井 智将	
技 師	林 由貴	マンモグラフィ認定技師
技 師	吉田 彩乃	マンモグラフィ認定技師
技 師	清水ももこ	
技 師	牧原 佑樹	
技 師	永野 双葉	
技 師	春日 衿那	
技 師	山田 彬人	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関認定
- ・日本核医学会専門医教育病院
- ・日本医学放射線学会画像診断管理認定施設
 - ▶日本医学放射線学会が定める「適切な被ばく管理に関する事項」
 - ▶日本磁気共鳴医学会が定める「MRI安全管理に関する事項」
 - ▶日本磁気共鳴医学会が定める「全身MRIに関する事項」
- ・マンモグラフィ検診施設・画像認定

| 診療実績 |

年間実施件数・読影件数（2021年度）

CT検査	28927件 (うち読影件数：28531件)	超音波検査（放射線診断科枠）	792件
MR検査	12851件 (うち読影件数：12825件)	消化管透視検査（放射線診断科枠）	119件
アイソトープ（核医学）検査	2702件 (うち読影件数：2533件)	血管造影検査・治療 (IVR)（放射線診断科枠）	78件
エックス線単純撮影検査	59243件		

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日 演題名等 / 演者（下線は当院所属）	発表学会
2021.05.15-20 [Multiparametric prediction model for triple negative breast cancer subtypes using MR parameters including ultrafast DCE MRI] Akane Ohashi, Masako Kataoka, Mami Iima, Maya Honda, Rie Ota, Yuta Urushibata, Nickel Marcel Dominic, Masakazu Toi, Yuusuke Hirokawa, Yuji Nakamoto	International Society for Magnetic Resonance in Medicine
2021.06.26 [ヘモクロマトーシスを伴った xerocytosis の一例] 日高 啓介、桑原 遼、大橋 茜、大堂さやか、黒田 昌志、伊藤 剛、広川 侑奨、河村 光栄、荒木 則雄	日本医学放射線学会関西地方会
2021.07.01-03 [Ultrafast DCE MRIのパラメータを用いた乳癌組織学的グレード分類予測] 大橋 茜、片岡 正子、飯間 麻美、本田 菜也、太田 理恵、漆畑 勇太、戸井 雅和、 <u>広川 侑奨</u> 、中本 裕士	日本乳癌学会学術総会
2021.09.10-12 [前立腺MRIにおける multi-NEX HASTE 法の至適撮像条件のファントム実験による検討] 竹位 応輝、室屋 隆伸、松尾 浩二	第49回日本磁気共鳴医学会大会
2021.10.04-28 [Prediction model for triple negative breast cancer among mass-forming invasive cancers using multi-parametric MRI] Akane Ohashi, Masako Kataoka, Mami Iima, Maya Honda, Rie Ota, Yuta Urushibata, Nickel Marcel Dominic, Masakazu Toi, Yuusuke Hirokawa, Yuji Nakamoto	European Society of Breast Radiology (EUSOBI)
2021.11.05 [CT線量管理—安全管理体制に関するガイドラインに沿って—] <u>山本 匠</u>	近畿グループ主催 CT検査実習技能研修

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

一般

Radimetrics を利用した一般撮影の線量管理記録
RadFan11月号, 19, 12, 17~20, 2021.10.29, メディカルアイ
松本 一繁

原著論文以外

Mesonephric-like adenocarcinoma of the ovary in an elderly woman : A case report and a review of the literature Per
J Obstet Gynaecol Res, 47, 12, 4490-4495, 2021.12
Mari Ujita, Kaoru Abiko, Ryo Kuwahara, Ikuko Emoto, Yasuaki Amano, Ikuo Konishi

原著論文

Diagnostic Value of DCE-MRI for Differentiating Malignant Adnexal Masses Compared with Contrast-enhanced-T1WI
Magn Reson Med Sci, 3, 2021-0003, 2021.09
Satoshi Otan, Aki Kido, Yuki Himoto, Akihiko Sakata, Tomoaki Otani, Ryo Kuwahara, Yusaku Moribata, Naoko Nishio, Ryo Yajima, Kyoko Nakao, Yasuhisa Kurata, Sachiko Minamiguchi, Masaki Mandai, Yuji Nakamoto

原著論文

Diagnostic Accuracy of Magnetic Resonance Imaging for International Federation of Gynecology and Obstetrics 2018 IB to IIB Cervical Cancer Staging : Comparison Among Magnetic Resonance Sequences and Pathologies
J Comput Assist Tomogr, 1, 45, 829-836, 2021.11
Yuka Kuriyama Matsumoto, Aki Kido, Yusaku Moribata, Yoshitsugu Chigusa, Yuki Himoto, Yasuhisa Kurata, Satoshi Otani, Ryo Yajima, Naoko Nishio, Ryo Kuwahara, Sachiko Minamiguchi, Masaki Mandai, Yuji Nakamoto

原著論文以外

Spontaneous Rapid Improvement of Small Intestinal Edema
Gastroenterology, 11, 21, S0016-5085, 2021.08
Yoshiko Nakano , Ryo Kuwahara , Shinichi Miyamoto

原著論文

Diagnostic performance of preoperative MR imaging findings for differentiation of uterine leiomyoma with intraligamentous growth from subserosal leiomyoma
Abdom Radiol, 46, 8, 4036-4045, 2021.08
Ryo Yajima, Aki Kido, Ryo Kuwahara, Yusaku Moribata, Yoshitsugu Chigusa, Yuki Himoto, Yasuhisa Kurata, Yuka Matsumoto, Satoshi Otani, Naoko Nishio, Sachiko Minamiguchi, Masaki Mandai, Yuji Nakamoto

原著論文

The rate of apparent diffusion coefficient change with diffusion time on breast diffusion-weighted imaging depends on breast tumor types and molecular prognostic biomarker expression
Investigative Radiology, 56, 8, 501-508, 2021.08
Mami Iima, Masako Kataoka, Maya Honda, Akane Ohashi, Ayami Ohno Kishimoto, Rie Ota, Ryuji Uozumi, Yuta Urushibata, Thorsten Feiweier, Masakazu Toi, Yuji Nakamoto

放射線治療科



放射線治療科
診療科長
荒木 則雄

専門医資格等
日本医学放射線学会
放射線治療専門医・
研修指導医
がん治療認定医機構
がん治療認定医
臨床研修指導医
京都大学医学部臨床教授

専門分野
放射線腫瘍学
乳がん、子宮頸がん、
肝臓がん、緩和照射

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	河村 光栄	日本医学放射線学会放射線治療専門医・研修指導医、 第一種放射線取扱主任者、京都大学医学博士	放射線腫瘍学 頭頸部がん、 肺がん	放射線治療全般 高精度放射線治療

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本医学放射線学会総合修練施設
- ・日本放射線腫瘍学会認定施設

診療科の特徴

様々な臓器のがんに対して、画像誘導放射線治療（IGRT）、定位照射（SRS, SRT）、強度変調放射線治療（IMRT）を施行しています。

①各診療科との協働

院内の各種がん診療科と定期的にカンファレンスを開催し、臨床病期・治療選択・経過観察において、様々な検討を行って最適ながん診療を提供しています。

②オンコロジックエマージェンシー

がん診療における緊急状態（有症状脳転移、脊髄麻痺など）に対して、積極的かつ迅速に対応しています。

③研究活動

京都大学および関連病院と連携し、国内の各種の臨床試験にも積極的に参加しています。

日々の臨床の中で、新規照射法を検討しています。

診療内容（対象疾患・専門疾患）

- ・根治照射から緩和照射まで、悪性腫瘍全般に幅広く対応しています。
- ・良性疾患（バセドウ眼症、ARMD、ケロイドなど）にも積極的に対応しています。

主な対象疾患

悪性腫瘍全般

| 診療実績 |

主な手術・検査の件数（2021年度）

放射線治療	430件
-------	------

JASTRO分類	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
脳脊髄	6	6	23	11
頭頸部	51	49	43	38
食道	15	24	26	24
肺気管縦隔	96	88	112	103
乳腺	65	61	61	84
肝胆膵	7	9	27	28
消化器	29	13	37	26
婦人科	21	15	31	25
泌尿器	44	48	82	76
血液・リンパ	19	27	11	12
皮膚・骨軟部	0	2	2	1
その他悪性腫瘍	2	2	0	0
良性	3	3	10	2
合計	358	347	465	430

		2020年度	2021年度
定位照射	脳転移・脳腫瘍	15	19
	肺	22	17
	肺転移	1	0
	肝臓	19	19
	骨	1	4
	その他オリゴ転移	5	5
	定位照射小計	63	64
IMRT	脳	11	3
	頭頸部	20	15
	食道	6	14
	乳腺	0	1
	肺	15	10
	肛門、直腸	1	1

		2020年度	2021年度
IMRT	婦人科	1	4
	前立腺	41	42
	リンパ腫	3	4
	IMRT小計	98	94
高精度照射合計		161	158

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

総説

高精度放射線治療棟の開設と最新式リニアック導入の成果を説く
月刊新医療, 2021年, 12月号, 40-43, 2021.12, 株式会社エム・イー振興協会
荒木 則雄

原著論文

Palliative brachytherapy and external beam radiotherapy for dysphagia from esophageal cancer : a nationwide survey in Japan.
Jpn J Clin Oncol., 51, 6, 950-955, 2021.05
Kawamoto T, Nakamura N, Saito T, Tonari A, Wada H, Harada H, Kubota H, Nagakura H, Heianna J, Miyazawa K, Yamada K, Tago M, Fushiki M, Nozaki M, Uchida N, Araki N, Sekii S, Kosugi T, Takahashi T, Shikama N.

原著論文

Evaluation of Optimal Post-Injection Timing of Hypoxic Imaging with 18F-Fluoromisonidazole-PET/CT.
Mol Imaging Biol., 23, 4, 597-603, 2021.08
Kawamura M, Yoshimura M, Shimizu Y, Sano K, Ishimori T, Nakamoto Y, Mizowaki T, Hiraoka M.

原著論文

Incidence and Risk Factors of Symptomatic Radiation Pneumonitis in Non-Small-Cell Lung Cancer Patients Treated with Concurrent Chemoradiotherapy and Consolidation Durvalumab.
Clin Lung Cancer., 22, 5, 401-410, 2021
Shintani T, Kishi N, Matsuo Y, Ogura M, Mitsuyoshi T, Araki N, Fujii K, Okumura S, Nakamatsu K, Kishi T, Atsuta T, Sakamoto T, Narabayashi M, Ishida Y, Sakamoto M, Fujishiro S, Katagiri T, Kim YH, Mizowaki

原著論文

Diffuse goitre enlargement after immunotherapy for non-small cell lung cancer.
Respirol Case Rep., 9, 11, e0866, 2021.10
Fujita K, Araki N, Mio T.

原著論文

Retrospective Treatment Outcomes of Concurrent Chemoradiotherapy in Patients with Stage III Non-small Cell Lung Cancer at a Single Institution : The Pre-PACIFIC Era
Haigan, 61, 5, 383-388, 2021.10
Mitsue Kawamura, Norio Araki, Noriko Kishi, Tatsuya Suwa, Yuki Yamamoto, Osamu Kanai, Kohei Fujita, Misato Okamura, Koichi Nakatani, Tadashi Mio

原著論文

Treatment response after palliative radiotherapy for bleeding gastric cancer : a multicenter prospective observational study (JROSG 17-3).
N.Gastric Cancer., 25, 2, 411-421, 2022.03
Saito T, Kosugi T, Nakamura N, Wada H, Tonari A, Ogawa H, Mitsunashi N, Yamada K, Takahashi T, Ito K, Sekii S, Araki N, Nozaki M, Heianna J, Murotani K, Hirano Y, Satoh A, Onoe T, Watakabe T, Shikama

総合リハビリテーション科



医長
中島 康代

専門医資格等
日本内科学会
認定内科医・
総合内科専門医
日本内科学会指導医
日本循環器学会循環器専門医
日本リハビリテーション医学会
認定臨床医
心臓リハビリテーション
指導士
京都大学医学博士

専門分野
循環器内科
心臓リハビリテーション

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長	井村 美紀	日本リハビリテーション医学会専門医 日本リハビリテーション医学会認定臨床医 心臓リハビリテーション指導士 日本医学会認定スポーツ医	内科 集中治療領域リハ ビリテーション 呼吸リハビリテ ーション	

| 令和3年度の主な取組 |

リハビリテーションは病気によってもたらされた障害に対して医師が的確な診断を行い、その診断に基づいた処方を行うことが重要です。

当院は急性期病院ですので、その特性も鑑み超急性期の患者様に対しても積極的に安全にリハビリテーション介入を行うための取り組みを行いました。

また、研修指定病院でもありますので研修医がリハビリテーション医学を学ぶ機会を提供し更に専門医を目指す医師にも対応できるようなシステムを整えました。栄養とリハビリテーションも切っても切れない関係にありますので嚥下機能評価・栄養評価にも力をいれて取り組みました。

1. 臨床研修指定病院の施設認定取得

上記認定を取得いたしました。これにより当院においてリハビリテーション専門医取得のための研修が可能となりました。

また、研修医の受け入れも行いました。

2. 集中治療における早期離床への取り組み

救命センター・集中治療室における早期離床を促進するために、メディカルスタッフとともにチームでの介入を積極的に行いました。

3. 嚥下機能評価

嚥下内視鏡にて嚥下機能の評価を行い、問題点を明らかにすることによって適切な食形態の提案・効果的な訓練の提示を行いました。

歯科口腔外科



医長
吉田 和也

専門医資格等

日本口腔外科学会
指導医・専門医
日本顎関節学会
指導医・専門医
日本補綴歯科学会
指導医・専門医
日本睡眠学会
歯科専門医・評議員
日本睡眠歯科学会
指導医・専門医・評議員

厚生労働省
歯科医師臨床研修
指導歯科医
大阪歯科大学歯学博士
京都大学医学博士
日本ボツリヌス治療学会
理事

専門分野

歯科口腔外科一般

得意疾患

睡眠時無呼吸症候群
顎口腔領域の不随意運動
顎顔面補綴

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	三島 清香			
医師	河岡 有美	日本口腔外科学会 専門医・認定医 日本口腔科学会 指導医・認定医 日本小児口腔外科学会 指導医・認定医 厚生労働省 歯科医師臨床研修 指導歯科医	歯科口腔外科 一般	口腔ケア
レジデント	竹内 文乃		歯科口腔外科 一般	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本口腔外科学会
- ・日本顎関節学会
- ・日本睡眠学会
- ・日本補綴歯科学会

クリティカルパス

- 小手術（2泊3日）
- 小手術（3泊4日）

診療実績

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数(名)	1.3	1.9
新入院患者数(名)	138	159
平均在院日数(日)	4.6	5.5

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	39.2	39.3

主な手術・検査の件数(2021年度)

抜歯術	759件	インプラント手術	6件
嚢胞摘出術	48件	顎変形症手術	5件
腫瘍摘出術	47件	顎関節手術	1件
骨折手術	2件		

学術活動報告(学会・研究発表など)

発表年月日	発表学会
2021.06.18-20	日本補綴歯科学会第130回記念学術大会
	「顎口腔ジストニアに対する感覚トリックを応用したスプリント療法」 吉田 和也
2021.09.16	第8回日本ボツリヌス治療学会学術大会
	「顎関節症に対するボツリヌス治療の効果と安全性について」 吉田 和也
2021.09.16	第8回日本ボツリヌス治療学会学術大会
	「顎口腔ジストニア(oromandibular dystonia)の有病率と年間発症率」 吉田 和也
2021.10.23-11.23	第34回日本顎関節学会総会・学術大会
	「CAD/CAMによる注射針誘導ガイドを用いた第二枝の三叉神経痛のボツリヌス治療」 吉田 和也
2021.10.23-11.23	第34回日本顎関節学会総会・学術大会
	「顎口腔ジストニアの鑑別診断用問診表の有用性について」 吉田 和也
2021.11.12-14	第66回日本口腔外科学会総会・学術大会
	「顎口腔ジストニア評価スケールの信頼性と妥当性」 吉田 和也、木塚 慎哉、河岡 有美、兵 行忠
2021.11.12-14	第66回日本口腔外科学会総会・学術大会
	「顎口腔ジストニアの有病率と年間発症率」 吉田 和也、塚 慎哉、河岡 有美、兵 行忠
2022.06.18	第26回日本緩和医療学会学術大会
	「緩和ケア病棟における1週間のケアが身体的・心理社会的苦痛に及ぼす影響」 阿部美希代、下郷麻衣子、木下 多愛、田村 彰子、上村 直子、塚本 直子、青木 友和、坂根 直樹
2022.10.16	令和3年度第3回医療・介護関係者研修(オンラインセミナー)
	「在宅で役立つ口腔ケア～ノウハウとピットホール～」 下郷麻衣子

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

(英文論文 (筆頭著者))

Effects of Botulinum Toxin Type A on Pain among Trigeminal Neuralgia, Myofascial Temporomandibular Disorders, and Oromandibular Dystonia

Toxins, 13, 9, 605, 2021.08.29, MDPI

Yoshida K.

(英文論文 (筆頭著者))

Prevalence and incidence of oromandibular dystonia: an oral and maxillofacial surgery service-based study

Clinical Oral Investigations, 25, 10, 5755-5764, 2021.10.25, Springer

Yoshida K.

(英文論文 (筆頭著者))

Oral dryness and moisture degree at the lingual but not buccal mucosa predict prognosis in end-of-life cancer patients

Supportive Care in Cancer, 29, 11, 6289-6296, 2021.04.14, Springer

Shimosato M, Sakane N.

救命救急センター（救命救急科）



救急部長
菅橋 望

専門医資格等
日本救急医学会
指導医・専門医
日本外科学会認定医
日本胸部外科学会
認定医・指導医
日本DMAT隊員・統括DMAT

専門分野
救急医学



救命救急科科長
救命救急センター長
寺嶋 真理子

専門医資格等
日本救急医学会
指導医・専門医・評議員
日本集中治療医学会
専門医・評議員
日本外科学会
指導医・専門医・認定医
Acute Care Surgery学会
評議員・認定医
日本腹部救急医学会評議員
ICLSインストラクター/
ディレクター
JATECインストラクター
JPTECインストラクター
日本DMAT隊員

専門分野
救急医学
集中治療学
外傷熱傷
一般外科
腹部



救命集中治療科長
救命救急センター
副センター長
別府 賢

専門医資格等
日本救急医学会
指導医・専門医
日本集中治療医学会
専門医・評議員
日本麻酔科学会
指導医・専門医・認定医
麻酔科標榜医
日本集中治療医学会 評議員
JATECインストラクター
FCCSインストラクター
ICLSインストラクター/
ディレクター
死体解剖資格認定者

専門分野
麻酔・集中治療
感染症
救急医学

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	吉岡 崇	日本救急医学会専門医 日本産科婦人科学会専門医 麻酔科標榜医 京都DMAT隊員	救急医学 産婦人科救急	
医師	田中 博之	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本内科学会認定内科医/総合内科専門医 日本医師会認定産業医 呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医/指導医 社会医学系・専門医/指導医 ICLSインストラクター/ディレクター ITLSインストラクター JATECインストラクター JMECCインストラクター/ディレクター JPTECインストラクター 日本DMAT隊員・統括DMAT	救急医学 呼吸管理 災害医療	体外循環 (W ECMO) を用 いた重症呼吸管理
医師	宇仁田 亮	小児科専門医 日本集中治療医学会専門医 麻酔科専門医 麻酔科認定医 麻酔科標榜医 日本救急医学会専門医	小児科学 麻酔科学 集中治療学 救急医学	
医師	吉田 浩輔	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医	救急医学 集中治療学	
医師	益満 茜	日本救急医学会専門医 日本内科学会認定内科医/総合内科専門医 AHA BLSインストラクター ICLSインストラクター JMECCインストラクター JPTEC近畿世話人 JATECインストラクター MCLS管理世話人 DMATインストラクター 日本医師会認定産業医 ICD制度協議会認定 インフェクションコントロールドクター	救急医学 災害医療	
医師	村田 真紀	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本腎臓学会専門医・指導医 日本透析医学会専門医 日本内科学会認定内科医/総合内科専門医 ICD制度協議会認定 インフェクションコントロールドクター 日本DMAT隊員	救急医学	
医師	杉谷 勇季	日本内科学会認定内科医 JMECC/ICLSインストラクター 厚生労働省認定臨床研修指導医 緩和ケア研修会終了 日本循環器学会PCASセミナー修了	循環器 集中治療 内科救急	
医師	橋本 賢吾	日本救急医学会専門医 日本DMAT隊員	救急医学	
医師	中川貴美子	日本救急医学会専門医 麻酔科認定医 麻酔科標榜医 JPTECインストラクター	救急医学	
医師	西川 直輝	日本救急医学会専門医 ICLSインストラクター	救急医学	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本救急医学会 専門医・指導医認定施設
- ・日本集中治療医学会 専門医認定施設

診療科の特徴

1. 京都南部の重症患者を受け入れる拠点として活動。
2. 重症多発外傷、重度熱傷、敗血症性ショックなど重症患者を集中治療室にて管理。
3. 循環器、脳卒中など専門各科と協力し、質の高い医療を提供。
4. 積極的に研修医に救急外来で初期対応をさせ、教育。

主な対象疾患

敗血症/重症感染症、多発外傷、重症熱傷、急性呼吸不全、中毒

診療（業務）内容

救急搬送症例に対する初期外来対応、専門診療科紹介、入院加療など

重症救急患者への集中治療

院内重症患者に対する集中治療

他院からの重症紹介症例の受け入れ

多施設との症例検討会や情報交換

各種災害訓練の実施と参加

蘇生講習などへの参加と指導

研修医教育（京都大学、京都府立医科大学病院研修医を含む）

臨床医学教育（京都大学、京都府立医科大学、同志社大学、橘大学）

コメディカルに対する教育研修

市民に対する救急啓蒙教育

消防局との連携ならびに情報交換

医師会、他病院との連携ならびに情報交換

| 診療実績 |

入院患者数

	2020年度	2021年度
1日平均患者数（名）	12.3	11.0
新入院患者数（名）	1188	1270
平均在院日数（日）	6.0	5.1

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数（名）	8.8	7.5

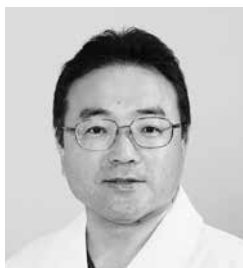
| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.11.21	第49回日本救急医学会総会
「ミニオーラル 益満 茜	病院前医療・救護・MC 座長」
2021.11.22	第49回日本救急医学会総会
「コロナ禍でのJPTEC開催の経験」 益満 茜	
2022.03.04	第27回日本災害医学会総会・学術集会
「京都府新型コロナウイルス感染症入院医療コントロールセンターでの情報管理について」 益満 茜	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
Adverse events during intrahospital transport of critically ill patients : A systematic review and meta-analysis Am J Emerg Med., 52, 13-19, 2021 <u>Murata M</u> , Nakagawa N, Kawasaki T, Yasuo S, Yoshida T, Ando K, Okamori S, Okada Y
Japanese ARDS Clinical Practice Guideline Systematic Review Task Force : Diagnostic accuracy of urinary antigen tests for legionellosis : A systematic review and meta-analysis Respir Investig., 60(2), 205-214, 2022.03 Kawasaki T, Nakagawa N, <u>Murata M</u> , Yasuo S, Yoshida T, Ando K, Okamori S, Okada Y

健診センター



健診センター長
宮本 心一

専門医資格等
 日本内科学会
 認定内科医・総合内科専門医
 日本消化器病学会
 専門医・指導医
 日本消化器内視鏡学会
 専門医・指導医
 日本がん治療認定医機構
 がん治療認定医
 緩和ケア研修会
 指導者講習会修了者
 京都大学医学部非常勤講師
 京都大学医学博士

専門分野
 消化管癌内視鏡治療
 消化器癌化学療法

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
副健診センター長	島 伸子	日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本内科学会 認定内科医 日本消化器がん検診学会 認定医(胃) 日本人間ドック学会 人間ドック健診認定医 日本医師会 認定産業医 日本ヘリコバクター学会 H.pylori (ピロリ菌) 感染症認定医	消化器内科	消化器疾患、 消化器内視鏡検査
医師	難波 綾	日本内科学会認定内科医 総合内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科) 専門医 日本人間ドック学会 人間ドック健診情報管理指導士	内分泌・ 代謝内科	内分泌・ 代謝疾患
非常勤医師	前川 高天	日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本内科学会 認定内科医 日本ヘリコバクター学会 H.Pylori (ピロリ菌) 感染症認定医 京都府胃がん内視鏡検診運営委員会 委員長 京都大学医学博士	消化器内科	消化管疾患 消化器内視鏡検査

| 令和3年度の主な取組 |

診療科の特徴

食生活の乱れや過度の飲酒、運動不足、喫煙など不適切な生活習慣の積み重ねにより、高血圧や脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病が急激に増加しています。生活習慣病の多くは、自覚症状がほとんどないため、気付かないうちに動脈硬化が進行し、心筋梗塞や脳卒中などの重大な結果を招いてしまうことも少なくありません。生活習慣病は、まず予防すること、そして早期発見と早期治療が大切です。また、増加

の一途をたどっている様々な臓器に発生する癌においても、予防や早期発見・早期治療が重要であることはいうまでもありません。京都医療センター健診センターは、生活習慣病や癌の早期発見に貢献しています。特に、癌の全身検索に適しているPET-CT健診や、苦痛の少ない経鼻内視鏡を用いた胃がん検診などを行い、癌の早期発見に力を入れています。

主な対象疾患

高度で贅沢な設備とスタッフ

京都医療センターは各種の高度専門医療施設に指定されていますので、それぞれの診療設備については高度かつ精密な検査機器が配備されています。また、各学会認定の専門医が多数常勤しており、専門的かつ高度な診断が可能となっています。当健診センターでは、最高の設備・スタッフを駆使することにより、みなさまに安心していただける健診を提供しています。

健診センター専用棟での迅速な健康診断

平成16年5月に完成した健診センター専用棟には、待合ロビー、診察室、心電図室、超音波検査室、肺機能検査室、X線一般撮影、内視鏡検査室がすべて完備されていますので、それぞれの検査・診察が効率的かつ迅速にすすめることが可能となっています。また、待ち時間の短縮など、受診されるみなさまのご負担をできるだけ軽減できるよう、常にこころがけています。

1. より“迅速”に、より“的確”に

健診センター専用棟には、診察室、心電図、腹部超音波検査装置、X線撮影装置、上部消化管内視鏡が完備されていますので、それぞれの検査を迅速かつ効率的にすすめることが可能になっています（コース、オプション内容によっては、中央診療棟での検査、診察になります）。また、各学会の認定医・専門医が多数在籍していますので、より専門的・的確な診断が可能になっています。

2. “点”から“線”の健診

従来の、結果を眺めるだけの“点”の健診ではなく、継続的な健康管理に役立つ“線”の健診を目指しています。特にここ数年来問題視されているメタボリックシンドローム、喫煙関連疾患、ヘリコバクターピロリ菌感染症については、各診療科の専門外来と協力し、継続的な診療を受けていただけるよう心がけています。

3. より“確実”な早期発見

各領域の悪性疾患については、最近の低侵襲治療の発達で、その早期発見はより重要になっています。また近年、がんに対する様々なリスクファクターが明らかにされており、これらのリスクを考慮したハイリスク検診の試みも始まっています。当健診センターでは、子宮がん検診に、子宮頸がんのリスクファクターとされるhuman papilloma virus (HPV) 検査を、胃がん検診に血清ペプシノゲン/血中ヘリコバクターピロリ菌抗体検査を、前立腺癌にPSA測定を導入し、また、2014年10月からPETがん検診を開始し、各疾患の早期発見を目指しています。

4. より“楽”な検査

胃がんの早期発見には内視鏡検査（胃カメラ検査）の有用性が指摘されていますが、受診者にとっては、これまで“つらい”検査の一つでした。当健診センターでは極細径内視鏡による経鼻内視鏡検査を導入し、受診者にとって“つらい”検査から“楽な”検査への転換を図っています。

〈健診コース〉

基本コース	
一般健診	★基本コース（一般コース・脳ドック・レディースコース）に加えて、各種オプション（肺：胸部CT検査、婦人科：診察・US、乳がん：マンモグラフィなど）を受診者の希望に応じて実施しています。また、2014年度からPET健診を、2015年度から胃がん検診を始めました。
脳ドック	
レディース	
オプション	
脳オプション	★血液サラサラ健診（2019年度から廃止） 血液は体内に必要な栄養素、酵素等を運び、老廃物を取り除く働きをします。
動脈硬化オプション	
血液サラサラ度オプション	★鼻から行う内視鏡 経鼻内視鏡検査は、口からの検査に比べ検査時の吐き気、不快感が少ないものとなっています。
骨粗鬆症オプション	
各種がんオプション：肺、前立腺、乳腺、子宮	
PET健診	

〈サリドマイド健診〉

先行の「全国のサリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究班」の研究成果を踏まえ、中年期を向かえた患者の今後の医療上・生活上の問題点を明確にし、有効な医療及び支援のあり方を検討する。また、外国での患者に対する医療の取組みに関する調査も進め、国際的な医療情報交換を推進し、患者に対する支援のあり方、取組みを世界的規模で検討していく。

京都医療センター健診センターでは、西日本居住者を対象に健診を実施している。

診療実績

受診者数

基本健診	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
一般健診	766	802	965	965	992	1069	1057	1036	942	938
生活習慣病	11	6	6	2	8	—	—	—	—	—
脳ドック	27	34	25	29	22	25	23	16	9	9
レディース	30	16	27	20	22	21	23	17	14	13
PET検診	—	—	11	47	65	79	97	100	82	71
胃がん検診	—	—	—	4	41	70	92	141	104	137
マンモグラフィー検診	—	—	—	—	—	—	0	16	16	15
サリドマイド健診	10	8	8	7	9	8	7	7	2	3

オプション	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
脳	118	122	144	135	144	148	144	147	129	134
簡易脳	—	—	—	—	—	3	1	7	2	6
動脈硬化	94	85	135	133	133	137	123	108	109	111
血液流動性	36	43	88	69	72	68	63	—	—	—
骨粗鬆症	101	93	135	139	123	122	114	124	99	122

がんオプション	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
肺がん	48	54	76	65	82	79	77	73	59	75
前立腺がん	161	175	207	215	219	241	208	237	209	224
乳がん	183	197	221	227	212	253	243	244	208	222
子宮がん	140	136	138	152	146	184	194	198	179	201

胃がんリスク検診	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
A群	616	617	549	554	593	556	499	507
B群	88	46	45	49	38	41	55	37
C群	56	17	42	51	43	26	15	18
D群	9	5	60	72	57	73	53	59
E群（除菌後）	168	254	311	341	394	401	331	346
計	937	939	1007	1067	1125	1097	953	967
当院での除菌者数	102	44	28	38	29	20	5	9

PPI内服、胃手術後、腎機能異常を除外
2021年度からHP抗体測定法がEIA法からLATEX法へ変更となった。

〈がん検診〉

上部消化管検査		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
内視鏡	経鼻	244(0)	389(1)	458(0)	541(1)	678(0)	702(1)	741	691(1)	727(1)
	経口	206(5)	410(2)	390(2)	393(2)	425(5)	413(2)	395(1)	298(3)	300
	合計	450(5)	799(3)	848(2)	934(3)	1103(5)	1115(3)	1136(1)	989(4)	1027(1)
透視		312(0)	152(0)	105(0)	94(0)	—	—	—	—	—
上部消化管検査総件数		762(5)	951(3)	953(2)	1028(3)	1103(5)	1115(3)	1136(1)	989(4)	1027(1)
がん発見率	内視鏡	1.11	0.38	0.24	0.32	0.45	0.27	0.07	0.40	0.10
	透視	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	—
	トータル	0.66	0.32	0.21	0.29	0.45	0.27	0.07	0.40	0.10

() 内は発見された胃癌数

大腸がん検診		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
便潜血検査	件数	781	962	995	1034	1077	1075	1050	941	944
	陽性数	73	162	145	128	121	108	129	48	49
要精検者数		73	157	140	117	117	95	112	42	47
要精検率 (%)		9.3	16.3	14.9	11.3	10.9	8.8	10.7	4.5	5.0
精検受診者数		37	121	100	75	80	58	62	39	31
精検受診率 (%)		50.7	77.0	71.4	64.1	68.4	61.1	55.4	92.9	66.0
がん		2	1	5	4	2	3	3	3	1
がん発見率 (%)		0.26	0.10	0.50	0.39	0.19	0.28	0.29	0.32	0.11

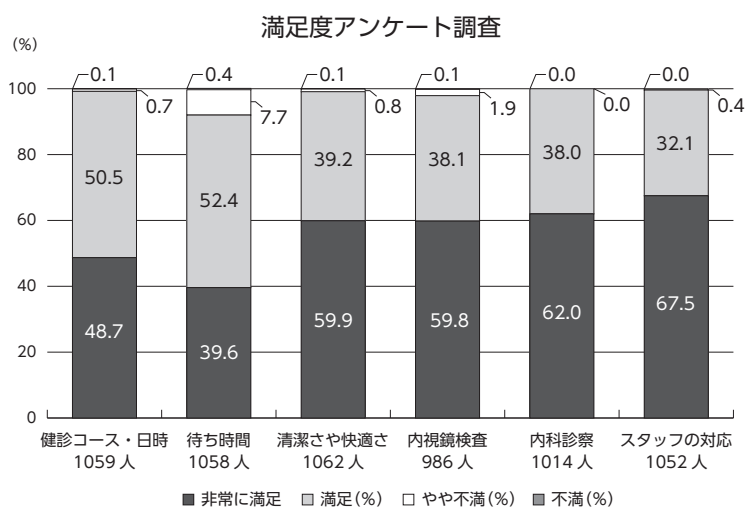
前立腺がん検診		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
PSA	件数	215	255	241	208	237	209	224
	陽性数	8	11	15	10	10	22	16
要精検者数		8	7	8	4	6	16	13
要精検率 (%)		3.7	2.7	3.3	1.9	2.5	7.7	5.8
精検受診者数		6	6	8	4	5	12	10
精検受診率 (%)		75.0	85.7	100	100	83.3	75.0	76.9
がん		1	0	2	3	0	2	2
がん発見率 (%)		0.47	0.00	0.83	1.92	0.00	0.96	0.89

子宮がん検診		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
頸部細胞診	件数	172	173	209	221	219	195	215
	陽性数	4	3	1	1	1	3	3
要精検者数		4	3	1	1	1	3	3
要精検率 (%)		2.3	1.7	0.5	0.5	0.5	1.5	1.4
精検受診者数		4	3	1	1	1	2	2
精検受診率 (%)		100	100	100	100	100	66.7	66.7
異形成・がん		0	1(CIN3)	0	0	1(CIN3)	1(CIN2)、 1(CIN1)	0
異形成・がん発見率 (%)		0.00	0.58	0.00	0.00	0.46	0.51	0.00

乳がん検診		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
マンモグラフィー 検査	件数	248	239	278	270	281	240	251
	陽性数	99	69	80	51	40	43	52
要精検者数		99	69	80	50	40	43	52
要精検率 (%)		39.9	28.9	28.8	18.5	14.2	17.9	20.7
精検受診者数		86	56	66	40	31	42	43
精検受診率 (%)		86.9	81.2	82.5	80.0	77.5	97.7	82.7
がん		0	1	1	1	0	2	3
がん発見率 (%)		0.00	0.42	0.36	0.37	0.00	0.83	1.20

PET 検診		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
件数		11	47	65	79	97	100	82	71
発見腫瘍		0	2 (肺癌 1、 乳癌 1)	0	0	1 (大腸癌)	0	0	0

発見された腫瘍性病変	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
咽喉頭癌	1	1	0	0	1	0	0	0	0
食道表在癌	1	1	1	0	0	0	1	0	0
早期胃癌	5	3	2	3	5	3	1	4	0
十二指腸癌	0	0	0	2	0	0	0	0	0
大腸癌	2	1	5	4	2	3	4	3	1
乳癌	0	1	1	1	1	1	0	1	3
子宮癌	0	0	0	1(CIN3)	0	0	1(CIN3)	1(CIN2)、 1(CIN1)	0
肺癌	0	1	1	0	0	1	0	0	0
前立腺癌	0	0	1	0	2	3	0	2	2
その他の腫瘍性病変	0	0	白血病1	0	甲状腺癌2、 膀胱癌1、 胆嚢癌1、 胸腺腫1	胃神経内分泌 腫瘍1、 十二指腸 腺腫1	胃腺窩上皮型 腺腫1、 甲状腺癌1、 悪性 リンパ腫1、 胃MALT リンパ腫1、 十二指腸 腺腫1、 胆嚢癌1	胃腺窩上皮型 腺腫3、 腎細胞癌2、 下垂体腫瘍1	胃進行癌1、 胆嚢癌1、 肺癌1、 乳癌の疑い1、 乳房葉状 腫瘍1



臨床研究センター



臨床研究センター長
八十田 明宏

専門医資格等
日本内分泌学会
内分泌代謝科
専門医・指導医
日本内科学会
総合内科専門医

専門分野
内科・内分泌代謝・骨代謝

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
内分泌代謝 高血圧 研究部長	浅原 哲子	日本内科学会 指導医・総合内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医・幹事・評議員 Endocrine Journal編集委員 日本神経内分泌学会 評議員 日本心血管内分泌代謝学会 評議員 日本糖尿病学会 糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会 肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会 理事・評議員 日本動脈硬化学会 認定動脈硬化専門医・評議員 日本病態栄養学会 評議員 日本抗加齢医学会 専門医 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医・指導医 日本糖尿病学会近畿支部 評議員 日本糖尿病生活習慣病ヒューマンデータ学会 評議員 日本性差医学・医療学会 評議員 日本糖尿病協会 療養指導士 The Endocrine Society Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, Editorial board 編集委員 京都大学 医学博士 京都大学 非常勤講師 名古屋大学環境医学研究所 メタボ栄養科学寄附研究部門 特任教授 滋賀医科大学 社会医学講座 公衆衛生学部門 客員教授 同志社大学 スポーツ健康科学部 客員教授 久留米大学 医学部 内科学講座 心臓・血管内科部門 客員教授 国立循環器病研究センター 客員研究員 公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター フェロー	糖尿病、肥満症 (メタボリックシ ンドローム)、内 分泌代謝、予防 医学、遺伝診療	糖尿病、肥満症(メ タボリックシンド ローム)、内分泌代 謝、予防医学、遺 伝性疾患全般

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
展開医療 研究部長	長谷川浩二	日本循環器学会 認定循環器専門医 日本内科学会 総合内科専門医・指導医 アメリカ心臓協会専門医 (FAHA) アメリカ心臓協会専門医 (FACC) 日本禁煙科学会認定 上級禁煙支援医 日本臨床分子医学会 評議員 日本心不全学会 評議員 日本心血管内分泌代謝学会 評議員 国際心臓研究学会 (ISHR) 評議員 日本内科学会近畿支部 評議員 日本禁煙科学会 治療分科会長 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 認定NPO法人日本心血管協会元理事長 日本動脈硬化学会評議員禁煙推進部会委員 国際心筋症・心筋炎・心不全学会幹事 国際心血管薬物療法学会 (ISCP) 常任理事・元理事長 世界心臓連合タバコ専門家グループ委員 京都大学医学博士 大阪医科大学非常勤講師 静岡県立大学客員教授 京都大学医学部臨床教授	心不全、虚血性 心疾患、心血管 危険因子管理・ 特に禁煙指導、 心血管展開医 療、薬物療法に 関する研究	
予防医学 研究室長	坂根 直樹	日本内科学会 認定内科医 京都府立医科大学医学博士	糖尿病 予防医学	
臨床 内分泌 代謝 (専任) 研究室長	日下部 徹	日本内科学会 総合内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本糖尿病学会 糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会 肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会 評議員 京都大学医学博士 京都大学客員研究員	糖尿病、肥満症 (メタボリックシ ンドローム)、脂 肪委縮症、内分 泌サルコペニ ア、遺伝診療	
研究室長 (先端医療 技術開発)	和田 啓道	日本内科学会 総合内科専門医・指導医 日本循環器学会 認定循環器専門医 認定NPO法人日本心血管協会 評議員 京都大学医学博士	内科・循環器内 科、冠動脈疾患、 慢性腎臓病、コ ホート研究、バイ オマーカー開発	
がんゲノム 医療研究 室 長	林 琢磨	日本人類遺伝学会・遺伝医学 臨床研究コーディネーター 日本救急医学会認定 ICLS インストラクター 臨床心理カウンセラー 米国立衛生研究所 (NIH) / 米国疾病対策センター (CDC) BL3 (P3) 感染マテリアル取り扱い主任者資格 (新興 感染症) 東京都 / 動物取扱管理責任者 (同資格) がん展開医療研究会 幹事 学校法人梅花女子大学 / 大学院 教授 (兼務) 医学博士	婦人科腫瘍学 癌ゲノム医療学 腫瘍学 新興感染症学	

令和3年度の主な取組

院内の各診療科で実施される臨床研究を支援する目的で、臨床研究企画運営部に臨床研究支援事務局を設置しました。臨床研究の立案から論文化まで幅広いサポートを実現します。

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.04.16 「糖尿病診療ガイドライン2019改定を踏まえた食事指導」 佐野 喜子	埼玉県糖尿病協会 埼玉利根医療圏ネット研究会
2021.04.16 「尿路上皮癌パネルディスカッション」 三浦 高慶	Urology Expert Meeting in Kyoto
2021.05.15 「シンポジウム 6 新型コロナウイルス感染症を知る「薬局をクラスターにするな！京大SPH薬局 COVID-19対策プロジェクト」」 岡田 浩	第5回 日本老年薬学会学術大会
2021.05.21 「Fatty Liver Index (FLI) が糖尿病発症に与える影響」 高橋かおる、安田 敏成、出口 忠男、水守 智仁、長森 茂樹、小林 昌幸、尾崎 由香、青山 香、山内 花、吉岡 千晶、山村 恭子、菅沼 彰子、坂根 直樹	第64回糖尿病学会
2021.05.21 「アログリプチンとメトホルミン配合錠の朝1回と夕1回服薬の比較 (AMP study) オープンラベル、ランダム化、クロスオーバー試験」 荏原 太、同道 正行、菅沼 彰子、坂根 直樹	第64回糖尿病学会
2021.05.22 「糖尿病力を向上させる多職種参加のワークショップが糖尿病ワーク・エンゲイジメントに与える影響」 坂根 靖子、中川 康司、松井 浩、菅沼 彰子、坂根 直樹	第64回糖尿病学会
2021.05.22 「COVID-19パンデミック下の 遠隔インスリンポンプ指導・遠隔栄養指導」 村田 敬、大谷 弥里	第64回日本糖尿病学会年次学術集会
2021.05.22 「オンライン版「糖尿病劇場」 in PC 連合学会 ～多職種連携物語編～」 岡崎研太郎、三澤 美和、岡田 浩、國枝 加誉、中山 法子	第12回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
2021.05.22 「シンポジウム 信頼できる医療情報を薬局から地域へ：京大SPH 薬局 COVID-19対策プロジェクト」 岡田 浩	第68回北海道薬学大会
2021.06.01-07.31 「コロナ禍における肥満解消実践プログラム 前編「行動変容のポイント」 後編「3ヵ月プログラムの実際」」 佐野 喜子	オンデマンド研修会 (社) 日本肥満症予防協会
2021.06.11-07.04 「独居高齢者における難聴傾向と会話のない日数との関連」 幸田 朋也、藤原 真治、中野 真代、同道 正行、後藤 崇晴、市川 哲雄、白山 靖彦、小谷 和彦、坂根 直樹	第63回日本老年医学会学術集会
2021.06.18 「Diabetic foot in western Pacific Region (Invited Lecture)」 Shigeo kono	Phillippine Wound Care Society
2021.06.26 「個人を対象とした栄養指導における行動変容」 佐野 喜子	青森県栄養士会 (特別講演)
2021.06.27 「食生活に関する保健指導」 河口八重子	特定保健指導実践者育成研修会

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.07.03	(公財) 山口県健康福祉財団
「対象者に合わせた保健指導面接について」 佐野 喜子	
2021.07.04	第89回和歌山医学会総会
「緊急事態リスクコミュニケーション：COVID-19感染拡大下での薬局への情報提供」 岡田 浩	
2021.07.05	第15回摂南大学農学セミナー
「燃える脂肪組織—褐色脂肪組織—を活性化して体脂肪を減らすには？」 二連木晋輔	
2021.07.17	第14回日本在宅薬学会学術大会
「教育講演 3 COVID-19下での薬局薬剤師の果たす役割」 岡田 浩	
2021.07.17	第25回藤ノ森カンファランス
「夜間頻尿における薬物療法の実際～難治性過活動膀胱にどう対応するか～」 伊東 晴喜	
2021.08.01	特定保健指導実践者育成研修会
「食生活に関する保健指導」 河口八重子	
2021.08.01-09.15	日本栄養士会
「個々の生活習慣に関して指導できる能力の育成」 佐野 喜子	
2021.08.03-10	(公財) 山口県健康福祉財団
「行動変容につながる保健指導の実際 (演習含)」 佐野 喜子	
2021.08.10-20	宮城県 (保健福祉部)
「行動変容に繋がる保健指導」 佐野 喜子	
2021.08.16	東京都 (福祉保健局)
「行動変容につながる保健指導 説明力・質問力をスキルアップし指導力を高める」 佐野 喜子	
2021.09.11	第40回日本臨床運動療法学会学術集会
「大学生における時計遺伝子CLOCK3111T/C多型は、週末のみ時間別身体活動レベルと関係する」 宮崎 亮、安藤 仁、綾部 誠也、濱崎 朋子、樋口 行人、大下 和茂、坂根 直樹	
2021.09.12	第29回日本健康教育学会学術大会
「高齢者の歩容動態を歩行意図から二歩で推測する横断的研究」 山内 賢、荻田 亮、市河 勉、松井 浩、辻和 哉、吉田 弘法	
2021.09.17	神奈川県
「『国民健康・栄養調査結果のポイント』と『効果的な実態調査を考える』」 佐野 喜子	
2021.09.20	第54回日本薬剤師会学術大会
「特別講演 3 薬局を地域のソーシャル・キャピタルに：京都大学SPH薬局情報グループの活動から」 岡田 浩	
2021.09.25	第27回 医用近赤研究会
「褐色脂肪細胞由来12, 13-diHOME は高齢マウスの心筋機能低下を抑制する」 二連木晋輔、クリスティンスタンフォード	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.10.01	EASD, online, 2021
[Effect of intermittent-scanning CGM to glycaemic control including hypoglycaemia and quality of life of patients with type 1 diabetes (ISCHIA study)] T. Murata, N. Sakane, A. Kuroda, J. Miura, Y. Hirota, K. Kato, M. Toyoda, R. Kouyama, K. Kouyama, A. Shimada, S. Kawashima, Y. Matoba, K. Nishimura, K. Hosoda, The ISCHIA study group	
2021.10.09	第31回日本医療薬学会年会
[シンポジウム26 インフォデミックを許すな！COVID-19下で問われる薬剤師の役割] 岡田 浩、鈴木 達彦、森 和明、西川 佳孝、鈴木 渉太	
2021.10.10	第31回日本医療薬学会年会
[シンポジウム53 薬剤師の覚悟が問われる？薬局での緊急避妊薬販売] 岡田 浩、西村亜佐子、池田裕美枝、鈴木 達彦	
2021.10.15	北海道栄養士会
[成果につなげる栄養指導Ⅱ] 佐野 喜子	
2021.10.25	第18回DIA日本年会2021
[医師から見た国内の臨床現場で求められるDTxとは] 坂根 直樹	
2021.10.30	第58回日本糖尿病学会近畿地方会
[シンポジウム With コロナ時代の糖尿病チーム医療 薬局でのCOVID-19対策 (薬局)] 岡田 浩	
2021.11.06	第20回日本先進糖尿病治療研究会・第18回1型糖尿病研究会
[系統的教育を伴う間歇スキャンCGM使用による低血糖時間の減少：クロスオーバー多施設ランダム化比較研究] ISCHIA研究グループ	
2021.11.18	T2DM Forum in TSU
[性格タイプ別の運動支援] 松井 浩	
2021.12.06	神奈川県
[糖尿病重症化予防事業展開・データ分析のポイント] 佐野 喜子	
2021.12.07	International Diabetes Federation virtual Congress 2021
[Global overview of the diabetic foot : Western Pacific Region (Invited Lecture)] Shigeo kono	
2021.12.10	オンライン講演 キューサイ
[五感で楽しむ料理を体験できる「ケールde大人のサペレ講座」] 河口八重子、染井順一郎	
2022.01.21	京都市左京区保育士会研修会
[五感が育つ子どもの食育 ～食の体験学習サペレメソッド～] 河口八重子、染井順一郎	
2022.01.23	日本肥満学会 スキルアップセミナー
[コロナ禍で改めて学ぶ系統的知識とスキル] [Q & A] 佐野 喜子	
2022.02.10	令和時代の糖尿病治療UPDATE
[糖尿病性腎症重症化予防プログラム実現のための食事療法を考える] 佐野 喜子	
2022.03.20-04.30	(社) 日本肥満症予防協会
[特定保健用食品 (トクホ) の理解を深める] [トクホを用いた指導の実際] 佐野 喜子	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.06.11 「自動化水準と利用状況に応じた医療AIのクラス分類の必要性と試案」 村田 敬、小林 司、丸山 貴史、豊田 雅夫、廣田 勇士	第3回日本メディカルAI学会
2022.10.23-11.20 「NHO京都医療センターにおける早期栄養介入管理加算に関する取り組み」 森岡 宏介、平野 和保、別府 賢、寺嶋真理子、水津 悠、村田 敬	第75回国立病院総合医学会
2021.04.16 「Aggressive GH-secreting pituitary tumorsについて」 難波 多挙、須川 琢、石原 裕己、中谷理恵子、立木 美香、青木 友和、河村 光栄、森吉 弘毅、 日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、井下 尚子、島津 章、田上 哲也	第10回内分泌代謝トランスレーショナル医学塾
2021.04.22-24 「部分性脂肪萎縮症候群の自験例—家族性部分性脂肪萎縮症1型の診断について—」 日下部 徹	第94回日本内分泌学会学術総会 サテライトシンポジウム第2回「脂肪萎縮症候群研究会」
2021.04.22-24 「高齢者の甲状腺機能について」 加藤 純子、桑原 隆、西重 生、田上 哲也、浅原 哲子、山陰 一、中村 道三、荒木 厚、 千葉 裕子、新谷 光世、山本 果奈	第94回日本内分泌学会年次学術集会
2021.04.22-25 「クリニカルシーケンスの医療 婦人科腫瘍におけるがんゲノム医療の新たな展開」 林 琢磨、安彦 郁、島田 宗昭、徳永 英樹、川村 直樹、小林 正幸、内山 亜弥、中西 豊、 加藤 秀則、竹原 和宏、田邊康次郎、新倉 仁、海法 道子、山田 秀和、中西 透、太田 剛、 永瀬 智、齋藤 文誉、岩越 裕、本原 剛志、矢幡 秀昭、鈴木 彩子、城 玲央奈、片瀨 秀隆、 山口 建、松村 謙臣、市村 友季、万代 昌紀、加藤 聖子、八重樫伸生、小西 郁生、PRUM-IBio study	第73回日本産科婦人科学会学術講演会
2021.04.22-25 「当院における精神疾患合併妊娠の検討」 田村 紗也、江本 郁子、勝又 美柚、鈴木 直宏、渡部 光一、天野 泰彰、宇治田麻里、高尾 由美、 安彦 郁	第73回日本産科婦人科学会学術講演会
2021.04.22-25 「腹腔鏡下仙骨腔固定術 (LSC) とロボット支援下仙骨腔固定術 (RSC) 導入初期の治療成績に関する検討」 鈴木 直宏、田村 紗也、田中 美柚、渡部 光一、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、高尾 由美、 安彦 郁	第73回日本産科婦人科学会学術講演会
2021.04.22-25 「腹腔鏡下仙骨腔固定術 (LSC) 導入後の治療成績の検討」 勝又 美柚、安彦 郁、佐藤 晋平、堀江 昭史、福谷 優貴、伊藤 美幸、千草 義継、万代 昌紀	第73回日本産科婦人科学会学術講演会
2021.04.24 「COVID-19流行期における糖尿病患者血糖コントロールに関する実態調査—電子カルテデータベース研究—」 浅原 哲子	第94回日本内分泌学会学術集会
2021.05.13 「ロボット支援下子宮全摘術」 安彦 郁	日本婦人科腫瘍学会教育委員会WEBセミナー
2021.05.15 「532nmレーザー光選択的前立腺蒸散術 (PVP) 後の術同日膀胱留置カテーテル抜去の安全性と有効性の検討 (前向き観察研究・第1報)」 奥野 博、五十嵐 篤、荒木 博賢、伊藤 克弘、三浦 高慶、宮崎 有、三品 睦輝	第10回PVP研究会学術集会
2021.05.20 「会長企画—研究者のサークルを作ろう—3 女性、連携、新しい糖尿病学を切り開く 多施設共同コホートを基盤とした糖尿病・肥満症における脳心腎連関と治療ストラテジーの探究」 浅原 哲子	第64回日本糖尿病学会年次学術集会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.05.20-22	第64回日本糖尿病学会年次学術集会
「高齢糖尿病における甲状腺機能の検討」 加藤 純子、田上 哲也、浅原 哲子、山陰 一、中村 道三、桑原 隆、西 重生、新谷 光世、 山本 果奈、千葉 優子、荒木 厚	
2021.05.22	第64回日本糖尿病学会年次学術集会
「ディベート2 高度肥満症例 内科的治療 vs 外科的治療 (公募企画4) コメントーター：内科学的治療の立場から」 浅原 哲子	
2021.06.03	肥満症・糖尿病研究会
「肥満症・糖尿病における脳心腎合併症予防のための新規予知指標と治療戦略」 浅原 哲子	
2021.06.24	京都内分分泌WEBカンファレンス
「小児・ヤングの内分分泌診療」 岩永甲午郎、橋本有紀子、山内 一郎	
2021.06.25	第21回日本抗加齢医学会総会
「糖尿病・肥満症における認知症関連バイオマーカー：TREM2の臨床的意義」 浅原 哲子	
2021.06.25	関西Gynecological Robotic Surgery Seminar
「婦人科ロボット手術を安全に増やす～京都医療センターの取り組み～」 安彦 郁	
2021.07.02-18	第45回日本遺伝カウンセリング学会学術集会
「当院のBRACAnalysisにおける認定遺伝カウンセラーの関わり方について デジタルポスター」 小西 陽介、鈴木 直宏、江本 郁子、安彦 郁、北 誠、橋本有紀子、難波 多挙、林 琢磨、 日下部 徹、三宅 秀彦、浅原 哲子、八十田明宏	
2021.07.03	高齢者トータルケアWEB講演会～寝たきり防止を見据えて健康寿命延伸～
「生き生き人生笑顔サポート～骨粗鬆症・サルコペニアへの対策」 日下部 徹	
2021.07.10	第20回京滋臨床甲状腺懇話会
「8年間以上無治療であった萎縮性甲状腺炎の14歳女児例」 橋本 有紀子、浅井 康一、北村 拓也、中谷理恵子、石原 裕己、難波 多挙、立木 美香、田上 哲也	
2021.07.16-18	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
「クリニカルシークエンスの今後の展望：婦人科腫瘍におけるがんゲノム医療の新たな展開」 天野 泰彰、林 琢磨、安彦 郁、万代 昌紀、八重樫伸生、小西 郁生	
2021.07.16-18	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
「プラチナ製剤抵抗性再発・進行性卵巣がんに対する早期診断と治療法の検討」 林 琢磨、安彦 郁、山口 建、山田 亮、松村 謙臣、万代 昌紀、小西 郁生	
2021.07.16-18	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
「下部消化管内視鏡検査後に子宮平滑筋肉腫の破裂をきたした1例」 田中 美袖、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、鈴木 直宏、上田 匡、江本 郁子、宇治田麻里、 天野 泰彰、安彦 郁	
2021.07.16-18	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
「経過非順調型を呈した絨毛性疾患の臨床経過の検討」 鈴木 直宏、田村 紗也、田中 美袖、渡部 光一、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、高尾 由美、 安彦 郁	
2021.07.16-18	第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
「単一施設における初期子宮体癌のロボット手術と腹腔鏡手術の比較検討」 安彦 郁、田村 紗也、田中 美袖、鈴木 直宏、渡部 光一、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、 高尾 由美	
2021.07.17	第28回西日本肥満研究会 第8回肥満症治療講習会
「レシピ本による肥満症治療」 浅原 哲子	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.09.11-12 「新たな肥満評価指標 ABSI は脳心血管病リスク因子重積と骨格筋指標低下を反映する」 池上健太郎、日下部 徹、村中 和哉、赤松 裕訓、山陰 一、井上 隆之、石井好二郎、浅原 哲子	第40回日本臨床運動療法学会
2021.09.11-13 「シンポジウム5 これからロボット手術を始める人への提言ロボットを始めたばかりの5年前の私にタイムマシンで教えてあげたいこと」 安彦 郁	第61回産婦人科内視鏡学会学術講演会
2021.09.11-13 「仙骨腔固定術時にメッシュ位置の変更が必要であった Persistent Descending Mesocolon の2例」 宇治田麻里、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、鈴木 直宏、江本 郁子、天野 泰彰、安彦 郁	第61回産婦人科内視鏡学会学術講演会
2021.09.11-13 「腹壁癒痕ヘルニアメッシュ修復術後の腹膜妊娠に対して腹腔鏡手術を施行した1例」 市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、鈴木 直宏、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	第61回産婦人科内視鏡学会学術講演会
2021.09.18 「難治性精巣腫瘍が放射線治療を契機に完全寛解に至った1例」 荒木 博賢、宮崎 有、五十嵐 篤、三浦 高慶、真鍋 由美、伊東 晴喜、三品 睦輝、奥野 博	第248回日本泌尿器学会関西地方会
2021.10.08-10 「Oncological features of intravenous leiomyomatosis: involvement of mesenchymal tumor stem-like cells.」 Saya Tamura, Takuma Hayashi, Hideki Tokunaga, Nobuo Yaegashi, Kaoru Abiko, Ikuo Konishi.	Cell Symposium : Overcoming Therapy Resistance in Cancer
2021.10.09 「当院における硬膜外無痛分娩-導入初期65例の検討」 市川 尚寛、江本 郁子、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、岸本 尚也、上田 匡、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	第12回京都周産期カンファレンス
2021.10.21 「糖尿病における脳心腎合併症の治療戦略～女性糖尿病医としてのキャリアデザイン～」 浅原 哲子	糖尿病内科医のキャリアパスを考える
2021.10.22-24 「初期子宮体癌に対するロボット手術と腹腔鏡手術の導入初期成績の比較」 安彦 郁、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、鈴木 直宏、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里	第59回日本癌治療学会学術集会
2021.10.24 「心血管疾患予防のための包括的リスク管理～脂質の質を考える～」 浅原 哲子	第53回日本動脈硬化学会総会・学術集会
2021.10.25 「Pathological Significance of Monocyte/Macrophage/Microglia Phenotypes in Metabolic Syndrome and Cerebrocardiovascular Complications.」 Satoh-Asahara N	The 19th International Symposium on Atherosclerosis
2021.11.06-07 「高齢者において生体電気インピーダンス法から得られる Phase Angle はサルコペニア評価指標、オーラルフレイルと関連する」 日下部 徹、赤松 裕訓、池上健太郎、村中 和哉、山陰 一、井上 隆之、八十田明宏、石井好二郎、浅原 哲子	第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会
2021.11.11 「光選択的前立腺レーザ蒸散術 (PVP) の術同日尿道カテーテル抜去の安全性と有効性の検討」 奥野 博	第35回日本泌尿器内視鏡学会総会
2021.11.11 「前立腺蒸散術のゴールドスタンダードの考察—なぜPVPは選ばれるのか? 「PVPのevidenceと将来展望」」 奥野 博	第35回日本泌尿器内視鏡学会総会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.11.12 [532nmレーザー光選択的前立腺蒸散術 (PVP) 治療の有効性と将来性] 奥野 博	第35回日本泌尿器内視鏡学会総会
2021.11.12 [基調講演 「ロボット手術を始めよう」] 安彦 郁	「TLH、その次に目指すもの」セミナー
2021.11.13 [日常生活でわかる『太る人・痩せる人』の違い] 浅原 哲子	世界一受けたい授業
2021.11.18-20 [¹³¹ I内用療法治療後の甲状腺中毒症によりワルファリンによる凝固能が過度に延長したバセドウ病の一例] 石原 裕己、難波 多挙、北村 拓也、中谷理恵子、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、井内 盛遠、田上 哲也	第64回日本甲状腺学会学術集会
2021.11.18-20 [初回指摘の橋本病による粘液水腫性昏睡疑い例の一例] 北村 拓也、濱中 佳歩 [廣嶋]、石原 裕己、中谷理恵子、難波 多挙、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、田上 哲也	第64回日本甲状腺学会
2021.11.19 [肥満症の内科的治療の最前線—チーム医療と精密医療の融合を目指して—] 浅原 哲子	第59回日本糖尿病学会九州地方会
2021.11.26 [講演2 「RSCにおける Tips と Pitfalls～より安全で患者満足度の高い手術を目指して」] 安彦 郁	芳し手術会～婦人科WEBロボットカンファレンス～
2021.11.26-27 [集学的治療によりコントロールを行ったGH産生下垂体腫瘍の一例] 難波 多挙、北村 拓也、濱中 佳歩 [廣嶋]、石原 裕己、中谷理恵子、立木 美香、青木 友和、荒木 則雄、森吉 弘毅、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、井下 尚子、島津 章、田上 哲也	第31回臨床内分泌代謝Update
2021.11.26-27 [高齢バセドウ病患者にアイソトープ治療を安全に施行できた一例] 野村 拓未、石原 裕己、濱中 佳歩 [廣嶋]、難波 多挙、中谷理恵子、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、田上 哲也	第31回臨床内分泌代謝Update
2021.12.02 [トピックス：尿潜血患者に対する泌尿器科医が行う診療は？] 奥野 博	令和3年前立腺がん検診講習会
2021.12.03-05 [Persistent Descending Mesocolonを伴う骨盤臓器脱に対して仙骨腔固定術を施行した2例： メッシュ位置の工夫] 上田 匡、江本 郁子、安彦 郁	第34回日本内視鏡外科学会総会
2021.12.03-05 [腹壁癒痕ヘルニアメッシュ修復術後に腹腔鏡下異所性妊娠手術を施行した1例] 江本 郁子、上田 匡、安彦 郁	第34回日本内視鏡外科学会総会
2021.12.03-05 [領域横断シンポジウム 婦人科悪性腫瘍手術に関する本音] 安彦 郁	第34回日本内視鏡外科学会総会
2021.12.04 [ロボット支援下仙骨腔固定術後に絞扼性腸閉塞を生じた1例] 岸本 尚也、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	第13回京都婦人科鏡視下手術研究会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.12.04-05	第6回日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会
「心血管疾患リスク合併を予測するサルコペニア肥満の診断方法に関する検討」 池上健太郎、日下部 徹、村中 和哉、赤松 裕訓、山陰 一、井上 隆之、石井好二郎、 <u>浅原 哲子</u>	
2022.01.18	第15回Seminar for Empowerment Team in Kobe
「肥満症と肥満合併症の効果的な治療戦略—チーム医療と精密医療の融合を目指して—」 <u>浅原 哲子</u>	
2022.01.22	第43回京都甲状腺研究会
「甲状腺眼症の一表現型として眼窩内腫瘍—Connective tissue with mild lymphoplasmacytic infiltration—を形成した症例」 中谷理恵子、北村 拓也、石原 裕己、廣嶋 佳歩、難波 多挙、立木 美香、田上 哲也、日下部 徹、 <u>浅原 哲子</u> 、八十田明宏、高橋 洸、藤本 雅大	
2022.01.22	世界一受けたい授業
「日常生活でわかる『太る人・痩せる人』の違い 第2弾」 <u>浅原 哲子</u>	
2022.01.28-30	第24回・第25回日本病態栄養学会年次学術集会
「肥満外来における減量指導前後の体重変化と臨床検査値および出生体重の関係」 田中美賀子、小谷 清子、栗屋 美絵、辻 雅弘、山陰 一、 <u>浅原 哲子</u>	
2022.01.29-30	第10回日本婦人科ロボット手術学会
「産婦人科ロボット保険術式の導入機成績の検討」 安彦 郁、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、岸本 尚也、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、 <u>宇治田麻里</u>	
2022.01.29-30	第10回日本婦人科ロボット手術学会
「当院での仙骨脛固定術式についての検討～腹腔鏡手術かロボット手術か～」 <u>宇治田麻里</u> 、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、岸本 尚也、上田 匡、江本 郁子、 <u>天野 泰彰</u> 、 <u>安彦 郁</u>	
2022.01.29-30	第10回日本婦人科ロボット手術学会
「腹圧性尿失禁を合併した骨盤臓器脱に対してロボット支援下仙骨脛固定術と尿道スリング手術を同時に施行した1症例」 江本 郁子、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、岸本 尚也、上田 匡、 <u>天野 泰彰</u> 、 <u>宇治田麻里</u> 、 <u>安彦 郁</u>	
2022.01.29-30	第10回日本婦人科ロボット手術学会
「ワークショップ1 若手が魅せる！若手Surgeionの可能性と指導 医師7年目で始めるロボット支援下手術—ロボット支援下仙骨脛固定術を中心に—」 <u>安彦 郁</u>	
2022.02.03	Meet The Expert-糖尿病性腎臓病を考える-
「糖尿病性腎臓病におけるサルコペニア」 <u>日下部 徹</u>	
2022.02.10	伏見内分泌代謝ネットワーク 第36回連携の会
「高血圧診療における最近の話題～パンデミック下における高血圧診療～」 難波 多挙	
2022.02.17	FM845 「からだ元気コーナー」
「頻尿や尿漏れでお困りの方へ」 <u>奥野 博</u>	
2022.02.19	第15回日本性差医学・医療学会学術集会
「肥満症の心血管病リスクとしての高尿酸血症と性差—国立病院機構多施設肥満症コホート研究—」 <u>浅原 哲子</u> 、若林 大、山陰 一、笠原 正登	
2022.02.26-27	第14回日本ロボット外科学会学術集会
「骨盤臓器脱に対するロボット支援下仙骨脛固定術（RSC）の手術成績の後方視的検討」 <u>安彦 郁</u> 、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、岸本 尚也、上田 匡、江本 郁子、 <u>天野 泰彰</u> 、 <u>宇治田麻里</u>	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.02.27	第5回奈良県立医科大学付属病院臨床研究県民公開講座
「コロナに負けない！メタボ解消術」 浅原 哲子	
2022.03.02	MUST Multi Solution for TLH
「ステップアップ尿管対策「側方/後方アプローチを使い分けて尿管と血管を安全に分離する」」 安彦 郁	
2022.03.18	第21回産婦人科手術療法・周術期研究会
「ロボット支援下仙骨腔固定術 (RSC) 術後に絞扼性小腸閉塞を生じた症例の検討と対策」 天野 泰彰、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、岸本 尚也、上田 匡、江本 郁子、宇治田麻里、 安彦 郁	
2022.03.26-27	第42回日本肥満学会 & 第39回日本肥満症治療学会学術集会
「Phase Angle を用いた筋質評価と若年者を対象とした体格に関する実態調査」 日下部 徹	
2022.03.29	京滋骨粗鬆症リエゾンサービスサミット
「骨と筋肉を強くし、健康長寿を目指す-骨粗鬆症・サルコペニアに対する当院の取り組み」 日下部 徹	
2021.04.22-24	第94回日本内分泌学会学術総会
「肥満患者における副腎偶発腫の頻度と特徴に関する検討」 難波 多挙、奥野 芳樹、山陰 一、村中 和哉、日下部 徹、立木 美香、広川 侑奨、八十田明宏、 田上 哲也、浅原 哲子	
2021.04.22-24	第94回日本内分泌学会学術総会 サテライトシンポジウム第2回「脂肪萎縮症候群研究会」
「部分性脂肪萎縮症候群の自験例—家族性部分性脂肪萎縮症1型の診断について—」 日下部 徹	
2021.07.03	高齢者トータルケアWEB講演会～寝たきり防止を見据えて健康寿命延伸～
「生き生き人生笑顔サポート～骨粗鬆症・サルコペニアへの対策」 日下部 徹	
2021.09.11	第40回日本臨床運動療学会学術集会
「新たな肥満評価指標 ABSI は脳心血管病リスク因子重積と骨格筋指標低下を反映する」 池上健太郎、日下部 徹、村中 和哉、赤松 裕訓、山陰 一、井上 隆之、浅原 哲子	
2021.11.06-07	第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会
「高齢者において生体電気インピーダンス法から得られる Phase Angle はサルコペニア評価指標、オーラルフレイルと関連する」 日下部 徹、赤松 裕訓、池上健太郎、村中 和哉、山陰 一、井上 隆之、八十田明宏、石井好二郎、 浅原 哲子	
2021.11.18-20	第64回日本甲状腺学会学術集会
「 ¹³¹ I 内用療法治療後の甲状腺中毒症によりワルファリンによる凝固能が過度に延長したバセドウ病の一例」 石原 裕己、難波 多挙、北村 拓也、中谷理恵子、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、 井内 盛遠、田上 哲也	
2021.11.18-20	第64回日本甲状腺学会学術集会
「初回指摘の橋本病による粘液水腫性昏睡疑い例の一例」 北村 拓也、濱中 (廣嶋) 佳歩、石原 裕己、中谷理恵子、難波 多挙、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、 八十田明宏、田上 哲也	
2021.11.26-27	第31回臨床内分泌代謝 Update
「高齢バセドウ病患者にアイソトープ治療を安全に施行できた一例」 野村 拓未、石原 裕己、濱中 佳歩 [廣嶋]、難波 多挙、中谷理恵子、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、 八十田明宏、田上 哲也	
2021.11.26-27	第31回臨床内分泌代謝 Update
「集学的治療によりコントロールを行ったコントロールを行った GH 産生下垂体腫瘍の一例」 難波 多挙、北村 拓也、濱中 (廣嶋) 佳歩、石原 裕己、中谷理恵子、立木 美香、青木 友和、荒木 則雄、 森吉 弘毅、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、井下 尚子、島津 章、田上 哲也	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.12.04-05	第6回日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会
「心血管疾患リスク合併を予測するサルコペニア肥満の診断方法に関する検討」 池上健太郎、日下部 徹、村中 和哉、赤松 裕訓、山陰 一、井上 隆之、石井好二郎、浅原 哲子	
2022.01.22	第43回京都甲状腺研究会
「甲状腺眼症の一表現型として眼窩内腫瘍-Connective tissue with mild lymphoplasmacytic infiltration-を形成した症例」 中谷理恵子、北村 拓也、石原 裕己、廣嶋 佳歩、難波 多挙、立木 美香、田上 哲也、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、高橋 洸、藤本 雅大	
2022.02.03	Meet The Expert-糖尿病性腎臓病を考える-
「糖尿病性腎臓病におけるサルコペニア」 日下部 徹	
2022.03.26-27	第42回日本肥満学会 & 第39回日本肥満症治療学会学術集会
「Phase Angle を用いた筋質評価と若年者を対象とした体格に関する実態調査」 日下部 徹	
2022.03.29	京滋骨粗鬆症リエゾンサービスサミット
「骨と筋肉を強くし、健康長寿を目指す-骨粗鬆症・サルコペニアに対する当院の取り組み」 日下部 徹	
2021.01.23	第281回 全国禁煙アドバイザー育成講習会
「緊急開催 禁煙補助薬入手困難時の禁煙支援 ～禁煙支援における認知行動療法の位置づけ～」 小見山麻紀	
2021.01.23発表日 2022.02.26録画放映	第281回全国禁煙アドバイザー育成講習会
「コロナ禍における禁煙支援」 長谷川浩二	
2021.04.24	第6回日本心血管協会 (JCVA) 学術集会 2021年 4月24日～25日 オンライン開催
「Impact of Diabetes on Fibroblast Growth Factor 23 and Mortality in Patients with Suspected or Known Coronary Artery Disease : The ANOX Study (Abstract P33, OP1-3)」 和田 啓道、鈴木 雅裕、松田 守弘、洋一、篠崎 毅、阪上 学、米澤 一也、船田 淳一、竹中 孝、中村 俊博、藤本 和輝、松原 広己、加藤 徹、井口 守丈、小谷 和彦、阿部 充、赤尾 昌治、長谷川浩二	
2021.04.24-25	第6回日本心血管協会学術集会
「心筋ダイレクトリプログラミングにおける好気性代謝制御因子IDHの役割」 植山 萌恵、石田 智明、原田 恭弘、中原 正登、水田 友里、馬場 藍、長谷川浩二、中尾 周、川村 晃久	
2021.04.24-25	第6回日本心血管協会学術集会
「β3アドレナリン受容体の心拍制御への関与」 柳澤 和輝、石田 智明、植山 萌恵、土井 晃大、馬場 藍、長谷川浩二、中尾 周、川村 晃久	
2021.04.25	第6回日本心血管協会学術集会
「GATA4の二量体形成の阻害により心筋細胞肥大反応を抑制した」 清水 聡史、砂川 陽一、刀坂 泰史、宮崎 雄輔、船本 雅文、Nurmila Sari、清水 果奈、長谷川浩二、森本 達也	
2021.04.25	第6回日本心血管協会学術集会
「抗血小板薬であるサルポグレラートは圧負荷による心不全の進展を抑制した」 清水 果奈、船本 雅文、砂川 陽一、刀坂 泰史、宮崎 雄輔、清水 聡史、長谷川浩二、森本 達也	
2021.04.25	第6回日本心血管協会学術集会
「p300/BRG1複合体形成によりヒストンの球状ドメインのアセチル化が心不全期に増加した」 船本 雅文、砂川 陽一、刀坂 泰史、宮崎 雄輔、清水 果奈、清水 聡史、長谷川浩二、森本 達也	
2021.04.29	WHF GLOBAL STUDY ON COVID-19 & CVD
「CELEBRATING MILESTONES & MAPPING NEXT STEPS」 Koji Hasegawa	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.05.29 「世界禁煙デー 記念セミナー「COVID-19, 心血管病と禁煙治療」～コロナうつ、心血管疾患と禁煙～」 <u>長谷川浩二</u>	第10回禁煙治療研究会
2021.06.12 「病院でアロマセラピストとして働く ～ファーストステップから臨床研究まで①～」 <u>畑 亜紀子</u>	International Federation of Professional Aromatherapists
2021.06.27 「アルギニンメチル化酵素PRMT5の心筋特異的過剰発現は加齢に伴う心肥大および心機能低下を促進する」 <u>刀坂 泰史</u> 、 <u>若林 弘樹</u> 、 <u>宮崎 雄輔</u> 、 <u>砂川 陽一</u> 、 <u>船本 雅文</u> 、 <u>清水 果奈</u> 、 <u>清水 聡史</u> 、 <u>長谷川浩二</u> 、 <u>森本 達也</u>	第21回日本抗加齢医学会総会
2021.06.27 「抗血小板薬サルボグレラートは圧負荷心不全モデルマウスにおいてERK1/2-GATA4経路を阻害することで心保護作用を示した」 <u>清水 果奈</u> 、 <u>船本 雅文</u> 、 <u>砂川 陽一</u> 、 <u>刀坂 泰史</u> 、 <u>宮崎 雄輔</u> 、 <u>清水 聡史</u> 、 <u>長谷川浩二</u> 、 <u>森本 達也</u>	第21回日本抗加齢医学会総会
2021.06.27 「カンキツ由来化合物ノビレチンはp300-HAT活性制御を介して心不全進展を抑制する」 <u>砂川 陽一</u> 、 <u>高井 秀通</u> 、 <u>内藤 汐美</u> 、 <u>船本 雅文</u> 、 <u>清水 果奈</u> 、 <u>清水 聡史</u> 、 <u>刀坂 泰史</u> 、 <u>宮崎 雄輔</u> 、 <u>和田 啓道</u> 、 <u>菅 敏幸</u> 、 <u>長谷川浩二</u> 、 <u>森本 達也</u>	第21回日本抗加齢医学会総会
2021.06.27 「培養心筋細胞を用いたハイスループットスクリーニングによる心不全治療薬の探索」 <u>清水 聡史</u> 、 <u>山田 美帆</u> 、 <u>片桐 宇大</u> 、 <u>砂川 陽一</u> 、 <u>船本 雅文</u> 、 <u>茂木 光</u> 、 <u>清水 果奈</u> 、 <u>ヌーミラサリ</u> 、 <u>宮崎 雄輔</u> 、 <u>刀坂 泰史</u> 、 <u>小郷 尚久</u> 、 <u>浅井 章良</u> 、 <u>長谷川浩二</u> 、 <u>森本 達也</u>	第21回日本抗加齢医学会総会
2021.07.04 「強力なp300-HAT活性阻害作用を持つクルクミン類似体GO-Y030は圧負荷による心不全の進展を抑制した」 <u>清水 果奈</u> 、 <u>船本 雅文</u> 、 <u>砂川 陽一</u> 、 <u>刀坂 泰史</u> 、 <u>宮崎 雄輔</u> 、 <u>清水 聡史</u> 、 <u>柴田 浩行</u> 、 <u>長谷川浩二</u> 、 <u>森本 達也</u>	第75回日本栄養・食糧学会大会
2021.07.10 「病院でアロマセラピストとして働く ～ファーストステップから臨床研究まで②～」 <u>畑 亜紀子</u>	International Federation of Professional Aromatherapists
2021.07.18 「禁煙支援の最新知識—受動喫煙・禁煙治療・新種のタバコ・コロナと喫煙—」 <u>長谷川浩二</u>	日本禁煙科学会 第277回全国禁煙アドバイザー育成講習会
2021.07.24 「Session Title : Cardiovascular Implications of COVID-19 Lecture title : Myocardial injury and coagulopathy in COVID-19～A Boon or Bane when using anticoagulation?～」 <u>Koji Hasegawa</u>	26th International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy
2021.07.24-25 「Beta-3 adrenergic receptors in the sinoatrial node for heart rate regulation」 <u>Nakao S</u> , <u>Yanagisawa K</u> , <u>Ueyama T</u> , <u>Hasegawa K</u> , <u>Kawamura T</u>	26th ISCP (International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy)
2021.07.24-25 「The role of isocitrate dehydrogenases in direct reprogramming to cardiomyocytes.」 <u>ISHIDA Tomoaki</u> , <u>UEYAMA Tomoe</u> , <u>BABA Ai</u> , <u>HASEGAWA Koji</u> , <u>KAWAMURA Teruhisa</u>	26th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy.
2021.07.25 「The Polyunsaturated Fatty Acids, EPA and DHA, prevent Myocardial Infarction-induced Heart Failure by Inhibiting p300-HAT Activity in Rats」 <u>Yoichi Sunagawa</u> , <u>Ayumi Katayama</u> , <u>Kiyotaka Shimizu</u> , <u>Masafumi Funamoto</u> , <u>Kana Shimizu</u> , <u>Satoshi Shimizu</u> , <u>Sari Nurmila</u> , <u>Yusuke Miyazaki</u> , <u>Yasufumi Katanasaka</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , <u>Tatsuya Morimoto</u>	26th International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.07.25 [Discovery of Novel Small Molecules for Heart Failure Therapy Using cultured cardiomyocyte by High Throughput Screening assay] Satoshi Shimizu, Yoichi Sunagawa, Naohisa Ogo, Akira Asai, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	26th International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy
2021.08.23 [An Antiplatelet Agent Sarpogrelate Suppresses Pressure Overload-Induced Development of Heart Failure in a5-HT2A Receptor-Independent Manner] Kana Shimizu, Funamoto Masafumi, Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka, Yusuke Miyazaki, Satoshi Shimizu, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	Basic Cardiovascular Sciences 2021 Scientific Sessions
2021.08.25 [GATA4 dimerization may be a target for heart failure therapy] Satoshi Shimizu, Kodai Hara, Asami Hishiki, Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka, Yusuke Miyazaki, Masafumi Funamoto, Nurmila Sari, Kana Shimizu, Koji Hasegawa, Hiroshi Hashimoto, Tatsuya Morimoto	Basic Cardiovascular Sciences 2021
2021.08.26 [抗血小板薬であるサルボグレラートは 5-HT2A 受容体非依存的に心筋細胞肥大および心不全の進展を抑制した] 清水 果奈、船本 雅文、砂川 陽一、刀坂 泰史、村井 範行、清水 聡史、長谷川浩二、森本 達也	生体機能と創薬シンポジウム2021
2021.08.26 [GATA4二量体形成阻害は心不全治療の新しいターゲットになりうる] 清水 聡史、砂川 陽一、刀坂 泰史、宮崎 雄輔、船本 雅文、清水 果奈、長谷川浩二、森本 達也	生体機能と創薬シンポジウム2021
2021.08.27-30 [Impact of atrial fibrillation on soluble fms-like tyrosine kinase-1 and cardiovascular events in patients with suspected or known coronary artery disease : The EXCEED-J Study (ePoster)] Hiromichi Wada, Tsuyoshi Shinozaki, Masahiro Suzuki, Satoru Sakagami, Junichi Funada, Morihiro Matsuda, Masatoshi Shimizu, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, Kazuya Yonezawa, Kazuhiko Kotani, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Koji Hasegawa.	ESC (European Society of Cardiology) Congress 2021—The Digital Experience
2021.08.28-31 [Distinct association of VEGF-C and VEGF-D with prognosis in patients with chronic heart failure : the PREHOSP-CHF Study] 井口 守丈、和田 啓道、阿部 充、赤尾 昌治、長谷川浩二	ESC (European Society of Cardiology) Congress 2021—The Digital Experience
2021.09.04 [How to sustain smoking ban? —Tobacco Control in Asia during COVID-19 pandemic—~Psychological Stress and Tobacco Control~] Koji Hasegawa	13th Asia Pacific Conference on Tobacco or Health
2021.09.05 [京都医療センター看護助産師学校第17回生ホームカミングデー] 畑 亜紀子	公益社団法人 京都府看護協会
2021.09.11 [共催セミナー 1 より質の高い禁煙治療プログラムを提供するために] 長谷川浩二	第16回日本禁煙科学学会学術総会
2021.09.11 [好中球/リンパ球比は炎症マーカーと関連し、禁煙後減少する] 小見山麻紀	第16回禁煙科学学会学術総会
2021.09.11 [禁煙治療におけるアロマセラピー併用療法臨床研究の進捗状況] 畑 亜紀子、小見山麻紀、高橋 裕子、八十田明宏、浅原 哲子、山陰 一、森本 達也、和田 啓道、長谷川浩二	第16回日本禁煙科学学会学術総会
2021.09.11 [GATA4 dimerization is important for transcriptional regulation and may be a target for heart failure therapy.] Satoshi Shimizu, Kodai Hara, Asami Hishiki, Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka, Yusuke Miyazaki, Masafumi Funamoto, Nurmila Sari, Kana Shimizu, Koji Hasegawa, Hiroshi Hashimoto, Tatsuya Morimoto	第5回日本循環器学会基礎研究フォーラム

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.09.12	第16回日本禁煙科学会学術総会
[シンポジウム 2 基調講演 With コロナ時代における日本の医療と禁煙支援] 長谷川浩二	
2021.09.25	NPO 法人がんリボンズ「がんの治療と暮らしフェア」
[患者さんとご家族が時間と空間を共有するアロマケア] 畑 亜紀子	
2021.10.01	第25回日本心不全学会学術集会
[シンポジウム 1 心筋検研究会ジョイントシンポジウム 心筋炎 up to date 新型コロナウイルス感染症における心筋障害] 長谷川浩二	
2021.10.09	第145回日本薬理学会関東部会
[心筋細胞の肥大反応を指標とハイスループットスクリーニングによる新規心不全治療候補薬の探索] 清水 聡史、山田 美帆、片桐 宇大、砂川 陽一、船本 雅文、茂木 光、清水 果奈、Nurmila Sari、 刀坂 泰史、小郷 尚久、浅井 章良、長谷川浩二、森本 達也	
2021.10.14-16	47th Argentine Congress of Cardiology—Virtual Edition in Buenos Aires—Argentina
[Cardiovascular Complications of COVID-19 and anti-coagulation therapy] Koji Hasegawa	
2021.10.17公開	認定NPO 法人日本心血管協会第19回 JCVA 市民公開講座
[コロナパンデミックにおける生活習慣の乱れと脳梗塞・心筋梗塞] 長谷川浩二	
2021.10.23-24	日本循環器学会第158回東海・第143回北陸合同地方会
[Sarpogrelate, an Antiplatelet Agent, Suppressed Cardiac Hypertrophy and Systolic Dysfunction in a 5-HT _{2A} Receptor-Independent Manner] Kana Shimizu, Masafumi Funamoto, Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka, Yusuke Miyazaki, Satoshi Shimizu, Noriyuki Murai, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	
2021.10.23-24	日本循環器学会第158回東海・第143回北陸合同地方会
[Discovery of Novel Small Molecules for Heart Failure Therapy Using Phenotype-based High Throughput Screening Assay] Satoshi Shimizu, Miho Yamada, Takahiro Katagiri, Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka, Yusuke Miyazaki, Masafumi Funamoto, Nurmila Sari, Kana Shimizu, Naohisa Ogo, Akira Asai, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	
2021.10.25	Asian Cardiovascular Clinical Research Seminar 2021 Integrated Management of Cardiovascular Diseases 1
[Psychological Stress and Cardiovascular Diseases] Koji Hasegawa	
2021.10.30-11.07	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2021
[初代培養心筋細胞を用いたハイスループットスクリーニングにより新規心不全治療薬の候補化合物を9個同定した] 清水 聡史、山田 美帆、片桐 宇大、砂川 陽一、船本 雅文、茂木 光、清水 果奈、Nurmila Sari、 刀坂 泰史、小郷 尚久、浅井 章良、長谷川浩二、森本 達也	
2021.10.30-11.07	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2021
[抗血小板薬サルボグレラートは5-HT _{2A} 受容体非依存的に心不全の進展を抑制した] 清水 果奈、船本 雅文、砂川 陽一、刀坂 泰史、村井 範行、Nurmila Sari、清水 聡史、長谷川浩二、 森本 達也	
2021.11.05	国立病院機構ネットワーク共同研究 心脳大血管グループ合同会議
[加熱式タバコの心血管バイオマーカーに対する影響] 森本 達也	
2021.11.09	第16回日本禁煙科学会学術総会
[国際シンポジウム (日韓ジョイントミーティング) Keynote lecture Knowledge and self-efficacy among healthcare providers towards smoking cessation and modern tobacco products in Japan : An observational study] Swati Mittal	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.11.12	the 10th Conference The Controversies of Modern Cardiology Disputable and Unresolved Questions Samara
[Myocardial Injury in COVID-19] <u>Koji Hasegawa</u>	
2021.11.12	the 10th Conference The Controversies of Modern Cardiology Disputable and Unresolved Questions Samara
[New Dictions of Pharmacotherapy of HFpEF : ARNI, SGLT-2 Inhibitors, and More] <u>Koji Hasegawa</u>	
2021.11.13-15	American Heart Association Scientific Sessions 2021
[The association between frailty and vascular endothelial growth factor families in patients with heart failure : the PREHOSP-CHF Study] <u>井口 守丈、和田 啓道、阿部 充、赤尾 昌治、長谷川浩二</u>	
2021.11.13-15	AHA scientific sessions 2021
[Sarpogrelate, an Antiplatelet Agent, Suppressed Cardiac Hypertrophy and Systolic Dysfunction in a 5-ht2a Receptor-Independent Manner] <u>Kana Shimizu, Masafumi Funamoto, Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka, Yusuke Miyazaki, Satoshi Shimizu, Noriyuki Murai, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto</u>	
2021.11.13-15	AHA scientific sessions 2021
[Discovery of Novel Small Molecules for Heart Failure Therapy Using Phenotype-based High Throughput Screening Assay] <u>Satoshi Shimizu, Miho Yamada, Takahiro Katagiri, Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka, Yusuke Miyazaki, Masafumi Funamoto, Nurmila Sari, Kana Shimizu, Naohisa Ogo, Akira Asai, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto</u>	
2021.11.13-15	American Heart Association Scientific Sessions 2021
[Impact of Diabetes on Soluble Fms-Like Tyrosine Kinase-1 and Cardiovascular Events in Patients with Suspected or Known Coronary Artery Disease : The EXCEED-J Study. Circulation 2021 ; 144 : A10838 (P1070)] <u>Hiromichi Wada, Tsuyoshi Shinozaki, Masahiro Suzuki, Satoru Sakagami, Junichi Funada, Morihiro Matsuda, Masatoshi Shimizu, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, Kazuya Yonezawa, Hiromi Matsubara, Yujiro Ono, Toshihiro Nakamura, Kazuteru Fujimoto, Akiyo Ninomiya, Toru Kato, Takashi Unoki, Kyohma Wada, Moritake Iguchi, Kazuhiko Kotani, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Koji Hasegawa</u>	
2021.12.03	第31回日本循環薬理学会
[セロトニン2A受容体選択的拮抗薬であるサルボグレラートはERK1/2-GATA4経路を阻害することで心不全の進展を抑制した] <u>清水 果奈、船本 雅文、砂川 陽一、刀坂 泰史、村井 範行、清水 聡史、長谷川浩二、森本 達也</u>	
2021.12.03	第31回日本循環薬理学会
[心臓線維化に対するPRMT5選択的阻害剤EPZ015666の薬理作用の検討] <u>刀坂 泰史、村田 騰行、矢部 晴海、砂川 陽一、清水 聡史、清水 果奈、長谷川浩二、森本 達也</u>	
2021.12.03	第31回日本循環薬理学会
[転写因子GATA4のホモ二量体形成阻害は心筋細胞肥大反応を抑制する] <u>清水 聡史、砂川 陽一、刀坂 泰史、船本 雅文、清水 果奈、Nurmila Sari、長谷川浩二、森本 達也</u>	
2021.12.12	第19回日本機能性食品医用学会
[構造活性相関により同定したクルクミン類似体GO-Y030は圧負荷による心不全の進展を抑制した] <u>清水 果奈、船本 雅史、砂川 陽一、刀坂 泰史、清水 聡史、柴田 浩行、長谷川浩二、森本 達也</u>	
2021.12.12	第19回日本機能性食品医用学会
[ツルアラメ抽出物はp300の活性化を阻害し、心不全の進展を抑制した] <u>清水 果奈、船本 雅史、砂川 陽一、刀坂 泰史、清水 聡史、柴田 浩行、長谷川浩二、森本 達也</u>	
2022.03.06	第283回全国禁煙アドバイザー育成講習会
[コロナと禁煙] <u>長谷川浩二</u>	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.03.11	第86回日本循環器学会学術集会 2022年3月11日-13日
[Impact of Diabetes on sFlt-1 and Cardiovascular Events and Mortality in Suspected or Known Coronary Artery Disease : The EXCEED-J Study (OE09-1)] Hiromichi Wada, Tsuyoshi Shinozaki, Masahiro Suzuki, Satoru Sakagami, Yoichi Ajiro, Junichi Funada, Morihiro Matsuda, Masatoshi Shimizu, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, Kazuya Yonezawa, Hiromi Matsubara, Yujiro Ono, Toshihiro Nakamura, Kazuteru Fujimoto, Akiyo Ninomiya, Toru Kato, Takashi Unoki, Daisuke Takagi, Kyohma Wada, Miyaka Wada, Moritake Iguchi, Kazuhiko Kotani, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Koji Hasegawa.	
2022.03.11-13	JCS 2022
[Vascular endothelial growth factor C and D in heart failure with preserved and reduced ejection fraction: The PREHOSP-CHF Study] 井口 守丈、和田 啓道、阿部 充、赤尾 昌治、長谷川浩二	
2022.03.12	第86回日本循環器学会学術集会 2022年3月11日-13日
[Impact of Atrial Fibrillation on Soluble Flt-1 and Cardiovascular Events in Suspected or Known Coronary Artery Disease : The EXCEED-J Study (PE27-1)] Hiromichi Wada, Tsuyoshi Shinozaki, Masahiro Suzuki, Satoru Sakagami, Yoichi Ajiro, Junichi Funada, Morihiro Matsuda, Masatoshi Shimizu, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, Kazuya Yonezawa, Hiromi Matsubara, Yujiro Ono, Toshihiro Nakamura, Kazuteru Fujimoto, Akiyo Ninomiya, Toru Kato, Takashi Unoki, Daisuke Takagi, Kyohma Wada, Miyaka Wada, Moritake Iguchi, Kazuhiko Kotani, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Koji Hasegawa.	
2021.04.22-25	第73回日本産科婦人科学会学術講演会
[クリニカルシーケンスの医療：婦人科腫瘍におけるがんゲノム医療の新たな展開。] 林 琢磨、佐野 健司、市村 友季、Dorit Zharhary、利根川 進、油田 浩幸、金井 弥栄、八重樫伸生、小西 郁生	
2021.05.08	内閣府 / 日本学術会議主催の学術フォーラム
[新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown #1] [新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム] 林 琢磨	
2021.05.29-31	Int'l Conference on Stem Cell Research and Therapy (SCRT 2021)
[Molecular Pathology of uterine mesenchymal tumors.] Hayashi T, Ichimura T, Mandai M, Tonegawa S, Yaegasgi N, Konishi I, 招待講演 Keynote Speaker, (基調講演)	
2021.06.11-12	International Conference on Cancer Science : Research & Development (ICSR 2021).
[Molecular Pathology of uterine mesenchymal tumors.] Hayashi T, Ichimura T, Mandai M, Tonegawa S, Yaegasgi N, Konishi I, 招待講演 Keynote Speaker. (基調講演)	
2021.07.16	第63回日本婦人科腫瘍学会
[クリニカルシーケンスの今後の展望：婦人科腫瘍におけるがんゲノム医療の新たな展開。] 天野 泰彰、林 琢磨、安彦 郁、万代 昌紀、八重樫伸生、小西 郁生	
2021.07.16	第63回日本婦人科腫瘍学会
[プラチナ製剤抵抗性再発・進行性卵巣がんに対する早期診断と治療法の検討。] 林 琢磨、安彦 郁、山口 建、山田 亮、松村 謙臣、万代 昌紀、小西 郁生	
2021.09.05	日刊現代 Yahooニュース Life
[ワクチン2回接種の高齢者にコロナ感染が増えている理由 専門家に聞いた] 林 琢磨	
2021.09.16-17	5 th International Conference on Virology and Infectious Diseases
[Significant Decrease in Seasonal Influenza in the COVID-19 Era:Impact of Global Movement Restrictions?] Hayashi T, Mandai M, Yaegasgi Y, Konishi I. 依頼講演	
2021.09.24	日刊現代 Yahooニュース Life
[遺伝子書き換え、不妊…新型コロナのワクチン接種をめぐる「デマ」と「事実」を専門家に聞いた] 林 琢磨	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.10.16	日本人類遺伝学会第66回大会 第28回日本遺伝子診療学会大会
[Study of early diagnosis and treatment for platinum-resistant recurrent/advanced ovarian cancer.] Hayashi T.	
2021.10.16	日刊現代 Yahooニュース Life
[重感染、スーパー感染…新型コロナに続くインフルエンザ流行の備えはどこまで?] 林 琢磨	
2021.10.18-19	Experts Meet on Infectious Diseases & Research conference
[Zoonotic disease:A highly conserved binding region of ACE2 as receptor for SARS-CoV-2 between human and mammals.] Hayashi T, Ura T, Amano Y, Mandan M, Yaegashi N, Konishi I. 依頼講演	
2021.11.04-06	Biotechnology and Genetics World Forum
[Molecular Pathology of uterine mesenchymal tumors for development of diagnosis and clinical therapy.] Hayashi T, Ura T, Amano Y, Mandan M, Yaegashi N, Konishi I. 依頼講演	
2021.11.04-06	International Society for Infectious Diseases
[Possibility of SARS-CoV-2 infection in metastatic microenvironment of cancer.] Hayashi T, Konishi I. 依頼講演	
2021.11.09	Overcoming Therapy Resistance in Cancer Cell Symposia
[Oncological Features of Intravenous Leiomyomatosis : Involvement of Mesenchymal Tumor Stem-Like Cells.] Tamura S, Hayashi T, Tokunaga H, Yaegashi N, Abiko K, Konishi I.	
2021.12.02-04	Cell Science-2021
[Molecular Pathology of uterine mesenchymal tumors for development of diagnosis and clinical therapy.] Hayashi T, Ichimura T, Mandai M, Tonegawa S, Yaegashi N, Konishi I. 依頼講演	
2021.12.14-15	International E-Conference on COVID-19 Pandemic
[Highly conserved binding region of ACE2 as a receptor for SARS-CoV-2 between humans and mammals.] Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I. 招待講演 Keynote Speaker. (基調講演)	
2022.01.15	日刊現代 Yahooニュース Life
[林 琢磨：聞き手 遠山嘉之：若年層や女性が感染しやすい…「オミクロン株」の怖さと対策を専門家に聞いた] 林 琢磨	
2022.02.07	Webinar- United Conference of COVID-19 and Post COVID Sequelae
[Possibility of SARS-CoV-2 Infection in the Metastatic Microenvironment of Cancer.] Hayashi T, Sano K, Konishi I. 招待講演	

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

2・3歳児へのサベレメソッドを使った食体験プログラムによる苦手野菜数減少効果
チャイルドヘルス, 24, 8, 622-627, 2021.08, 株式会社 診断と治療社
梁井順一郎、河口八重子、坂根 直樹

原著論文

血液透析患者における栄養状態がQOLに及ぼす影響
日本病態栄養学会誌, 25, 1号, 11~17, 2022.03.01, 日本病態栄養学会
木村美枝子、今田 直樹、立山 一美、山川 京子、野間 啓太、守時 祐輔、池田 (林) 香里、今井 文恵、
菅沼 彰子、坂根 直樹

一般

はじめてのカーボカウント4版(3編、資料)「Q4カーボカウントは難しいの」「Q101日にどれくらいの炭水化物をとればいいのか?」「Q41高齢糖尿病にもカーボカウントは使えるの?」
坂根直樹(編著)、佐野喜子(編著), 2022.03.16 in press, 中外医学者
坂根 直樹、佐野 喜子、村田 敬、山内 恵子、河口八重子、他40名

解説

新型コロナウイルス感染症の感染拡大で血糖コントロールがわるくなる人、良くなる人 コロナ禍の過ごし方
さかえ, 61, 4, 38-42, 2021.04, 日本糖尿病協会
坂根 直樹

原著論文

日本人版ボディイメージ質問紙開発と信頼性、妥当性の検討
肥満研究, 27, 3, 140-148, 2021.12, 日本肥満学会
湯面 百希奈, 高山 祐美, 鈴木 新, 和田 有史, 坂根 直樹, 永井 成美

総説

特集：カーボカウントー炭水化物に注目した食事療法
週刊日本医事新報, 5058, 18~32, 2021.04.03
村田 敬

解説

良質な血糖コントロールとは一持続血糖測定器 (CGM) からわかってきたことー
カレントセラピー, 39, 5, 46~553, 2021.05.01
村田 敬

原著論文

郊外の公営団地および駅前の住宅地に在住する高齢女性の身体活動量および体力の比較
流通科学大学論集一人間・社会・自然編一, 34, 2, 2022.03.01
大島 秀武, 関和 俊, 北村 裕美

総説

高温環境下でのインスリン製剤の保管に関する提案
くすりと糖尿病, 10, Suppl., 118-119, 2021.06.01
朝倉 俊成

その他

食欲不振・体重減少
エビデンスに基づく消化器看護ケア関連図, 総ページ数352, 2022, 中央法規
吉治 仁志, 西田 直子=監修/松浦 純平=編集
森崎 直子, 片山 知美

原著論文

地域在住高齢女性におけるフレイルと栄養素・食品摂取及び買物状況の関連
日本サルコペニア・フレイル学会誌, 5, 154~162, 2021.06.30, メディカルレビュー社
鎌田智英美, 奥村 亮太, 三木 章江, 藤原 真治, 吉村 幸雄

総説

適正なインスリン注射製剤使用の継続的薬学管理のてびき
くすりと糖尿病, 10, Suppl., 86-96, 2021.06.01
朝倉 俊成, 岡田 浩, 廣田 有紀, 和田 幹子

解説

糖尿病治療用注射製剤に関わる「補助具」の適正使用のための留意点
くすりと糖尿病, 10, Suppl., 115-117, 2021.06.01
朝倉 俊成, 小林 庸子, 篠原久仁子, 中野 玲子, 武藤 達也

総説

糖尿病治療用注射製剤の自己注射や血糖自己測定用アルコール消毒綿不足時の対処について (例示)
くすりと糖尿病, 10, Suppl., 120-122, 2021.06.01
朝倉 俊成, 中野 玲子, 武藤 達也

原著論文

薬局を対象とした COVID-19 感染対策サイトの広報効果 ページ閲覧数による解析
医薬品情報学, 23, 3, 143-147, 2021.11
森和 明, 岡田 浩, 鈴木 渉太, 山下 恵, 松澤 京子, 五十嵐恵美子

その他

意思決定をする人・その支援をするすべての人に向けた参考書 人生を自分らしく生き抜くための意思決定 -ACP・
QOL・QOD・人生デザインシミュレーション
意思決定をする人・その支援をするすべての人に向けた参考書 人生を自分らしく生き抜くための意思決定 -ACP・
QOL・QOD・人生デザインシミュレーション, 総ページ数232, 2021, 金芳堂
森岡 広美, 阿部 幸恵, 片山 知美, 古谷 昭雄

一般

急性高血糖 (救急診療で血糖値が1,000 mg/dLが必要な検査).
臨床検査, 65, 4, 362-363, 2021.04.04, 医学書院
才津 旭弘、小谷 和彦

その他

五感が育つ子どもの食育 食の体験学習サペレメソッド
五感が育つ子どもの食育 食の体験学習サペレメソッド, 2021.10.01, 保育社
梁井順一郎、河口八重子

総説

インスリン製剤の適正な継続的薬学管理に必要な視点と行動例
くすりと糖尿病, 10, Suppl., 97-114, 2021.06.01
朝倉 俊成、岡田 浩、廣田 有紀、和田 幹子

原著論文

スクエアステップ運動における笑顔の回数と程度
健康支援, 23, 2, 169-176, 2021.08.01
大島 秀武、村松 礼貴、重松 良祐

原著論文以外

The Hepcidin-25/Ferritin Ratio Is Increased in University Rugby Players with Lower Fat Mass.
Nutrients, 13, 9, 2993, 2021.08
Shinsuke Nirengi, Mami Fujibayashi, Sachiko Furuno, Shin Sukino, Akiko Suganuma,
Yaeko Kawaguchi, Yasuharu Kawase, Kazuhiko Kotani, Naoki Sakane

原著論文

LDL-cholesterol and PCSK9 in patients with familial hypercholesterolemia : influence of PCSK9 variants under lipid-lowering therapy
J Clin Lab Anal, 35, 11, 2021.11
Masato Hamasaki, Naoki Sakane, Kazuo Hara, Kazuhiko Kotani

原著論文以外

Similarity and differences in small dense low-density lipoprotein assessment : two methods compared
Arch Med Sci Atheroscler Dis, 2021, 109257, 2021.09
Kazuhiko Kotani, Naoki Sakane, Alejandro Gugliucci

原著論文

Preparation, Confidence, and Attitude to Sell Emergency Contraceptive Pills at Pharmacies:A Web Survey of Japanese Community Pharmacists
Yakugaku zasshi, 141, 11, 1275-1279, 2021.11
Hiroshi Okada, Shota Suzuki, Asako Nishimura, Yumie Ikeda, Keiko Abe, Takeo Nakayama

原著論文

A Pragmatic Pilot Cluster-Randomized Study of Tobacco Screening and Smoking Cessation Program for Community Pharmacies in Japan : FINE Program
Journal of Smoking Cessation, 2021, 9983515, 8, 2021.11
Mitsuko Onda, Michiko Horiguchi, Masayuki Domichi, Naoki Sakane

原著論文

Knowledge and Self-efficacy Among Healthcare Providers towards Novel Tobacco Products in Japan
Preventive Medicine Reports, 24, eCollection, 2021.11
Swati Mittal, Tomoe Uchida, Yoshitaka Nishikawa, Hiroshi Okada, Robert A. Schnoll,
Yoshimitsu Takahashi, Takeo Nakayama, Yuko Takahashi

原著論文

The CLOCK 3111T/C polymorphism is associated with hour-by-hour physical activity levels only on weekends among Japanese male and female university students
Physiol Behav, 247, 2022.01
Ryo Miyazaki, Hitoshi Ando, Makoto Ayabe, Tomoko Hamasaki, Yukito Higuchi, Kazushige Oshita,
Naoki Sakane

原著論文

Association of serum fibroblast growth factor 21 with diabetic complications and insulin dose in patients with type 1 diabetes mellitus
PlosOne, In press, In press, In press, In press
Hirokazu Taniguchi, Shinsuke Nirengi, Kengo Ishihara, Sayori Wada, Higashi Akane, Naoki Sakane

原著論文以外

Precautions for Proper Use of Accessory Aid Devices for Administering Injections for Diabetes Treatment
Japanese Journal of Pharmaceutical and Diabetes, 10, suppl., 169-182, 2021.06
Toshinari Asakura

原著論文

Effects of Aloe sterol supplementation on postprandial blood glucose elevation after OGTT in healthy subjects—A 12-week randomized double-blind placebo-controlled parallel-group trial—
薬理と治療, 49, 7, 1139-1147, 2021.07
Misawa Eriko, Ochi Daisuke, Nomaguchi Koji, Saito Marie, Nabeshima Kazumi, Tanaka Miyuki, Kakiuchi Izumi, Kiyosawa Kyoko, Miyasaka Mitsunaga, Nakamura Masahiko, Sakane Naoki

原著論文

Comparison of Metformin and Alogliptin Fixed-Dose Tablets Once a Morning Versus Once an Evening Using Continuous Glucose Monitoring (AMPM Study) : An Open-Label Randomized Cross-Over Trial
Journal of Endocrinology and Metabolism, 11, 1, 8-13, 2021
Futoshi Ebara, Masayuki Domichi, Akiko Suganuma, Naoki Sakane

原著論文

Validation of questionnaire for assessing perceived benefits and barriers of vegetable consumption in Japanese adults.
Malaysian Journal of Nutrition
Yaeko Kawaguchi, Junichi Somei Junichi, Chikana Kawaguchi, Akiko Suganuma, Naoki Sakane

原著論文

Developing and testing a set of quality indicators for pharmacist home visit services : A mixed methods study in Japan.
British journal of clinical pharmacology, 87, 4, 1940-1952, 2021.04
Kenji Fujita, Kazuki Kushida, Hiroshi Okada, Rebekah J Moles, Timothy F Chen

原著論文

Assessment of the accuracy of an intermittent-scanning continuous glucose monitoring device in patients with type 2 diabetes mellitus undergoing hemodialysis (AIDT2H) study
Ther Apher Dial, 25, 5, 586-594, 2021.10
Masao Toyoda, Takashi Murata, Nobumichi Saito, Moritsugu Kimura, Hiroo Takahashi, Naoto Ishida, Makoto Kitamura, Miho Hida, Akinori Hayashi, Ibuki Moriguchi, Naoyuki Kobayashi, Daisuke Tsuruya, Yukitoshi Sakao, Takaya Matsushita, Yukie Ito, Shota Suzuki, Shu Kasama, Masato Kasahara, Tadashi Yamakawa, Katsuhito Mori4, Akio Kuroda, Junnosuke Miura, Yushi Hirota, Masanori Abe, Masafumi Fukagawa, Naoki Sakane, Kiminori Hosoda

原著論文

Lower bone mineral density and higher bone resorption marker levels in premenopausal women with type 1 diabetes in Japan
J Diabetes Investig, 11, 9, 1689-1696, 2021.09
Fumi Yoshioka, Shinsuke Nirengi, Takashi Murata, Yaeko Kawaguchi, Tomokazu Watanabe, Kunio Saeki, Muneto Yoshioka, Naoki Sakane

原著論文

Impact of telephone support programme using telemonitoring on stage of change towards healthy eating and active exercise in people with prediabetes
Randomized Controlled Trial, 25, 6, 307-313, 2021.06
Naoki Sakane, Yoshitake Oshima, Kazuhiko Kotani, Akiko Suganuma, Kaoru Takahashi, Juichi Sato, Sadao Suzuki, Kazuo Izumi, Masayuki Kato, Mitsuhiro Noda, Hideshi Kuzuya

原著論文

Oral dryness and moisture degree at the lingual but not buccal mucosa predict prognosis in end-of-life cancer patients
Support Care Cancer, 11, 29, 6289-6296, 2021.04
Maiko Shimosato, Naoki Sakane

原著論文

Real-world implementation of diabetes management by pharmacists : The RXING Practice Tool
Canadian Pharmacists Journal, 154, 3, 160-165, 2021.04
Yazid N Al Hamarneh, Hiroshi Okada, Ross T Tsuyuki

原著論文

Comparisons Between Serum Levels of Hepcidin and Leptin in Male College-Level Endurance Runners and Sprinters

Frontiers in Nutrition, 31, 5, 6, 2021.05

Shinsuke Nirengi, Hirokazu Taniguchi, Aya Ishibashi, Mami Fujibayashi, Nao Akiyama, Kazuhiko Kotani, Kengo Ishihara, Naoki Sakane

原著論文

Diurnal variations of brown fat thermogenesis and fat oxidation in humans

International Journal of Obesity, 45, 11, 2499-2505, 2021.08

Masayuki Saito, Mami Matsushita, Shinsuke Nirengi, Masanobu Hibi, Hitoshi Wakabayashi, sang-il Lee, Masayuki Domichi, Naoki Sakane

原著論文

Did "kayoinoba" prevent the decline of mental and physical functions and frailty for the home-based elderly during the COVID-19 pandemic?

Int J Environ Res Public Health, 18, 18, 9502, 2021.09

Mio Kitamura, Takaharu Goto, Shinji Fujiwara, Yasuhiko Shirayama

原著論文

Combination of gene set signatures correlates with response to nivolumab in platinum-resistant ovarian cancer.

Sci Rep., 11, 1, 11427, 2021.06

Murakami R, Hamanishi J, Brown JB, Abiko K, Yamanoi K, Taki M, Hosoe Y, Yamaguchi K, Baba T, Matsumura N, Konishi I, Mandai M.

原著論文

Lymphoepithelioma-like carcinoma of uterine cervix : Preoperative diagnosis and course in three cases.

J Obstet Gynaecol Res., 47, 11, 4093-4100, 2021.11

Ikeda A, Abiko K, Emoto I, Ujita M, Takao Y, Konishi I.

総説

Nivolumab Versus Gemcitabine or Pegylated Liposomal Doxorubicin for Patients With Platinum-Resistant Ovarian Cancer : Open-Label, Randomized Trial in Japan (NINJA).

J Clin Oncol., 39, 33, 3671-3681, 2021.11

Hamanishi J, Takeshima N, Katsumata N, Ushijima K, Kimura T, Takeuchi S, Matsumoto K, Ito K, Mandai M, Nakai H, Sakuragi N, Watari H, Takahashi N, Kato H, Hasegawa K, Yonemori K, Mizuno M, Takehara K, Niikura H, Sawasaki T, Nakao S, Saito T, Enomoto T, Nagase S, Suzuki N, Matsumoto T, Kondo E, Sonoda K, Aihara S, Aoki Y, Okamoto A, Takano H, Kobayashi H, Kato H, Terai Y, Takazawa A, Takahashi Y, Namba Y, Aoki D, Fujiwara K, Sugiyama T, Konishi I.

原著論文

Mesonephric-like adenocarcinoma of the ovary in an elderly woman : A case report and a review of the literature.

J Obstet Gynaecol Res., 47, 12, 4490-4495, 2021.12

Ujita M, Abiko K, Kuwahara R, Emoto I, Amano Y, Konishi I.

総説

The Okabayashi Radical Hysterectomy : Basic Principle and Step-by-Step Procedure.

Surg J., 7, Suppl 2, S57-S69, 2021.10

Konishi I.

総説

The Okabayashi Radical Hysterectomy : Basic Principle and Step-by-Step Procedure.

2021 Oct 12 ; 7 (Suppl 2) : S57-S69. doi : 10.1055/s-0041-1736176. eCollection 2021 Dec. PMID : 35111931 Free PMC article.

Konishi I. Surg J (N Y).

原著論文以外

Cancer therapy with decreased SARS-CoV-2 infection rates in cancer patients.

Br J Cancer. 2021 Dec 30 : 1-2. doi : 10.1038/s41416-021-01685-3. Online ahead of print. PMID : 34969997 Free PMC article. No abstract available.

Hayashi T, Konishi I.

原著論文

Visceral-to-subcutaneous fat ratio is a possible prognostic factor for type 1 endometrial cancer.

Int J Clin Oncol. 2022 Feb ; 27 (2) : 434-440. doi : 10.1007/s10147-021-02060-1. Epub 2021 Oct 30. PMID : 34716844

Wada M, Yamaguchi K, Yamakage H, Inoue T, Kusakabe T, Abiko K, Takakura K, Konishi I, Satoh-Asahara N.

原著論文

Mesonephric-like adenocarcinoma of the ovary in an elderly woman : A case report and a review of the literature.

J Obstet Gynaecol Res. 2021 Dec ; 47 (12) : 4490-4495. doi : 10.1111/jog.15035. Epub 2021 Sep 27. PMID : 34580958 Review.

Ujita M, Abiko K, Kuwahara R, Emoto I, Amano Y, Konishi I.

原著論文

Oncological Properties of Intravenous Leiomyomatosis : Involvement of Mesenchymal Tumor Stem-Like Cells.

Curr Issues Mol Biol. 2021 Sep 19 ; 43 (2) : 1188-1202. doi : 10.3390/cimb43020084. PMID : 34563053 Free article.

Tamura S, Hayashi T, Tokunaga H, Yaegashi N, Abiko K, Konishi I.

原著論文

Nivolumab Versus Gemcitabine or Pegylated Liposomal Doxorubicin for Patients With Platinum-Resistant Ovarian Cancer : Open-Label, Randomized Trial in Japan (NINJA).

J Clin Oncol. 2021 Nov 20 ; 39 (33) : 3671-3681. doi : 10.1200/JCO.21.00334. Epub 2021 Sep 2. PMID : 34473544 Clinical Trial.

Hamanishi J, Takeshima N, Katsumata N, Ushijima K, Kimura T, Takeuchi S, Matsumoto K, Ito K, Mandai M, Nakai H, Sakuragi N, Watari H, Takahashi N, Kato H, Hasegawa K, Yonemori K, Mizuno M, Takehara K, Niikura H, Sawasaki T, Nakao S, Saito T, Enomoto T, Nagase S, Suzuki N, Matsumoto T, Kondo E, Sonoda K, Aihara S, Aoki Y, Okamoto A, Takano H, Kobayashi H, Kato H, Terai Y, Takazawa A, Takahashi Y, Namba Y, Aoki D, Fujiwara K, Sugiyama T, Konishi I.

総説

Lymphoepithelioma-like carcinoma of uterine cervix : Preoperative diagnosis and course in three cases.

J Obstet Gynaecol Res. 2021 Nov ; 47 (11) : 4093-4100. doi : 10.1111/jog.14969. Epub 2021 Aug 10. PMID : 34378271 Review.

Ikeda A, Abiko K, Emoto I, Ujita M, Takao Y, Konishi I.

原著論文以外

Noneffect of SARS-CoV-2 spike glycoprotein Y217N mutation on affinity between the virus and ACE2.

J Biol Chem. 2021 Jan-Jun ; 296 : 100725. doi : 10.1016/j.jbc.2021.100725. Epub 2021 May 27. PMID : 34237902 Free PMC article. No abstract available.

Hayashi T, Konishi I.

原著論文

Development of Uterine Leiomyosarcoma During Follow-up After Caesarean Section in a Woman With Uterine Leiomyoma.

Anticancer Res. 2021 Jun ; 41 (6) : 3001-3010. doi : 10.21873/anticancer.15082. PMID : 34083291

Watanabe K, Hayashi T, Katsumata M, Sano K, Abiko K, Konishi I.

原著論文

Combination of gene set signatures correlates with response to nivolumab in platinum-resistant ovarian cancer.

Sci Rep. 2021 Jun 1 ; 11 (1) : 11427. doi : 10.1038/s41598-021-91012-w. PMID : 34075161 Free PMC article. Clinical Trial.

Murakami R, Hamanishi J, Brown JB, Abiko K, Yamanoi K, Taki M, Hosoe Y, Yamaguchi K, Baba T, Matsumura N, Konishi I, Mandai M.

原著論文以外

Significant Decrease in Seasonal Influenza in the COVID-19 Era : Impact of Global Movement Restrictions?

J Clin Med Res. 2021 Mar ; 13 (3) : 191-194. doi : 10.14740/jocmr4450. Epub 2021 Mar 19. PMID : 33854660 Free PMC article. No abstract available.

Hayashi T, Konishi I.

総説

Potential Novel Ovarian Cancer Treatment Targeting Myeloid-Derived Suppressor Cells.

Cancer Invest. 2021 Apr ; 39 (4) : 310-314. doi : 10.1080/07357907.2020.1871487. Epub 2021 Feb 15. PMID : 33428503 Review.

Abiko K, Hayashi T, Yamaguchi K, Mandai M, Konishi I.

原著論文以外

Correlation of anti-tumour drug resistance with epigenetic regulation.

Br J Cancer. 2021 Feb ; 124 (4) : 681-682. doi : 10.1038/s41416-020-01183-y. Epub 2020 Dec 3. PMID : 33268818 Free PMC article.

Hayashi T, Konishi I.

(原著論文)

Preoperative and long-term efficacy and safety of lanreotide autogel in patients with thyrotropin-secreting pituitary adenoma : a multicenter, single-arm, phase 3 study in Japan.

Endocrine Journal, 68 (7) : 791-805, July 28, 2021 (E-pub : March 11, 2021 as doi : 10.1507/endocrj.EJ20-0707). PMID : 33692246

Shimatsu A*, Nakamura A, Takahashi Y, Fujio S, Satoh F, Tahara S, Nishioka H, Takano K, Yamashita M, Arima H, Tominaga A, Tateishi S, Matsushita Y.

(原著論文)

Long-term safety and efficacy of lanreotide autogel in Japanese patients with neuroendocrine tumors : final results of a phase II open-label extension study.

Asia-Pacific Journal of Clinical Oncology, 17 (5) : e153-e161, October 2021 (E-pub : August 05, 2020 as doi : 10.1111/ajco.13371). PMID : 32757459

Ito T*, Fujimori N, Honma Y, Kudo A, Hijioka S, Katsushima S, Kimura Y, Fukutomi A, Hisamatsu S, Nakajima A, Shimatsu A.

(原著論文)

JJNETS clinical practice guidelines for gastroenteropancreatic neuroendocrine neoplasms : diagnosis, treatment, and follow-up : a synopsis.

Journal of Gastroenterology, 56 (11) : 1033-1044, November, 2021 (E-pub : September 29, 2021 as doi : 10.1007/s00535-021-01827-7). PMID : 34586495 2021

Ito T, Masui T, Komoto I, Doi R, Osamura RY, Sakurai A, Ikeda M, Takano K, Igarashi H, Shimatsu A, Nakamura K, Nakamoto Y, Hijioka S, Morita K, Ishikawa Y, Ohike N, Kasajima A, Kushima R, Kojima M, Sasano H, Hirano S, Minuno M, Aoki T, Aoki T, Ohtsuka T, Okamura T, Kimura Y, Kudo A, Konisjhi T, Matsumoto I, Kobayashi N, Fujimoto N, Honma Y, Morizane C, Uchino S, Hriuchi K, Yamasaki M, Matsubayashi J, Sato Y, Sekiguchi M, Abe S, Okusaka T, Kida M, Kimura W, Tanaka M, Majima Y, Jensen RT, Hirata K, Imamura M, Uemoto S.

(原著論文)

Osteocrin Ameliorates Adriamycin Nephropathy via p38 Mitogen-Activated Protein Kinase Inhibition

Laboratory Investigation.Sci Rep, 2021 Nov 8 ; 11 (1) : 21835. doi : 10.1038/s41598-021-01095-8.

Handa T, Mori KP, Ishii A, Ohno S, Kanai Y, Watanabe-Takano H, Yasoda A, Kuwabara T, Takahashi N, Mochizuki N, Mukoyama M, Yanagita M, Yokoi H.

(原著論文)

Parathyroid Carcinoma in a Patient with Secondary Hyperparathyroidism and Thyroid Hemiagenesis : A Case Report and Review of the Literature

Ear, Nose & Throat Journal, 2021 Jul 28 ; 1455613211036240. doi : 10.1177/01455613211036240.

Kada S, Tanaka M, Yasoda A.

(原著論文)

Bezafibrate Induces Hypothyroidism in a Patient with Resistance to Thyroid Hormone β due to a G347R Variant Journal : Clinical Endocrinology

Clin Endocrinol (Oxf)., 2022 Feb ; 96 (2) : 236-245. doi : 10.1111/cen.14591. Epub 2021 Sep 13. PMID : 34519083

Yamauchi I, Yamashita T, Sugawa T, Tagami T, Hanaoka I, Usui T, Hirota K, Hakata T, Ueda Y, Fujii T, Sakane Y, Yasoda A, Inagaki N.

(原著論文)

Osteocrin, a bone-derived humoral factor, exerts a renoprotective role in ischemia-reperfusion injury in mice Original Article - Basic Research

Nephrol Dial Transplant., 2021 Oct 5 ; gfab286. doi : 10.1093/ndt/gfab286. Online ahead of print.

Nishiguchi Y, Hata Y, Date R, Fujimoto D, Umemoto S, Kanki T, Yokoi H, Mori KP, Handa T, Watanabe-Takano H, Kanai Y, Yasoda A, Izumi Y, Kakizoe Y, Mochizuki N, Mukoyama M, Kuwabara T.

(原著論文)

Thyroid hormone economy in mice overexpressing iodothyronine deiodinases

FASEB J., 2022 Feb ; 36 (2) : e22141. doi : 10.1096/fj.202101288RR.

Yamauchi I, Sakane Y, Yamashita T, Hakata T, Sugawa T, Fujita H, Okamoto K, Taura D, Hirota K, Ueda Y, Fujii T, Yasoda A, Inagaki N.

(原著論文)

C-type Natriuretic Peptide-induced PKA Activation Promotes Endochondral Bone Formation in Hypertrophic Chondrocytes

Endocrinology 2022 Mar 1 ; 163 (3) : bqac005. doi : 10.1210/endocr/bqac005.

Keisho Hirota, Tsuyoshi Hirashima, Kazuki Horikawa, Akihiro Yasoda, Michiyuki Matsuda

総説

《治療》肥満とやせの治療とその着目点 1. 食事療法の新たなエビデンス
Medical Practice, 38, 7, 1067-1074, 2021.07.01, 文光堂
浅原 哲子

総説

TREM2
老年内科, 3, 6, 739-748, 2021.06, 科学評論社
浅原 哲子, 田中 将志, 山陰 一, 井上 隆之

総説

肥満症
医学のあゆみ, 278, 5, 347-353, 2021.07.31, 医歯薬出版株式会社
浅原 哲子

原著論文

不十分な遺伝カウンセリングの元で実施された無侵襲的出生前遺伝学的検査にて胎児性別を誤判定された妊婦の遺伝カウンセリング—未発症皮膚筋炎が検査に影響した可能性—
日本遺伝カウンセリング学会誌, 42, 1, 153~157, 2021.05.20
橋本有紀子, 飛驒 美希, 小西 陽介, 浅原 哲子, 三宅 秀彦

総説

筋肉関係 (ミオスタチン)
腎と透析, 91, 4, 541-546, 2021.10.29, 東京医学社
浅原 哲子, 山陰 一, 井上 隆之, 田中 将志

総説

脳-腸-筋連関による認知症・サルコペニア進展機序の解明を目指して
循環器内科, 90, 3, 347-353, 2021.09, 科学評論社
田中 将志, 山陰 一, 浅原 哲子

総説

【図解】分子メカニズムから理解する婦人科がんの薬物療法】卵巢悪性腫瘍 性索間質性腫瘍
産婦人科の実際, 70, 12, 1479~1483, 2021
安彦 郁

原著論文

異所性成分を含む子宮平滑筋肉腫破裂の1例
日本婦人科腫瘍学会雑誌, in press
田中 美柚, 高尾 由美, 鈴木 直宏, 天野 泰彰, 宇治田麻里, 江本 郁子, 安彦 郁

原著論文

再発子宮体癌に対しPembrolizumab投与中にCOVID-19感染による全身症状が遷延した一例
産婦人科の進歩, in press
田村 紗也, 北野 照, 上田 匡, 江本 郁子, 天野 泰彰, 宇治田麻里, 小田垣孝雄, 安彦 郁

原著論文

腹腔鏡下単純子宮全摘出術後に発症した両側卵巢捻転の1例
産婦人科の進歩, 74, 1, 103~108, 2022.02
鈴木 直宏, 安彦 郁, 田村 紗也, 勝又 美柚, 江本 郁子, 天野 泰彰, 宇治田麻里, 高尾 由美

原著論文

腹腔内に迷入したレボノルゲストレル放出子宮内システムを腹腔鏡にて安全摘出しえた1例
産婦人科の進歩, 73, 3, 328~333, 2021.08
天野 泰彰, 安彦 郁, 田村 紗也, 勝又 美柚, 渡部 光一, 江本 郁子, 宇治田麻里, 高尾 由美

一般

薬剤性低カリウム血症
伏見医報, 736, 19 (487), 2021.08, 伏見医師会
中谷理恵子

総説

広範囲の哺乳綱に属する生き物へのSARS-CoV-2の感染拡大の危惧とCOVID-19の治療
未病と抗老化, 30, 36~40, 2021
林 琢磨, 宇良 敬, 安彦 郁, 天野 泰彰, 市村 友季, 佐野 健司, 金井 栄, 油谷 浩幸,
Gur G, Zharhary D, 万代 昌紀, 八重樫伸生, 小西 郁生

(原著論文)

腎盂尿管移行部狭窄症患者に生じた外傷による腎盂破裂の2例
泌尿器科紀要, 67, 4, 141~145, 2021.04.30, 泌尿器科紀要刊行会

高橋 俊文, 荒木 博賢, 伊藤 克弘, 寒野 徹, 宗宮伸弥, 東 義人, 奥野 博, 山田 仁

(総説)

精索静脈瘤

今日の治療指針 私はこう治療している TODAY'S THERAPY 2022, 1251~1252, 2022.01.01, 医学書院

奥野 博

(解説)

大血管損傷時の対応

OGS NOW Basic 8 明日からできる悪性腫瘍の手術 リンパ節郭清 (開腹・腹腔鏡・ロボット), 164~170, 2021, Medical View

安彦 郁

(原著論文)

Short-term Changes in Self-rating Depression Scale Scores after Smoking Cessation in Neurotic Patients.
Internal Medicine, 60, 8, 1175-1181, 2021.04

Komiyama M, Ozaki Y, Miyazaki Y, Yasoda A, Wada H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Morimoto T, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K.

(原著論文)

Association of Protein Tyrosine Phosphatase 1B (PTPN1) Gene Polymorphism with the Effects of Weight Reduction Therapy on Body Weight and Glycolipid Profiles in Obese Patients.

Journal of Diabetes Investigation, 12, 8, 1462-1470, 2021.08

Yamakage H, Konishi Y, Muranaka K, Hotta K, Yoshihiro Y, Morisaki H, Morisaki T, Satoh-Asahara N.

(原著論文)

Protocol for a Randomized, Crossover Trial to Decrease Time in Hypoglycemia by Combined Intervention of the Usage of Intermittent-Scanning Continuous Glucose Monitoring Device and the Structured Education Regarding its Usage : Effect of Intermittent-Scanning Continuous Glucose Monitoring to Glycemic Control Including Hypoglycemia and Quality of Life of Patients with Type 1 Diabetes Mellitus Study (ISCHIA Study).
The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine, 46, 2, 59-68, 2021.07

Suzuki S, Tone A, Murata T, Nishimura K, Miyamoto Y, Sakane N, Satoh-Asahara N, Toyoda M, Hirota Y, Matsuhisa M, Kuroda A, Kato K, Kouyama R, Miura J, Sugauma A, Tomita T, Noguchi M, Son C, Kasahara M, Ito Y, Kasama S, Hosoda K, on behalf of the ISCHIA study group.

(原著論文)

The Multi-Domain Intervention Trial in Older Adults With Diabetes Mellitus for Prevention of Dementia in Japan : Study Protocol for a Multi-Center, Randomized, 18-Month Controlled Trial.

Frontiers in Aging Neuroscience, 13, 680341, 2021.07

Sugimoto T, Araki A, Fujita H, Honda K, Inagaki N, Ishida T, Kato J, Kishi M, Kobayashi K, Kouyama K, Noma H, Ohishi M, Satoh-Asahara N, Shimada H, Sugimoto K, Suzuki S, Takeya Y, Tamura Y, Tokuda H, Umegaki H, Watada H, Yamada Y, Sakurai T.

(原著論文)

Predictive value of the cardio-ankle vascular index for cardiovascular events in patients at cardiovascular risk.

Journal of the American Heart Association, 10, 16, e020103, 2021.08

Miyoshi T, Ito H, Shirai K, Horinaka S, Hgaki J, Yamamura S, Saiki A, Takahashi M, Masaki M, Okura T, Kotani K, Kubozono T, Yoshioka R, Kihara H, Hasegawa K, Satoh-Asahara N, Orimo H, On behalf of the CAVI-J investigators.

(原著論文)

Newly Developed Highly Bioavailable Curcumin Formulation, curcuRouge™, Deduces Neutrophil/Lymphocyte Ratio in the Elderly : A Double-Blind, Placebo-Controlled Clinical Trial.

Journal of Nutritional Science and Vitaminology, 67, 4, 249-252, 2021

Kishimoto A, Imazumi A, Wada H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Hashimoto T, Hasegawa K.

(原著論文)

Effect of theaflavin on oral bacteria in Japanese subjects : A randomized, placebo-controlled, double-blind study.

Journal of Medicinal Food, 24, 11, 1186-1190, 2021.11

Katanasaka Y, Yoshida N, Naitou H, Naruta R, Miyazaki Y, Sunagawa Y, Funamoto M, Shimizu K, Shimizu S, Sari N, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Hasegawa K, Morimoto T.

原著論文

Visceral-to-subcutaneous fat ratio is a possible prognostic factor for type 1 endometrial cancer.
International Journal of Clinical Oncology, 27, 2, 434-440, 2022.02
Wada M, Yamaguchi K, Yamakage H, Inoue T, Kusakabe T, Abiko K, Takakura K, Konishi I, Satoh-Asahara N.

原著論文

Prediction of long-term biochemical cure in patients with unilateral primary hyperaldosteronism treated surgically based on the early post-operative plasma aldosterone value.
Endocrine Journal, Online ahead of print
Ishihara Y, Umakoshi H, Kaneko H, Nanba K, Tsuiki M, Kusakabe T, Satoh-Asahara N, Yasoda A, Tagami T.

原著論文

Phase angle from bioelectrical impedance analysis is a useful indicator of muscle quality.
Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle, 13, 1, 180-189, 2022.02
Akamatsu Y, Kusakabe T, Arai H, Yamamoto Y, Nakao K, Ikeue K, Ishihara Y, Tagami T, Yasoda A, Ishii K, Satoh-Asahara N.

原著論文

Gingival bleeding and pocket depth among smokers and the related changes after short-term smoking cessation.
Acta Odontologica Scandinavica, Online ahead of print
Mittal S, Komiyama M, Ozaki Y, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Yasoda A, Wada H, Funamoto M, Shimizu K, Miyazaki Y, Katanasaka Y, Sunagawa Y, Morimoto T, Takahashi Y, Nakayama T, Hasegawa K.

原著論文

Impact of Chronic Kidney Disease on the Associations of Cardiovascular Biomarkers with Adverse Outcomes in Patients with Suspected or Known Coronary Artery Disease : The EXCEED-J Study.
Journal of the American Heart Association, 11, 3, e023464, 2022.02
Wada H, Shinozaki T, Suzuki M, Sakagami S, Ajiro Y, Funada J, Matsuda M, Shimizu M, Takenaka T, Morita Y, Yonezawa K, Matsubara H, Ono Y, Nakamura T, Fujimoto K, Ninomiya A, Kato T, Unoki T, Takagi D, Wada K, Wada M, Iguchi M, Yamakage H, Kusakabe T, Yasoda A, Shimatsu A, Kotani K, Satoh-Asahara N, Abe M, Akao M, Hasegawa K.

原著論文

Association of daily sleep duration with the incident dementia by serum soluble TREM2 in a community.
Journal of the American Geriatrics Society, Online ahead of print
Ohara T, Hata J, Tanaka M, Honda T, Yamakage H, Inoue T, Hirakawa Y, Kusakabe T, Shibata M, Kitazono T, Nakao T, Satoh-Asahara N, Ninomiya T.

原著論文

Practice guideline for lipodystrophy syndromes. clinically important diseases of the Japan Endocrine Society (JES)
Endocr J, 68, 9, 1027-1042, 2021.09
Tomohiro Tanaka*, Toru Kusakabe*, Ken Ebihara, Megumi Aizawa-Abe, Daisuke Aotani, Tohru Yorifuji, Mari Satoh, Yoshihiro Ogawa and Kazuwa Nakao* (*, equally contribuyed)

原著論文

Impaired leptin responsiveness in the nucleus accumbens of leptin-overexpressing transgenic mice with dysregulated sucrose and lipid preference independent of obesity.
Neurosci Res, Online ahead of print, 2021.12
Nomura H, Son C, Aotani D, Shimizu Y, Katsuura G, Noguchi M, Kusakabe T, Tanaka T, Miyazawa T, Hosoda K, Nakao K.

原著論文

Right-sided Sigmoid Colon Revealed during Laparoscopic Sacrocolpopexy.
J Minim Invasive Gynecol., 28, 7, 1267-1268, 2021
Koichi Watanabe, Kaoru Abiko, Saya Tamura, Miyu Katsumata, Yasuaki Amano, Yumi Takao.

原著論文

A Novel Direct Approach to the Deep Uterine Vein in Laparoscopic Radical Hysterectomy.
J Minim Invasive Gynecol., 28, 8, 1444-1445, 2021
Akihito Horie, Kaoru Abiko, Tsukasa Baba, Masumi Sunada, Sachiko Kitamura, Koji Yamanoi, Naoki Horikawa, Ken Yamaguchi, Junzo Hamanishi, Eiji Kondoh, Masaki Mandai.

(原著論文以外)

Potential Novel Ovarian Cancer Treatment Targeting Myeloid-Derived Suppressor Cells.
Cancer Invest., 39, 4, 310-314, 2021
Kaoru Abiko, Takuma Hayashi, Ken Yamaguchi, Masaki Mandai, Ikuo Konishi.

(原著論文)

Use of surgical checklist during transurethral resection increases detrusor muscle collection rate and improves recurrence-free survival in patients with non-muscle-invasive bladder cancer.
International Journal of Urology, 28, 7, 727-732, 2021.07
Taoka Rikiya, Tsunemori Hiroyuki, Matsuoka Yuki, Kohashiguchi Kana, Miura Takayoshi, Tohi Yoichiro, Miyauchi Yasuyuki, Kato Takuma, Ueda Nobufumi, Sugimoto Mikio

(原著論文以外)

Tumor Immune Microenvironment during Epithelial-Mesenchymal Transition.
Clin Cancer Res., 27, 17, 4669-4679, 2021
Mana Taki, Kaoru Abiko, Masayo Ukita, Ryusuke Murakami, Koji Yamanoi, Ken Yamaguchi, Junzo Hamanishi, Tsukasa Baba, Noriomi Matsumura, Masaki Mandai.

(総説)

Primary Cultures and Cell Lines for In Vitro Modeling of the Human Adrenal Cortex
Tohoku J Exp Med., 253, 4, 213-232, 2021.04
Nanba K, Blinder AR, Rainey WE.

(総説)

GENETICS IN ENDOCRINOLOGY : Impact of race and sex on genetic causes of aldosterone-producing adenomas
Eur J Endocrinol., 185, 1, R1-R11, 2021.05
Nanba K, Rainey WE.

(原著論文)

Combination of gene set signatures correlates with response to nivolumab in platinum-resistant ovarian cancer.
Sci Rep., 11, 1, 11427, 2021
Ryusuke Murakami, Junzo Hamanishi, J B Brown, Kaoru Abiko, Koji Yamanoi, Mana Taki, Yuko Hosoe, Ken Yamaguchi, Tsukasa Baba, Noriomi Matsumura, Ikuo Konishi, Masaki Mandai.

(原著論文)

Development of Uterine Leiomyosarcoma During Follow-up After Cesarean Section in a Woman With Uterine Leiomyoma.
Anticancer Res., 41, 6, 3001-3010, 2021
Koichi Watanabe, Takuma Hayashi, Miyu Katsumata, Kenji Sano, Kaoru Abiko, Ikuo Konishi.

(原著論文)

Intratumoral steroid profiling of adrenal cortisol-producing adenomas by liquid chromatography- mass spectrometry
J Steroid Biochem Mol Biol., 212, 105924, 2021.09
Teuber JP, Nanba K, Turcu AF, Chen X, Zhao L, Else T, Auchus RJ, Rainey WE, Rege J.

(症例報告)

Acute rhabdomyolysis in a young woman with moderate COVID-19
IDCases., 25, e01212, 2021.06
Fujita K, Kanai O, Nanba K, Esaka N, Hata H, Seta K, Odagaki T.

(総説)

Approaches to Gene Mutation Analysis Using Formalin-Fixed Paraffin-Embedded Adrenal Tumor Tissue From Patients With Primary Aldosteronism
Front Endocrinol., 12, 683588, 2021.06
Nanba K, Rainey WE, Udager AM.

(原著論文)

Lymphoepithelioma-like carcinoma of uterine cervix : Preoperative diagnosis and course in three cases.
J Obstet Gynaecol Res., 47, 11, 4093-4100, 2021
Asami Ikeda, Kaoru Abiko, Ikuko Emoto, Mari Ujita, Yumi Takao, Ikuo Konishi.

原著論文

PDK2 leads to cisplatin resistance through suppression of mitochondrial function in ovarian clear cell carcinoma.

Cancer Sci., 112, 11, 4627-4640, 2021

Sachiko Kitamura, Ken Yamaguchi, Ryusuke Murakami, Yoko Furutake, Koichiro Higasa, Kaoru Abiko, Junzo Hamanishi, Tsukasa Baba, Noriomi Matsumura, Masaki Mandai.

原著論文

Clinical Impact of Detecting Low-Frequency Variants in Cell-Free DNA on Treatment of Castration-Resistant Prostate Cancer

Clinical cancer research, 27, 22, 6164-6173, 2021.11

Kei Mizuno, Takayuki Sumiyoshi, Takatsugu Okegawa, Naoki Terada, Satoshi Ishitoya, Yu Miyazaki, Takahiro Kojima, Hiromichi Katayama, Naohiro Fujimoto, Shingo Hatakeyama, Masaki Shiota, Koji Yoshimura, Yoshiyuki Matsui, Shintaro Narita, Hiroaki Matsumoto, Ryoma Kurahashi, Hidenori Kanno, Katsuhiko Ito, Hiroko Kimura, Yuki Kamiyama, Takuro Sunada, Takayuki Goto, Takashi Kobayashi, Hitoshi Yamada, Norihiko Tsuchiya, Tomomi Kamba, Hideyasu Matsuyama, Tomonori Habuchi, Masatoshi Eto, Chikara Ohyama, Akihiro Ito, Hiroyuki Nishiyama, Hiroshi Okuno, Toshiyuki Kamoto, Akihiro Fujimoto, Osamu Ogawa, Shusuke Akamatsu

原著論文

Targeted Mutational Analysis of Cortisol-Producing Adenomas.

J Clin Endocrinol Metab., 107, 2, e594-e603, 2022.02

Rege J, Hoxie J, Liu CJ, Cash MN, Luther JM, Gellert L, Turcu AF, Else T, Giordano TJ, Udager AM, Rainey WE, Nanba K.

原著論文

Oncological Properties of Intravenous Leiomyomatosis : Involvement of Mesenchymal Tumor Stem-Like Cells.

Curr Issues Mol Biol., 43, 2, 1188-1202, 2021

Saya Tamura, Takuma Hayashi, Hideki Tokunaga, Nobuo Yaegashi, Kaoru Abiko, Ikuo Konishi.

原著論文

Mesonephric-like adenocarcinoma of the ovary in an elderly woman : A case report and a review of the literature.

Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 47, 12, 4490-4495, 2021

Mari Ujita, Kaoru Abiko, Ryo Kuwahara, Ikuko Emoto, Yasuaki Amano, Ikuo Konishi.

原著論文

Safety of Remdesivir for Patients 80 Years of Age or Older with Coronavirus Disease 2019 (COVID-19)

Drugs Aging., 38, 12, 1067-1074, 2021.12

Kanai O, Fujita K, Nanba K, Esaka N, Hata H, Seta K, Yasoda A, Odagaki T, Mio T.

原著論文以外

A case of pyelocalyceal diverticulum urothelial carcinoma that was difficult to distinguish from cystic renal cell carcinoma preoperatively

International Journal of Urology Case Report, 4, 6, 407-410, 2021.11

Iori Matsuda, Yasuyuki Miyauchi, Takayoshi Miura, Takuma Kato, Hiroyuki Tsunemori, Nachino Kimura, Yumi Miyai, Reiji Haba, Mikio Sugimoto

原著論文

Practice guideline for lipodystrophy syndromes. clinically important diseases of the Japan Endocrine Society (JES)

Endocr J, 68, 9, 1027-1042, 2021.09

Tomohiro Tanaka*, Toru Kusakabe*, Ken Ebihara, Megumi Aizawa-Abe, Daisuke Aotani, Tohru Yorifuji, Mari Satoh, Yoshihiro Ogawa and Kazuwa Nakao* (*, equally contribuyed)

原著論文

Prediction of long-term biochemical cure in patients with unilateral primary hyperaldosteronism treated surgically based on the early post-operative plasma aldosterone value.

Endocr J, 2021.11

Ishihara Y, Umakoshi H, Kaneko H, Nanba K, Tsuiki M, Kusakabe T, Satoh-Asahara N, Yasoda A, Tagami T.

原著論文

Visceral-to-subcutaneous fat ratio is a possible prognostic factor for type 1 endometrial cancer.

Int J Clin Oncol, 27, 2, 434-440, 2022.02

Wada M, Yamaguchi K, Yamakage H, Inoue T, Kusakabe T, Abiko K, Takakura K, Konishi I, Satoh-Asahara N

〔原著論文〕

Association of daily sleep duration with the incident dementia by serum soluble TREM2 in a community.
J Am Geriatr Soc, 2021.12

Ohara T, Hata J, Tanaka M, Honda T, Yamakage H, Inoue T, Hirakawa Y, Kusakabe T, Shibata M, Kitazono T, Nakao T, Satoh-Asahara N, Ninomiya T.

〔原著論文〕

Phase angle from bioelectrical impedance analysis is a useful indicator of muscle quality.

J Cachexia Sarcopenia Muscle, 13, 1, 180-189, 2021.11

Akamatsu Y, Kusakabe T, Arai H, Yamamoto Y, Nakao K, Ikeue K, Ishihara Y, Tagami T, Yasoda A, Ishii K, Satoh-Asahara N.

〔原著論文〕

Impaired leptin responsiveness in the nucleus accumbens of leptin-overexpressing transgenic mice with dysregulated sucrose and lipid preference independent of obesity.

Neurosci Res, 2021.12

Nomura H, Son C, Aotani D, Shimizu Y, Katsuura G, Noguchi M, Kusakabe T, Tanaka T, Miyazawa T, Hosoda K, Nakao K.

〔原著論文〕

Impact of Chronic Kidney Disease on the Associations of Cardiovascular Biomarkers With Adverse Outcomes in Patients With Suspected or Known Coronary Artery Disease : The EXCEED-J Study

J Am Heart Assoc, 11, 3, e023464, 2022.02

Wada H, Shinozaki T, Suzuki M, Sakagami S, Ajiro Y, Funada J, Matsuda M, Shimizu M, Takenaka T, Morita Y, Yonezawa K, Matsubara H, Ono Y, Nakamura T, Fujimoto K, Ninomiya A, Kato T, Unoki T, Takagi D, Wada K, Wada M, Iguchi M, Yamakage H, Kusakabe T, Yasoda A, Shimatsu A, Kotani K, Satoh-Asahara N, Abe M, Akao M, Hasegawa K; EXCEED - J Study Investigators.

〔解説〕

『メディカ出版編集局 合同企画ページ Campanio カンパニオ!』きもちとつきあうアロマケア・アロマセラピーって? 精油の選び方は?

〔整形外科看護〕他21誌, 27, 2, 118, 2022.02.01, メディカ出版

畑 亜紀子

〔原著論文〕

Soluble vascular endothelial growth factor receptor 2 and prognosis in patients with chronic heart failure.
ESC Heart Fail., 8, 5, 4187-4198, 2021.10

井口 守丈, 和田 啓道, 阿部 充, 赤尾 昌治, 長谷川浩二

〔原著論文〕

Predictive Value of the Cardio-Ankle Vascular Index for Cardiovascular Events in Patients at Cardiovascular Risk.

J Am Heart Assoc, 10, 16, e020103, 2021.08

Miyoshi T, Ito H, Shirai K, Horinaka S, Higaki J, Yamamura S, Saiki A, Takahashi M, Masaki M, Okura T, Kotani K, Kubozono T, Yoshioka R, Kihara H, Hasegawa K, Satoh-Asahara N, Orimo H; CAVI - J (Prospective Multicenter Study to Evaluate Usefulness of Cardio - Ankle Vascular Index in Japan) investigators

〔原著論文〕

E-Cigarettes : A New Threat to Cardiovascular Health - A World Heart Federation Policy Brief

Glob Heart, 16, 1, 72, 2021.10

Bianco E, Skipalskyi A, Goma F, Odeh H, Hasegawa K, Zawawi MA, Stoklosa M, Dalmau R, Dorotheo EU, Berteletti F, Mwangi J, Wang Y

〔原著論文以外〕

Direct Oral Anticoagulants in Asian Patients with Atrial Fibrillation : Consensus Recommendations by the Asian Pacific Society of Cardiology on Strategies for Thrombotic and Bleeding Risk Management

Eur Cardiol, 16, e23, 2021.05

Chong DT, Andreotti F, Verhamme P, Dalal J, Uaprasert N, Wang CC, On YK, Li YH, Jiang J, Hasegawa K, Almuti K, Bai R, Lo ST, Krittayaphong R, Lee LH, Quek DK, Johar S, Seow SC, Hammett CJ, Tan JW

〔原著論文〕

Short-term Changes in Self-rating Depression Scale Scores after Smoking Cessation in Neurotic Patients.

Intren Med., 60, 8, 1175-1181, 2021.04

Komiyama M, Ozaki Y, Miyazaki Y, Yasoda A, Wada H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Morimoto T, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K.

原著論文

Neutrophil/lymphocyte ratio is correlated with levels of inflammatory markers and is significantly reduced by smoking cessation

J Int Med Res, 49, 6, 2021.06

Komiyama M, Ozaki Y, Miyazaki Y, Katanasaka Y, Sunagawa Y, Funamoto M, Shimizu K, Yamakage H, Sato-Asahara N, Yasoda A, Wada H, Morimoto T, Hasegawa K

原著論文以外

Coronavirus Disease 2019 : Psychological Stress and Cardiovascular Diseases

Eur Cardiol, 16, e33, 2021.09

Komiyama M, Hasegawa K

原著論文以外

European Society of Cardiology Highlights : Late-breaking Trials—COVID-19

Eur Cardiol, 17, e04, 2022.02

Komiyama M, Hasegawa K

原著論文

Gingival bleeding and Pocket depth among smokers and the related changes after short-term smoking cessation

Public health, 1, 6, 2021.12

Swati Mittal, Maki Komiyama, Yuka Ozaki, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Akihiro Yasoda, Hiromichi Wada, Masafumi Funamoto, Shimizu Kana, Yusuke Miyazak, Yasufumi Katanasaka, Yoichi Sunagawa, Tatsuya Morimoto, Yuko Takahashi, Takeo Nakayama, Koji Hasegawa

原著論文

Knowledge and self-efficacy among healthcare providers towards novel tobacco products in Japan

Public health, 24, 101649, 2021.12

Swati Mittal, Tomoe Uchida, Yoshitaka Nishikawa, Hiroshi Okada, Robert A.Schnoll, Yoshimitsu Takahashi, Takeo Nakayama, Yuko Takahashi

原著論文以外

Diagnosis and treatment of HCV heart diseases

Expert Rev Cardiovasc Ther, 19, 6, 433-439, 2021.06

Haykal M, Matsumori A, Saleh A, Fayez M, Negm H, Shalaby M, Bassuony S.

原著論文以外

New Biomarkers for the Prevention and Treatment of Diabetes.

J Bioequiv Availab., 13, 438, 2021

Matsumori A.

原著論文以外

Novel Biomarkers for Diagnosis and Management of Myocarditis and Heart Failure : Immunoglobulin Free Light Chains.

21st Century Cardiol, 2022, 2, 1, 114, 2022.02

Matsumori A.

原著論文以外

Viral Myocarditis from Animal Models to Human Diseases

Advances in Medicine and Biologpy, 194, 40-74, 2022.02

Matsumori A.

原著論文

Newly developed highly bioavailable curcumin formulation, curcuRouge™, reduces neutrophil/lymphocyte ratio in the elderly : A double-blind, placebo-controlled clinical trial

Journal of Nutritional Science and Vitaminology, 67, 4, 249-252, 2021.08

Kishimoto A, Imaizumi A, Wada H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Hashimoto T, Hasegawa K.

原著論文

Curcumin, an Inhibitor of p300-HAT Activity, Prevents the Development of Hypertension-Induced Left Ventricular Hypertrophy with Preserved Ejection Fraction in Dahl Rats.

Nutrients, 13, 8, 2608, 2021.07

Sunagawa Y, Funamoto M, Shimizu K, Shimizu S, Sari N, Katanasaka Y, Miyazaki Y, Kakeya H, Hasegawa K, Morimoto T

原著論文

Metformin suppresses phenylephrine-induced hypertrophic responses by inhibiting p300-HAT activity in cardiomyocytes.

J Pharmacol Sci, 147, 2, 169-175, 2021.07

Sunagawa Y, Shimizu K, Katayama A, Funamoto M, Shimizu K, Nurmila S, Shimizu S, Miyazaki Y, Katanasaka Y, Hasegawa K, Morimoto T

原著論文

A novel amorphous preparation improved curcumin bioavailability in healthy volunteers : a single-dose, double-blind, two-way crossover study.

J Funct Foods, 81, 104443, 2021.04

Sunagawa Y, Miyazaki Y, Funamoto M, Shimizu K, Shimizu S, Sari N, Katanasaka Y, Ito M, Ogawa T, Ozawa-Umeta H, Hasegawa K, Morimoto T

原著論文

The Selective Serotonin 2A Receptor Antagonist Sarpogrelate Prevents Cardiac Hypertrophy and Systolic Dysfunction via Inhibition of the ERK1/2-GATA4 Signaling Pathway.

Pharmaceuticals, 14, 12, 1268, 2021.12

Shimizu K, Sunagawa Y, Funamoto M, Honda H, Katanasaka Y, Murai N, Kawase Y, Hirako Y, Katagiri T, Yabe H, Shimizu S, Sari N, Wada H, Hasegawa K, Morimoto T

原著論文

Zerumbone prevents pressure overload-induced left ventricular systolic dysfunction by inhibiting cardiac hypertrophy and fibrosis.

Phytomedicine, 92, 153744, 2021.09

Sari N, Katanasaka Y, Sugiyama Y, Sunagawa Y, Miyazaki Y, Funamoto M, Shimizu S, Shimizu K, Murakami A, Mori K, Wada H, Hasegawa K, Morimoto T

原著論文

Clinically Administered Doses of Pitavastatin and Rosuvastatin.

Int Heart J, 62, 6, 1379-1386, 2021.11

Katanasaka Y, Hirano S, Sunagawa Y, Miyazaki Y, Sato H, Funamoto M, Shimizu K, Shimizu S, Sari N, Hasegawa K, Morimoto T

原著論文

Effect of Theaflavin on Oral Bacteria in Japanese Subjects : A Randomized, Placebo-Controlled, Double-Blind Study.

J Med Food, 24, 11, 1186-1190, 2021.11

Katanasaka Y, Yoshida N, Naitou H, Naruta R, Miyazaki Y, Sunagawa Y, Funamoto M, Shimizu K, Shimizu S, Sari N, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Hasegawa K, Morimoto T

原著論文

Alpha Mangostin Derived from Garcinia magostana Linn Ameliorates Cardiomyocyte Hypertrophy and Fibroblast Phenotypes in Vitro.

Biol Pharm Bull, 44, 10, 1465-1472, 2021.10

Sari N, Katanasaka Y, Sugiyama Y, Miyazaki Y, Sunagawa Y, Funamoto M, Shimizu K, Shimizu S, Hasegawa K, Morimoto T

原著論文

The curcumin analog GO-Y030 controls the generation and stability of regulatory T cells.

Front Immunol in Immunology, 12, 687669, 2021.07

Maruyama T, Kobayashi S, Nakatsukasa H, Moritoki Y, Taguchi D, Sunagawa Y, Morimoto T, Asao A, Jin Wenwen, Owada Y, Ishii N, Iwabuchi Y, Yoshimura A, Chen W, Shibata H

原著論文

The Cancer Therapy-Related Clonal Hematopoiesis Driver Gene Ppm1d Promotes Inflammation and Non-Ischemic Heart Failure in Mice.

Circ Res, 129, 6, 684-698, 2021.09

Yura Y, Miura-Yura E, Katanasaka Y, Min KD, Chavkin N, Polizio AH, Ogawa H, Horitani K, Doviak H, Evans MA, Sano M, Wang Y, Boroviak K, Philippos G, Domingues AF, Vassiliou G, Sano S, Walsh K.

原著論文

Ecklonia stolonifera Okamura Extract Suppresses Myocardial Infarction-Induced Left Ventricular Systolic Dysfunction by Inhibiting p300-HAT Activity

Nutrients, 14, 3, 580, 2022.01

Katagiri T, Sunagawa Y, Maekawa T, Funamoto M, Shimizu S, Shimizu K, Katanasaka Y, Komiyama M, Philip Hawke, Hara H, Mori K, Hasegawa K, Morimoto T

〔原著論文〕

Chrysanthemum morifolium Extract Ameliorates Doxorubicin-Induced Cardiotoxicity by Decreasing Apoptosis

Cancers, 14, 3, 683, 2022.01

Ono M, Sunagawa Y, Mochizuki S, Katagiri T, Takai H, Iwashimizu S, Inai K, Funamoto M, Shimizu K, Shimizu S, Katanasaka Y, Komiyama M, Philip Hawke, Hara H, Arakawa Y, Mori K, Akira A, Hasegawa K, Morimoto T

〔原著論文〕

Multimerization of the GATA4 transcription factor regulates transcriptional activity and cardiomyocyte hypertrophic response

INTERNATIONAL JOURNAL OF BIOLOGICAL SCIENCES, 18, 3, 1079-1095, 2022.01

Shimizu S, Sunagawa Y, Hajika N, Yorimitsu N, Katanasaka Y, Funamoto M, Miyazaki Y, Sari N, Shimizu K, Hasegawa K, Morimoto T

〔原著論文以外〕

A Novel Curcumin Formulation, ASD-Cur, Suppressed the Development of Systolic Dysfunction After Myocardial Infarction in Rats.

Eur Cardiol, 16, e69, 2021.12

Takai H, Sunagawa Y, Funamoto M, Shimizu K, Shimizu S, Katanasaka Y, Miyazaki Y, Imaizumi A, Hashimoto T, Wada H, Hasegawa K, Morimoto T

〔原著論文〕

Impact of Chronic Kidney Disease on the Associations of Cardiovascular Biomarkers With Adverse Outcomes in Patients With Suspected or Known Coronary Artery Disease : The EXCEED-J Study

J Am Heart Assoc, 11, 3, e023464, 2022.02

Wada H, Shinozaki T, Suzuki M, Sakagami S, Ajiro Y, Funada J, Matsuda M, Shimizu M, Takenaka T, Morita Y, Yonezawa K, Matsubara H, Ono Y, Nakamura T, Fujimoto K, Ninomiya A, Kato T, Unoki T, Takagi D, Wada K, Wada M, Iguchi M, Yamakage H, Kusakabe T, Yasoda A, Shimatsu A, Kotani K, Satoh-Asahara N, Abe M, Akao M, Hasegawa K; EXCEED-J Study Investigators

〔原著論文〕

子宮間葉性腫瘍に対するリキッドバイオプシーを用いた治療戦略。

研究者の最新動向 65 Precision Medicine, 4, 12, 65~67, No.12, 2021, 北隆館

林 琢磨、小西 郁生

〔原著論文〕

広範囲の哺乳綱に属する生き物への SARS-CoV-2 の感染拡大の危険と COVID-19 の治療

未病と抗老化, 30, 36~40, Nov 2021., 一般財団法人博慈会

林 琢磨、小西 郁生

〔原著論文〕

COVID-19 時代、新たな癌治療法の有り方

未病と抗老化, 30, 25~27, Nov 2021., 一般財団法人博慈会

林 琢磨、宇良 敬、小西 郁生

〔総説〕

抗腫瘍剤耐性とエピジェネティックな制御の相関

未病と抗老化, 30, 111, Nov 2021., 一般財団法人博慈会

林 琢磨

〔原著論文〕

Potential Novel Ovarian Cancer Treatment Targeting Myeloid-Derived Suppressor Cells.

Cancer Invest., 39, 4, 310~314, 2021.02

Abiko K, Hayashi T, Yamaguchi K, Mandai M, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : Expectations and anxieties about the COVID-19 vaccine in Japan.

Science., 371, 6524, e1, 2021.01

Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : Japanese government's response to British SARS-CoV-2 mutant.

Science., 371, 6524, e1, 2021.01

Hayashi T, Konishi I.

(原著論文以外)

Letter : In COVID-19 era, impact of restricted movement of people on the seasonal influenza pandemic Science., 371, 6530, e1-e2, 2021.01
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文)

Effect of RBD Mutation (Y453F) in Spike Glycoprotein of SARS-CoV-2 on Neutralizing Antibody Affinity. Diagnostic Pathology, 6, 1, e1-e4, 2021.01
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

(原著論文以外)

Letter : Effect of RBD (Y453F) in spike glycoprotein of SARS-CoV-2 variant on COVID-19 vaccine. Science., 371, 6531, 2021.01
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文)

Prospects and Problems of Development of Candidate Vaccine against COVID-19. International Journal of Trend in Scientific Research and Development (IJTSRD) ., 5, 2, 604-606, 2021
Hayashi T, Amano Y, Ura T, Konishi I.

(原著論文)

Effect of RBD (Y453F) mutation in spike glycoprotein of SARS-CoV-2 on neutralizing IgG affinity. medRxiv Cold Spring Harbor. e1-e11, 2021.02
Hayashi T, Nobuo Yaegashi, Ikuo Konishi.

(原著論文以外)

Letter : Spread of SARS-CoV-2 variants that escape the immune system in Japan Science., 371, 6530, e1, 2021.02
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文以外)

Letter : Search of SARS-CoV-2 Mpro inhibitors according to "Supercomputer Fugaku" in Japan Science., 371, 6536, e1, 2021.02
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文)

Diagnostic biomarker candidates including NT5DC2 for human uterine mesenchymal tumors. International Journal of Trend in Scientific Research and Development (IJTSRD) , 5, 3, 60-64, 2021.03
Hayashi T, Sano K, Ichimura T, Tonegawa S, Yaegashi N, Konishi I.

(原著論文)

Significant decrease in seasonal influenza virus in the COVID-19 era-Impact of global movement restrictions? Journal of Clinical Medicine Research (JOCMR) , 13, 3, 191~194, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文以外)

Letter : In Japan, expectance as novel anti-SARS-CoV-2 agent for 5-ALA, an amino acid synthesized in mitochondria. Science, 371, 6532, e1-e2, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文以外)

Letter : Importance of tumor neoantigens in the antitumor effect by immune checkpoint inhibitors. Science., 371, 6533, e1, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文以外)

Letter : In Japan, problems with the development of anaphylactic shock after COVID-19 vaccination. Science., 372, 6540, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文)

Development of uterine leiomyosarcoma during the follow up after caesarean section in a woman with uterine leiomyoma. Wufenia journal., 28, 3, 86-99, 2021.03
Watanabe K, Hayashi T, Katsumata M, Sano K, Abiko K, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Non-effect of SARS-CoV-2 spike glycoprotein Y217N mutation on affinity between virus and ACE2
Journal of Biological Chemistry., 296, 100725, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : Policy on Issuance of Passport for COVID-19 Vaccine by Japanese Government
Science., 371, 6535, e1, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Prevalence of anti-SARS-CoV-2 antibody in COVID-19 patients in Japan.
International Journal of Trend in Scientific Research and Development (IJTSRD) ., 5, 3, 375-376, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Effect of RBD mutations in spike glycoprotein of SARS-CoV-2 on neutralizing IgG affinity.
Research Square, e-1-e17, 2021.03
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

〔原著論文〕

Effect of RBD mutations in spike glycoprotein of SARS-CoV-2 on neutralizing IgG affinity.
Wufenia journal., 28, 4, 106-120, 2021.04
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Editorial. New coronavirus disease (COVID-19)
Trends in Immunology and Immunotherapy-TII., 2021.05
Hayashi T, Mandai M, Yaegashi N, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : In Tokyo, the situation of the spread of SARS-CoV-2 variants.
Science., 372, 6538, 2021.04
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Development of uterine leiomyosarcoma during the follow up after caesarean section in a woman with uterine leiomyoma.
Anticancer Research., 41, 6, 3001~3010, 2021.05
Watanabe K, Hayashi T, Katsumata M, Sano K, Abiko K, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : Importance of immune activity targeting epitopes in regions other than RBD.
Science., 372, 6546, e1, 2021.05
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Effect of RBD mutations in spike glycoprotein of SARS-CoV-2 on neutralizing IgG affinity.
medRxiv Cold Spring Harbor, doi.org/10.1101/2021.01.28.21250577, e-1-e16, 2021.04
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : In Brazil, importance of COVID-19 vaccination dissemination.
Science., 372, 6546, e1-e2, 2021.05
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Possibility of SARS-CoV-2 infection in metastatic microenvironment of cancer.
medRxiv Cold Spring Harbor, doi : <https://doi.org/10.1101/2021.05.24.21257662>, e1-e9, 2021.05
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Possibility of SARS-CoV-2 infection in metastatic microenvironment of cancer.
Curr. Issues Mol. Biol., 2, 17, 233-241, 2022.01
Hayashi T, Sano K, Yaegashi N, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : In Japan, increasing number of students infected with SARS-CoV-2 variants.
Science., 372, 6546, 2021.06
Hayashi T, Konishi I.

原著論文

Confirmation of safety of COVID-19 mRNA vaccination for cancer patients.
International Journal of Trend in Scientific Research and Development (IJTSRD) ., 5, 4, 1228-1230, 2021.05
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

原著論文以外

Letter : Gender differences in the frequency of side effects after COVID-19 vaccination in Japan.
Science., 373, 6551, 2021.07
Hayashi T, Konishi I.

原著論文以外

Potential biomarkers associated with malignancy in uterine mesenchymal tumors.
European Journal of Gynaecological Oncology., 42, 5, 824-828, 2021.07
Hayashi T, Yaegashi N, Tonegawa S, Konishi I.

原著論文以外

Letter : Importance of anti-SARS-CoV-2 IgA production by COVID-19 vaccination.
Science., 373, 6553, e1, 2021.07
Hayashi T, Konishi I.

原著論文以外

Letter. Importance of treatment selection according to SARS-CoV-2 variants.
Science., 373, 6555, e1-e2, 2021.08
Hayashi T, Konishi I.

原著論文以外

Letter. Identification of host animals susceptible to coronavirus in Japan.
Science., 373, 6558, e1, 2021.08
Hayashi T, Konishi I.

原著論文以外

Letter. Importance of epigenetics-related drug development for advanced/recurrent ovarian cancer
Science., 373, 6557, 2021.08
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

原著論文

Oncological Properties of Intravenous Leiomyomatosis : Involvement of Mesenchymal Tumor Stem-Like Cells.
Curr Issues Mol Biol, 43, 2, 1188~1202, 2021.09
Tamura S, Hayashi T, Tokunaga H, Yaegashi N, Abiko K, Konishi I.

原著論文以外

Letter : Inevitability of medical progress for the development of tumor therapy.
Science., 374, 6563, 2021.08
Hayashi T, Konishi I.

原著論文以外

Letter. In Japan, detection of alpha and delta hybrid type SARS-CoV-2 variants.
Science., 374, 6570, 2021.08
Hayashi T, Konishi I.

原著論文

Diagnosis of uterine leiomyosarcoma and leiomyoma after pregnancy with uterine leiomyoma.
Clinical Pathology & Research Journal., 5, 1, e1-e6, 2021.12
Hayashi T, Sano K, Konishi I.

原著論文以外

Letter. Expectations for cancer genomic medicine for biliary tract cancer in Japan.
Science, 374, 6573, e1, 2021.12
Hayashi T, Konishi I.

原著論文以外

Cancer therapy with decreased SARS-CoV-2 infection rates in cancer patients.
Br J Cancer., 126, 4, 521-522, 2022.03
Hayashi T, Konishi I.

原著論文以外

Potential biomarkers associated with the nature of uterine benign mesenchymal tumors.
J Clin Med Res., 2022, Accepted on March 08, 2022.
Tamura S, Hayashi T, Abiko K, Konishi I

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

Ⓒ原著論文以外

Oncological Properties of Intravenous Leiomyomatosis.

Prime Archives in Molecular Biology 2nd Edition Editor : Dr. Sahar Esfandyari [書籍], 2022, Accepted on March 07, 2022.

Tamura S, Hayashi T, Tokunaga H, Yaegashi N, Abiko K, Konishi I.

遺 伝 診 療 部



専門医資格等
 日本内分泌学会
 内分泌代謝科
 専門医・指導医
 日本内科学会
 総合内科専門医
 京都大学医学博士
 京都大学医学部非常勤講師

専門分野
 内科・内分泌代謝（骨代謝）

診療部長
八十田 明宏

| スタッフ |

	氏 名	専門医資格等
顧 問	三宅 秀彦	臨床遺伝専門医・指導医、お茶の水女子大学 教授
室 長	浅原 哲子	臨床遺伝専門医・指導医、内分泌代謝高血圧研究部 部長
スタッフ	日下部 徹	臨床遺伝専門医、内分泌代謝高血圧研究部 室長
スタッフ	橋本有紀子	臨床遺伝専門医、小児科 医師
スタッフ	小西 陽介	認定遺伝カウンセラー、臨床研究センター
スタッフ	北 誠	臨床遺伝専門医、小児科 医師
スタッフ	安彦 郁	産科婦人科 診療科長
スタッフ	江本 郁子	臨床遺伝専門医 産科婦人科 病棟医長
スタッフ	難波 多挙	内分泌代謝内科 医師
スタッフ	林 琢磨	がん医療研究室 室長
スタッフ	上田 匡	産婦人科 医師

| 令和3年度の主な取組 |

主に遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）診療の他科との連携強化を行いました。卵巣癌未発症者に対しての遺伝学的検査を行い、予防的卵巣卵管切除（RRSO）の入り口としての役割を果たせました。

診療実績

遺伝診療部外来患者数

	2020年度	2021年度
年間総患者数 (名)	118	138
年間初診患者数 (名)	75	111

主な疾患の件数 (2021年度)

腫瘍	113件	成人一般	12件
神経筋疾患	7件	周産期	1件
小児	5件		

学術活動報告 (学会・研究発表など)

発表年月日	発表学会
演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	
2021.04.22-24	第94回日本内分泌学会年次学術集会
「肥満患者における副腎偶発腫の頻度と特徴に関する検討」 難波 多孝、奥野 芳樹、山陰 一、村中 和哉、日下部 徹、立木 美香、広川 侑奨、八十田明宏、田上 哲也、浅原 哲子	
2021.04.22-24	第94回日本内分泌学会学術総会 サテライトシンポジウム第2回「脂肪萎縮症候群研究会」
「肥満患者における副腎候群の自験例—家族性部分性脂肪萎縮症1型の診断について—」 日下部 徹	
2021.04.22-25	第73回日本産科婦人科学会学術講演会
「クリニカルシーケンスの医療：婦人科腫瘍におけるがんゲノム医療の新たな展開。」 林 琢磨、佐野 健司、市村 友季、Dorit Zharhary、利根川 進、油田 浩幸、金井 弥栄、八重樫伸生、小西 郁生	
2021.04.24	第94回日本内分泌学会学術集会
「COVID-19流行期における糖尿病患者血糖コントロールに関する実態調査—電子カルテデータベース研究—」 浅原 哲子	
2021.05.08	内閣府/日本学術会議主催の学術フォーラム
「新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown #1」 「新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム」 林 琢磨	
2021.05.20	第64回日本糖尿病学会年次学術集会
「会長企画—研究者のサークルを作る—3 女性、連携、新しい糖尿病学を切り開く 多施設共同コホートを基盤とした糖尿病・肥満症における脳心腎連関と治療ストラテジーの探究」 浅原 哲子	
2021.05.22	第64回日本糖尿病学会年次学術集会
「ディベート2 高度肥満症例 内科的治療 vs 外科的治療 (公募企画4) コメントーター：内科学的治療の立場から」 浅原 哲子	
2021.05.29-31	Int'l Conference on Stem Cell Research and Therapy (SCRT 2021)
「Molecular Pathology of uterine mesenchymal tumors.」 Hayashi T, Ichimura T, Mandai M, Tonegawa S, Yaegasgi N, Konishi I, 招待講演 Keynote Speaker. (基調講演)	
2021.06.03	肥満症・糖尿病研究会
「肥満症・糖尿病における脳心腎合併症予防のための新規予知指標と治療戦略」 浅原 哲子	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.06.11-12 [Molecular Pathology of uterine mesenchymal tumors.] Hayashi T, Ichimura T, Mandai M, Tonegawa S, Yaegasgi N, <u>Konishi I</u> , 招待講演 Keynote Speaker. (基調講演)	International Conference on Cancer Science : Research & Development (ICSR 2021).
2021.06.24 [小児・ヤングの内分泌診療] 岩永甲午郎、 <u>橋本有紀子</u> 、山内 一郎	京都内分泌WEBカンファレンス
2021.06.25 [糖尿病・肥満症における認知症関連バイオマーカー：TREM2の臨床的意義] <u>浅原 哲子</u>	第21回日本抗加齢医学会総会
2021.07.02-18 [当院のBRACAnalysisにおける認定遺伝カウンセラーの関わり方について デジタルポスター] 小西 陽介、鈴木 直宏、江本 郁子、安彦 郁、北 誠、 <u>橋本有紀子</u> 、難波 多学、林 琢磨、 <u>日下部 徹</u> 、 <u>浅原 哲子</u> 、八十田明宏	第45回日本遺伝カウンセリング学会学術集会
2021.07.03 [生き生き人生笑顔サポート～骨粗鬆症・サルコペニアへの対策] <u>日下部 徹</u>	高齢者トータルケア WEB講演会～寝たきり防止を見据えて健康寿命延伸～
2021.07.10 [8年間以上無治療であった萎縮性甲状腺炎の14歳女児例] <u>橋本有紀子</u> 、 <u>浅井 康一</u> 、北村 拓也、中谷理恵子、石原 裕己、難波 多学、立木美香、田上 哲也	第20回京滋臨床甲状腺懇話会
2021.07.16 [プラチナ製剤抵抗性再発・進行性卵巣がんに対する早期診断と治療法の検討.] 林 琢磨、安彦 郁、山口 建、山田 亮、松村 謙臣、万代 昌紀、 <u>小西 郁生</u>	第63回日本婦人科腫瘍学会
2021.07.17 [レシピ本による肥満症治療] <u>浅原 哲子</u>	第28回西日本肥満研究会 第8回肥満症治療講習会
2021.09.16-17 [Significant Decrease in Seasonal Influenza in the COVID-19 Era: Impact of Global Movement Restrictions?] Hayashi T, Mandai M, Yaegasgi Y, <u>Konishi I</u> . 依頼講演	5 th International Conference on Virology and Infectious Diseases
2021.10.16 [Study of early diagnosis and treatment for platinum-resistant recurrent/advanced ovarian cancer.] <u>Hayashi T</u> .	日本人類遺伝学会第66回大会 第28回日本遺伝子診療学会大会
2021.10.18-19 [Zoonotic disease:A highly conserved binding region of ACE2 as receptor for SARS-CoV-2 between human and mammals.] Hayashi T, Ura T, Amano Y, Mandan M, Yaegashi N, <u>Konishi I</u> . 依頼講演	Experts Meet on Infectious Diseases & Research conference
2021.10.21 [糖尿病における脳心腎合併症の治療戦略～女性糖尿病医としてのキャリアデザイン～] <u>浅原 哲子</u>	糖尿病内科医のキャリアパスを考える
2021.10.24 [心血管疾患予防のための包括的リスク管理～脂質の質を考える～] <u>浅原 哲子</u>	第53回日本動脈硬化学会総会・学術集会
2021.10.25 [Pathological Significance of Monocyte/Macrophage/Microglia Phenotypes in Metabolic Syndrome and Cerebrocardiovascular Complications.] <u>Satoh-Asahara N</u>	The 19th International Symposium on Atherosclerosis
2021.11.04-06 [Molecular Pathology of uterine mesenchymal tumors for development of diagnosis and clinical therapy.] Hayashi T, Ichimura T, Mandai M, Tonegawa S, Yaegasgi N, <u>Konishi I</u> . 依頼講演	Biotechnology and Genetics World Forum

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.11.04-06	International Society for Infectious Diseases
[Possibility of SARS-CoV-2 infection in metastatic microenvironment of cancer.] Hayashi T, Konishi I. 依頼講演	
2021.11.13	世界一受けたい授業
[日常生活でわかる『太る人・痩せる人』の違い] 浅原 哲子	
2021.11.19	第59回日本糖尿病学会九州地方会
[肥満症の内科的治療の最前線—チーム医療と精密医療の融合を目指して—] 浅原 哲子	
2021.11.26-27	第31回臨床内分泌代謝Update
[集学的治療によりコントロールを行ったGH産生下垂体腫瘍の一例] 難波 多拳、北村 拓也、濱中佳歩 [廣嶋)、石原 裕己、中谷理恵子、立木 美香、青木 友和、荒木 則雄、森吉 弘毅、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、井下 尚子、島津 章、田上 哲也	
2021.12.02-04	Cell Science-2021
[Molecular Pathology of uterine mesenchymal tumors for development of diagnosis and clinical therapy.] Hayashi T, Ichimura T, Mandai M, Tonegawa S, Yaegashi N, Konishi I. 依頼講演	
2021.12.14-15	International E-Conference on COVID-19 Pandemic
[Highly conserved binding region of ACE2 as a receptor for SARS-CoV-2 between humans and mammals.] Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I. 招待講演 Keynote Speaker. (基調講演)	
2022.01.18	第15回Seminar for Empowerment Team in Kobe
[肥満症と肥満合併症の効果的な治療戦略—チーム医療と精密医療の融合を目指して—] 浅原 哲子	
2022.01.22	世界一受けたい授業
[日常生活でわかる『太る人・痩せる人』の違い 第2弾] 浅原 哲子	
2022.02.03	Meet The Expert—糖尿病性腎臓病を考える—
[糖尿病性腎臓病におけるサルコペニア] 日下部 徹	
2022.02.07	Webinar- United Conference of COVID-19 and Post COVID Sequelae
[Possibility of SARS-CoV-2 Infection in the Metastatic Microenvironment of Cancer.] Hayashi T, Sano K, Konishi I. 招待講演	
2022.02.19	第15回日本性差医学・医療学会学術集会
[肥満症の心血管病リスクとしての高尿酸血症と性差—国立病院機構多施設肥満症コホート研究—] 浅原 哲子、若林 大、山陰 一、笠原 正登	
2022.02.27	第5回奈良県立医科大学付属病院臨床研究県民公開講座
[コロナに負けない！メタボ解消術] 浅原 哲子	
2022.03.26-27	第42回日本肥満学会&第39回日本肥満症治療学会学術集会
[Phase Angleを用いた筋質評価と若年者を対象とした体格に関する実態調査] 日下部 徹	
2022.03.29	京滋骨粗鬆症リエゾンサーブिसサミット
[骨と筋肉を強くし、健康長寿を目指す-骨粗鬆症・サルコペニアに対する当院の取組み] 日下部 徹	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

総説

筋肉関係 (ミオスタチン)

腎と透析, 91, 4, 541-546, 2021.10.29, 東京医学社

浅原 哲子, 山陰 一, 井上 隆之, 田中 将志

総説

肥満症

医学のあゆみ, 278, 5, 347-353, 2021.07.31, 医歯薬出版株式会社

浅原 哲子

総説

《治療》肥満とやせの治療とその着目点 1. 食事療法の新たなエビデンス

Medical Practice, 38, 7, 1067-1074, 2021.07.01, 文光堂

浅原 哲子

総説

TREM2

老年内科, 3, 6, 739-748, 2021.06, 科学評論社

浅原 哲子, 田中 将志, 山陰 一, 井上 隆之

原著論文

不十分な遺伝カウンセリングの元で実施された無侵襲的出生前遺伝学的検査にて胎児性別を誤判定された妊婦の遺伝カウンセリング—未発症皮膚筋炎が検査に影響した可能性—

日本遺伝カウンセリング学会誌, 42, 1, 153~157, 2021.05.20

橋本有紀子, 飛騨 美希, 小西 陽介, 浅原 哲子, 三宅 秀彦

原著論文

子宮間葉性腫瘍に対するリキッドバイオプシーを用いた治療戦略.

研究者の最新動向 65 Precision Medicine, 4, 12, 65~67, No.12, 2021, 北隆館

林 琢磨, 小西 郁生

原著論文

広範囲の哺乳綱に属する生き物へのSARS-CoV-2の感染拡大の危険とCOVID-19の治療

末病と抗老化., 30, 36~40, Nov 2021., 一般財団法人博慈会

林 琢磨, 小西 郁生

原著論文

COVID-19時代、新たな癌治療法の有り方

末病と抗老化., 30, 25~27, Nov 2021., 一般財団法人博慈会

林 琢磨, 宇良 敬, 小西 郁生

総説

抗腫瘍剤耐性とエピジェネティックな制御の相関

末病と抗老化, 30, 111, Nov 2021., 一般財団法人博慈会

林 琢磨

原著論文

Phase angle from bioelectrical impedance analysis is a useful indicator of muscle quality.

Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle, 13, 1, 180-189, 2022.02

Akamatsu Y, Kusakabe T, Arai H, Yamamoto Y, Nakao K, Ikeue K, Ishihara Y, Tagami T, Yasoda A, Ishii K, Satoh-Asahara N.

原著論文

The Multi-Domain Intervention Trial in Older Adults With Diabetes Mellitus for Prevention of Dementia in Japan : Study Protocol for a Multi-Center, Randomized, 18-Month Controlled Trial.

Frontiers in Aging Neuroscience, 13, 680341, 2021.07

Sugimoto T, Araki A, Fujita H, Honda K, Inagaki N, Ishida T, Kato J, Kishi M, Kobayashi K, Kouyama K, Noma H, Ohishi M, Satoh-Asahara N, Shimada H, Sugimoto K, Suzuki S, Takeya Y, Tamura Y, Tokuda H, Umegaki H, Watada H, Yamada Y, Sakurai T.

原著論文

Targeted Mutational Analysis of Cortisol-Producing Adenomas.

J Clin Endocrinol Metab., 107, 2, e594-e603, 2022.02

Rege J, Hoxie J, Liu CJ, Cash MN, Luther JM, Gellert L, Turcu AF, Else T, Giordano TJ, Udager AM, Rainey WE, Nanba K.

総説

Approaches to Gene Mutation Analysis Using Formalin-Fixed Paraffin-Embedded Adrenal Tumor Tissue From Patients With Primary Aldosteronism
Front Endocrinol., 12, 683588, 2021.06
Nanba K, Rainey WE, Udager AM.

原著論文

Intratumoral steroid profiling of adrenal cortisol-producing adenomas by liquid chromatography-mass spectrometry
J Steroid Biochem Mol Biol., 212, 105924, 2021.09
Teuber JP, Nanba K, Turcu AF, Chen X, Zhao L, Else T, Auchus RJ, Rainey WE, Rege J.

総説

GENETICS IN ENDOCRINOLOGY : Impact of race and sex on genetic causes of aldosterone-producing adenomas
Eur J Endocrinol., 185, 1, R1-R11, 2021.05
Nanba K, Rainey WE.

総説

Primary Cultures and Cell Lines for In Vitro Modeling of the Human Adrenal Cortex
Tohoku J Exp Med., 253, 4, 213-232, 2021.04
Nanba K, Blinder AR, Rainey WE.

原著論文

Practice guideline for lipodystrophy syndromes. clinically important diseases of the Japan Endocrine Society (JES)
Endocr J, 68, 9, 1027-1042, 2021.09
Tomohiro Tanaka*, Toru Kusakabe*, Ken Ebihara, Megumi Aizawa-Abe, Daisuke Aotani, Tohru Yorifuji, Mari Satoh, Yoshihiro Ogawa and Kazuwa Nakao* (*, equally contributed)

原著論文

Potential Novel Ovarian Cancer Treatment Targeting Myeloid-Derived Suppressor Cells.
Cancer Invest., 39, 4, 310~314, 2021.02
Abiko K, Hayashi T, Yamaguchi K, Mandai M, Konishi I.

原著論文以外

Letter : Expectations and anxieties about the COVID-19 vaccine in Japan.
Science., 371, 6524, e1, 2021.01
Hayashi T, Konishi I.

原著論文以外

Letter : Japanese government's response to British SARS-CoV-2 mutant.
Science., 371, 6524, e1, 2021.01
Hayashi T, Konishi I.

原著論文以外

Letter : In COVID-19 era, impact of restricted movement of people on the seasonal influenza pandemic
Science., 371, 6530, e1-e2, 2021.01
Hayashi T, Konishi I.

原著論文

Effect of RBD Mutation (Y453F) in Spike Glycoprotein of SARS-CoV-2 on Neutralizing Antibody Affinity.
Diagnostic Pathology, 6, 1, e1-e4, 2021.01
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

原著論文以外

Letter : Effect of RBD (Y453F) in spike glycoprotein of SARS-CoV-2 variant on COVID-19 vaccine.
Science., 371, 6531, 2021.01
Hayashi T, Konishi I.

原著論文

Prospects and Problems of Development of Candidate Vaccine against COVID-19.
International Journal of Trend in Scientific Research and Development (IJTSRD) ., 5, 2, 604-606, 2021
Hayashi T, Amano Y, Ura T, Konishi I.

原著論文

Effect of RBD (Y453F) mutation in spike glycoprotein of SARS-CoV-2 on neutralizing IgG affinity.
medRxiv Cold Spring Harbor, e1-e11, 2021.02
Hayashi T, Nobuo Yaegashi, Ikuo Konishi.

(原著論文以外)

Letter : Spread of SARS-CoV-2 variants that escape the immune system in Japan
Science., 371, 6530, e1, 2021.02
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文以外)

Letter : Search of SARS-CoV-2 Mpro inhibitors according to "Supercomputer Fugaku" in Japan
Science., 371, 6536, e1, 2021.02
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文)

Diagnostic biomarker candidates including NT5DC2 for human uterine mesenchymal tumors.
International Journal of Trend in Scientific Research and Development (IJTSRD) , 5, 3, 60-64, 2021.03
Hayashi T, Sano K, Ichimura T, Tonegawa S, Yaegashi N, Konishi I.

(原著論文)

Significant decrease in seasonal influenza virus in the COVID-19 era-Impact of global movement restrictions?
Journal of Clinical Medicine Research (JOCMR) , 13, 3, 191~194, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文以外)

Letter : In Japan, expectance as novel anti-SARS-CoV-2 agent for 5-ALA, an amino acid synthesized in mitochondria.
Science, 371, 6532, e1-e2, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文以外)

Letter : Importance of tumor neoantigens in the antitumor effect by immune checkpoint inhibitors.
Science., 371, 6533, e1, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文以外)

Letter : In Japan, problems with the development of anaphylactic shock after COVID-19 vaccination.
Science., 372, 6540, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文)

Development of uterine leiomyosarcoma during the follow up after caesarean section in a woman with uterine leiomyoma.
Wufenia journal., 28, 3, 86-99, 2021.03
Watanabe K, Hayashi T, Katsumata M, Sano K, Abiko K, Konishi I.

(原著論文以外)

Non-effect of SARS-CoV-2 spike glycoprotein Y217N mutation on affinity between virus and ACE2
Journal of Biological Chemistry., 296, 100725, 2021.05
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文以外)

Letter : Policy on Issuance of Passport for COVID-19 Vaccine by Japanese Government
Science., 371, 6535, e1, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文)

Prevalence of anti-SARS-CoV-2 antibody in COVID-19 patients in Japan.
International Journal of Trend in Scientific Research and Development (IJTSRD) ., 5, 3, 375-376, 2021.03
Hayashi T, Konishi I.

(原著論文)

Effect of RBD mutations in spike glycoprotein of SARS-CoV-2 on neutralizing IgG affinity.
Research Square, e-1-e17, 2021.03
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

(原著論文)

Effect of RBD mutations in spike glycoprotein of SARS-CoV-2 on neutralizing IgG affinity.
Wufenia journal., 28, 4, 106-120, 2021.04
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Editorial. New coronavirus disease (COVID-19)
Trends in Immunology and Immunotherapy-TII., 2021.05
Hayashi T, Mandai M, Yaegashi N, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : In Tokyo, the situation of the spread of SARS-CoV-2 variants.
Science., 372, 6538, 2021.04
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Development of uterine leiomyosarcoma during the follow up after caesarean section in a woman with uterine leiomyoma.
Anticancer Research., 41, 6, 3001~3010, 2021.05
Watanabe K, Hayashi T, Katsumata M, Sano K, Abiko K, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : Importance of immune activity targeting epitopes in regions other than RBD.
Science., 372, 6546, e1, 2021.05
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Effect of RBD mutations in spike glycoprotein of SARS-CoV-2 on neutralizing IgG affinity.
medRxiv Cold Spring Harbor, doi.org/10.1101/2021.01.28.21250577, e-1-e16, 2021.04
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : In Brazil, importance of COVID-19 vaccination dissemination.
Science., 372, 6546, e1-e2, 2021.05
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Possibility of SARS-CoV-2 infection in metastatic microenvironment of cancer.
medRxiv Cold Spring Harbor, doi : https://doi.org/10.1101/2021.05.24.21257662, e1-e9, 2021.05
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Possibility of SARS-CoV-2 infection in metastatic microenvironment of cancer.
Curr. Issues Mol. Biol., 2, 17, 233-241, 2022.01
Hayashi T, Sano K, Yaegashi N, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : In Japan, increasing number of students infected with SARS-CoV-2 variants.
Science., 372, 6546, 2021.06
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Confirmation of safety of COVID-19 mRNA vaccination for cancer patients.
International Journal of Trend in Scientific Research and Development (IJTSRD) ., 5, 4, 1228-1230, 2021.05
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : Gender differences in the frequency of side effects after COVID-19 vaccination in Japan.
Science., 373, 6551, 2021.07
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Potential biomarkers associated with malignancy in uterine mesenchymal tumors.
European Journal of Gynaecological Oncology., 42, 5, 824-828, 2021.07
Hayashi T, Yaegashi N, Toneygawa S, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : Importance of anti-SARS-CoV-2 IgA production by COVID-19 vaccination.
Science., 373, 6553, e1, 2021.07
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter. Importance of treatment selection according to SARS-CoV-2 variants.
Science., 373, 6555, e1-e2, 2021.08
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter. Identification of host animals susceptible to coronavirus in Japan.
Science., 373, 6558, e1, 2021.08
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter. Importance of epigenetics-related drug development for advanced/recurrent ovarian cancer
Science., 373, 6557, 2021.08
Hayashi T, Yaegashi N, Konishi I.

〔原著論文〕

Oncological Properties of Intravenous Leiomyomatosis : Involvement of Mesenchymal Tumor Stem-Like Cells.
Curr Issues Mol Biol, 43, 2, 1188~1202, 2021.09
Tamura S, Hayashi T, Tokunaga H, Yaegashi N, Abiko K, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter : Inevitability of medical progress for the development of tumor therapy.
Science., 374, 6563, 2021.08
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter. In Japan, detection of alpha and delta hybrid type SARS-CoV-2 variants.
Science., 374, 6570, 2021.08
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文〕

Diagnosis of uterine leiomyosarcoma and leiomyoma after pregnancy with uterine leiomyoma.
Clinical Pathology & Research Journal., 5, 1, e1-e6, 2021.12
Hayashi T, Sano K, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Letter. Expectations for cancer genomic medicine for biliary tract cancer in Japan.
Science, 374, 6573, e1, 2021.12
Hayashi T, Konishi I.

〔原著論文以外〕

Cancer therapy with decreased SARS-CoV-2 infection rates in cancer patients.
Br J Cancer., 126, 4, 521-522, 2022.03
Hayashi T, Konishi I.

医療安全管理部



医療安全管理部
副院長
医療安全管理部長
白神 幸太郎



医療安全管理副部長
阿部 充



訴訟専門職
栗谷 圭一

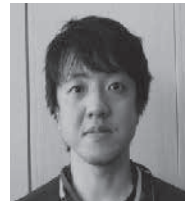


医療安全管理係長
吉田 活子



副看護師長
竹原 美佳

(～2022年3月31日)



副看護師長
中野 達也

(2022年4月1日～)

患者安全の確保、医療の質の担保と向上への取り組みは、急性期基幹病院である当院において最も重要な課題であり、安全文化の醸成は医療教育機関としての責務である。これらの課題、責務を達成するために医療安全管理部が活動している。院内に医療安全管理室を設置し、各部署に医療安全推進担当者（リスクマネージャー）をおいて医療安全管理体制を整備している。医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議などの定例会議を主催するとともに、随時オカレンス症例検討会、ハイリスク診療検討会などを開催している。また、電子化した報告システムによりインシデント・アクシデント事例を収集し、個々の事例に対応するだけでなく、マニュアル等の定期的な見直しを行い、医療安全管理体制の強化充実を図っている。院内で共有すべき情報については積極的に情報発信を行い、スタッフ教育にも力を注いでいる。医療事故調査制度より、当院で生じた死亡症例についてはモニタリングし、迅速かつ適切に事例の収集と検討が可能となるシステムが整備された。これらの取り組みを通じて、医療に伴って発生する様々な危険や有害事象をモニターし、調査、分析して医療に反映させること、重大な有害事象に対して病院をあげて迅速に対応すること、スタッフ教育や院内システムの改善に役立てることを目標としている。

1. 医療安全管理体制

1) 組織図……医療安全管理マニュアル 参照

2) 構成メンバー

医療安全管理部長 1名

医療安全管理副部長 1名

医療訴訟専門職 1名

医療安全管理係長 1名

看護部医療安全担当副看護師長：1名

医療安全推進担当者（リスクマネージャー）各部署から1名 計59名

2. 医療安全に関する日常活動

- 1) 医療安全に関する院内の情報収集及び実態調査（定期的な院内の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検）
- 2) マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等
- 3) インシデント・アクシデントレポートの収集、保管、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理
- 4) 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
- 5) 医療安全に関する職員への啓発、広報
- 6) 医療安全に関する教育研修の企画・運営
- 7) 医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告
- 8) 医療安全管理に係る連絡調整に関すること

3. 業務実績

1) 医療事故に関する会議開催状況（2021年度）

(1) 拡大医療安全管理委員会	0件
(2) 医療事故本部対策会議	0件
(3) オカレンス事例検討会議	23件
(4) ハイリスク診療検討会議	16件

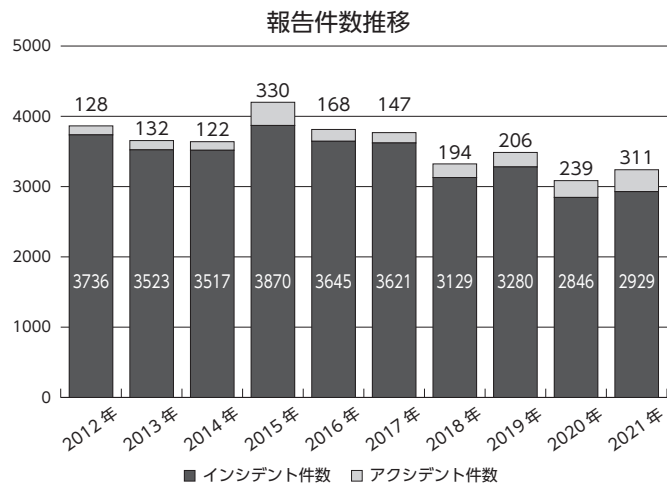
2) マニュアル、ガイドライン等の作成・改訂

- ・中心静脈カテーテル運用マニュアル（2012年）
- ・ロヒプノール院内使用指針（2014年）
- ・院内転倒時の頭部・顔面打撲対応（2019年改訂）
- ・深部静脈血栓症・肺塞栓症の予防対策ガイドライン（2019年改訂）
- ・抗血栓薬の適正使用と周術期の取り扱いに関するガイドライン（2021年改訂）
- ・血糖測定・インスリン指示に関するテンプレート整備（2021年改訂）
- ・患者用パンフレット：転倒転落予防のご協力をお願い（2021年作成）
- ・全部署の救急カートの新規購入と救急カート内容・配置の統一（2022年）
- ・医療安全管理マニュアル（2020年改訂）
- ・医療事故防止対策マニュアル（2021年改訂）

3) インシデント・アクシデントレポート収集

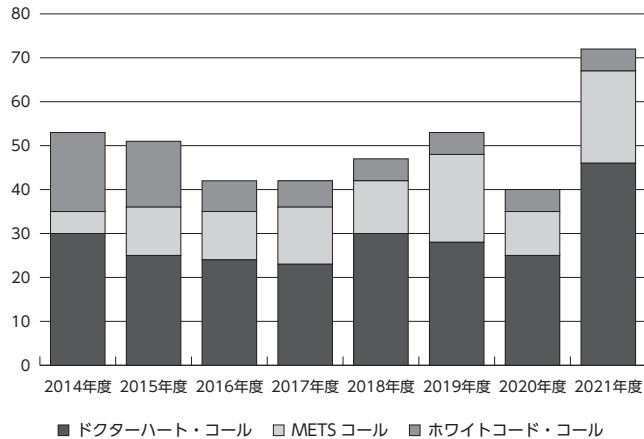
- ・2021年度報告件数 3240件
- インシデント 2929件
(レベル0～レベル2)

アクシデント 311件
(レベル3a～レベル5)



4) 2021年度 緊急コール件数

ドクターハートコール：46件
METSコール：21件
ホワイトコードコール：5件



5) 医療安全に関する活動及び情報提供

- ・医療安全管理委員会 1回/月 計12回
- ・リスクマネージャー会議 1回/月 計12回
- ・診療科長会議、医局会、管理診療会議での情報提供
- ・事故事例の情報発信等
- ・各部門カンファレンス・検討会等参加

6) 医療安全に関する教育研修

(1) 医療安全研修会

1. 医療者と患者の関係 説明と同意に関わる問題を中心に
2. 患者誤認防止
3. 血液型のダブルチェックと輸血認証作業の重要性
4. 血液製剤の正しい取り扱い方

DVD視聴期間：令和4年1月20日（木）～令和4年2月24日（木）

*上記の全ての研修テーマを視聴し、今年度2回の医療安全研修終了とする。

(2) 医療事故防止研修会

- 第1回 気管切開チューブの安全管理：令和3年10月5日、7日
- 第2回 酸素療法：令和3年11月25日、29日
- 第3回 心電図モニターの安全管理：令和3年12月20日、23日

7) 医療安全に関する講義

新採用者研修、看護助手等採用時研修、幹部看護師任用候補者研修、IVナース講義、看護学校講義、医療安全管理研修、スペシャルメ-ディカルクラーク研修 等

8) 医療安全相互評価（WEB開催）

相互評価病院：京都市立病院
日程：令和4年1月28日

医療情報部



医療情報部長
情報システム管理室室長
診療情報管理室室長
高度がん治療センター
がん登録・情報部長
臨床研究センター
政策医療企画研究部
情報化推進研究室室長
北岡 有喜
(2021年8月31日まで)

専門医資格等
京都大学博士 (医学)
同志社大学博士 (政策科学)
社会医学系専門医協会
専門医・指導医
日本産科婦人科学会
専門医・指導医
日本専門医機構
産婦人科専門医
臨床研修指導医
九州大学医学部 非常勤講師
京都情報大学院大学
客員教授
医学研究所北野病院
第11研究部長 (客員)
総務省
地域情報化アドバイザー
地方公共団体情報システム
機構経営審議委員会 委員

独立行政法人
情報処理推進機構
「先進的IoTプロジェクト
支援事業」メンター
ITコンソーシアム京都
医療情報化部会 部長
都道府県がん診療連携拠点
病院連絡協議会
がん登録部会委員・
データ利用審査委員会委員
京都府がん医療戦略推進会議
院内がん登録部会 部長
国立病院等
総合情報ネットワーク
研究会 副会長



医療情報部長
情報化推進研究室
研究室長
中原 孝洋
(2022年4月1日から)

専門医資格等
九州歯科大学特任教授
専門分野
医療ICT、教育ICT、
ネットワークセキュリティ
口腔外科

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等
診療情報管理室 室員	秋好 香織	診療情報管理士・院内がん登録実務初級者
診療情報管理室 室員	前田 タ子	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者・医療情報技師・ 情報セキュリティマネジメント試験合格者
診療情報管理室 室員	口村 恭子	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室 室員	三崎 晴美	診療情報管理士
スペシャル医療クラーク	長谷川紗世	内分泌代謝センター担当
スペシャル医療クラーク	宮田 朋代	泌尿器科担当
スペシャル医療クラーク	赤井 樹理	外科担当・院内がん登録実務初級者・日本癌治療学会認定データマネージャー・ JCOG臨床試験セミナー入門編修了
スペシャル医療クラーク	西田千賀子	耳鼻咽喉科担当・院内がん登録実務初級者・診療情報管理士
スペシャル医療クラーク	甲田 実樹	呼吸器内科担当・院内がん登録実務初級者・診療情報管理士
スペシャル医療クラーク	柴田 暢子	脳神経外科担当
スペシャル医療クラーク	西山 望実	循環器内科担当
スペシャル医療クラーク	中村 繭子	消化器内科・内視鏡センター担当・院内がん登録実務初級者・診療情報管理士
スペシャル医療クラーク	村上 雅代	救命センター担当
スペシャル医療クラーク	小川 文代	呼吸器外科担当・管理栄養士
スペシャル医療クラーク	森園 郁子	糖尿病センター担当・管理栄養士
スペシャル医療クラーク	中尾 真理	腎臓内科担当
スペシャル医療クラーク	加藤由美子	緩和ケア科担当
スペシャル医療クラーク	南野 和代	整形外科担当・院長室
スペシャル医療クラーク	田中 直美	心臓外科担当

	氏名	専門医資格等
スペシャル医療クラーク	黒田 果奈	脳神経内科担当
スペシャル医療クラーク	山崎真理子	眼科担当
スペシャル医療クラーク	細川真莉奈	麻酔科担当
スペシャル医療クラーク	川口裕希子	腫瘍内科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	金本 知恵	皮膚科担当
スペシャル医療クラーク	牧原麻理子	産婦人科担当
スペシャル医療クラーク	増野加奈子	呼吸器内科担当
スペシャル医療クラーク	久保田明美	小児科担当
スペシャル医療クラーク	岸本 泰子	歯科口腔外科担当
スペシャル医療クラーク	水島有樹子	整形外科担当
スペシャル医療クラーク	村上 晴香	形成外科担当
スペシャル医療クラーク	佐野久美子	呼吸器内科担当
スペシャル医療クラーク	植村 千苗	産婦人科担当
医師事務作業補助者	戸田由美子	手術室担当
医師事務作業補助者	畑中 優希	消化器内科担当
医師事務作業補助者	土谷 美鈴	泌尿器科担当
医師事務作業補助者	市川 真美	眼科担当
医師事務作業補助者	久保奈津子	眼科担当
医師事務作業補助者	遠藤 康子	形成外科担当
情報システム管理室 室員	園田 淳	運用管理職員 (委託)
情報システム管理室 室員	太田 佳子	運用管理職員 (委託)
情報システム管理室 室員	村岡 大督	運用管理職員 (委託)
情報システム管理室 室員	濱崎 詩織	運用管理職員 (委託)
非常勤システムエンジニア	横田 健吾	システムエンジニア・情報セキュリティマネジメント試験合格者
研 究 員	湊 拓巳	臨床工学技士
研 究 員	小川 麻理	日医認定ITインストラクター・情報処理士
研 究 員	松島 大介	システムエンジニア・データベーススペシャリスト・ 情報セキュリティスペシャリスト・ソフトウェア開発技術者
研 究 員	小森 由宗	システムエンジニア
研 究 員	小森谷祥明	システムエンジニア

| 令和3年度の主な取組 |

活動実績

2021年度（2021/4/1～2021/8/31まで）

1. 情報管理教育研修 1回開催
2. 医療情報委員会 5回開催
3. 医療情報小委員会 18回開催
4. 「地域ICT利活用広域連携事業」地域共通診察券運営協議会 3回開催
5. 京都府がん医療戦略推進会議 院内がん登録部会 5回開催
6. 京都府がん医療戦略推進会議 院内がん登録部会 登録実務WG 5回開催
7. 京都府がん医療戦略推進会議 院内がん登録部会研修会 5回開催
8. 京都府院内がん登録セミナー 1回開催
9. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会－がん登録部会 1回参加
10. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会「データ利用審査委員会」 1回参加

院内情報処理業務支援

2021年度	病診連携用画像 DVDR 作成件数（放射線科、手術術野動画等）	5608件	（月平均460件）
2020年度	病診連携用画像 DVDR 作成件数（放射線科、手術術野動画等）	4505件	（月平均363件）
2019年度	病診連携用画像 DVDR 作成件数（放射線科、手術術野動画等）	4776件	（月平均405件）
2018年度	病診連携用画像 DVDR 作成件数（放射線科、手術術野動画等）	5801件	（月平均507件）
2017年度	病診連携用画像 DVDR 作成件数（放射線科、手術術野動画等）	4448件	（月平均371件）
2016年度	病診連携用画像 DVDR 作成件数（放射線科、手術術野動画等）	4672件	（月平均389件）
2015年度	病診連携用画像 DVDR 作成件数（放射線科、手術術野動画等）	3453件	（月平均288件）
//	病診連携用画像 CD-R 作成件数（放射線科、内視鏡センター）	1129件	（月平均194件）
2014年度	病診連携用画像 CD-R 作成件数（放射線科、内視鏡センター）	5271件	（月平均439件）
2013年度	病診連携用画像 CD-R 作成件数（放射線科、内視鏡センター）	3771件	（月平均314件）
2012年度	病診連携用画像 CD-R 作成件数（放射線科、内視鏡センター）	3684件	（月平均307件）

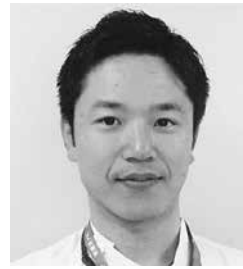
感染制御部



感染制御部長
ICTリーダー (ICD) (専任)
診療科長
(総合診療科・感染症科)
小田垣 孝雄

専門医資格等
ICD : Infection Control
Doctor
日本内科学会
総合内科専門医 / 指導医
日本化学療法学会
抗菌化学療法指導医
日本プライマリ・ケア連合
学会プライマリ・ケア
認定医 / 指導医
日本医師会認定産業医

専門分野
内科一般、感染制御
得意疾患
一般内科疾患



副看護師長 (専従)
森 誠司

専門医資格等
CNIC : Certified Nurse
InfectionControl
感染管理認定看護師

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
感染制御 副部長・ 外科医長 (ICD)	畑 啓昭	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医 日本内視鏡外科学会 内視鏡外科技術認定医・評議員 日本食道学会 食道科認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本臨床外科学会 評議員 ICD (インフェクションコントロールドクター) 日本外科感染症学会 周術期感染管理認定医・教育医・評議員・ 教育委員会委員長・編集委員会委員 日本感染症学会 評議員・臨床研究促進委員会委員 日本化学療法学会 評議員・抗菌化学療法認定医制度審議委員会委員・ 国際渉外委員会委員 日本化学療法学会・日本感染症学会 JAID/JSC 感染症治療ガイドライン作成委員・MRSA感染症の治 療ガイドライン作成委員・薬剤耐性菌感染症を対象と した抗菌薬ガイドライン作成に関する合同委員会委員・ Journal of Infection and Chemotherapy, Senior Editor 日本環境感染学会 JHAIS 委員会委員 ダ・ヴィンチ コンソール術者ライセンス取得 京都大学医学博士	上部消化管 外科感染症	胃がん 食道がん
薬剤師 (ICT専任)	保井 健太	KLEC 認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師		
薬剤師 (AST専任)	稲田 顕慶	KLEC 認定薬剤師		

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
薬剤師 (専任)	村津 圭治	KLEC認定薬剤師 認定実務実習指導薬剤師 NST 専門療法士		
検査科 (専任)	田栗 貴博			
検査科 (専任)	吉川 耕平	感染制御認定臨床微生物検査技師 認定臨床微生物検査技師 感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT)		
経営企画 室長	小林 良平			
事務	諸木 真知			

| 令和3年度の主な取組 |

院内感染対策チーム (ICT)

メンバー

- 小田垣孝雄 (総合診療科、ICTリーダー、ICD)
- 畑 啓昭 (外科、ICD)
- 陣内 牧子 (総合内科、ICD)
- 森 誠司 (CNIC、専従)
- 保井 健太 (薬剤師、専任)
- 塚原 優太 (主任薬剤師)
- 稲田 顕慶 (薬剤師)
- 吉川 耕平 (主任臨床検査技師)
- 小林 良平 (経営企画室長)
- 諸木 真知 (事務)

活動

ICTミーティング 毎週水曜日午後

ICTラウンド 毎週木曜日午前

院内感染対策講習会

第1回 2021年6月～7月 「MRSAとESBL産生菌」(動画配信)

第2回 2021年1月31日 「ワクチン」(対面および動画配信)

院内感染対策防止加算連携カンファレンス

第1回 2021年6月4日

第2回 2021年9月3日

第3回 2021年12月3日

第4回 2022年2月4日

院内感染対策連携施設への訪問指導

2021年9月17日、9月21日 医療法人社団淀さんせん会 金井病院

院内感染対策 診療所訪問指導

2021年9月30日 伊藤人工透析クリニック

抗菌薬適正使用支援チーム (AST)

メンバー

小田垣孝雄 (総合診療科、ASTリーダー)
畑 啓昭 (外科)
藤田 浩平 (呼吸器内科)
後藤健太郎 (外科)
森 誠司 (CNIC)
保井 健太 (薬剤師)
塚原 優太 (主任薬剤師)
稲田 顕慶 (薬剤師、専任)
吉川 耕平 (主任臨床検査技師、専従)
小林 良平 (経営企画室長)
諸木 真知 (事務)

活 動

血液培養ラウンド

随時 (血液培養検査陽性者発生時)

集中治療室感染症ラウンド

随時

特定抗菌薬使用患者ラウンド

毎週月曜日と木曜日

抗菌薬適正使用小委員会

毎月第4水曜日

抗菌薬適正使用セミナー

第1回 2021年6月 「バンコマイシンの投与について」「バンコマイシンのTDM」(動画配信)
第2回 2022年3月14日 「セファロスポリン系抗菌薬の使い分け」(対面)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療チーム

主として第一病棟8階でのCOVID-19入院患者診療

感染症内科医師 (2021年度、いずれも併任)

小田垣孝雄 (感染症内科診療科長、総合診療科)
瀬田 公一 (腎臓内科)
畑 啓昭 (外科)
藤田 浩平 (呼吸器内科)
金井 修 (呼吸器内科)
江坂 直樹 (消化器内科)
難波 多挙 (内分泌内科)
石上健二郎 (循環器内科)

※感染拡大期にはレジデント、専攻医層からの臨時サポートあり

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.04配信	学研メディカルサポート 【看護師の特定行為研修】
「感染に係る薬剤投与関連」 畑 啓昭	
2021.06.05収録、後日e-learning	日本化学療法学会 第59回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー
「術後感染症合併症 病態を理解して治療を考える」 畑 啓昭	
2021.06.08	第28回阪神ICT活動研究会
「SSI予防対策について」 畑 啓昭	
2021.07.20	日本外科感染症学会特別セミナー Healthy Discussion 【第1回周術期感染対策と病院マネジメント】
「手術患者とコロナ感染対策」 畑 啓昭	
2021.09.19	第36回日本環境感染学会・学術総会 教育講演22
「COVID-19時代に外科医に求められる感染制御」 畑 啓昭	
2021.11-2022.02末配信	日本環境感染学会 院内感染講習会事業 厚生労働省 eラーニングシステム
「手術部位感染防止対策」 畑 啓昭	
2021.11.19	第83回日本臨床外科学会総会 ブースセミナー
「エビデンスから考える大腸癌手術の効果的なSSI予防策」 畑 啓昭	
2021.12.17	第34回日本外科感染症学会総会学術集会 委員会企画1
「外科感染症領域の最近のFACT (外科感染症一般、清潔手術、代謝栄養) [外科感染症一般に関する最近のFACT]」 畑 啓昭	
2021.12.17	第34回日本外科感染症学会総会学術集会
「COVID-19合併の小腸壊死患者に対して緊急小腸部分切除術を施行した1例」 後藤健太郎、畑 啓昭、松末 亮、末永 尚浩、宗景 史晃、三木 晶森、中西 保貴、山口 高史	
2021.12.17-2021.12.18	第34回日本外科感染症学会総会学術集会
「直腸癌に対する化学療法中に発症した脳膿瘍の一例」 宗景 史晃、畑 啓昭、守山 雅晃、出川佳奈子、豊田 有紀、神部 宏幸、三木 晶森、後藤健太郎、 中西 保貴、山岡 竜也、松末 亮、成田 匡大、山口 高史	
2022.03.07	日本手術看護学会近畿地区京都ブロックセミナー
「手術室での感染管理の実践—基本的知識からCOVID-19対応まで—」 畑 啓昭	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
論文発表 Ⅲ 主な臓器別感染症 F 腹腔内感染 1 細菌性腹膜炎 感染症 最新の治療 2022-2024, 149-151, 2021 畑 啓昭
論文発表 こんなときどうする? 他科とのコミュニケーションガイド 第3章 消化器内科・消化器外科 7. 急性虫垂炎 産科と婦人科 増刊号, 89 (Suppl), 180-185, 2021 畑 啓昭

論文発表

コロナ禍の理学療法～理学療法士が知っておくべき新型コロナウイルスの感染予防
理学療法京都, No 50, 17-21, 2021
小田垣孝雄

論文発表

Change in antimicrobial susceptibility of pathogens isolated from surgical site infections over the past decade in Japanese nation-wide surveillance study.
J Infect Chemother., 27, 7, 931-939, 2021.03.010.
Ueda T, Takesue Y, Matsumoto T, Tateda K, Kusachi S, Mikamo H, Sato J, Hanaki H, Mizuguchi T, Morikane K, Kobayashi M, Harihara Y, Seki S, Ishida Y, Fukushima R, Hada M, Matsuo Y, Kubo S, Kimura Y, Hata H, Nakajima K, Ohge H, Akagi S, Takeda S, Fukui Y, Suzuki K, Okamoto K, Yanagihara K, Kawamura H

論文発表

Multisystem inflammatory syndrome in adults accompanied with Kikuchi-Fujimoto disease: A case report.
Intern Med, [epub ahead of print], 2022
Kashihara E, Doi K, Fujita K.

論文発表

Safety of Remdesivir for Patients 80 Years of Age or Older with Coronavirus Disease 2019 (COVID-19).
Drugs & Aging, 38, 12, 1067-1074, 2021.12
Kanai O, Fujita K, Nanba K, Esaka N, Hata H, Seta K, Yasoda A, Odagaki T, Mio T.

論文発表

Increasing Burden of Nursing Care on the Treatment of COVID-19 Patients in the Aging Society : Analyses During the First to the Third Wave of Pandemic in Kyoto City, Japan.
Front Med, 8, 767110, 2021
Fujita K, Kashihara E, Kanai O, Hata H, Yasoda A, Odagaki T, Mio T.

論文発表

Acute rhabdomyolysis in a young woman with moderate COVID-19.
ID cases., e01212, 2021
Fujita K, Kanai O, Nanba K, Esaka N, Hata H, Seta K, Odagaki T.

論文発表

Impact of COVID-19 pandemic on lung cancer treatment scheduling.
Thorac Cancer., 11, 10, 2983-2986, 2020.10
Fujita K, Ito T, Saito Z, Kanai O, Nakatani K, Mio T.

論文発表

Quantitative SARS-CoV-2 Antibody Screening of Healthcare Workers in the Southern Part of Kyoto City During the COVID-19 Pre-pandemic Period.
Front Public Health., 7, 8, 595348, 2020.12
Fujita K, Kada S, Kanai O, Hata H, Odagaki T, Satoh-Asahara N, Tagami T, Yasoda A.

教育研修部



診療科長
統括診療部長
教育研修部長
小山 弘

専門医資格等

医療系大学間共用試験実施
評価機構医学系OSCE実施
管理委員会委員他
独立行政法人国立病院機構
医師育成・教育委員会委員
京都大学医学部臨床教授
京都大学博士（医学）

専門分野

内科一般
内科診断学
医学教育
臨床疫学

| スタッフ |

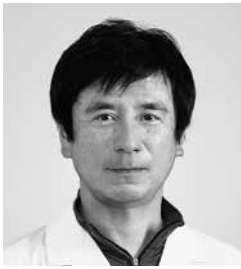
	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師 教育研修 副部長	小泉 三輝	日本腎臓学会 専門医・指導医 日本透析医学会 専門医・指導医 日本集中治療医学会 専門医 日本内科学会 総合内科専門医・ JMECC インストラクター 日本急性血液浄化学会 認定指導者	腎臓内科	透析、 急性血液浄化

| 令和3年度の主な取組 |

2022年度採用臨床研修医のオリエンテーションにおいて各種レクチャーを行った。

2023年度採用臨床研修医のマッチング試験を、COVID-19パンデミックを踏まえ、オンラインで行った。
定数（10名）に対する順位登録した学生数は、6.9倍であった。

地域医療部



地域医療部長
瀬田 公一



地域医療連携室長
笹橋 望

| 地域医療部の特徴 |

2019年11月に「患者支援センター」を開設しました。

退院支援センター、入院支援センター、救急診療受付、診療受付センター、がん相談支援センター、患者相談窓口を同じフロアへ統合・移転を行い、より緊密な医療連携を築いていけるよう職員一同精進しています。

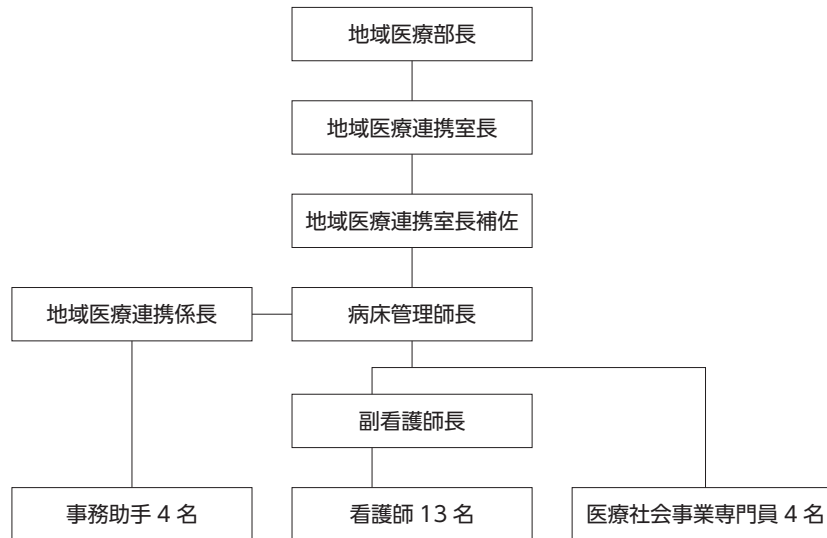
| 患者支援センターの業務内容 |

退院支援	退院支援（転院や退院の調整） 医療、介護、福祉に関わる機関との連携
入院支援	入院前までの患者情報の聴取 利用している社会資源（介護サービス等）の確認 入院生活のオリエンテーション 内服中の薬剤の確認
救急診療受付	救急紹介患者受診の受付
診療受付	他院からの初診、検査予約 他院への診療、検査予約 診療情報の提供、依頼 他院からの転院調整 セカンドオピニオン外来申し込み 居宅介護支援計画連絡票の受付 訪問看護指示書、訪問リハビリ指示書の管理
がん相談支援センター	がんに関する相談
患者相談窓口	療養に関する相談 福祉制度（介護保険、障害制度、難病等）に関する説明、相談 医療費、生活費などの経済的問題についての相談
その他	開放型病床のデータ管理 市民公開講座、各種講演会の開催 広報誌、外来担当医表等の送付 各医療機関への訪問

1. 沿革と体制

- 2002年 地域医療連携室設置
- 2007年 地域がん診療拠点病院の指定
- 2008年 地域医療支援病院の承認
- 2018年 地域連携支援センターへ名称変更
- 2019年 患者支援センター開設

2. 構成メンバー



| 業務実績（令和3年度）患者支援センターの業務内容 |

〈退院支援〉

- ・ 転院支援件数 854件
- ・ 転院支援件数在院日数 30.1日
- ・ 地域連携診療計画管理料算定件数 144件

〈入院支援〉

- ・ 入院支援件数 5,350件

〈救急診療受付〉

- ・ 救急受診受付件数 1,418件
- ・ 救急受診受入後入院件数 600件

〈診療受付〉

- ・ 地域医療連携室経由予約件数（診療予約）8,676件（検査予約）994件
- ・ 1日平均予約件数（診療予約）35.4件（検査予約）4.0件
- ・ セカンドオピニオン相談件数 45件 実績件数 32件
- ・ 紹介率 81.6% 逆紹介率 130.6%

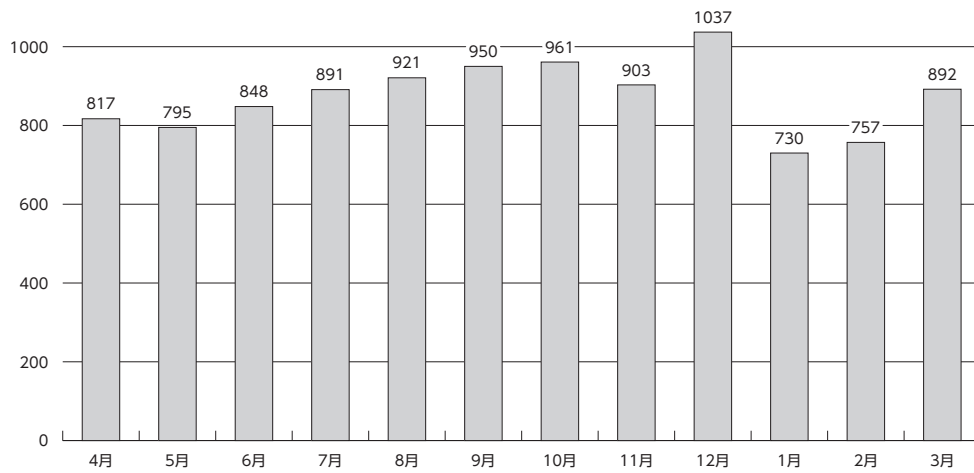
〈がん相談支援センター・患者相談窓口〉

- ・延べ相談件数 612件

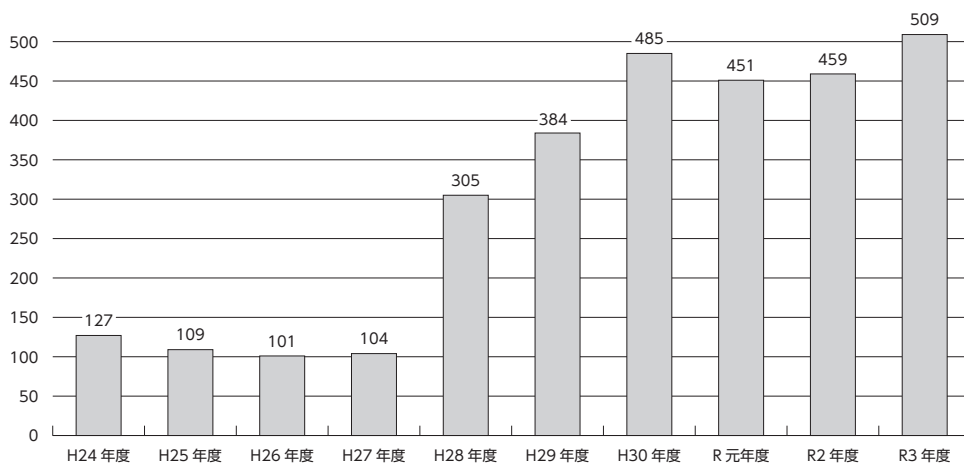
〈その他〉

- ・開放型病床登録医数 129件
- ・地域医療連携委員会 1回/月
- ・地域支援病院運営委員会 四半期1回

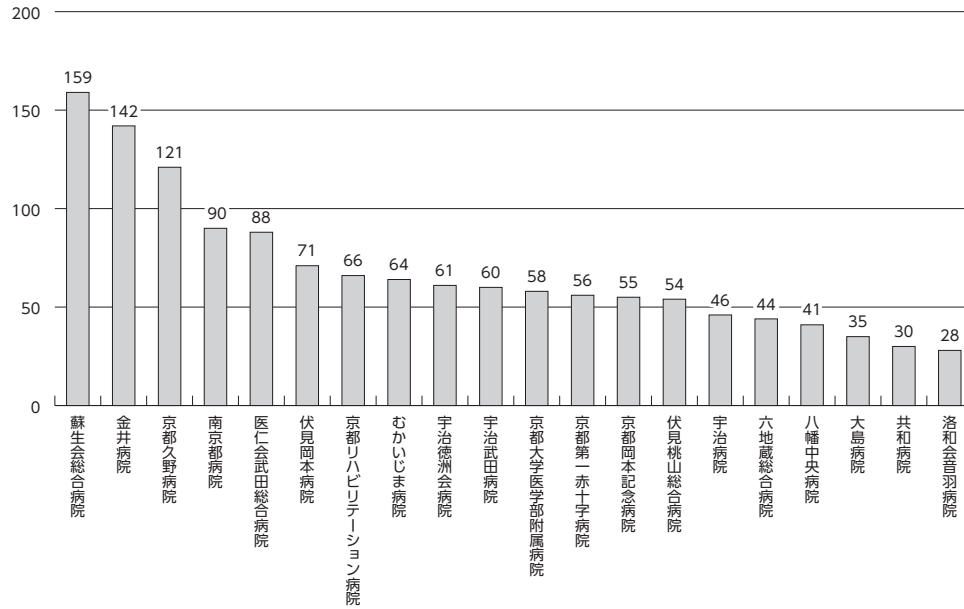
令和3年度 入退院支援加算1算定件数



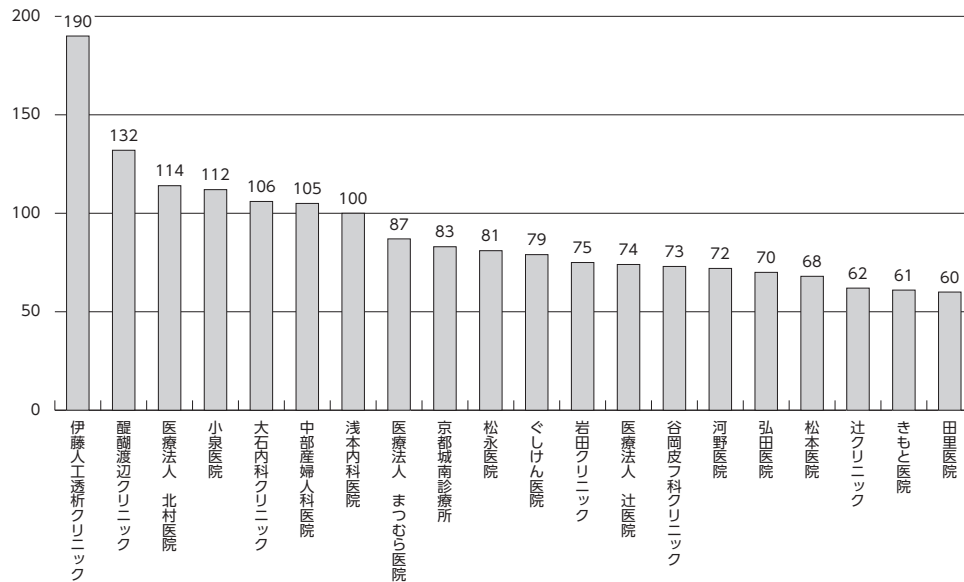
在宅支援件数



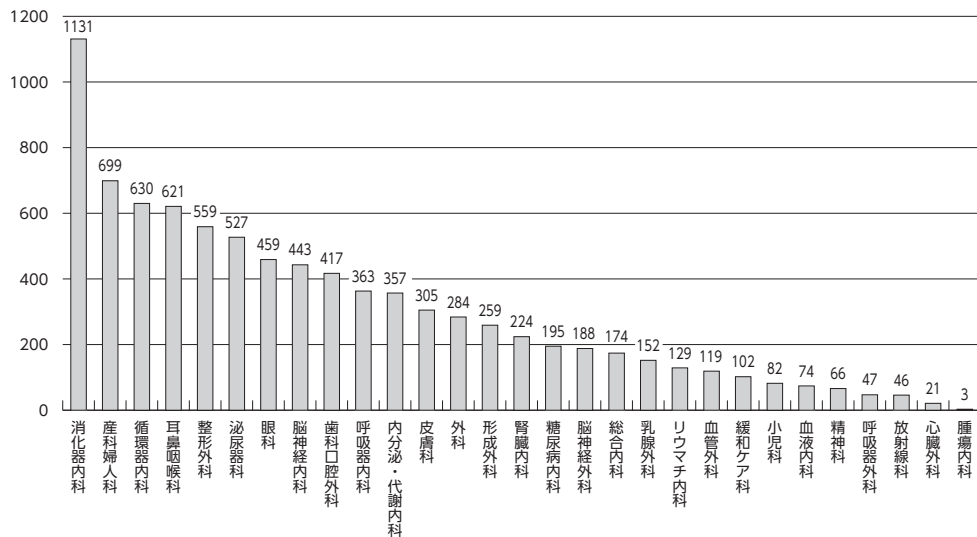
令和3年度 診療予約件数（病院別）



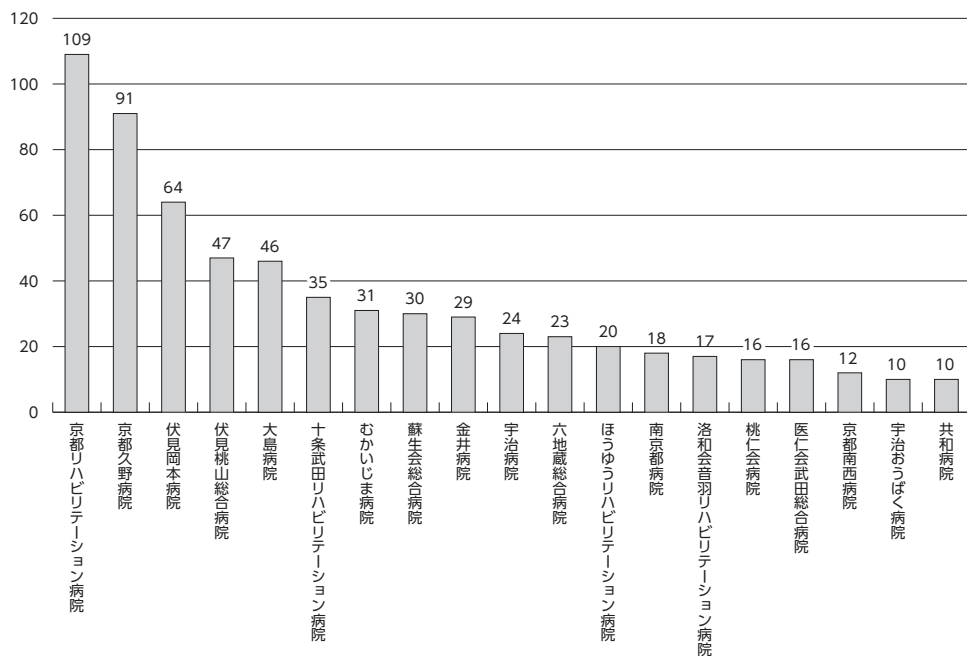
令和3年度 診療予約件数（診療所別）



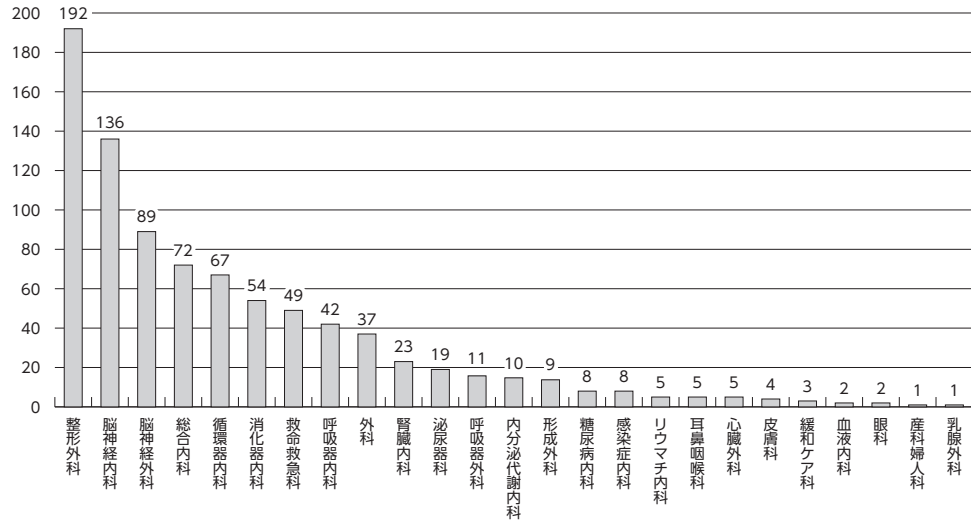
令和3年度 診療予約件数（診療科別）



令和3年度 転院支援件数（病院別）



令和3年度 転院支援件数（診療科別）



| 地域医療連携・広報活動 |

- ・「次世代ハイブリッド手術室で治療がかわる」

第17回 京都医療センター医療連携フォーラム 令和3年10月16日 Web開催

- ・「新体制で臨むがん診療」

第18回 京都医療センター医療連携フォーラム 令和4年2月4日 Web開催

薬 剤 部



部長
土井 敏行

専門医資格等
KLEC 認定薬剤師
(薬剤師認定制度認証機構認証)
認定実務実習指導薬剤師
(日本薬剤師研修センター)

| スタッフ |

	氏 名	専門医資格等
副 部 長・ 医薬品情報 管理 室 長	別府 博仁	救急認定薬剤師 (日本臨床救急医学会)、生涯研修認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)、 認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、日本DMAT 隊員 (厚生労働省)、 KLEC 認定薬剤師
副 部 長	丸山 直岳	認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、NST 専門療法士 (日本臨床栄養代謝学 会)、KLEC 認定薬剤師
医薬品情報 管理主任・ 医薬品情報 管理 係 長	村津 圭治	認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、NST 専門療法士 (日本臨床栄養代謝学 会)、KLEC 認定薬剤師
製 剤 主 任	田中 亮	認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、外来がん治療認定薬剤師 (日本臨床腫 瘍薬学会)、緩和薬物療法認定薬剤師 (日本緩和医療薬学会)、研修認定薬剤師 (日本薬剤師研 修センター)、KLEC 認定薬剤師
薬 務 主 任	小原 直紘	生涯研修認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)、認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、 KLEC 認定薬剤師
調 剤 主 任	池上 洋平	認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、心不全療養指導士 (日本循環器学会)、 KLEC 認定薬剤師
治 験 主 任	田中 有 ~9月30日	日本臨床薬理学会認定 CRC (日本臨床薬理学会)
研 究 教 育 主 任	中澤 誉	KLEC 認定薬剤師
治 験 主 任	藤原佐知子 10月1日~	認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)
病 棟 業 務 管 理 主 任	塚原 優太	日病薬病院薬学認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)
薬 剤 師	森本 健幹	日本医療薬学会認定薬剤師、日本医療薬学会認定指導薬剤師 (日本医療薬学会)
薬 剤 師	松本真理子 ~9月30日	生涯研修認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)、日本糖尿病療養指導士 (日本糖尿病療養指導士認定 機構)、KLEC 認定薬剤師
薬 剤 師	神林 由樹	
薬 剤 師 (育児短時間)	中嶋 尚子	
薬 剤 師	八瀬恵理子	がん薬物療法認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)、小児薬物療法認定薬剤師 (日本小児臨床薬理 学会)、研修認定薬剤師 (日本薬剤師研修センター)

	氏名	専門医資格等
薬剤師	田淵 寿美	KLEC 認定薬剤師
薬剤師	市原 英則	外来がん治療認定薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会）、麻薬教育認定薬剤師（緩和医療薬学会）、日本DMAT隊員（厚生労働省）、KLEC 認定薬剤師
薬剤師	稲田 顕慶	抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会）、外来がん治療認定薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会）、日本DMAT隊員（厚生労働省）、KLEC 認定薬剤師
薬剤師	壇 梨恵	KLEC 認定薬剤師、日病薬病院薬学認定薬剤師（日本病院薬剤師会）
薬剤師	松田 璃沙	外来がん治療認定薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会）、KLEC 認定薬剤師
薬剤師	保井 健太	抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会）、研修認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）、KLEC 認定薬剤師
薬剤師	山階 規子	日病薬病院薬学認定薬剤師（日本病院薬剤師会）、KLEC 認定薬剤師
薬剤師	和田 遼子	小児薬物療法認定薬剤師（日本小児臨床薬理学会）
薬剤師	東 里奈	外来がん治療認定薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会）、KLEC 認定薬剤師
薬剤師	上柳 汐果	
薬剤師	杉野 太亮	
薬剤師	中島 淳	スポーツファーマシスト（日本アンチ・ドーピング機構）
薬剤師	石野 佑樹	
薬剤師	高村 有沙	
薬剤師	藤本 佳奈	外来がん治療認定薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会）
薬剤師	綿榎 充穂	KLEC 認定薬剤師
薬剤師	江島 怜那	KLEC 認定薬剤師
薬剤師	杉山 紗彩	
薬剤師	大野 茜	
薬剤師	佐々木陽子	
薬剤師	須内 優衣	
薬剤師	高橋 龍磨	
薬剤師	林 洋太郎	
育児休業（薬剤師）	宮地由香里	
育児休業（薬剤師）	岩上 祥愛	
育児休業（薬剤師）	前川由季菜	

令和3年度の主な取組

- ・プレアボイド報告 (約 95件/月)
- ・後発医薬品使用の推進 (平均使用数量割合：88.5%)
- ・薬学部実務実習生の受入 (30名/年)
- ・薬剤管理指導料 (約 1570件/月)
- ・病棟薬剤業務実施加算 1. 2 (約 2880件/月)
- ・がん化学療法連携充実加算 (約 280件/月)
- ・地域薬局との連携（伏見薬業連携協議会の開催：12回、伏見薬剤師会研修会での講演：1回）
- ・専門薬剤師、認定薬剤師の育成（2021年度新規取得 外来がん治療認定薬剤師：5名、NST 専門療法士：1名、抗菌化学療法認定薬剤師：2名 日本医療薬学会認定指導薬剤師：1名）

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.09.11 「エナブプリル投与により気道挿管を要する血管性浮腫が生じた1症例」 杉山 紗彩、市原 英則、藤本 佳奈、塚原 優太、丸山 直岳、別府 博仁、土井 敏行	2021年度 近畿国立病院薬剤師会学術大会
2021.10.09 「がん患者におけるビスホスホネート系注射薬剤およびデノスマブ初回投与前の歯科受診に関する実態調査」 市原 英則、松田 璃沙、塚原 優太、中澤 誉、丸山 直岳、別府 博仁、土井 敏行	第31回日本医療薬学会年会
2021.10.09 「患者支援センターにおける薬剤師の早期介入による有用性の評価」 江島 怜那、小原 直紘、丸山 直岳、別府 博仁、土井 敏行	第31回日本医療薬学会年会
2021.10.23 「医薬品管理におけるタスク・シフト/シェアの推進に向けた取組みと現状」 小原 直紘、丸山 直岳、別府 博仁、土井 敏行	第75回国立病院総合医学会
2021.10.23 「患者支援センターを起点とした持参薬管理に対する早期介入の取り組みと効果の検証」 市原 英則、塚原 優太、小原 直紘、西詰 考敏、中澤 誉、丸山 直岳、別府 博仁、土井 敏行	第75回国立病院総合医学会
2022.01.29 「アドレナリンβ2刺激薬とテオフィリンの併用で低カリウム血症が増悪したギッテルマン症候群の一症例」 森本 健幹、土井 敏行、高橋 雄也、竹内 陽亮、長島 裕樹	第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会
2022.01.29 「カボザンチニブによる消化管穿孔を発症した1症例」 山階 規子、森本 健幹、綿榎 充穂、中澤 誉、丸山 直岳、別府 博仁、土井 敏行	第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会
2022.01.29 「当院での集中治療室における薬剤師の取り組みについて」 杉野 太亮、稲田 顕慶、壇 梨恵、村津 圭治、丸山 直岳、別府 博仁、土井 敏行	第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会
2022.01.29 「集中治療室 (ICU) において新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 患者のVV-ECMO使用において鎮痛鎮静管理に難渋した1症例」 稲田 顕慶、壇 梨恵、杉野 太亮、村津 圭治、丸山 直岳、別府 博仁、土井 敏行	第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会
2022.01.29 「当院の救命救急センターにおけるCOVID-19患者に対するBaricitinibの使用状況」 壇 梨恵、稲田 顕慶、杉野 太亮、村津 圭治、丸山 直岳、別府 博仁、土井 敏行	第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会
2022.03.12 「当院におけるアナモレリン塩酸塩の使用状況調査」 東 里奈、田中 亮、丸山 直岳、別府 博仁、土井 敏行	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2022
2022.03.25 「SIADHを合併した小細胞性前立腺がん患者の疼痛管理において眠気の原因探索に難渋した1症例」 中澤 誉、森本 健幹、丸山 直岳、別府 博仁、土井 敏行	日本薬学会第142年会

臨床検査科

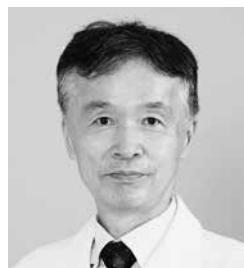


臨床検査科長
勝島 慎二
(2022年3月31日まで)

専門医資格等
日本内科学会
認定内科医 指導医
日本消化器病学会
専門医・指導医・近畿支部
評議員・本部評議員
日本消化器内視鏡学会
専門医・指導医・近畿支部
評議員・本部評議員
日本医学放射線学会
放射線科診断専門医
日本肝臓学会
専門医・西部会評議員
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医・
指導責任者
日本消化管学会
胃腸科専門医
日本消化器がん検診学会
総合認定医
京都大学医学博士

専門分野
消化器内科全般

得意疾患
肝疾患
炎症性腸疾患



血液内科医長
診療科長(稀少血液疾患科)
臨床検査科長
輸血管理士
川端 浩
(2022年4月1日から)

専門医資格等
日本内科学会
総合内科専門医
日本血液学会
専門医・指導医
日本輸血・細胞治療学会
認定医
京都大学 医学博士

専門分野
血液一般

得意疾患
骨髄異形成症候群
希少血液疾患
鉄代謝異常

| スタッフ |

技師スタッフ

	氏名	専門医資格等
臨床検査技師長	笹 倫郎	超音波検査士(循環器)、超音波検査士(消化器)、細胞検査士、国際細胞検査士、有機溶剤作業主任者、二級臨床検査士(病理学)、京都府院内臓器移植コーディネーター、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
副臨床検査技師長	田栗 貴博	
副臨床検査技師長	栗山 陽子	認定輸血検査技師、認定血液検査技師、二級臨床検査士(血清学)、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
主任臨床検査技師	鶴田 康倫	細胞検査士、国際細胞検査士、有機溶剤作業主任者、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、がんゲノム医療コーディネーター、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
主任臨床検査技師	吉川 耕平	認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師(ICMT)、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
主任臨床検査技師	井門 浩美	超音波検査士(循環器)、超音波検査士(産婦人科)、超音波検査士(消化器)、超音波検査士(血管)、血管診療技師、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
主任臨床検査技師	寺野 雅美	超音波検査士(循環器)、超音波検査士(血管)、血管診療技師、緊急臨床検査士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
主任臨床検査技師	小森 法子	認定血液検査技師、骨髄検査技師、二級臨床検査士(血液学)、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
主任臨床検査技師	松延 大樹	中級バイオテクノロジスト認定、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	西山 智美	超音波検査士(循環器)、緊急臨床検査士、管理栄養士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	前川美翠穂	超音波検査士(循環器)、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	大平真梨子	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講

	氏名	専門医資格等
臨床検査技師	伊藤 大輔	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	近澤 薫	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	金丸 青空	中級バイオテクノロジスト認定、緊急臨床検査士、二級臨床検査士（血液学）、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	辻村 紗央	細胞検査士、国際細胞検査士、二級臨床検査士（病理学）、有機溶剤作業主任者、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、毒劇物取扱者、中級バイオテクノロジスト認定、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	松田 由美	二級臨床検査士（臨床化学）、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講、健康食品管理士
臨床検査技師	道面 将嗣	細胞検査士、有機溶剤作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	吉廣 優希	緊急臨床検査士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	西山 絢菜	緊急臨床検査士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	竹澤 遼	緊急臨床検査士、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	鈴木 遥	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	久保 慎也	緊急臨床検査士、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	尾上 結穂	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	黒木 瑠菜	
臨床検査技師	神後なつ希	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	伊戸川大夢	
臨床検査技師	辰己 俊	
臨床検査技師	岡田 伊弘	緊急臨床検査士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	中西 哲	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	泉 宏明	
臨床検査技師	鶴野 緋莉	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	宮澤 尚己	毒劇物取扱責任者、乙種1.2.3.4.5.6類危険物取扱者、中級バイオテクノロジスト認定、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師 (再)	井藤 博史	
非常勤臨床 検査技師	三浦 辰朗	
非常勤臨床 検査技師	井本 元治	超音波検査士（消化器）、診療情報管理士、第二種ME技術実力検定
非常勤臨床 検査技師	藤田 晶絵	臨床工学士、第二種ME技術実力検定、体外循環技術認定士、健康食品管理士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
非常勤臨床 検査技師	益田 喜信	
非常勤臨床 検査技師	楠木 秀和	細胞検査士、国際細胞検査士、有機溶剤作業主任者、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者
育児休業 (臨床検査技師)	吹田奈帆美	

受付スタッフ

	氏名	専門医資格等
事務助手 (非常勤)	村井 佳世	
事務助手 (非常勤)	中尾 弥生	
事務助手 (非常勤)	岩崎 京子	
事務助手 (非常勤)	松本弓佳利	
事務助手 (非常勤)	森川 信子	
事務助手 (非常勤)	藤井 浩美	

| 令和3年度の主な取組 |

科(室)の特徴

1. 正しいデータを臨床側に返すことは、臨床検査技師の大切な任務であり、その命ともいえる精度管理に大きなエネルギーを注いでいます。
2. 当センターは日本の政策医療で、内分泌・代謝性疾患の基幹的役割を担っています。当科は臨床検査のトップ集団であることを自覚し、政策医療関連の検査の充実を図っています。
3. 緊急検査は、24時間対応しています。
4. 感染防御という立場から積極的に取り組むため、ICT（感染防御チーム）の活動に臨床検査技師も参加しています。
5. 輸血業務を一元化し、安全かつ適正な輸血管理業務を行っています。

診療(業務)内容

当科の業務は臨床検査を行うことであり、臨床検査は検体検査と生理機能検査の2つの分野に大きく分かれます。

1. 検体検査：血液、尿、便、痰、手術により切り出された組織、穿刺液等を用いて行う検査です。肝機能検査や生活習慣病の血糖・尿糖検査、貧血検査、がん細胞検査等がこの中に含まれます。検査部門としては血液学検査、生化学検査、免疫学検査、輸血関連検査、微生物学検査、病理学検査、一般検査があります。
2. 生理機能検査：直接患者さんの身体に接して、体内からの情報や変化の状態を数字や画像に変換して目で見えるようにする検査です。分野別に心電図検査、肺機能検査、脳波検査、筋電図検査、超音波検査、聴力検査、睡眠時無呼吸検査、出血時間検査があります。

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	
2021.05.23	京都臨床細胞学会
「産婦人科スライドカンファレンス 回答」 道面 将嗣 (CT)	
2021.06.05	2021年 日本検査血液学会初夏セミナー
「観察症例の供覧、解説 (MDS/MPN-RS-T)」 小森 法子	
2021.09.18	京都府臨床検査技師会 (血液検査研究班)
「ケーススタディ27 (骨髄癌腫症)」 金丸 青空	
2021.11.20	日本臨床細胞学会 (秋期)
「左頸部リンパ節に子宮横紋筋肉腫の転移を認めた一例」 道面 将嗣 (CT)、津高 紗央 (CT)、鶴田 康倫 (CT)、楠木 秀和 (CT)、笹 倫郎 (CT)、 三林 聡子 (MD)、森吉 弘毅 (MD)	
2021.11.20	日本臨床細胞学会 (秋期)
「中腎管類似の形態を示した卵管癌の一症例」 津高 紗央 (CT)、道面 将嗣 (CT)、鶴田 康倫 (CT)、楠木 秀和 (CT)、笹 倫郎 (CT)、 三林 聡子 (MD)、森吉 弘毅 (MD)	
2021.11.20	日本臨床細胞学会 (秋期)
「ミラノシステムを用いた会場参加型スライドカンファレンス 症例4-6 提供者」 鶴田 康倫 (CT)、津高 紗央 (CT)、道面 将嗣 (CT)、楠木 秀和 (CT)、笹 倫郎 (CT)、 三林 聡子 (MD)、森吉 弘毅 (MD)	
2021.11.21	第60回日本臨床細胞学会秋期大会
「ミラノシステムを用いた会場参加型スライドカンファレンス」 鶴田 康倫、津高 紗央、道面 将嗣、楠木 秀和、笹 倫郎、三林 聡子、森吉 弘毅	
2022.01.21	国臨協 微生物研修会
「塗抹検査へお困りのあなたへ」 吉川 耕平	

病理診断科



専門医資格等
 病理専門医
 細胞診専門医
 死体解剖資格
専門分野
 外科病理全般

診療科長
森吉 弘毅

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
専攻医	三林 聡子	死体解剖資格		
病理主任	鶴田 康倫	細胞検査士、国際細胞検査士、有機溶剤作業主任者、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、がんゲノム医療コーディネーター、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講		
臨床検査技師	津高 紗央	細胞検査士、国際細胞検査士、二級臨床検査士（病理学）、有機溶剤作業主任者、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、毒劇物取扱者、中級バイオテクノロジーリスト認定、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講		
臨床検査技師	道面 将嗣	細胞検査士、有機溶剤作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講		
臨床検査技師	西山 絢菜	緊急臨床検査士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講		
臨床検査技師	竹澤 遼	緊急臨床検査士、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講		
臨床検査技師	久保 禎也	緊急臨床検査士、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講		
非常勤臨床検査技師	楠木 秀和	細胞検査士、国際細胞検査士、有機溶剤作業主任者、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者		

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本病理学会研修登録施設
- ・日本臨床細胞学会認定施設

| 診療実績 |

診断件数 (2021年度)

組織診	6980件	病理解剖	11件
細胞診	7807件	CPC	6件
術中迅速診断	428件		

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

A pathological perspective to painful inguinal hernia : Report of two cases.
Int J Surg Case Rep., 86, 106389, 2021.09
Narita M, Moriyoshi K, Goto K, Yamaoka R, Yamaguchi T.

原著論文

The Expression of Insulin-Like Growth Factor 2 Messenger RNA-Binding Protein 3 in Langerhans Cell Histiocytosis and Langerhans Cell Sarcoma.
Tohoku J Exp Med., 255, 1, 27, 2021.09
Yashige K, Kataoka TR, Yamada Y, Maeda H, Oji-Tsujimura M, Yamamoto T, Takei Y, Moriyoshi K, Ono K, Kaku Y, Tabata T, Murakami I, Nakamine H, Haga H.

原著論文

A multi-institutional study of salivary gland cytopathology : Application of the Milan System for Reporting Salivary Gland Cytopathology in Japan.
Cancer Cytopathol., 130, 1, 30, 2022.01
Higuchi K, Urano M, Akiba J, Nogami M, Hirata Y, Zukeran Y, Moriyoshi K, Tada Y, Fukushima M, Obayashi M, Sakamoto S, Kuraoka K, Kira K, Kawahara A, Kato T, Tanigawa M, Nakaguro M, Yamamoto H, Nagao T.

原著論文

Giant Pilonidal Tumor With Broad Epidermal Components : An Example of Histological Diversity and a Potential Diagnostic Pitfall of Tumors With Pilonidal Differentiation.
Am J Dermatopathol., 44, 2, 129, 2022.02
Terada K, Yamada Y, Fujimoto M, Usui S, Kogame T, Kaku Y, Moriyoshi K, Haga H.

原著論文

Immunoglobulin A vasculitis without purpura in an elderly female patient : a case report.
Clin J Gastroenterol., 14, 4, 1090, 2021.08
Murata M, Yamazaki Y, Shimogama T, Ota Y, Moriyoshi K, Miyamoto S.

原著論文

Neonatal Fc receptor induces intravenous immunoglobulin growth suppression in Langerhans cell histiocytosis.
Pathol Int., 71, 3, 191, 2021.03
Nabeshima Y, Kataoka TR, Ueshima C, Saito N, Hirata M, Takeuchi Y, Takei Y, Moriyoshi K, Ono K, Haga H.

原著論文

SMARCA4-deficient sinonasal carcinoma:A case report referring to the post-treatment histological changes.
Pathol Int., 71, 6, 435, 2021.06
Mibayashi S, Sumiyoshi S, Kikuchi M, Fujimoto M, Haga H

臨床栄養科



科長
村田 敬

専門医資格等

日本糖尿病学会
糖尿病専門医・研修指導医
日本内科学会
認定内科医・総合内科専門
医・指導医
日本小児・思春期糖尿病学会
評議員
日本メディカルAI学会
評議員
東京大学医学博士

専門分野

糖尿病
若年者糖尿病
先進糖尿病治療
食事療法
臨床研究

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等
栄養管理室長	平野 和保	
副栄養管理室長	森岡 宏介	日本糖尿病療養指導士
主任栄養士（育児短時間）	中辻 晴香	NST 専門療法士
主任栄養士	宮本真奈美	NST 専門療法士
栄養士（育児短時間）	騎馬 沙苗	
栄養士（育児短時間）	北川 洋子	
栄養士	杉山 香奈	
栄養士	中村玲欧菜	
調理師長	福井 勝	
副調理師長	石井 俊雄	
副調理師長	山田 弘喜	
主任調理師	坂本 尚人	
調理師	蒲生 亘	
調理師	博多 健二	
調理師	榭村 勝利	
調理師	荒川 和彦	
調理師	澤邊 元弘	
調理師	松尾 隆生	
非常勤栄養士	苅谷 衣純	
非常勤栄養士	下神 匡貴	
非常勤栄養士	山田 未緒	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本臨床栄養代謝学会NST稼働認定施設

診療科の特徴

1. 栄養サポートチーム活動
2. 専門外来栄養指導の実施
3. 特別メニュー食の提供
4. 個人対応食（PS食）の提供
5. 緩和ケア病棟での特別行事食の実施
6. 集中治療室における早期栄養介入

診療（業務）内容

1. 食事提供

入院患者を対象に大量調理施設衛生マニュアル、HACCPに基づいた管理のもと、安全な食事（一般食及び治療食）を提供している。患者サービス、喜ばれる食事の一環として、週3回の選択食や月2回以上の行事食を実施している。患者アンケートでは、毎回70%以上の患者に良好な評価を頂いている。緩和ケア病棟、化学療法における食欲不振時には、管理栄養士が訪室し、個別対応食（PS食）の提供をしている。

2. 栄養食事相談

外来及び入院患者を対象に個人栄養相談や心臓病教室などの集団栄養教室を実施。特に外来栄養相談においては、継続したフォローアップを重視し、医師と連携した療養相談を実施している。CSII（インスリンポンプ）外来や1型糖尿病専門外来、メタボリックシンドローム外来などの専門外来栄養相談も実施している。また、自宅や職場で栄養食事相談を受けていただける、電話での栄養食事相談を実施している。Covid-19禍において、外出による感染リスクの軽減にも繋がっている。

3. チーム医療

栄養サポートチームや、緩和ケアチーム、糖尿病透析予防チームなどチームの一員として管理栄養士が積極的に参加している。集中治療室に入室される患者に対して、栄養介入を実施し、早期の経腸栄養の開始に寄与している。栄養サポートチームでは、中心的な役割を担い、患者の情報収集や情報発信を積極的に行っている。

4. 教育研修

京都医療センター臨床栄養セミナーと称し、WEB配信形式での研修会を開始した。今後年2回の定期的な開催を実施し、センター内外、特に近隣地域の病院、福祉施設への情報発信を積極的に実施していく。

管理栄養士養成大学より、34名の実習生を受入れ、人材育成に寄与している。

地域医療連携・広報活動

『糖尿病週間』イベント：ポスター掲示と食品サンプル、疑似体験コーナーの設置

『いいお産の日』イベント：ポスター掲示

| 実績 |

食事療養数等

	2021年度
食事療養食数 (食)	402,989
特別食加算食数 (食)	105,906
特別食加算率 (%)	26.3

栄養食事相談

	2021年度
入院時栄養食事指導 (件)	1,111
外来栄養食事指導 (件)	2,026
通信機器を用いた栄養食事指導 (件)	115
集団栄養教室参加者数 (件)	65
糖尿病透析予防外来における相談 (件)	23
合計 (件)	3,340

栄養サポートチーム

	2021年度
栄養サポートチーム加算 (件)	1,204
栄養サポートチーム介入延べ患者数 (人)	2,510

緩和ケアチーム

	2021年度
個別栄養食事管理加算 (件)	1,436
緩和ケアチーム介入延べ患者数 (人)	500

急性期病棟における早期栄養介入

	2021年度
早期栄養介入管理加算 (件)	1,209
早期栄養介入対応延べ患者数 (人)	1,778

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)

2022.10.23-11.20 第75回国立病院総合医学会

「NHO 京都医療センターにおける早期栄養介入管理加算に関する取り組み」
森岡 宏介、平野 和保、別府 賢、寺嶋真理子、水津 悠、村田 敬

リハビリテーション科



専門医資格等
 日本専門医機構
 認定整形外科専門医
 日本整形外科学会
 認定運動器
 リハビリテーション医
 京都大学臨床教授
 京都大学医学博士

専門分野
 運動器領域

診療科長
山田 茂

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等
理学療法士長・近畿グループ理学療法専門職	上野 俊之	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修終了
副理学療法士長	岡田 直秀	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修終了
主任理学療法士	安田 夏盛	心臓リハビリテーション指導士、がんのリハビリテーション研修終了
主任理学療法士	今中 辰茂	心臓リハビリテーション指導士、呼吸療法認定士 日本理学療法士協会認定理学療法士（運動器）
主任理学療法士	増田 圭亮	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修終了
主任理学療法士	橋本 昌樹	
主任理学療法士	殿水 薫	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修終了
理学療法士	渡邊 俊介	心臓リハビリテーション指導士、呼吸療法認定士、 がんのリハビリテーション研修終了
理学療法士	岡崎 将人	がんのリハビリテーション研修終了
理学療法士	久保美佳子	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修終了
理学療法士	永山ひろみ	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修終了
理学療法士	岩中 勇磨	がんのリハビリテーション研修終了
理学療法士	奥脇 基	がんのリハビリテーション研修終了
理学療法士	高田 芽依	
理学療法士	山上 晴暉	
理学療法士	羽田真之介	
理学療法士	吉野つくし	
主任作業療法士	山本 大介	

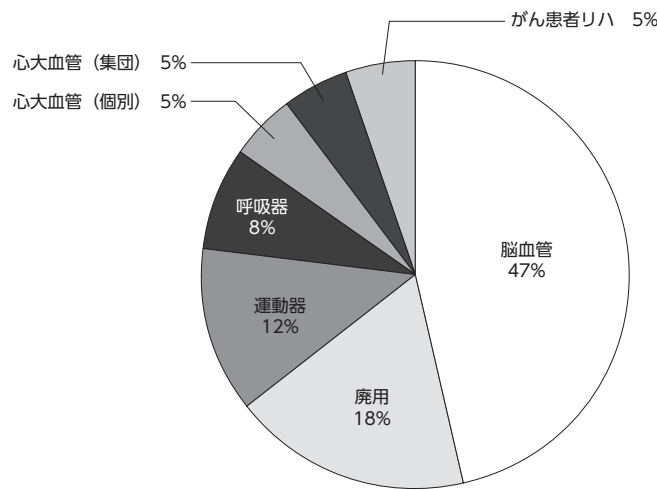
	氏名	専門医資格等
作業療法士	森岡 良太	
作業療法士	河津 啓志	がんのリハビリテーション研修終了
作業療法士	本田 大貴	がんのリハビリテーション研修終了
作業療法士	高橋 倫香	がんのリハビリテーション研修終了
作業療法士	藪下 裕輝	がんのリハビリテーション研修終了
作業療法士	廣尾 千晴	がんのリハビリテーション研修終了
作業療法士	豊田 桃佳	
主任言語聴覚士	柳田 直紀	日本言語聴覚士協会認定言語聴覚士 (摂食嚥下障害領域) がんのリハビリテーション研修終了
言語聴覚士	小林 理絵	がんのリハビリテーション研修終了
言語聴覚士	坂本 弥生	
言語聴覚士	野田 響子	がんのリハビリテーション研修終了
言語聴覚士	加藤 利和	
非常勤理学療法士	池上健太郎	がんのリハビリテーション研修終了
育児短時間(理学療法士)	廣野さつき	がんのリハビリテーション研修終了
育児休業(言語聴覚士)	奥村 真裕	がんのリハビリテーション研修終了
育児休業(言語聴覚士)	蓬臺 綾江	
非常勤事務助手(リハビリテーション科)	横田 美樹	

令和3年度の主な取組

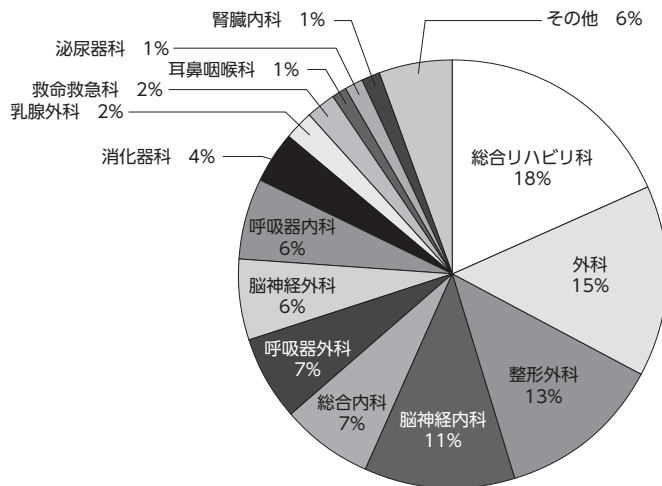
- ・各診療科から直接処方を受けるシステムにて、入院時からの早期リハビリ介入を実践している。また、急性期脳梗塞患者に対する早期リハビリテーション開始率の改善も継続
- ・休日リハビリ体制の充実を図り、可及的速やかな早期離床の実践
- ・脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、廃用症候群、がん等あらゆる疾患を治療対象として、質の高い理学療法、作業療法、言語聴覚療法の提供を目指す
- ・NST、RST、排尿ケアチーム、褥瘡対策チーム、転倒転落予防チーム等のチーム医療の参加や、各科・病棟カンファレンスを通じて医師や多職種との連携・情報共有
- ・COVID-19患者に対する介入
- ・新人教育マニュアルに則った職員教育をはじめ、各種研修会、勉強会を通じた人材育成

| 診療実績 |

2021年度 算定項目別割合 (実施単位数)



2021年度 診療科別割合 (処方数)



| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
2021.09.11	第40回臨床運動療法学会学術集会
[新たな肥満評価指標 ABSI は脳心血管病リスク因子重積と骨格筋指標低下を反映する] 池上健太郎、日下部 徹、村中 和哉、赤松 裕訓、山陰 一、井上 隆之、石井好二郎、浅原 哲子	
2021.10.23	第75回国立病院総合医学会
[当院における COVID-19 患者へのリハビリテーション介入] 今中 辰茂、久保美佳子	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.10.23	第75回国立病院総合医学会
「エルゴメーター進行表作成とその効果について検討」 渡邊 俊介	
2021.11.23	京都府理学療法士会 2021年新人症例発表会
「左視床出血による重度感覚障害に対し長下肢装具を用いて感覚入力を促した症例」 高田 芽依、今中 辰茂、増田 圭亮、安田 夏盛	
2021.11.23	京都府理学療法士会 2021年新人症例発表会
「右片麻痺を呈した左橋梗塞の症例について—早期離床を目指して—」 山上 晴暉、今中 辰茂、安田 夏盛	
2021.12.03	第6回糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会学術集会
「心血管疾患リスク合併を予測するサルコペニア肥満の診断方法に関する検討」 池上健太郎、日下部 徹、村中 和哉、山陰 一、井上 隆之、石井好二郎、浅原 哲子	
2022.01.16	第61回近畿理学療法学術大会
「COVID-19患者へのリハビリテーション介入報告」 今中 辰茂、久保美佳子	
2022.03.26-27 (発表日未決定)	第42回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会
「新たな肥満評価指標ABSIIは脳心血管病リスク因子の重積と骨格筋指標の低下を反映する」 池上健太郎、日下部 徹、村中 和哉、山陰 一、井上 隆之、石井好二郎、浅原 哲子	

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
<p>①原著論文</p> <p>Phase angle from bioelectrical impedance analysis is a useful indicator of muscle quality. Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle, 13, 1, 180-189, 2022.02 Akamatsu Y, Kusakabe T, Arai H, Yamamoto Y, Nakao K, <u>Ikeue K</u>, Ishihara Y, Tagami T, Yasoda A, Ishii K, <u>Noriko Satoh-Asahara</u></p>

臨床工学科



科長
阿部 充



臨床工学技士長
瓦谷 義隆
(2022年4月1日から)

専門医資格等
 特定高圧ガス取扱主任
 体外循環技術認定士
 第2種ME技術実力検定

所属学会
 日本臨床工学技士会
 全国国立病院機構
 臨床工学技士協議会
 日本人工臓器学会
 日本体外循環技術医学会

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	所属学会
臨床工学技士長	林 輝行 ~2022年3月		
主任臨床工学技士	柳澤 雅美	3学会合同呼吸療法認定士 不整脈治療専門臨床工学技士 透析技術認定士 第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 全国国立病院機構臨床工学技士協議会 日本呼吸療法医学会
臨床工学技士	沼田 篤志 ~2021年9月		
臨床工学技士	森 圭佑	3学会合同呼吸療法認定士 第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 全国国立病院機構臨床工学技士協議会 日本不整脈心電学会
臨床工学技士	嵯峨根由奈 2022年1月~ 産休・育休	3学会合同呼吸療法認定士 体外循環技術認定士	日本臨床工学技士会 日本人工臓器学会 日本体外循環技術医学会
臨床工学技士	桜井 明寛 ~2021年12月		
臨床工学技士	大津 暁翔	体外循環技術認定士 第2種ME技術実力検定	日本人工臓器学会 日本体外循環技術医学会
臨床工学技士	長屋祐太郎	第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 日本心血管インターベンション治療学会 日本体外循環技術医学会
臨床工学技士	瀬津健太郎 ~2022年1月		
臨床工学技士	奥間 彩 2022年2月~	第2種ME技術実力検定 心電図検定2級	日本臨床工学技士会 日本不整脈心電学会
臨床工学技士	上野 純弥	日本アフェレシス学会認定技士 第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 日本不整脈心電学会 日本アフェレシス学会
臨床工学技士	青木 美樹 2022年3月~	体外循環技術認定士 第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 日本人工臓器学会 日本体外循環技術医学会
臨床工学技士	平野 雄大	第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 日本心血管インターベンション治療学会

	氏名	専門医資格等	所属学会
臨床工学技士	川野 竜政 2022年3月～	臨床ME専門認定士 第1種ME技術実力検定 透析技術認定士 第2種ME技術実力検定 心電図検定3級	
臨床工学技士	牟田 直史	3学会合同呼吸療法認定士 第2種ME技術実力検定	
臨床工学技士	永田 京夏	第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 日本不整脈心電学会
臨床工学技士	吉川 拓都		
臨床工学技士	田村 成己		

｜ 令和3年度の主な取組 ｜

1. 担当技士（人事異動）

2021年度の臨床工学科は、15名のスタッフでスタートした。7月より夜間勤務が始まったが、緊急カテや緊急血液浄化業務の依頼があるため、夜間勤務に対応ができる人材は10名しかいない状況であった。また土・日の休みでの週休2日であったものが、集中治療加算の関係上、土・日・祝日ともに24時間体制での勤務となったことで、平日に週休を消化するため、以前より日勤帯業務に携わる人数が3～5名少ない人数で日常の業務を行った。そのため、休祭日には日当直業務とするなど、変則勤務にて対応を行っている現状となっている。また夜間勤務が始まってから、3名の退職者が続出し夜間勤務対応およびセカンド待機が7名での対応となり業務の縮小を余儀なくされた。途中採用で3名の採用にて補充を行ったが、スタッフの業務負担は軽減されず苦慮している状況であった。

ここ3年の間で9名が退職し、現スタッフの在籍年数は平均で2.4年である。そのため勤続年数が3年以下のスタッフが8割以上占めている勤務実態となっている。こういった状況は、勤務環境が大きく影響を与えていると考えられる。多岐にわたる幅広い業務が多く、かつ専門性が高く技術習得に時間がかかる業務の中で、スタッフ育成・教育について再考していき、優秀なスタッフを他施設へ流出させないように引き続き勤務環境の是正や人材の確保等に努力をしていく次第である。

2. 診療補助業務

世界的に猛威をふるった新型コロナウイルス感染症は、爆発的な感染者増加等が問題となっている。現在は一定の落ち着きを取り戻しているが、今後の動向については未知数である。混乱を極めた本感染症において、人工呼吸器の使用やECMOといったME機器を用いた治療が功を奏した。こういったME機器装置の使用や管理においては、当部署も重要な役割を担い、人工呼吸器や血液浄化等の操作やカテーテル室での対応等に貢献した。またECMOにおいても救命センターにて8例の対応を行った。

心臓カテーテル室の運用については、2021年4月の人事異動で、アブレーション担当医師が新たに着任された。従来の3Dシステム2社から新たに3Dシステム（リズミア）が導入となり3社への対応となった。また7月より装置の故障にて2室の運用から1室の運用となった。緊急時や並列症例時には2階の脳カテーテル室を使用されるため、各種装置の移動や物品等の移動に時間を要する対応となり人員を割く状況が生じている。

2022年1月からハイブリッド手術室の運用が開始されたことに伴い、ペースメーカー関連の手術枠が4回/月から6回/月に増加した。また今後導入されるであろうTAVIに向けたシミュレーションや他施設への見学など、運用に向けて準備を行っている。

在宅透析においては、従来当部署で対応を行っていたが、院内業務における人員確保が難しい状況となり、メーカー委託へと業務削減することになった。

遠隔モニタリングについては、夜間勤務時間帯での業務として定着できるよう構築をおこなった。今後更に夜間勤務における業務の拡張を検討していく。新たな業務依頼のある内視鏡手術での診療支援やトラブル 時の依頼などにも対応できるように今後の課題として調整・教育および人員要求を行っていく。

令和3年度 臨床支援業務件数

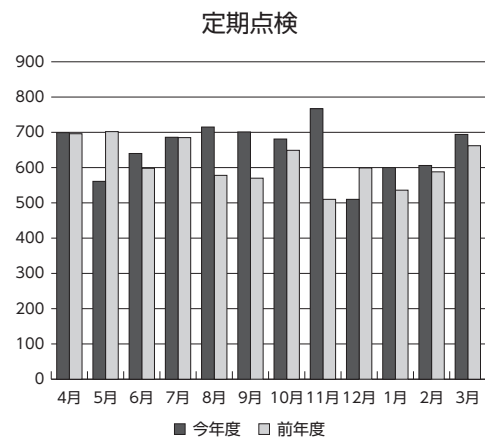
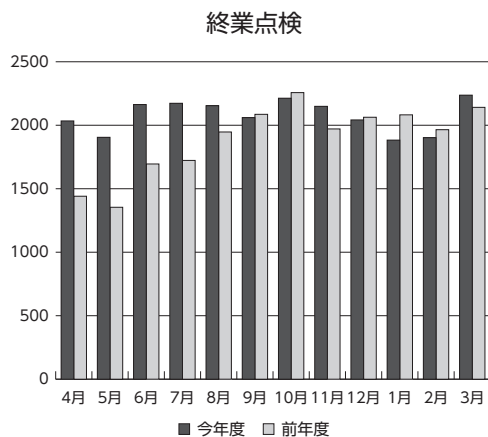
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液 浄化業務	血液透析件数 (人工腎)	203	205	177	206	146	213	171	168	211	216	186	209	2311
	特殊血液浄化療法 (人工腎以外)	29	42	19	19	33	21	19	36	32	33	23	34	340
	今年度	232	247	196	225	179	234	190	204	243	249	209	243	2651
	前年度	226	164	206	135	112	127	219	210	207	234	187	220	2247
人工呼吸 関連業務	人工呼吸器 ラウンド	202	174	97	104	134	153	59	107	112	70	146	129	1487
	NIPV装着	90	74	100	71	130	97	30	84	89	73	150	125	1113
	今年度	292	248	197	175	264	250	89	191	201	143	296	254	2600
	前年度	163	153	191	189	162	229	217	197	259	291	243	228	2522
人工心肺 業務	人工心肺	5	4	4	5	3	2	2	6	1	1	3	4	40
	off pump	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
	ステグラ	1	1	0	2	1	2	0	1	3	1	1	0	13
	今年度	6	6	4	7	4	4	2	7	6	2	4	4	56
前年度	6	5	7	3	4	3	5	5	7	6	7	7	65	
補助循環 関連業務	大動脈バルーン パンピング	1	1	1	1	1	1	3	3	6	0	1	1	20
	経皮的心肺補助	1	1	0	0	3	1	0	1	0	0	1	1	9
	低体温	3	0	0	0	1	2	2	3	0	0	0	2	13
	今年度	5	2	1	1	5	4	5	7	6	0	2	4	42
前年度	3	2	4	1	1	5	2	0	6	1	2	2	30	
ペー メーカー 業務	植込み・電池交換	6	8	3	5	2	4	2	5	2	5	7	1	50
	他科立会い	2	3	4	7	3	3	1	1	1	1	2	1	29
	外来点検	55	57	69	50	51	54	49	55	57	49	42	73	661
	今年度	63	68	76	62	56	61	52	61	60	55	51	75	740
前年度	63	41	66	64	57	62	87	57	67	48	39	59	710	
カテ室 関連業務	診断カテ	50	44	57	60	58	47	44	53	53	30	44	48	588
	PCI	30	19	28	25	24	24	27	23	28	7	21	26	282
	ABL・EPS	5	5	11	8	8	7	10	9	8	5	3	4	83
	PTA・その他	14	5	11	6	5	5	5	5	7	4	5	8	80
	今年度	99	73	107	99	95	83	86	90	96	46	73	86	1033
前年度	63	42	69	69	70	67	67	60	74	62	73	92	808	
手術室 関連業務	ラジオ波焼灼術	1	1	1	2	1	0	4	3	1	1	2	1	18
	SEP・MEP	16	11	9	7	13	11	16	11	10	7	9	10	130
	ダヴィンチ	18	12	16	14	10	12	11	12	9	9	13	14	150
	自己血	0	1	1	0	5	2	1	2	2	2	2	2	20
	今年度	35	25	27	23	29	25	32	28	22	19	26	27	318
前年度	23	17	20	34	25	27	25	25	25	27	24	25	297	

3. ME 機器管理業務

医療機器管理業務では、従来からの輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器をはじめとした中央管理機器の返却点検業務を行っている。返却点検は昨年に比べて160件/月（2000件/年）の増大で、定期点検においても400件/年の増大となった。医療機器に関する業務を夜間勤務時間帯に行っていくように調整を図るも現状として進んでいない。今後の課題として整備していく。また定期点検等の内容が浅いものも多く今後の機器管理システムの在り方を再構築していきたい。機器管理登録システムにおいても、現場で対応できるように、タブレットを用いた運用方法を検討していきたいが、未だ購入の目途が立たない状況である。

令和3年度 機器管理業務件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	/ (平均)
終業点検 件数	今年度	2034	1905	2163	2173	2154	2060	2213	2149	2042	1883	1902	2237	24915	2076.3
	前年度	1441	1354	1695	1723	1947	2086	2257	1971	2063	2082	1965	2141	22725	1893.8
定期点検 件数	当科実施	698	557	571	623	640	661	656	579	500	590	595	669	7339	611.6
	メーカー実施	1	4	69	63	75	40	25	188	10	10	11	25	521	43.4
	今年度	699	561	640	686	715	701	681	767	510	600	606	694	7860	655.0
	前年度	696	702	598	685	578	570	649	510	599	536	588	662	7373	614.4
	当科 実施率 (%)	99.9	99.3	89.2	90.8	89.5	94.3	96.3	75.5	98.0	98.3	98.2	96.4		
修理・ OH件数	当科実施	52	36	34	35	25	37	78	44	75	31	19	38	504	42.0
	メーカー 実施	49	41	51	44	39	28	27	44	59	33	28	32	475	39.6
	今年度	101	77	85	79	64	65	105	88	134	64	47	70	979	81.6
	前年度	43	66	148	112	65	68	97	99	91	81	66	91	1027	85.6
	当科 実施率 (%)	51.5	46.8	40.0	44.3	39.1	56.9	74.3	50.0	56.0	48.4	40.4	54.3		



日常返却点検として平均で80件/日（月平均で約2,000件）

4. その他活動

本年度も例年通りRST（呼吸サポートチーム）に参加するとともに、臨床工学技士が毎日病棟呼吸器ラウンドを実施し、人工呼吸器が適切に使用されるよう設定等のチェックを行った。

7月に熊本豪雨災害があり、スタッフ1名の派遣を行った。

5. 臨地実習受け入れ

なし

6. 研究活動

論文・学会発表 なし

看護部



専門医資格等
認定看護管理者

部長
福井久美子

令和3年度

| 看護部の理念 |

私たちは、常に患者さんと共に歩み、安心して納得のいく医療を受けていただくために、わかりやすく丁寧な看護を提供いたします。

| 看護部の目標 |

スローガン

「基本の基」 コミュニケーションと看護のエビデンス

目標

1. 患者が安心できる「看護」を提供する
2. 自ら学び、自ら思考する主体性のある看護師を育成する
3. 風通しの良い職場環境づくりに努める

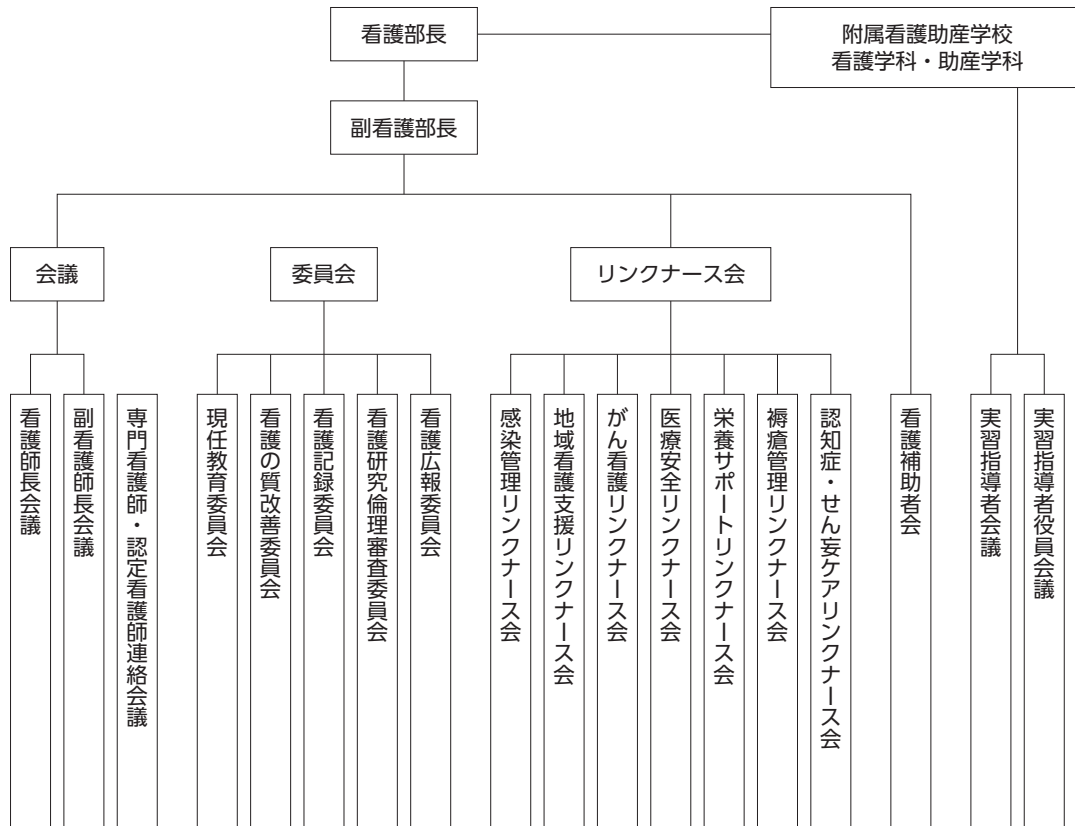
| 目指す看護 |

「患者が安心して医療を受けられるために、安全で優しく丁寧な看護に努め、責任をもって継続した看護を実践します。」

別紙 1 : 令和 3 年度 看護部組織図



別紙2：令和3年度 看護部会議・委員会組織図（機能図）



看護部が関わる主な病院諸会議

- 管理診療会議
- 経営企画・業績評価委員会
- コロナ本部会議
- サービス向上委員会
- 薬事委員会・医療材料委員会
- 診療報酬管理委員会
- 病床管理委員会・小委員会
- 外来管理委員会
- 手術室運営委員会
- 集中治療室運営委員会
- 救命救急委員会
- 緩和ケア運営委員会
- 地域医療連携委員会
- 褥瘡対策委員会
- 栄養管理委員会・NST委員会
- 倫理委員会
- 透析委員会
- 臨床検査委員会
- 広報委員会
- 輸血療法委員会
- 化学療法委員会
- 医療安全管理委員会
- 医療事故対策委員会
- リスクマネージャー会
- 院内感染対策委員会
- 災害対策委員会
- 医療機器安全管理委員会
- 医療情報委員会・小委員会
- クリティカルパス委員会
- 安全衛生委員会
- 動物実験委員会

看護部の活動（令和3年度）

会議・委員会

	活動目標	活動内容
看護師長会	<p>「危機管理・災害」目標：各診療科の看護師が実践可能なBCPの見直しと作成</p>	<p>①発災～1ヶ月後までの内容でBCP看護版を作成（一般病棟、2-3/NICU、救命センター、集中治療室、手術室、外来、透析室）</p> <p>②発災時用アクションカードを作成（①に対をなすもの、看護師長用）</p> <p>③災害時に使用を定められている各種伝票類の種類と保管状況を調査し、統一した保管と使用ができるように整備（11月配布）</p>
	<p>「看護管理者教育」</p> <p>①新人看護師長が年間目標を達成できるように支援体制を整える</p> <p>②看護師長の能力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度作成途中の新人看護師長支援体制年間計画をマネジメントラダーの視点を組み込み作成した。 夜勤管理師長シャドウイングを行った。（遅出12:00～20:45）（別紙2） 独り立ちでの実施後、追加で夜勤管理師長シャドウイングを実施した。 プリセプターの役割を担い、週1回～2回程度、日々の業務で必要時、看護管理、就業規則、ワークライフバランス、労務管理、職員管理、安全管理について説明した。また、精神的支援を行った。 後期、新人看護師長の困っていることの聞き取りを行い、RCA分析に取り組む計画を立案中 6月と1月に看護師長の能力評価のためマネジメントラダー評価シートⅡで自己評価した。 7/29リフレクションについてPPを用いて・概念化・リフレクションサイクル・コーチング方法について学習会を実施した。9/27「管理夜勤時の迷惑行為」の事例で看護マネジメントリフレクションを演示し、意見交換した。 11/11、11/15 全看護師長がリフレクションを体験した。
	<p>「ACTY2教育関連」</p> <p>令和6年度Acty2の新しい運用にむけて段階的にスムーズに移行できる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「看護職員のキャリアパス再構築について」を用いて、7月15日教育に関する方向性（2段階に移行するレベルVについての正しい理解をした。 本年度のレベルV修了者、レベルⅣ修了者の考え方が重要で到達度評価を整理した。 レベルV修了者、修了者の考え方の検討 レベルⅣの評価基準が重要となり、評価基準の具体化を行った レベルⅣ評価基準の完成、本年度のラダー評価で使用した
<p>「経営参画」</p> <ul style="list-style-type: none"> DPCの知識を持つことができる 患者数確保/DPCⅡ期内退院を目指す 診療報酬の取得漏れをなくす 	<ul style="list-style-type: none"> 医学科と共同しDPC勉強会を実施し、診療報酬制度（DPC請求）についての知識を持ち、自部署の患者のDPCデータを読み解き、DPCⅡ期内の退院を目指すように、各病棟、DPCⅢ期・Ⅲ期越えの患者の課題・対応策を立案し、対策の実践に努め、毎月の結果を分析・評価した。その結果、DPCを意識するようになり、早期にDrや患者・家族に今後の方針を確認し、退院支援を行えるようになった。 指導料算定件数増加に向けて、加算等の要点を一覧にして資料を配付し、毎月、件数結果を各病棟に発信し、加算がとれていない病棟にフィードバックし検討を行った。 診療密度をあげるために、処置入力漏れをなくす取り組みとして、処置材料のピンクシールの運用手順を作成し、1日1患者・処置（材料）で対応し、処置入力を確実にし、収益増加に努めた。 	
副看護師長会	<p>【教育：Acty2の運用において、看護職員が納得できるよう評価を行うために、評価視点の共通した認識を形成する】</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 昨年度Acty能力評価の活用について、各病棟での現状把握と問題の抽出 2) 各病棟の問題点、Actyの活用について再検討し年間計画立案 3) 集合研修に併せてラダー別に能力評価表のActy読み解きを各項目ごとに全員で実施のため方法の検討 4) グループ全員でActy読み解き実施し、各項目の共有認識 レベルⅡ：看護アセスメント レベルⅢ：コーチング 5) 各病棟で研修前の動機づけ、研修後の学びで読み解き活用 6) 9月副看護師長会で、「新人看護師の教育を通してスタッフに対する教育の「学びほぐし」をして新たな価値観や考え方を吸収しよう」をテーマに全体討議、各自グループワークで意見を言い傾聴し教育に対する学びほぐしの実施 7) ACTYナースレベルⅢ最終評価用の98項目読み解き実施
	<p>【教育：看護職員それぞれの教育的支援体制を明確にし、OJTを充実させる】</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 固定チームナース看護方式の勉強会の実施（看護師長ワーキングと連携で開催） 2) 固定チームナースについて全体討議 3) 1月より各病棟で固定チームナース導入開始
	<p>【管理：業務フローを見直し、業務を整理する】</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日勤帯での各業務内容を見直し、業務整理のための全体討議を実施 2) 業務内容を共通認識し、それぞれの項目の目的、内容、方法を検討 3) 業務内容の考え方を統一し、まとめを作成

	活動目標	活動内容
副看護師長会	<p>【管理：日々の看護実践の中から課題を抽出し、検討することで、副看護師長としての管理的視点を養う】</p> <p>【手順：看護手順をナースングスキルに統一する】</p>	<p>管理的視点を養うため、考え方の一つである看護管理問題解決プロセスを使用する。事例検討から方法論ではなく、あるべき姿と現状の問題について常に本質的な問題を考え、管理的視点、教育的視点、倫理的視点から課題形成を行う思考過程を学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例検討… 6月「感染事例」危機管理 10月「麻薬のインシデント」 1月「休憩前の業務調整」 <p>1) 当院の看護手順257項目中、ナースングスキルにアップされている看護手順内容を比較 2) ナースングスキルの看護手順147項目中、手順や物品の名称等28項目の修正</p>
現任教育	<p>集合教育とOJTの連動を図り、ACTyをベースにした現場教育の強化</p>	<p>【ACTyおよびテーマ別研修の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間計画に添って、計画通りに研修を実施した（研修計画参照） <p>【集合教育とOJTとの連動】</p> <p>【研修前】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5～7月の会議で、レベルⅡ（看護アセスメント）、レベルⅢ研修（後輩支援）、レベルⅡ研修（リフレクション）について、ACTyの読み解きと研修内容の検討を行った。 毎月の会議で、実施予定の研修について、研修の目的や内容、動機づけについて情報共有を行った。 <p>【研修後】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月の会議で、研修時の研修生の状況（到達度）と、どのようにOJTにつなげて欲しいかについて情報共有を行った。 集合教育で実施したことを、具体的にどのようにOJTに活かしていくかについて、9～12月の会議で検討を行った（レベルⅡ研修；リフレクション、レベルⅣ研修；看護チーム内での役割遂行、部署全体で倫理観を高めていくためのOJTについて、レベルⅢ研修；倫理カンファレンス）。どのような場面やスタッフを活用するか、学習目標に到達するためにどのように導くか等、具体的に話し合い、現場で活かせるようにした。 <p>【研修後課題へのOJT】</p> <ul style="list-style-type: none"> レベルⅡ；看護アセスメント、レベルⅣ；業務改善（フィッシュボーン分析）、レベルⅢ；倫理カンファレンスについて、研修後の事後課題について、教育担当看護師長、副看護師長が各部署でのカンファレンスに参加した。課題（学習）の意図を踏まえ、OJTにつなげられるように介入した。
看護記録	<p>看護記録記載基準に沿った適切な記録の周知とともに、実施した看護がわかる看護記録の充実を図る</p>	<p>【1. 適切な看護診断と看護評価ができる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月共同問題、看護問題、標準看護計画の共通理解のために資料の配布と学習会を実施 看護診断へ修正後の問題点の抽出 新しい看護診断の不具合の修正 看護診断の適正使用と評価（ネーミング 評価日設定 評価内容） 看護サマリー記入調査 <p>【2. 実施した看護がわかる記録の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 量的看護記録監査 質的看護記録監査 監査内容のフィードバック 行動制限と継続看護について、各病棟で現状分析、対策立案し取り組み <p>【3. 電子カルテの更新・音声入力システム導入に向けた検討ができる】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の電子カルテの問題点の抽出 問題点の分類と次回電子カルテ更新に向けた改善案のまとめ 音声入力システムのデモ（8月～12月8台を11部署）と活用の検討
広報	<p>1. 人材確保対策</p> <p>2. 離職防止（中堅看護師を育てる）</p>	<p>【看護部ホームページの更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月～9月ホームページ更新内容検討 10月ホームページ構成決定 11月各部署へ原稿依頼、写真撮影実施 12月ホームページ更新…各部署の看護場面が分かる写真を撮影し、部署紹介を更新した。また、教育システムなど学生が興味がある内容を最新に更新した。 <p>【看護部パンフレットの更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月～8月パンフレット構成検討 9月各部署へパンフレット更新への意見募集 10月各部署へ原稿依頼、写真撮影 12月パンフレット更新…病院の特徴・看護部の概況・各部署の説明・教育システムなど必要な情報を網羅した内容とした。斬新で京都らしく印象に残る表紙デザインとし、内容の充実を図った。

	活動目標	活動内容
広報	1. 人材確保対策 2. 離職防止（中堅看護師を育てる）	【看護部の魅力を内外に発信する】 ・ 6月就職説明会用看護部DVDシナリオ検討 ・ 7月DVD作成 ・ 8月就職説明会でDVD活用…今年度の病院、看護部の理念や情報を提供することができた。紹介部門は今年度の当院の重点部署にポイントを絞ることで多方面から看護を提供していることがアピールできた。
看護の質改善	1. 看護ケアの質評価を行い看護職員の資質の向上と看護の質改善の推進を図ることができる	【看護職員の資質向上をはかるために、看護実践能力の質を測定し評価する。評価結果を分析・各病棟の課題を明確にし課題に取り組む】 日々の看護実践を「患者安全」という視点で「患者安全のための看護実践自己評価」尺度を用いて調査を実施した。（質問8項目40問）対象：全看護職員、調査期間：1回目（6/14～6/25）2回目（12/1～12/10）自己評価ツールを用いて自病棟の看護ケアの質の状況を明らかにし問題提起し改善が具体的におこなえるよう委員会メンバーで話し合い共通認識することができた。看護実践自己評価結果の低かった項目、「忙しい時ほど丁寧に対応している」が低く、6Rができていない結果であった。病棟ラウンド（10/12）を実施。心電図モニター・輸液ポンプ・その他医療機器に対する聞き取り調査を実施した。患者にとって安全な療養環境を整えリスクを予見し看護ケアを提供するために自病棟の医療機器に関連した問題について、具体的な対策を立て取り組みを継続することで改善に繋がった。患者の安全保証という視点から看護の質を評価尺度を用いて定期的に評価し、自己の行動を振り返り、より安全な環境を整える取り組みを継続することができた。
	2. 患者満足度が向上する	【患者満足度が向上する】 ・ 退院時アンケート調査 1回目（7/1～7/31）2回目（12/1～12/31） ・ 自由記載の内容については病棟でカンファレンスを実施。退院時アンケート自由記載の内容から問題抽出し改善にむけた取り組みをおこなった。病棟で患者カンファレンスを実施したことで「医師や看護師などのチームワークについて」「療養環境について」の項目で改善がみられた。7月、12月と退院時アンケート結果を比較すると「全くそうだ（満足）」の割合が高い結果となった。要因としては、退院時アンケート自由記載の内容を病棟カンファレンスで検討し、業務を見直したり、タイムリーに対応できたことなどが考えられる。アンケート結果から患者への説明、療養環境の改善に繋がった。 【身だしなみ、マナー・接遇チェック】 ・ 身だしなみ、マナー・接遇チェックを実施（各病棟で1回/毎月） ・ 【身だしなみ、マナー・接遇】病棟ラウンド実施（11/17） 毎月の実施と病棟ラウンドを実施したが、低かった項目：1. 髪-3（派手な色）、皿手-1爪が伸びていないIV服装-1腕時計を装着している皿-2あいさつ、9同僚同士が愛称で呼び合っていない、11ベッドサイドや廊下、スタッフステーション内で私語をしていない、については100%には至らなかった。職員同士がお互いに指摘しあえる風土作りが必要であった。

連絡会

	活動目標	活動内容
専門看護師・認定看護師連絡会	組織横断的な活動を行い、実践や集合教育を通して当院の看護実践力の強化ができる	【活動内容の報告】 ・ 毎月、各分野の活動内容報告を取りまとめ、活動の中での工夫点や意識していることなど、他分野でも取り入れたい情報の共有を行った。 【「うずらのカップ」開催】 当連絡会が主催となり、12/4（土）に開催。主催者側スタッフ：23名、うずらのカップ出場者：41名で6つのテーマに対してシナリオ作成しファシリテーターとして活動した。事後アンケートでは各質問項目90%以上が「良かった」「臨床に活かせる」という評価を得た。
	院内外に向けた広報活動ができる	病院パンフレットのコメントやホームページ更新に伴う活動内容の報告・修正などを行った。

	活動目標	活動内容
	1. 内服インシデント件数が、昨年度より半減する	<p>内服・麻薬・転倒のグループに分かれて活動。</p> <p>【内服インシデント聞き取り調査から、インシデント発生時の状況・背景の分析】 看護師が誤薬のインシデントを起こす背景について分析をしたところ、時間があれば回避できたのではないかと結果となった。</p> <p>【ナースコールを減らす取り組み】 時間の確保をするにはどうしたら良いかを検討した。患者の行動を予測して動くことで、「ナースコールを減らす」ことに繋がり、質の高い安全な看護が提供でき、看護のやりがいにつながると考え、ナースコールを減らす取り組みを行った。しかし、実際にナースコールが減った、心理的焦りが減ったと感じたスタッフは40%であった。また取り組み前後のインシデント数と患者数比較では、患者数が減ってインシデントが増えており、患者数が多い=忙しいではない。</p> <p>【内服手順チェック】 6月と12月に実施した、病棟スタッフ手順チェックの結果、ばらつきはあるが、おおむね12月の正答率が上がっている。実施時の6Rは100%の結果であるが、実際インシデントは発生しており、チェック時しか正しくできていないと推測される。また、抜き打ちチェックでは、準備段階で6Rが50%、実施時には新たな指示の確認、指差呼称が50%しかできていなかった。実際には手順を守らず、正しい服薬行動がとれていない現状がある。 今年度12月の段階で内服インシデントは329件と昨年度より52%減少した。</p>
医療安全リンクナース会	2. 麻薬インシデント件数が、昨年度より減少する	<p>①全病棟統一した麻薬管理の整備 各病棟で管理日誌の記載方法が異なっていたため、病棟管理日誌No.4の見直しを行った。10月より運用開始し、記載は各部署誰が見てもわかるよう統一できた。 麻薬の配薬は他の薬剤と混在せず、視覚的に麻薬を取り扱っていることを認識できるよう、1月より麻薬専用ケースの導入を図った。</p> <p>②病棟麻薬ラウンド 7月・9月・1月と内容に応じて、各部署の状況確認を行った。麻薬ラウンドを実施し、すぐに改善すべき点を直接病棟にフィードバックできている。</p> <p>③麻薬テストの実施（管理編・薬効編） 麻薬テスト（管理編）の結果、正答率が低い項目は「薬剤部での受領」「錠剤落下時の初期対応」「貼付剤紛失時の初期対応」であった。概要は知っているが、詳細な理解は曖昧であり、9月に各病棟リンクナースからスタッフへ詳細な理由とともに再度説明を行った。 麻薬テスト（薬効編）では、正答率の高いものは「オピオイドの使用」、一番低いものは「オピオイドによる副作用予防」であった。管理編と同様に、注射薬・内服・貼付剤等麻薬の使用頻度により部署間での差があった。 当院は地域がん拠点病院であり、麻薬の基礎知識は身につけておく必要があるため、麻薬の種類、投与経路といった基礎知識においては、12月に全員正答するまで再テストを実施した。 1回目・2回目テストで約80%が習得し、2回目以降ラダーⅠ～Ⅴ履修者で正答率に大きな差はなかった。4回の再テストで全員、麻薬の基礎知識の習得ができた。 麻薬インシデントは昨年度平均5.8件より減少していないが、3ヶ月毎の推移では23件から9件へと減少してきている。</p>
	3. 転倒転落の予防策が考えられる	<p>【病棟カンファレンスに参加】 転倒グループで転倒転落を予防する視点を統一し、近日中に発生した病棟の転倒カンファレンスに参加し、患者要因、環境要因から転倒予防に対するスタッフの意見を聞き、リンクナースがアドバイスした。6回カンファレンスに参加したが、看護師の具体的な看護計画には繋がらなかった。転倒転落の視点で患者の生活環境や看護計画を考えることができていない。そこでグループで共通認識した転倒転落の予防に関する視点シートを作成し病棟で患者に関わるときに使用してもらい、アセスメントや看護計画に転倒予防の視点が加わるようにした。転倒転落予防の視点シートの運用手順を示し、1月から運用開始とした。</p> <p>【転倒記録の監査】 各病棟のリンクナースが実施し、自病棟にフィードバックできた。看護計画やカンファレンスの記載がないなど実態が分かった。毎月監査し、直接リンクナースがフィードバックすることで記載率の改善につながっている。看護計画などの記載内容の具体性や転倒予防の視点で患者の生活環境を考えた計画が課題。 転倒転落件数は4～7月の平均48.5件であった。ラウンド・監査の介入後、8月9月は49件で変わらず。しかし転倒後の骨折が9月に4件と発生している。転倒件数の減少には至っていない。</p>

	活動目標	活動内容
感染管理リンクナース会	標準予防策・感染経路別予防策が各部署で実践できる	<p>【1 処置 1 プッシュが遵守できる取組み】</p> <p>各部署の患者の状況に合わせたゴージョーの理想使用回数と目標使用回数の再設定を行った。その後各病棟、使用増加に向けた介入として手指衛生の学習会（高頻度接触部位についてレクチャー）、個人使用量の可視化、使用タイミングのテスト、全部署ゴージョーポシェットの携帯を実施した。またゴージョーの使用量が少ない職員に対して聞き取り調査を行い、適正に使用できない理由を明らかとして介入計画の立案と介入を行った。先行の文献より最もゴージョーの使用率が少ないとされる、患者ゾーンの出入りの直接の観察を50場面の調査を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴージョーの使用量は21部署中9部署が目標達成（前年対比：1.4倍） <p>【感染防止の視点での環境が維持できる取組み】</p> <p>各部署、環境整備の実施状況の確認を実施。環境整備の実施のアクションプラン作成し、環境整備が定着できているか確認を行った。また、療養環境の整備ができているか、ナーシングスキルのチェックリストを用いて確認を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部署環境ラウンド2回/年を実施 ・インフルエンザ・ノロウイルスの予防のための全スタッフへの周知 <p>【個人防護具（PPE）の着脱が適切に実施できる取組み】</p> <p>全部署、全看護職員が適切にPPEの着脱を行うことができるように指導の計画を立案し実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PPEの着脱技術の確認を年間2回実施
地域連携リンクナース会		<p>【自部署の退院支援が実践できる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新採用者、他施設からの異動者に「入退院支援に関する診療報酬－令和2年6月作成－」を用いて説明、周知した ・eラーニング：ナーシングスキルを活用し、「退院支援における病棟看護師の役割」あるいは「外来看護師の役割」視聴・テストを促し、全スタッフの視聴終了を支援した。視聴期間内に終了：9病棟、以降視聴7病棟が実施した。 <p>【多職種と連携し、退院支援を積極的に実施できる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院支援における、リーダーシップを発揮するために、地域連携室担当者と調整・協働の窓口となり、積極的に情報共有をおこなった ・退院支援が必要（困難）な対象の看護計画の確認、追加修正を受け持ち看護師へ促し、10月 11月 12月を強化月間として、その内容をリンクナース会で報告、他病棟の工夫を共有した。退院支援が不十分な事例検討を実施し、早期に対応する必要性を学んだ。また、リンクナースが他病棟のカンファレンスに参加した。 ・退院支援ツール（吸引・経管栄養・HPN）の積極的活用を促進する 使用あり：3病棟 対象者なし：11病棟 対象者がいない病棟は、退院指導リーフレットの積極的活用をすすめ退院指導を実施した。 ・自部署の退院前・後訪問の実施 退院前訪問：（前期6件 後期2件）計8件 医療的ケア（人工呼吸器・胃管挿入）処置を受ける患者が対象であった。
褥瘡対策リンクナース会	1. ポジショニングについての技術を習得し、ポジショニング要因での褥瘡発生件数を減少することができる	<p>【ポジショニング技術の習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リンクナース、看護師長、副看護師長がポジショニングの技術をマニュアルを用いて確認し、WOCによるポジショニング技術の評価を受けた。その後、リンクナースが自病棟のスタッフにポジショニングのチェックを行った。 ・褥瘡発生の多い病棟に、予防策を強化、勉強会を実施する個別対応を行った。 <p>【新たなポジショニンググローブの採用】</p> <p>ポジショニンググローブを導入し、その使用方法を各病棟で伝達、指導した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジショニンググローブの早期定着を目指して「グローブを使用した背抜き効果」を体圧計で、「ずれの状態」を物差しで可視化した。また、ポジショニンググローブがすぐに使用できるように環境を調整した。 ・褥瘡発生率は、前期は4月2.52%、5月3.46%であったが、技術チェック後は6月0.68%、7月1.31%となり、後期も10月0.86%、11月1.82%と減少した。 ・褥瘡治癒率は、前期は4月13%、5月29.1%と低かったが、技術チェック後は6月30.4%、7月43.5%と高くなり、後期9月45.5%、10月28.9%、12月：50.8%と高くなった。

	活動目標	活動内容
褥瘡対策リンクナース会	2. 褥瘡に関するアセスメントを実施し、患者の個性に応じた褥瘡予防ケアの実践ができる	<p>【危険因子の評価、記録漏れを防ぐ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険因子評価表の未作成0件にむけた取り組みを各病棟で行った。各病棟の取り組みの内容は、未入力結果をスタッフへフィードバック・評価漏れチェック用のファイルを作成・チェックシートの作成・カルテラウンドなどであった。 <p>【危険因子を踏まえた看護計画の立案と看護計画の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険因子を踏まえた看護計画の立案と看護計画の評価ができるように各病棟で取り組んだ。各病棟の取り組みの内容は、褥瘡カンファレンスの積極的な開催、評価日を設定するなどであった。 褥瘡がケア観察できているか、褥瘡ケアマニュアルで定められた内容が、看護記録に記載されているかを形式監査した。対象者は、褥瘡保有患者1名、日常生活自立度B、C各1名 危険因子評価表未作成は、前期は平均7件～31件であったが、後期は9件～17件であった。 記録監査結果は記載が低い項目として「看護計画・看護評価、週1回修正されている」「褥瘡対策に関する専任医師、看護師の記載がある」であった。
認知症せん妄ケアリンクナース会	<p>1. せん妄・不眠についての知識技術を習得できる。</p> <p>2. 病棟の特徴的な手術、検査、処置などによるせん妄リスクをアセスメントでき、適切なタイミングで評価、せん妄対策ができる。</p> <p>3. せん妄リスクのある患者の不眠について、個別的な看護実践ができる</p>	<p>リンクナース会 3回/年(7月、9月、1月)開催</p> <p>【知識技術の習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内外認知症ケア研修 参加7名/14名、講師1名 「せん妄予防対策」視聴：ナーススキルアクセス数464 「せん妄と不眠」視聴：ナーススキルアクセス数140 認知症の人の痛みについて、講義資料配布 せん妄不眠に関するチャレンジテストを2回/年実施。 前期(8月～9月)：平均値10.5/15点・中央値11/15点(n=296) 後期(12月～1月)：平均値11.6/15点・中央値12/15点(n=306)と、平均値中央値ともに上昇し、知識の向上が図れた。 <p>【せん妄リスク評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部署のせん妄リスクとなる手術、処置、検査時に焦点を当て、適切なタイミングでアセスメント、せん妄予防が実践できているよう病棟ごとに状況把握と課題分析を3回/年検討した。 年間の各病棟での取り組み発表会を実施。部署の特徴に合わせた取り組みや、せん妄予防対策としてのリーフレットの活用、自部署のスタッフ教育を行った。 <p>【個別的な看護実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「せん妄と不眠について」「痛みをともなう認知症患者について」の2回/年、事例検討を実施。病棟でもカンファレンスも行い、アセスメント能力向上をはかった。 <p>【リンクナースの経営参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアチーム依頼方法、認知症ケア加算1取得(依頼方法、マニュアル、算定方法)、せん妄予防、せん妄ハイリスク患者ケア加算(算定方法)について説明しリンクナースが病棟の中心となって活動できるように体制を整えた。 認知症ケアチームカンファレンス・ラウンドにリンクナースが参加し、学びと自己の振り返りをレポートに記載しチームとの連携強化をはかった。 せん妄ハイリスク患者ケア加算状況を定期的にリンクナースと共有した。算定状況：6710件/年(令和2年度)→約8500件/年(令和3年度)見込み。 認知症ケア加算1算定状況を定期的にリンクナースと共有した。算定状況：7388件/年→5176件/4月～1月。

看護部教育・研修

1) 看護部教育研修(令和3年度)

	研修目的	受講者	時間	開催日	主な研修内容
新採用者研修	【消防訓練】火災時、初動のための消火器、消火栓の使用について学ぶ	60	1.0時間	4/5	演習(消防訓練)
新人看護師研修	【コミュニケーション】患者一看護師関係構築における援助的コミュニケーションを図ることができる	83	1.5時間	4/12	シミュレーション学習
新採用者研修	【電子カルテ】電子カルテの基本操作、および情報収集の方法について学ぶ	86	2.0時間	4/14	演習

	研修目的	受講者	時間	開催日	主な研修内容
新人看護師研修	【移送】 移送の技術について学ぶ（車いす、ストレッチャー）	83	1.5時間	4/16	演習
レベルⅠ研修	【BLS】 看護実践の場において、急変時の基本的な対応を学ぶ	83	1.5時間	5/27 5/28	講義、演習、グループワーク
レベルⅣ研修	【業務改善】 業務改善に取り組み、チームの中で看護の質を高めるためのリーダーシップを発揮することができる	35	1.5時間	6/11	講義、グループワーク
レベルⅡ研修	【看護アセスメント】 看護アセスメント能力を養い、根拠に基づいた看護が実践できる	56	1.5時間	6/18 6/25	グループワーク
レベルⅢ研修	【後輩支援】 後輩支援の役割を果たすための能力を養う	32	1.5時間	7/3	講義、グループワーク
レベルⅤ研修	【看護研究】 研究的視点をもって、看護実践の場でおこる疑問を、リサーチクエストンとしてあげることができる	44	1.75時間	7/16	講義、演習
テーマ別研修	【ALS；二次救命救急処置技術】 急変時の対応を通し、自己の役割を果たす	62	2.25時間	7/20	講義、演習、グループワーク
レベルⅠ研修	【看護展開】 看護過程の展開において（日々の看護実践において）、アセスメントの重要性を理解することができる	80	1.5時間	7/27 7/29	講義、演習、グループワーク
レベルⅡ研修	【リフレクション】 リフレクションの概念や方法について学び、自己の看護実践を振り返る習慣をつける	56	1.5時間	9/3 9/6	講義、グループワーク
テーマ別研修	【教育】 現在の対象に合った教育についての考え方を理解し、現場教育に活用することができる	35	2時間	9/10	講義、演習
レベルⅤ研修	【看護研究；量的研究編（第1部）】 看護研究（量的研究）についての理解を深め、看護研究への取り組みに活用できる	21	3時間	9/18	講義 （オンラインセミナー）
レベルⅢ研修	【リーダーシップとメンバーシップ】 リーダーシップについて理解し、チームの中で主体的に行動することができる	32	1.5時間	9/29	講義、グループワーク
レベルⅤ研修	【看護研究；量的研究編（第2部）】 看護研究（量的研究）についての理解を深め、看護研究への取り組みに活用できる	21	3時間	10/2	講義 （オンラインセミナー）
テーマ別研修	【ナラティブ】 自分や他者の看護体験を語り合うことで、今後の自己の看護について考える	12	1時間	10/8	グループワーク
レベルⅤ研修	【看護チーム内での役割遂行】 看護チームの中で役割モデルとして行動し、多職種との協働・調整ができる能力を養う	15	1.5時間	10/15	講義 グループワーク
レベルⅠ研修	【多重課題】 看護チーム内において、安全・安心な看護を実践できる能力を養う	75	1.5時間	10/27 10/29	講義 グループワーク
レベルⅣ研修	【意思決定支援】 高度かつ複雑な看護を必要とする意思決定支援において、看護介入する能力を養う	37	2時間	11/15	講義、ロールプレイ
レベルⅡ研修	【ケアリング】 患者、家族の寄り添う意味に気づき、患者中心の看護を実践する能力を養う	56	1.5時間	11/19 11/24	講義、グループワーク
テーマ別研修	【認知症看護】 認知症患者の理解を深め、看護実践できる能力を養う	40	2時間	11/26	講義 グループワーク
テーマ別研修	【入退院支援】 入退院支援についての考え方を理解し、看護実践能力を養う	34	2時間	11/29	講義 グループワーク
レベルⅢ研修	【倫理】 倫理的な問題提起ができ、患者にとっての最善を考え看護実践するための能力を養う	32	1.75時間	12/1	講義、グループワーク

	研修目的	受講者	時間	開催日	主な研修内容
レベルⅠ研修	【倫理】看護職の倫理に基づいた行動がとれる	74	1.75時間	12/17 12/20	講義、グループワーク
テーマ別研修	【臨床判断：急性期看護】臨床判断モデルについて理解し、看護実践できる能力を養う	57	1.5時間	1/7	講義、事例検討
レベルⅤ研修	【看護研究；研究発表編（第1部）】看護研究の発表について、理解を深め、看護研究への取り組みに活用できる	15	3時間	1/26	講義 (オンラインセミナー)
レベルⅤ研修	【看護研究；研究発表編（第2部）】看護研究の発表について、理解を深め、看護研究への取り組みに活用できる	15	3時間	2/2	講義 (オンラインセミナー)
レベルⅣ研修	【業務改善】業務改善の成果を共有し、問題解決に向けたリーダーシップ能力を高める	30	1.5時間	2/7	講義 プレゼンテーション
レベルⅠ研修	【看護観】1年間の看護を振り返り、自己の行動、思考を言語化し、看護観を深める	72	1.75時間	2/21 2/25	グループワーク
レベルⅤ研修	【看護研究】看護研究の取り組みの成果をまとめ、自己の課題を見いだす	15	1.5時間	3/11	プレゼンテーション

2) 専門・認定看護師連絡会主催研修(うずらカップ ナーシングオリエンテーリング)

目的	内容	人数	方法
京都医療センターにおける看護の質(総合的な実践能力)の向上	院内急変 看取り(緩和) 創傷処置 感染対応 災害 認知症	9チーム 41名	チーム対応による6つのテーマに沿ってシミュレーションを行い、その結果を点数化し知識・技術を競う。

| 看護部研究業績 |

1) 院内研究発表・成果発表(令和3年度)

(1) 口述発表

	テーマ	部署	発表者名
1	第1回 うずらのカップ ナーシングオリエンテーリング開催	救命ICU	久保田大樹
2	腹膜透析患者への生活目標設定の取り組み ～心も体も元気になるために～	透析室	瀧井 友美

(2) ポスター発表

	テーマ	部署	発表者名
1	看護師長会 危機管理・災害ワーキング活動報告 ～大規模災害への備え BCP看護版アクションカードの作成～	看護部	内園 尚子
2	NICUフロア内における短時間同室の取り組み	NICU	松井 知佳
3	物品の管理とその成果発表	2病棟5階	山村 奈緒
4	超過勤務を減らす取り組み	特別室 個室病棟	西倉 静菜
5	感染防止の視点での環境整備の取り組み	看護部	感染管理 リンクナー ス会
6	救命救急センターICUにおけるコスト取得漏れの減少に向けた取り組み	救命ICU	久松 賢太

	テーマ	部署	発表者名
7	外来化学療法の待ち時間短縮に向けた取り組み	外来 化学療法 センター	田中 雅子
8	令和3年度 看護記録委員会取り組み	看護部	看護記録 委員会
9	『いいお産の日』の取り組み	2病棟3階	中島 佳奈
10	緩和ケア病棟におけるデスクカンファレンスの取り組み	緩和ケア病棟	山口 牧子
11	看護部の魅力発信	看護部	看護部 広報委員会
12	医療安全リンクナース会	看護部	医療安全 リンクナ ース会
13	急変対応に対するスタッフの苦手意識改善に向けた取り組み	集中治療室	田村 幸聖
14	周手術期の体温低下を起こさないための取り組み	手術室	西村 清美
15	看護管理者教育ワーキングの取り組み ～看護マネジメントリフレクション～	看護部	看護管理者 教育ワー キング
16	現場で活かせる集合教育を目指して	看護部	現任教育 委員会
17	自ら考え、学び、行動できる副看護師長会 ～やっぱり副看護師長だ!! 46人いたら大丈夫!!～	看護部	副看護師長 会
18	認知床・せん妄患者への複合的な非薬物アプローチの有効性 ～看護の力で患者を変える～	1病棟5階	兼田 浩美
19	外来看護師のがん看護の質向上に向けた取り組み ～動画視聴による学習会の開催～	外来	荒木由香里
20	題名のない相談会 プロジェクト ～窓のないこの部屋から、風通しをよくする ためにみんなであつなげよう医療センターのWA～	地域医療 連携室	仲江 陽大
21	2021年度NSTリンクナース会活動報告	看護部	NST リンクナ ース会
22	地域連携リンクナース会活動報告	看護部	地域連携 リンクナ ース会
23	看護師長会ワーキング活動報告 「経営参画」	看護部	看護師長会 「経営参画」 ワーキング
24	看護の質改善委員会 令和3年度 活動報告	看護部	看護の質 改善委員 会
25	認知症せん妄ケアリンクナース会活動報告 ～せん妄予防と不眠を中心に～	看護部	落合 恵
26	褥瘡予防対策への取り組みの報告 ～ポジショニンググローブを使用した技術トレーニングを行って～	看護部	村田 佳奈
27	アセスメント能力の向上を目指した取り組み ～ウォーキングカンファレンスの充実にもむけて～	1病棟7階	伊藤 明信 永峰 淳子
28	看護補助者会成果発表	看護部	看護 補助者 会
29	申し送り時間の短縮 ～ウォーキングカンファレンスの活用と定着に向けて～	2病棟7階	鳥居 由佳
30	がん看護の質向上にもむけたがん看護チーム会の取り組み ～疼痛アセスメントシートを活用し患者さんの痛みを理解しよう～	看護部	内園 尚子
31	専門看護師・認定看護師による外来がん患者へのがん医療の質向上にもむけた取り組み	看護部	坂井みさき

	テーマ	部署	発表者名
32	ALS患者の自宅退院に向けた看護 ～呼吸器導入に向けた家族支援を振り返って～	2病棟4階	土井 円
33	緊急手術で人工肛門造設術を施行した患者へのストーマ管理の手技獲得支援	2病棟6階	山田 彩乃
34	緩和ケア病棟におけるケアの質評価 ～IPOSによる実態調査～	緩和ケア病棟	阿部美希代 山口 牧子
35	ゴージャョー使用量増加に向けた取り組み ～手術室独自の患者ゾーンを設定して～	手術室	藤田 岬
36	外来におけるがん患者・家族への看護介入 ～外来診療科看護師とがん領域専門・認定看護師との連携～	外来	西村真由子
37	看護職のキャリアパス再構築のために	看護部	Acty2教育 関連 ワーキング グループ
38	新規パス導入の効果	1病棟4階	浅井真由美
39	がん患者管理指導料の取得率向上を目指して	特別室 個室病棟	松下 絢
40	COVID-19 第4波 若年層に急拡大した京都での戦略 ～救急外来と救命ICU・HCUのシームレス化で三次救急としての使命にも答え続ける～	救命ICU	井上あづさ

2) 院外研究発表 (令和3年度)

発表年月日	発表学会
演題名等 / 発表者名 (研究代表者)	
2021.06.18-19	第26回 日本緩和医療学会学術大会
「緩和ケア病棟における1週間のケアが身体的・心理社会的苦痛に及ぼす影響」 阿部美希代	
2021.09.23 (Web)	第63回 看護学会
「特別室個室病棟に勤務する看護師が遭遇した困難場面における患者対応」 喜多田泰子	
2021.09.23 (Web)	第63回 看護学会
「内服の与薬準備環境の整備による誤薬インシデント減少への取り組み」 西倉 静菜	
2021.09.23 (Web)	第63回 看護学会
「面会制限下での緩和ケア病棟における患者・家族ケアの検討 ～倫理的視点から～」 荒木由香里	
2021.09.23 (Web)	第63回 看護学会
「Covid-19 第4波 若年層に急拡大した京都での戦略 ～救外と救命ICU・HCUのシームレス化で第3次救急としての使命にも答え続ける～」 井上あづさ	
2021.09.23 (Web)	第63回 看護学会
「<活動報告> 急変時救急コール症例における事後振り返り ～看護師アンケートの分析評価および今後の課題について～」 久保田大樹	
2021.09.23 (Web)	第63回 看護学会
「<活動報告> がん領域における外来支援体制の構築に向けて」 坂井みさき	
2021.10.23 (Web)	第75回 国立病院総合医学会
「手術室でのCovid-19陽性患者の受け入れの実際 ～帝王切開事例を通して～」 飯田 紘子	

発表年月日 演題名等 / 発表者名 (研究代表者)	発表学会
2021.10.23 (Web) 「リハビリテーション科と行う転倒転落カンファレンスによる看護師の行動変化」 津田 時位	第75回 国立病院総合医学会
2021.10.23 (Web) 「新型コロナウイルスの感染防御と母子の思いとの両立に向けた取り組み ～母乳育児確立に向けて～」 田仲有季子	第75回 国立病院総合医学会
2021.10.23 (Web) 「発熱患者受診に対する救急外来の対応 ～感染対策およびトリアージフローチャートの活用～」 久保田大樹	第75回 国立病院総合医学会
2021.10.24 (Web) 「コロナ禍における術後せん妄患者の看護ケアの見直し」 柴田 浩司	第56回 京都病院学会
2021.11.05-06 「上部内視鏡用飛沫抑制マスク (マスクDE胃カメラR) の患者及びMedical staffの忍容性の検討」 北野 由美	第87回 日本消化器内視鏡技師学会
2021.12.11 (Web) 「ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラムの効果」 坂井みさき	第19回 国立病院看護研究学会学術集会

3) 著述発表 (雑誌投稿・執筆依頼) (令和3年度)

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者名 (部署)
雑誌投稿 “私たちがめざす看護”に向けた独自の看護ケア提供方式の構築 Nursing BUSINESS 福井久美子 (看護部長室)
原著 緩和ケア病棟看護師の専門的緩和ケア実践能力の実態とその関連要因 ～クリティカルシンキングとレジリエンスの側面から 日本がん看護学会誌 坂井みさき (看護部長室)
雑誌投稿 あなたの1日、教えてください！ ナーシングビジネス2021年11月号, メディカ出版 上田 里 (救命HCU)
雑誌投稿 おっぱいケアと母乳育児 臨床助産ケア2022年3 - 4月号, 日総研 田仲有季子 (2-3)

看護部講師派遣

No.	依頼内容	主催	日程	講師
1	令和3年度 新人助産師研修の講師	京都府看護協会	令和3年8月19日	田仲有季子 (2-3) 助産師
2	令和3年度 認知症ケア研修の講師	NHO近畿グループ	令和3年6月4日	落合 恵 (看護部長室) 老年看護専門看護師
3	令和3年度 副看護部長新任研修	NHO近畿グループ	令和3年6月16日 令和4年1月7日	福井久美子 看護部長
4	令和3年度 保健師助産師看護師 実習指導者講習会	NHO近畿グループ	令和3年7月6日 8日・9日・12日	菱田 千珠 副看護部長
5	眼科連携FSM2021 Web 演者 「絶対間違えない！右と左一手術室での 医療安全」	参天製薬株式会社	令和3年6月12日	富田 碧 (手術室)
6	関西ストーマ講習会の講師	関西ストーマ講習会	令和3年7月12日～ オンデマンド	村田 佳奈 皮膚・排泄ケア 認定看護師
7	令和3年度 第3回医療・介護関係者研修の講師	京都市伏見区 在宅医療・介護連携 支援センター	令和3年10月15日	山口 牧子 緩和ケア認定看護師
8	老年看護学Ⅲ 非常勤講師	京都橘大学	令和3年10月5日	落合 恵 (看護部長室) 老年看護専門看護師
9	令和3年度 初級者臨床研究 コーディネーター養成研修の講師	NHO本部医療部長	令和3年 9月27日～29日	石山 薫 (看護部長室) CRC
10	日本手術看護学会近畿地区役員の派遣	日本手術看護学会		中村 露子 手術看護認定看護師
11	令和3年度 認知症ケア研修の講師	NHO近畿グループ	令和3年10月8日	落合 恵 (看護部長室) 老年看護専門看護師
12	令和3年度 京都市立病院 ELNEC-J研修会の講師	京都市立病院	令和3年 12月18日-19日	坂井みさき (看護部長室) がん看護専門看護師
13	新型コロナウイルス感染予防対策	金井病院	令和3年9月21日	森 誠司 (感染対策室) 感染管理認定看護師
14	治療学 (救急医療)	京都府医師会 看護専門学校	令和3年11月22日 11月30日・12月13日	久保田大樹 (救命ICU) 救急看護認定看護師
15	災害看護技術演習	京都看護大学	令和3年11月24日	西詰 孝敏 (2-7) 看護師長 DMAT
16	コロナ禍における看護マネジメント	滋賀医科大学	令和3年12月23日 令和4年1月27日	村上 涼子 (JNP) ----- 久保田大樹 (救命ICU) 救急看護認定看護師 ----- 井上あづさ (救命ICU) 副看護師長 ----- 伊藤 明信 (1-7) 副看護師長
17	第3回 アドバンスケアプランニングを 考える	中外製薬	令和3年12月8日	坂井みさき (看護部長室) がん看護専門看護師 ----- 西村 美奈 (緩和ケア)
18	令和3年度 チーム医療推進のための研 修2 (がん化学療法)	NHO近畿グループ	令和4年2月25日	田中 雅子 (外来・治療) がん化学療法看護認定 看護師
19	患者・家族のACPを支えるスピリチュアル ケアの実践セミナー	京都大学大学院 医学研究科	令和4年3月5日	坂井みさき (看護部長室) がん看護専門看護師

看護部学生実習受入

学校名	学年・人数	期間	実習場所
京都医療センター 附属京都看護助産学校 看護学科	1年生 85名	令和3年11月1日～11月5日 令和4年1月27日～2月8日	基礎看護学Ⅰ (1-4、1-5、1-6、1-7、2-4、2-5、2-6、2-7)
	2年生 72名	令和3年6月14日～7月2日	基礎看護学Ⅱ (1-4、1-5、1-6、1-7、2-4、2-5、2-6、2-7)
		令和3年11月29日～12月17日 令和4年1月6日～1月25日 令和4年2月9日～2月28日	領域別 老年Ⅰ慢性期 (2-4、1-6、1-7) 成人Ⅰ急性期 (1-4、1-5、2-5、2-6、2-7)
	3年生 83名	令和3年5月11日～5月25日 令和3年5月31日～6月15日 令和3年7月13日～7月28日 令和3年9月24日～10月8日 令和3年10月14日～10月29日	領域別 成人Ⅱ慢性期 (2-4、2-7)
		令和3年5月11日～5月25日 令和3年5月31日～6月15日 令和3年7月13日～7月28日 令和3年9月6日～9月17日 令和3年9月24日～10月8日	領域別 成人Ⅲ周手術期 (1-4、1-5、2-5、2-6、2-7)
		令和3年5月11日～5月25日 令和3年5月31日～6月15日 令和3年7月13日～7月28日 令和3年9月6日～9月17日 令和3年9月24日～10月8日 令和3年10月14日～10月29日	領域別 老年Ⅱ終末期 (1-6、1-7)
		令和3年5月11日～5月25日 令和3年5月31日～6月15日 令和3年7月13日～7月28日 令和3年9月10日～9月16日 令和3年9月24日～10月8日 令和3年10月14日～10月21日 令和3年11月11日～11月26日	領域別 母性看護学 (2-3、NICU)
		令和3年7月8日～10月29日 (うち16日)	領域別 精神看護学 (放射線療法室、化学療法室、透析室、 血管造影室)
		令和3年10月14日～10月29日 令和3年11月11日～11月26日	総合 (1-4、1-5、1-6、1-7、2-4、2-5、2-6、2-7)
	京都医療センター 附属京都看護助産学校 助産学科	18名	令和3年7月5日～12月24日
舞鶴医療センター 附属看護学校	19名	令和3年6月21日～6月25日 令和3年8月2日～8月6日 令和3年8月16日～8月20日	母性看護学 (2-3)
京都看護大学 看護学部看護学科	9名	令和3年5月10日～5月14日	課題探求 (急性期・周術期看護論領域) (救命ICU・HCU、集中治療室、1-5、2-6)
	44名	令和3年8月2日～8月6日	総合 (1-4、1-5、1-6、1-7、2-4、2-5、2-6、2-7)
	51名	令和3年10月11日～ 令和4年1月28日 (10クール)	緩和ケア論 緩和ケア病棟 外来 (治療)：放射線治療室、化学療法室
同志社女子大学 看護学部	20名	令和3年7月5日～7月9日 令和3年7月12日～7月16日	看護実践総合 (1-5、2-6、2-7)

｜新型コロナウイルス感染症 看護師派遣｜

1) 広域派遣

			派遣先	期 間	延べ日数
1	久松 健太	看護師	東京病院	3月10日～5月31日	83
2	久松 健太	看護師	沖 縄	6月15日～6月19日	5
3	山火 大樹	看護師	沖 縄	6月9日～6月30日	22
4	前田 智絵	看護師	大 阪	2月16日～3月31日	44

2) 京都府入院待機ステーション 派遣

期 間	派遣先	延べ人数	延べ日数
2021年8月20日～9月30日	島津アリーナ京都	84	122 (日勤42回 夜勤40回)

3) 新型コロナウイルスワクチン接種 派遣

期 間	派遣先	延べ人数	延べ日数
2021年6月19日～8月1日	伏見区役所	42	14
2021年8月7日～10月24日	醍醐地域体育館	24	24

京都看護助産学校



副学校長
前中 由美



看護学科 教育主事
森重 真弓
(2022年4月1日から)



看護学科教育主事
岡島 優子
(2022年4月1日から)



看護学科 教育主事
伊藤 睦美
(2022年3月31日まで)



助産学科 教育主事
佐藤 美春

| 教育理念 |

感じる心、考える力、主体的な行動

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得し、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

| 教育目的 |

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

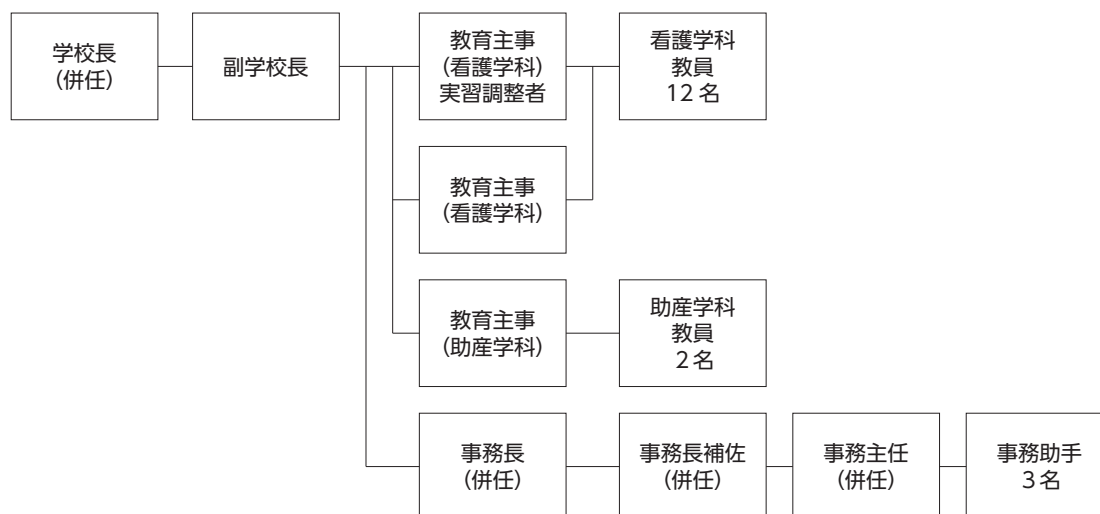
| 教育目標 |

1. 生命の尊厳と個々の人権を尊重できる感性豊かな人間性を養う。
2. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、看護師としての人間関係を形成する能力を養う。
3. 看護師としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護を実践する。
4. 科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的能力を養う。
5. 健康の保持・増進、疾病の予防および健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
6. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割および他職種の役割を理解し、他職種と連携・協働する基礎的能力を養う。
7. 社会の動向に関心を持ち、常に主体的に看護を探究する姿勢と自己研鑽し続ける能力を養う。

| 課程・定員 |

課程	学科	入学定員	総定員	在籍者数 (令和4年5月1日)			
				1年生	2年生	3年生	合計
看護専門課程	看護学科 (3年課程)	80人	240人	87人	84人	72人	243人
看護専門課程	助産学科 (1年課程)	18人	18人	18人	—	—	18人
計		98人	258人	105人	84人	72人	261人

| 本校の組織 (令和4年度) |



| 令和3年度 部門目標 |

部門目標	重点目標	主な取り組み
1 地域社会のニーズ・学生のニーズに応じた質の高い看護教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> 改正カリキュラムの実施に向けた、教育内容の精選及び講師・実習施設との調整 学生の臨床判断能力・看護実践能力の向上を目指した教育の充実 科目の目標到達に適した教授方法の評価 教員の教育実践能力の向上 実習指導の充実に向けた臨床との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度改正カリキュラムの申請に向けた検討と調整 看護技術取得に、学生同士によるピアチェックを導入 高機能シミュレーターを用いた演習による臨床判断能力向上
2 将来看護師・助産師として国立病院機構及び地域に貢献できる優秀な人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> 魅力的な学生募集活動 高い国家試験合格率の維持に向けた学習支援 (全国合格率以上) 国立病院機構および京都府内への就職者の確保 (70%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 高校訪問68校 (前年度92校) ホームページに学校紹介動画 オープンキャンパスを来校型とオンライン型を同時開催
3 学生が安心して学べる教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の徹底 感染状況に応じた教育計画の変更、学生の学習の保障 学生生活のサポート体制の充実 (学習支援、個別面談、カウンセリング等) 	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業と対面授業を効果的に活用 臨地実習の一部を学内実習へ変更 学校における感染予防の周知徹底 学生の心理面へのサポートの充実
4 職員が働きやすい職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教員間の業務調整・相互協力による“チーム学校”としての組織の充実 時間管理を念頭に入れた効率的な業務の遂行 	<ul style="list-style-type: none"> 変則勤務の活用による超過勤務時間の削減 業務を見直し効率的な運用

| 入学状況 |

看護学科

年度 (回生)	試 験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者 からの 入学者数	補欠者 からの 入学者数	入学者数	退学者数	原級 留置者 (在籍者)	3年以上 在籍した 卒業生数	卒業生数 (3年)
2018年 (第17回生)	推薦(学校)	19	19	19	0	19	0	19	1			18
	推薦(公募)	24	24	20	0	20	0	20				20
	社会人	13	13	6	0	6	0	6			1	5
	一 般	102	100	55	10	32	0	32	2			30
	合 計	158	156	100	10	77	0	77	3	0	1	73
2019年 (第18回生)	推薦(学校)	19	19	19	0	19	0	19				19
	推薦(公募)	17	17	15	0	15	0	15				15
	社会人	18 (2)	18 (2)	12 (1)	0	12 (1)	0	12 (1)	1			11 (1)
	一 般	80 (7)	76 (7)	58 (2)	3 (2)	39 (2)	0	39 (1)	2 (1)			37 (1)
	合 計	134	130	104	3	85	0	85 (2)	3 (1)	0	0	82 (2)
2020年 (第19回生)	推薦(学校)	11	11	11	0	11	0	11				
	推薦(公募)	15 (1)	15 (1)	13 (1)	0	13 (1)	0	13 (1)				
	社会人	16 (2)	16 (2)	12 (1)	0	10 (1)	0	10 (1)				
	一 般	66 (3)	61 (3)	53 (2)	0	26 (1)	2 (1)	28 (2)	2			
	一 般 (2回目)	14 (2)	13 (2)	13 (2)	0	13 (2)	0	13 (2)	1			
	合 計	122 (8)	116 (8)	102 (6)	0	73 (5)	2 (1)	75 (6)	3	0		
2021年 (第20回生)	推薦(学校)	41 (2)	41 (2)	41 (2)	0	41 (2)	0	41 (2)	1			
	推薦(公募)	27 (3)	27 (3)	21 (1)	0	21 (1)	0	21 (1)				
	社会人	11	10	6	0	6	0	6		1		
	一 般	55 (3)	51 (3)	32 (1)	5	19 (1)	0	19 (1)	1			
	一 般 (追試験)		2	1	0	0	0	0				
	合 計	134 (8)	131 (8)	101 (4)	5	87 (4)	0	87 (4)	2	1		
2022年 (第21回生)	推薦(学校)	30 (2)	30 (2)	29 (1)	0	29 (1)	0	29 (1)				
	推薦(公募)	27 (1)	27 (1)	23 (1)	0	23 (1)	0	23 (1)				
	社会人	13 (1)	13 (1)	6 (0)	0	5 (0)	0	5 (0)				
	一 般	45 (5)	41 (5)	39 (3)	0	29 (3)	0	29 (3)				
	合 計	115 (9)	111 (9)	97 (5)	0	86 (5)	0	86 (5)	0	0		

() 男性再掲

助産学科

年度 (回生)	試験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者 からの 入学者数	補欠者 からの 入学者数	入学者数	退学者数	卒業者数
2020年 (第52回生)	特別選抜(学校)	16	16	12	0	12		12	0	12
	特別選抜(施設)	0	0	0	0	0		0	0	0
	一般	40	35	6	2	4	2	6	0	6
	合計	56	51	18	2	16	2	18	0	18
2021年 (第53回生)	特別選抜(学校)	12	12	10	0	10		10	0	10
	特別選抜(施設)	0	0	0	0	0		0	0	0
	一般	46	38	8	3	7	1	8	0	8
	合計	58	50	18	3	17	1	18	0	18
2022年 (第54回生)	特別選抜(学校)	18	18	12	0	12		12		
	特別選抜(施設)	3	3	1	0	1		1		
	一般	37	28	5	3	5	0	5		
	合計	58	49	18	3	18	0	18	0	0

| 卒業生の進路 |

看護学科

2022年5月1日現在

年度	回生	卒業者数	就職							進学				未就職
			国立病院機構		NC	官公立	法人	その他	看護職 以外	保健師	助産師	養護 教諭	大学	
			自施設	他施設										
2016年度	第13回生	82	43	29	1	0	1	1	0	0	6	0	0	1
2017年度	第14回生	87	42	29	3	1	5	1	0	0	6	0	0	0
2018年度	第15回生	73	22	29	7	4	3	0	0	0	4	0	1	3
2019年度	第16回生	88	30	25	3	9	8	0	0	0	8	0	1	4
2020年度	第17回生	74	36	26	2	3	0	0	0	0	4	0	2	1
2021年度	第18回生	83	39	32	1	1	2	0	0	2	5	0	0	1

年度	府内 府外	卒業生数	府内 就職者数	(再掲)		府外 就職者数	進学者	その他
				北部就職者	実習就職者			
2018年度	府内出身者	51	35	1	31	12	3	1
	府外出身者	22	7	0	7	11	2	2
2019年度	府内出身者	53	34	0	32	12	4	3
	府外出身者	35	12	0	12	17	5	1
2020年度	府内出身者	47	35	0	34	10	2	0
	府外出身者	27	15	1	14	7	4	1
2021年度	府内出身者	56	39	0	38	12	5	1
	府外出身者	27	15	0	15	9	2	0

助産学科

年度	回生	卒業生数	就職							進学	未就職
			国立病院機構		NC	官公立	法人	その他	看護職以外		
			自施設	他施設							
2017年度	第49回生	23	2	10	1	4	6	0	0	0	0
2018年度	第50回生	22	2	7	1	7	5	0	0	0	0
2019年度	第51回生	18	4	5	0	7	2	0	0	0	0
2020年度	第52回生	18	3	11	1	3	0	0	0	0	0
2021年度	第53回生	18	2	9	1	2	3	0	0	0	0

年度	府内 府外	卒業生数	府内 就職者数		(再掲)				府外 就職者数		その他
			助産師	看護師	北部就職者		実習就職者		助産師	看護師	
					助産師	看護師	助産師	看護師			
2019年度	府内出身者	6	5	0	1	0	3	0	1	0	
	府外出身者	12	3	0	0	0	2	0	9	0	
2020年度	府内出身者	4	2	1	0	0	2	1	1	0	
	府外出身者	14	2	0	0	0	2	0	11	1	
2021年度	府内出身者	2	2	0	0	0	2	0	0	0	
	府外出身者	16	2	0	0	0	1	0	14	0	

国家試験合格状況

看護学科

	全国	(%)	機構附属 (%)		
			全国	近畿	本校
107回 (H30.3)	全体 (新卒)	91.0 (96.3)	98.4 (98.8)	99.7	100
108回 (H31.3)	全体 (新卒)	89.3 (94.7)	97.3 (98.1)	99.0	95.9
109回 (R2.3)	全体 (新卒)	89.2 (94.7)	97.3 (98.2)	98.5	96.6
110回 (R3.3)	全体 (新卒)	89.2 (94.7)	90.4 (95.4)	98.3	100
111回 (R4.3)	全体 (新卒)	91.3 (96.5)	98.7 (98.9)	99.4	100

助産学科

	全国	(%)	機構附属 (%)	
			全国	本校
101回 (H30.3)	全体 (新卒)	98.7 (99.4)	100	100
102回 (H31.3)	全体 (新卒)	99.6 (99.9)	100	100
103回 (R2.3)	全体 (新卒)	99.4 (99.5)	100	100
104回 (R3.3)	全体 (新卒)	99.6 (99.7)	100	100
105回 (R4.3)	全体 (新卒)	99.4 (99.7)	100	100

入学試験実施状況

看護学科

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	令和4年1月20日(木)	令和4年1月22日(土)	令和4年1月27日(木)
社会人入試	令和3年11月18日(木)	令和3年11月20日(土)	令和3年11月25日(木)
公募推薦入試 推薦入試	令和3年11月18日(木)		令和3年11月25日(木)

助産学科

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	令和4年1月20日(木)	令和4年1月22日(土)	令和4年1月27日(木)
特別選抜入試	令和3年11月18日(木)		令和3年11月25日(木)

学生募集活動

<ガイダンス>

月	日	曜	内容	場所	実績数	担当者
5	12	水	ケーホウ主催 京都府立亀岡高等学校	Web (ZOOM)	9人	太田
	13	木	TAP主催 京都府立京都八幡高等学校	Web (ZOOM)	3人	藤尾
6	7	月	ケーホウ主催 京都府立京都すばる高等学校	京都すばる高等学校	2人	藤尾
	10	木	TAP主催 京都文教高等学校	みやこめっせ	2人	藤尾
	19	土	さんぼう主催 会場形式進学相談会	京都JAビル	23人	伊藤・佐藤
	24	木	ケーホウ主催 京都府立北嵯峨高等学校(2年)	北嵯峨高等学校	11人	伊藤
9	22	水	ケーホウ主催 京都府立西城陽高等学校	西城陽高等学校	21人	太田
令和4 2	2	水	ケーホウ主催 京都府立向陽高等学校	向陽高等学校	11人	伊藤
	3	木	ケーホウ主催 京都府立桂高等学校	桂高等学校	8人	伊藤
	19	土	さんぼう主催 会場形式進学相談会	京都JAビル	6人	伊藤・佐藤
	21	月	TAP主催 滋賀県立比叡山高等学校	比叡山高等学校	1人	伊藤
	21	月	ケーホウ主催 京都府立京都すばる高等学校	すばる高等学校	1人	伊藤
3	9	水	TAP主催 京都府立西城陽高等学校	西城陽高等学校	30人	伊藤
					計	128人

<高校訪問>

	都道府県別訪問校(新規再掲)	訪問校数(指定校再掲)	内容
6月	京都府 23校(0校) 大阪府 3校(0校) 滋賀県 0校(0校) 福井県 0校(0校)	26校(19校)	学校説明会 入学試験の説明 看護系進学予定者・主な進路の確認 情報交換
7月	京都府 21校(0校) 奈良県 1校(0校) 兵庫県 2校(0校) 大阪府 2校(0校) 滋賀県 15校(0校) 福井県 1校(0校)	42校(22校)	学校説明会 入学試験の説明 看護系進学予定者・主な進路の確認 情報交換

延べ訪問高校数 68校(新規0校)

<オープンキャンパス>

(1) 高校教員対象

感染拡大防止のため中止

(2) 応募者対象

学 科	日 程	参加者数	WEB参加者数	内 容
看護学科	令和3年6月12日(土)	12名	10名	学校説明 学校生活の紹介 入学試験の説明 模擬授業体験 沐浴、採血 看護学生との交流
	令和3年7月18日(日)	35名	17名	
	令和3年8月22日(日)	—	48名	
	令和3年9月4日(土)	—	39名	
	令和3年10月9日(土)	—	24名	
	令和4年3月26日(土)	29名	5名	
	計	76名	143名	
助産学科	令和3年7月18日(日)	33名	27名	学校説明 学校生活の紹介 入学試験の説明 助産学生による分娩介助 シミュレーション 助産学生との交流
	令和3年8月22日(日)	—	73名	
	令和3年9月4日(土)	—	48名	
	計	33名	148名	

| 研究活動 |

1) 研究活動

<学会発表>

発表年月日	発表学会
演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	
2021.09.23	第63回 近畿地区国立病院看護学会 / オンライン
	「COVID-19感染拡大の状況下におけるICT教育の導入と今後の教育のあり方について」 柚木 麻央
2021.09.23	第63回 近畿地区国立病院看護学会 / オンライン
	「COVID-19禍におけるオンライン授業導入の報告」 並崎 直美, 柚木 麻央
2021.09.23	第63回 近畿地区国立病院看護学会 / オンライン
	「COVID-19の感染拡大下における看護助産学校のICTを活用した教育の取り組み」 寺田 美鳥, 並崎 直美
2021.10.15-16	第62回 日本母性衛生学会総会・学術集会 / オンライン
	「COVID-19禍におけるオンライン授業併用による学習効果～助産診断・技術学の到達度への影響～」 並崎 直美, 柚木 麻央, 前教員
2021.10.22-23	第75回 国立病院総合医学会 / オンライン
	「ICTを活用した看護教育の実際—管理者の立場から— (シンポジウム)」 前中 由美
2021.10.22-23	第75回 国立病院総合医学会 / オンライン ベストポスター賞
	「COVID-19禍における助産学生のオンライン出産準備教室開催の実践報告」 柚木 麻央, 並崎 直美
2021.10.22-23	第75回 国立病院総合医学会 / オンライン
	「静脈血採血の技術チェックにおける看護学生のピア評価の導入とその実態」 榮 圭子, 晝間 梓

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.10.22-23 「臨床判断能力を高めるために高機能シミュレーターを使用した演習による学びの実態」 中村なぎさ, 寺田 美鳥	第75回 国立病院総合医学会 / オンライン
2021.10.22-23 「看護学生の在宅看護論実習に向けた研修による学びの到達度」 太田 恵子, 中村なぎさ, 山本 緑	第75回 国立病院総合医学会 / オンライン

<令和3年度 京都医療センター成果発表会>

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.01.31-02.10 「ループリックを用いた分娩介助評価表の活用と課題」 柚木 麻央, 並崎 直美	成果発表会
2022.01.31-02.10 「基礎看護学実習Ⅱに向けたシミュレーターを用いた実習前研修の取り組みの報告」 山本 緑, 寺田 博子	成果発表会

<副学校長・教育主事協議会 グループ活動>

名称	テーマ	副学校長・教育主事
1・2年目看護教員育成	1・2年目教員の「教育実践力」「リフレクションの能力」の向上を図る。研究授業 (大阪南/オンライン) (姫路/演習授業) 計2回	前中由美、佐藤美春 他校教育主事
中堅看護教員の育成	学校運営に携わる自分の役割を認識し、目標達成に向けた実践を通してリーダーとして成長する。オンラインによる研修 計3回	伊藤睦美 他校副学校長 他校教育主事
ICT	ICT活用に関するグループ活動	伊藤睦美、佐藤美春 他校教育主事
多職種	「多職種との連携・協働に係る教育」に関するグループ活動	前中由美 他校教育主事

<教員研修会 研究グループ活動>

グループ	メンバー	活動テーマ	活動目標
1グループ	中村なぎさ 太田 恵子 恵美 徹生	臨床判断能力を高めるために高機能シミュレーターを使用した卒業前研修の学びの実態	・シミュレーターを用いた卒業前研修での学生の学びの実態を明らかにする。
2グループ	寺田 美鳥 近藤 尚子 遠藤 真理	遠隔授業における授業評価の分析と課題の明確化	・遠隔授業に対する講師の感想や意見をまとめ、課題を明確にする。
3グループ	山本 緑 寺田 博子	シミュレーターを用いた基礎看護学実習Ⅱ・実習前研修での学習効果と課題	シミュレーターを用いた基礎看護学実習Ⅱ・実習前研修の学習効果と課題を明らかにする。
4グループ	榮 圭子 晝間 梓 大上 寿子 花村 一葉	基礎看護技術教育における看護学生のピア評価の効果	看護学生の基礎看護技術の習得にピア評価を行い、その効果を明確にする。
5グループ	柚木 麻央 並崎 直美	ループリックを用いた分娩介助評価表の活用と課題	ループリックを用いた分娩介助評価表の活用と課題を明らかにする。

<研究授業>

	月日	氏名	授業名	内容
1	令和3年5月27日	柚木 麻央	助産診断・技術学Ⅰ 妊娠期	妊婦健診 OSCE
2	令和3年6月18日	並崎 直美	助産診断・技術学Ⅱ 分娩期 (臨床推論)	異常分娩 (回旋異常)
3	令和4年2月15日	並崎 直美	卒業前分娩介助 OSCE	分娩介助 OSCE
4	令和3年10月11日	寺田 博子	基礎看護技術Ⅲ	清潔援助の実際
5	令和3年10月18日	太田 恵子	基礎看護学実習Ⅰ-①研修	環境の理解
6	令和3年11月8日	恵美 徹生	成人看護学演習	胃がん術後の第一離床
7	令和3年11月12日	山本 緑	老年看護学演習Ⅱ	人工骨頭置換術を受けた高齢者の看護：日常生活動作能力再獲得・残存機能を引き出す看護
8	令和3年12月6日	大上 寿子	基礎看護技術Ⅲ	採血
9	令和3年12月9日	晝間 梓	成人看護学実習Ⅰ	中間カンファレンス～不眠の要因を考え、必要な援助が検討できる～
10	令和4年1月6日	寺田 美鳥	基礎看護技術Ⅵ	点滴静脈内注射の実際
11	令和4年1月13日	遠藤 真理	小児看護学実習	南京都病院院内実習：受け持ち患児の健康障害と成長発達に応じた安全安楽な遊びを考える
12	令和4年1月28日	花村 一葉	成人看護援助技術Ⅰ	急性期における主要症状：ショック
13	令和4年2月22日	榮 圭子	小児看護学概論	予防接種
14	令和4年2月28日	中村なぎさ	卒業前研修	複数患者への対応 (複数患者の状態把握と必要な援助の実施)
15	令和3年10月29日	近藤 尚子	実習カンファレンス	統合実習での中間カンファレンス 優先順位の考え方について

2) 研修

<近畿グループ主催 研修>

会期	研修名	氏名	場所
令和3年9月21日(火) 9:55~17:00	令和3年度初期看護教員研修(Ⅰ期)	並崎 直美 恵美 徹生 花村 一葉	オンライン研修 (CiscoWebex)
令和3年12月13日(月) 10:00~17:00	令和3年度初期看護教員研修(Ⅱ期)	並崎 直美 恵美 徹生 花村 一葉	オンライン研修 (CiscoWebex)
令和3年12月23日(木) 10:00~17:00	令和4年度中堅看護教員研修	大上 寿子 寺田 美鳥 柚木 麻央	オンライン研修 (CiscoWebex)

<副学校長・教育主事協議会>

(1) 中堅看護教員研修

日程	研修内容	担当	参加者
令和3年10月22日 13:00~15:00 (WEB開催)	1. 自校のカリキュラムプレゼンテーション 2. GWカリキュラムの課題解決に向けたリーダーとしての役割・課題	伊藤 睦美 他校副学校長・ 教育主事	太田 恵子 晝間 梓
令和3年12月16日 15:00~17:00 (WEB開催)	1. カリキュラムの課題解決に向けたリーダーとしての役割・課題(中間発表) 2. リーダーとしての役割・課題の達成に向けた目標と対策について～後半の取り組み～	伊藤 睦美 他校副学校長・ 教育主事	太田 恵子 晝間 梓

日程	研修内容	担当	参加者
令和4年2月10日 10:00~12:00 (WEB開催)	1. 課題解決に向けたマネジメントの実践報告 2. リーダーとして取組を行った結果、自らが得た今後に生かせる内容と行動について、リーダーとして成長したこと	伊藤 睦美 他校副学校長・ 教育主事	太田 恵子 晝間 梓

(2) 1、2年目教員研修

日程	研修内容	担当	参加者
令和3年9月8日 10:00~16:00	1. 遠隔授業参観「糖尿病患者の看護」 2. 授業参観リフレクション 3. ディスカッションと全体共有	前中 由美 佐藤 美春 他校教育主事	並崎 直美 花村 一葉 恵美 徹生
令和2年11月26日	1. 先輩教員の演習授業「酸素療法・廃痰ケア」にサポート教員として参加(学生の了承を得て撮影) 2. 演習授業のリフレクション 3. ビデオ撮影した映像を用いて授業のリフレクション、授業再構成	前中 由美 佐藤 美春 他校教育主事	並崎 直美 花村 一葉 恵美 徹生

<学校>

(1) 実務研修

	氏名	ねらい	場所	期間
1	遠藤 真理 寺田 美鳥	・ショールームを見学し、実際の介護用品や医療機器を知ることで、現在の在宅で使用されている物品の理解を深める。 ・担当者からショールームに訪問されるお客様の実際や福祉サービスとの連携について話を聞き、改正カリキュラムでの地域・在宅看護論領域の学習内容の検討に活用する。	三笑堂ショールーム	8月27日
2	花村 一葉	実習目標達成のための具体的な看護の場面の抽出や指導方法の考察に活かす。また、看護管理の実際について知ることによって統合実習の指導に繋げる。	NHO京都医療センター	9月15日 9月17日
3	恵美 徹生	担当領域で行われている看護を理解し、周手術期における教材の研究を深める。この実務研修で得た学びを今後の実習指導に具体的に反映し、学生の学びが促進されるようにする。また、中間監督者として、安全管理・感染管理・人材管理を知り、管理的視点を高める機会とする。	NHO京都医療センター	10月12日
4	太田 恵子 晝間 梓	学生が「精神障害を抱える対象が社会生活を送るために必要な援助と看護師の役割」を理解できるよう、やまと精神医療センターでの病棟管理や病棟での看護の実際を見学し、今後の学生指導に活かす。	NHOやまと精神医療センター	10月15日
5	太田 恵子 近藤 尚子	地域で生活しながら通院治療を受け、必要時入院する対象の支援について多職種連携の実際を知り、2022年度新カリキュラムに向けて、地域・在宅看護論の構築を考えたい。	NHO京都医療センター 患者支援センター	10月21日
6	寺田 美鳥	医療安全管理係長の活動内容を知り、医療安全管理の実際や看護師への指導の視点を学生指導に役立てる。	NHO京都医療センター 医療安全	11月9日
7	中村なぎさ	施設内の医療チームの役割や活動内容を知り、2022年度新カリキュラムに向けて、多職種との連携・協働を学ぶための実習内容の検討に役立てる。	NHO京都医療センター	11月9日 11月24日
8	寺田 博子	患者支援センターの活動の実際や多職種との連携について学び学生指導に活かす。	NHO京都医療センター 患者支援センター	11月12日
9	榮 圭子	患者支援センターの役割を知り、学生指導に活かす。	NHO京都医療センター 患者支援センター	11月12日 11月13日
10	山本 緑	成人慢性期において看護の重症心身障碍児の入院に関する病棟の看護及び管理の実際について学び、授業及び実習指導に活かす。	NHO南京都病院	9月28日 9月29日

	氏名	ねらい	場所	期間
11	山本 緑	地域で生活しながら通院治療を受け、必要時入院する対象の支援について多職種連携の実際を知り、講義内容や実習指導に活かす。	NHO 京都医療センター 患者支援センター	10月5日
12	晝間 梓	地域・在宅看護論実習の学修内容を考える。	総合老人福祉施設 社会福祉法人同和園	10月7日
13	遠藤 真理	看護管理の実際を学び、管理的視点を高める。また、消化器疾患をもつ終末期患者への看護の実際を知り、今後の実習指導に活かす。	NHO 京都医療センター	10月15日
14	並崎 直美	産科病棟の看護の管理について学ぶ。対象者のケアの体制、スタッフ教育の実際や実習指導体制などの管理について学ぶ。	NHO 京都医療センター	10月12日

(2) 研修会・学会参加

	会期	研修・学会名	場所	参加者
1	7月24日	第29回京都母性衛生学会総会・学術集会 「周産期メンタルヘルス」	オンライン研修	助産学科 教員2名 教育主事1名
2	7月30日	令和3年度 合同夏期研修会	オンライン研修	副学校長・ 教育主事3名 教員13名
3	9月4日	教員研修会「第1回研修会」	オンライン研修	教員14名
4	9月23日	第63回国立病院近畿看護学会 「新たな風を 変革」	オンライン	副学校長・ 教育主事2名 教員13名
5	10月15日 10月16日	第62回日本母性衛生学会総会・学術集会 「不確実な社会で、多様性と「やさしさ」を考える」	オンライン	助産学科 教員2名 教育主事1名
6	10月23日	第75回国立病院総合医学会 「社会の大転換期における国立医療救う、支える、育む、拓く～連帯と挑戦～」	オンライン	副学校長・ 教育主事3名 教員14名
7	12月24日	教員研修会「第2回研修会」	オンライン研修	教員14名
8	2月6日	コロナ禍における看護実習のDX化の取組み	オンライン研修 株式会社 神陵文庫主催	助産学科 教員1名
9	2月26日	胎児生理学とCTGに関する教育コース 2022年第1回	オンライン研修 三重大学大学院医学系研究科 産婦人科学教室内主催	助産学科 教員2名 教育主事1名
10	3月14日	オンライン授業の改善策	オンライン研修・ オンデマンド 茨城大学 新井講師	教員9名 副学校長・ 教育主事3名

3) 社会への貢献

<公開講座>

回	日時	内容	参加人数
1	令和3年7月19日 13:30~15:00 対面開催	講演「感染予防と免疫力アップについて」 演示「ガウンテクニック」 体験「ビニール袋でガウン作成」「コロナ体操とスマホッ首予防体操」	18名
2	令和3年8月23日 13:30~15:00 対面開催	講演「感染予防と免疫力アップについて」 演示「ガウンテクニック」 体験「ビニール袋でガウン作成」「コロナ体操とスマホッ首予防体操」	8名

<実習指導者研修>

学校主催 実習指導者研修会

日程	研修内容	担当	参加者
令和3年7月30日 13:30~16:30	<集合及びWEB研修> 1. 看護基礎教育の教育課程 2. 学生理解 3. 実習指導者の役割 4. 実習指導案の意義と指導計画	副学校長・教育主事・教員	近畿グループ病院の 次期実習指導者 64名
令和3年9月30日 13:30~16:30	<集合及びWEB研修> 1. 実習指導方法の実際 2. 評価の基礎知識 3. 実習指導者に求められる資質	副学校長・教育主事・教員	近畿グループ病院の 次期実習指導者 62名

<外部講師>

担当者名	研修会等の主催者	研修会等の名称	講義等テーマ	回数
前中 由美	国立病院機構 近畿グループ	令和3年度保健師助産師 看護師実習指導者講習会	実習指導方法論 実習指導の方法と実習指導者の 役割	1
	国立病院機構 近畿グループ	令和3年度保健師助産師 看護師実習指導者講習会	看護教育課程論 基礎看護学・在宅看護論	1
伊藤 睦美	国立病院機構 近畿グループ	令和3年度保健師助産師 看護師実習指導者講習会	実習指導方法論 実習指導の評価	2
藤尾 泰子	国立病院機構 近畿グループ	令和3年度保健師助産師 看護師実習指導者講習会	実習指導方法論 臨床判断	1
榮 圭子	国立病院機構 近畿グループ	令和3年度保健師助産師 看護師実習指導者講習会	実習指導方法演習	4
寺田 博子	京都府看護協会	令和3年度実習指導者 講習会	実習指導方法演習	6
太田 恵子	国立病院機構 南京都病院	4年目看護師 キャリアアップ研修	教員の仕事とは	1

<外部委員>

氏名	委員会/委員名	団体名
佐藤 美春	理事会/理事	京都母性衛生学会
並崎 直美	理事会/会計副委員長	京都母性衛生学会
柚木 麻央	理事会/会計委員	京都母性衛生学会

| 令和3年度 学校評価 結果 (看護学科) |

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は平成27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。

国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による令和3年度の学校相互評価は、COVID-19感染拡大に伴い中止になりました。令和3年度は自己点検・自己評価と学校関係者評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。

学校自己評価 (看護学科) 結果

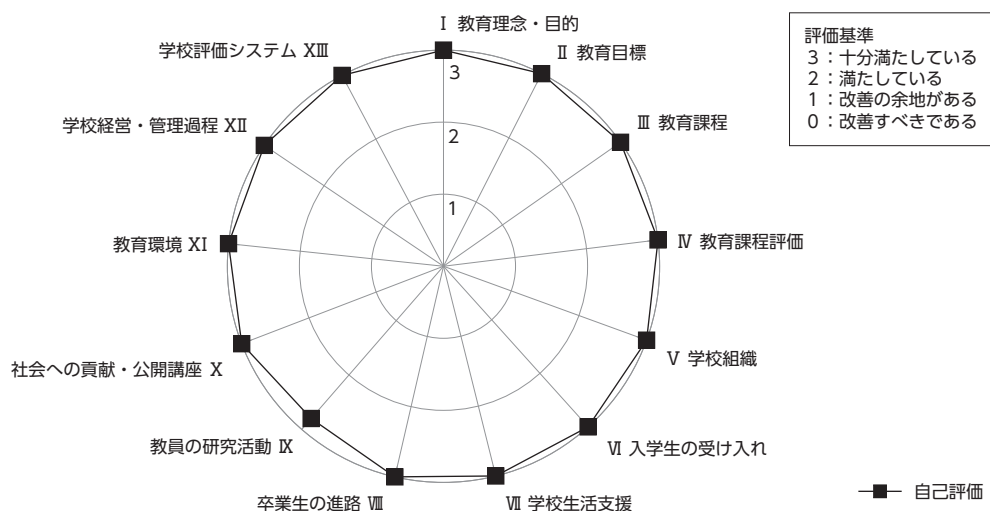
昨年度の評価をもとに改善に取り組み、学内で自己点検・自己評価を行った。今年度特に取り組んだ内

容は次の3点である。

1. 改正カリキュラム改正に向けて検討を重ねた。教育の質向上のためにICTを積極的に取り入れ、コロナ禍での学習支援としてだけでなく、遠隔授業や演習を取り入れてきた。看護技術演習では感染予防対策をし、少人数での対面授業を実施してきた。臨地実習では感染が急激に拡大した影響で、学内実習への変更を余儀なくされた。学内実習のために新たに学内実習指導案の作成、実習到達度の見直し、学内の技術チェックなどを行うため、急な変更に対しマンパワーを必要とした。感染拡大が落ち着いた時期は実習施設で可能な限り実習できるよう協力を得ることができた。
2. 前年度の応募・入学状況をもとに、高等学校への訪問数を絞り込んで訪問した。オープンキャンパスは感染拡大状況をみながら来校型とWebで実施し、学生確保対策に取り組んだ。
3. 今年度は研究活動にも積極的に取り組み、成果を挙げることができた。
次年度は改正カリキュラムを運用し、更なる教育の質の向上と教育環境の充実が図れるよう取り組んでいく。

評価項目	評価の視点	項目	R3年度
			自己評価
I 教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	6項目	3.0
II 教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	6項目	3.0
III 教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し計画的に進められているかについて評価します。	26項目	3.0
IV 教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	6項目	3.0
V 学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	9項目	3.0
VI 入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	5項目	3.0
VII 学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	15項目	3.0
VIII 卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	7項目	3.0
IX 教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	4項目	2.8
X 社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	7項目	3.0
XI 教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	7項目	3.0
XII 学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	7項目	3.0
XIII 学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	5項目	3.0
全体平均			3.0

令和3年度 看護師養成所自己点検・自己評価結果（看護学科）



| 令和3年度 学校評価 結果（助産学科） |

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は平成27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。

国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による令和3年度の学校相互評価は、COVID-19感染拡大に伴い中止になりました。令和3年度は自己点検・自己評価と学校関係者評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。

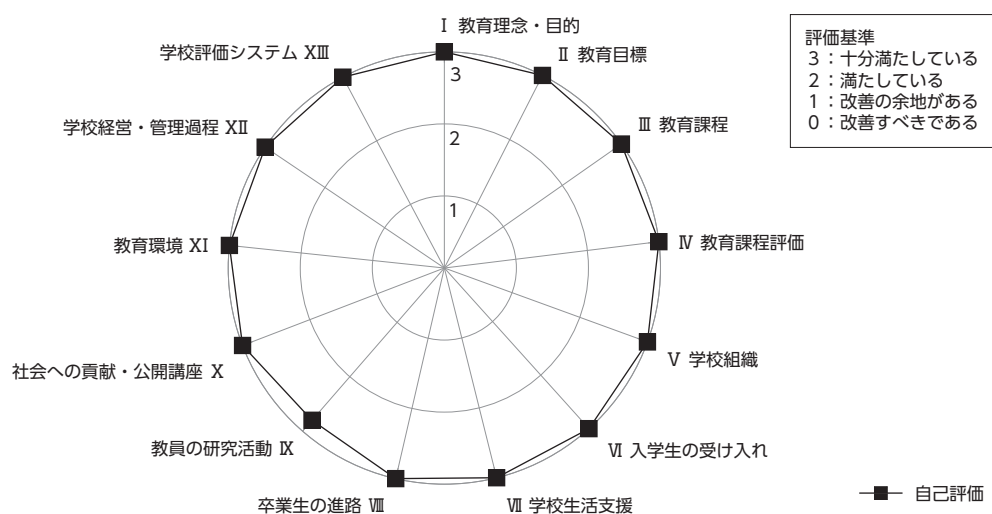
学校評価（助産学科）総評結果

昨年度の評価をもとに改善に取り組み、令和3年度の自己点検・自己評価を行った。評価結果は昨年に引き続きすべての評価項目について「3. 十分満たしている」の評価であった。とくに、取り組んだのは次の4点である。

1. 教育課程：新カリキュラムで強化を求められている内容は既に取り組んでおり、学校独自の臨床推論プログラム、シミュレーション教育、OSCE等を継続的に進めてきた。またCOVID-19の影響を最小限にし、学生の学びの質を保証するために動画やオンデマンド配信を積極的に取り入れ、教育の質の確保を行っている。実習指導者と連携をとり、令和3年度からルーブリック評価表を活用し、学生のパフォーマンスをより客観的、段階的に評価できるようにした。
2. ICTを活用して国立病院機構3校の合同教育システムを構築し、3校で教材共有や国家試験対策などを行うことで国立病院機構の助産学科の質の向上につながっている。
3. 実習指導教員との連携ができ、ICTを積極的に導入して効率的に業務を行えるようにすることで、超過勤務が改善されている。
4. 教員の研究活動：継続的に研究に取り組み、教員は研究発表やシンポジストを行うなどの成果を挙げた。次年度は改正カリキュラムを運用し、さらなる教育の質の確保と教育環境の充実が図れるよう取り組んでいく。

評価項目	評価の視点	項目	R3年度
			自己評価
I	教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	6項目 3.0
II	教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	6項目 3.0
III	教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し計画的に進められているかについて評価します。	26項目 3.0
IV	教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	6項目 3.0
V	学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	9項目 3.0
VI	入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	5項目 3.0
VII	学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	15項目 3.0
VIII	卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	7項目 3.0
IX	教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	4項目 2.8
X	社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	7項目 3.0
XI	教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	7項目 3.0
XII	学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	7項目 3.0
XIII	学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	5項目 3.0
全体平均			3.0

令和3年度 助産師養成所自己点検・自己評価結果（助産学科）



| 令和3年度 学校関係者評価報告書 |

1. 学校関係者評価の目的

- 1) 教育に関する知見を有する者、臨地実習施設の関係者、看護管理者経験者、卒業生などの学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。
- 2) 学校関係者との連携協力により、特色のある学校づくりを推進する。

2. 学校関係者評価委員名簿

規程	所属	氏名
教育に関する知見を有する者	京都教育大学 教育学科 教授	相澤 伸幸
臨地実習施設の関係者	京都医療センター 看護部長	福井久美子
看護管理者経験者	洛和会TQM支援センター 部長	伊藤 文代
卒業生（卒後一定のキャリアを持った者）	京都医療センター 看護師長	橋本 恵

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：令和4年3月15日（火） 10：00～11：30

実施場所：京都医療センター附属京都看護助産学校 会議室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

- 令和3年度の学校重点目標についての取り組みと課題を報告（看護学科・助産学科）
- 令和3年度の自己点検・自己評価結果の報告
- 学校関係者からの学校運営への評価と、課題解決に向けて学校関係者と検討

5. 総評

1. 遠隔授業について
 - ・今年度は昨年度と比較し、遠隔授業の運営がスムーズであった印象を受けた。学生側のスキルも高いように見受けられる。
 - ・教員や学生は遠隔授業に慣れてきているが、臨床側から講義にいったときには学生の反応を読み取りづらく、授業に対する姿勢が分かりにくい側面がある。
 - ・よい看護師を育てるには、オンラインの割合がこれ以上増えすぎないことを望む。誠実性や実際に触れて、看て、考えることの大切さについて集合教育の良さを残してほしい。
2. コロナ禍の弊害について
 - ・仲間づくりや社会性を養う場が制限されている。横のつながりが活発になる社会状況の改善が望まれる。
 - ・今年度は学生フォーラムを京都が主担当校となりオンラインで開催し、近畿の国立病院附属看護学校5校の学校間の横のつながりを持つことができた。また、自治会では毎年、看護の日やクリスマスの行事を行っている。今年は、うちわやお花を作成して病院・老健施設・保健所など実習施設を中心に配布し、地域とつながる活動も行っている。
3. 臨地実習について
 - ・コロナ禍前より、実習の真剣みが増したという意見が臨床側から聞かれることがある。
 - ・学生側も学内と臨地のすみ分けができ、考えを整理する時間が持てるので学びを深めることができている。また、学内実習ではリモートで実習指導者に質問や意見交換ができる機会を設けたことは学生の満足度につながっている。

編集後記

しばらく発刊が途絶えていたアニュアルレポートを2011年度分から復活させて10年が経過しました。京都医療センターの日々の活動を年次でまとめ外部に発信することが広報に繋がると考えて、広報委員会が中心となって毎年編集を行ってきました。

同時にこの10年の間、広報委員会ではホームページや広報誌の見直しと拡充、刷新などにも取り組んできました。2021年7月に広報戦略室を立ち上げ、さらに攻めの広報ができるようになりました。現在、医療機関向けの「KMC MAGAZINE」、一般向けの「うづらだより」をそれぞれ年に4回、特別号外版「NEWS LETTER」を年に1回発行して、リアルタイムの情報発信に努めています。

このような流れのなかで、1年前の院内の活動状況をさらに半年以上かけて編集、発刊するアニュアルレポートに広報としての存在意義がないと判断し、足跡を残す手段として本レポートを作成することにしました。日本書紀に始まる六国史があるように、これからは京都医療センターの歴史を伝える手段として本レポートを残していきたいと考えています。

2022年 広報委員会委員長

瀬田 公一

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター

2021年度 アニュアルレポート 年報

発行：独立行政法人国立病院機構 京都医療センター
〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町 1-1
TEL 075-641-9161 / FAX 075-643-4325
<https://kyoto.hosp.go.jp/>

